西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書（28）

市営農道整備事業　川脇地区（農山漁村活性化支援ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ交付金事業）
市営農業基盤整備事業　川脇地区農道に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

長迫遺跡（ながさこいせき）

二石遺跡（ふたついしいせき）

２０２０年３月

鹿児島県西之表市教育委員会

序　　文

本報告書は、市営農道整備事業に伴い発掘調査を実施した長迫遺跡・二石遺跡の報告書であります。

種子島は、黒潮海流の中に位置し、なだらかな大地と数多くの小川があり、緑豊かな照葉樹林が繁茂し、古くから自然の恵みを受け豊かな環境のもとにあることから、これまでに島の各所から数多くの遺跡が発見され、発掘調査が行われています。

この両遺跡からは、縄文時代早期の吉田式土器をはじめとする土器や石器類が多数出土し、特に国内では類例の少ない特異な石器類が 3 点発見され、縄文時代の精神文化を考える上で極めて貴重なものとなりました。

本報告書が学術的文献として活用されるのはもとより、市民の文化財保護意識高揚の一助となることを念じる次第であります。

最後に、本報告書を刊行するにあたり、ご協力をいただきました鹿児島県教育庁文化財課及び同県立埋蔵文化財センターをはじめ、遺物について貴重なご助言をいただいた諸先生方に対して厚くお礼を申し上げます。

令和2年3月

西之表市教育委員会教育長

大平　和男

報　告　書　抄　録

ふりがな	ながさこいせき・ふたついしいせき
書名	長迫遺跡・二石遺跡
副書名	市営農道整備事業　川脇地区（農山漁村活性化支援ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ交付金事業） 市営農業基盤整備事業　川脇地区農道に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	２８
編集者名	沖田純一郎
編集機関	西之表市教育委員会
所在地	〒891－3193　鹿児島県西之表市西之表７６１２番地
発行年月日	２０２０年3月２７日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
長迫遺跡	鹿児島県 西之表市 安城川脇	462136	106	30° 38′ 30″	131° 03′ 12″	20131121 20140312	712.3 ㎡	農道整備 事業
二石遺跡	鹿児島県 西之表市 安城大野	462136	124	30° 38′ 15″	131° 03′ 12″	20140916 20150109	1109 ㎡	農道整備 事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長迫遺跡	散布地	縄文時代早期		隆帯文土器 貝殻文系土器 　吉田式 　塞ノ神式等 石器類 　石鏃･砥石･石皿 　磨石敲石・石偶 　Ｊ字型磨製異形石器	
二石遺跡	散布地	縄文時代早期	集石　３	隆帯文土器 貝殻文系土器 　吉田式 　下剥峯式 　塞ノ神式等 石器類 　石鏃・石斧・砥石 　磨石敲石・石皿等 　石製装飾品	

例　言

1．本書は，市営農道整備事業・市営農業基盤整備事業に伴う長迫遺跡，二石遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．本調査は，西之表市農林水産課の依頼を受け，西之表市教育委員会が実施した。

3．本書に用いたレベル数値は，西之表市農林水産課が作成した地形図に基づく海抜高である。

4．本書の遺物番号は遺跡ごとに通し番号を付け，本文及び挿図・図版番号と一致する。

5．発掘調査における測量・実測・写真撮影は和田正樹が主となって行ない，前之園公貴荒木眞紀子・宇都美保子・山口美香がその補助を行った。

6．本書の執筆と編集は沖田が行い，遺物の復元・拓本・実測及び図面の浄書は本市の埋蔵文化財整理作業員が行った。石鏃・石斧など石器類の一部は大福コンサルタント（株）及び鹿児島県立埋蔵文化財センターに実測・浄書を依頼し，他の石器類については上記の者が実測・浄書を行った。

7．写真図版の遺物撮影は沖田及び菊池一文氏が行った。長迫遺跡遺物 No559 は、鹿児島県立埋蔵文化財センターが撮影を行った。

8．出土試料の科学分析はパリノ・サーヴェイ（株）が行った。

9．発掘調査及び整理作業に関して，鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センター・鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター・鹿児島大学埋蔵文化財調査センター及び同志社大学教授水ノ江和同教授・熊本大学大坪志子准教授等の指導・協力を得た。

10．出土遺物は西之表市教育委員会（西之表市埋蔵文化財調査室）で保管し，種子島開発総合センター「鉄砲館」にて展示・活用する。

目　次

序文
報告書抄録
例言

本文

第Ⅰ章　調査の経過……2
第１節　調査に至る経緯……2
第２節　調査の組織……2
第３節　調査の経過……6
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境……9
第１節　自然環境……6
第２節　歴史的環境……10
第３節　遺跡の環境……11
第Ⅲ章　長迫遺跡 発掘調査の概要……14
第１節　調査の概要……14
第２節　層位……14
第３節　遺構……21
第４節　遺物……21
（１）土器……21
（２）石器……23
第Ⅳ章　二石遺跡 発掘調査の概要……120
第１節　調査の概要……120
第２節　層位……120
第３節　遺構……128
第４節　遺物……128
（１）土器……128
（２）石器……134
第Ⅴ章　科学分析……189
長迫遺跡出土試料の植物珪酸体分析……190
二石遺跡出土炭化材の年代と樹種……193
第Ⅵ章　長迫遺跡・二石遺跡調査のまとめ……197
第１節　調査結果……197
第２節　遺構……197
第３節　遺物……197
（１）土器……197
（２）石器……198
第４節　まとめ……198

挿図（長迫遺跡）

第１図　調査地位置図……1
第２図　長迫遺跡・二石遺跡周辺遺跡図……12
第３図　長迫遺跡発掘調査対象地……15
第４図　発掘調査対象地グリット配置図……16
第５図　土層断面図（１）……17
第６図　土層断面図（２）……18
第７図　土層断面図（３）……19
第８図　土層断面図（４）……20
第９図　全遺物出土状況……25
第10図　全土器出土状況……26
第11図　口縁部出土状況……27
第12図　胴部出土状況……28
第13図　底部出土状況……29
第14図　全石器出土状況……30
第15図　石器器種別出土状況……31
第16図　出土土器（１）……32
第17図　出土土器（２）……33
第18図　出土土器（３）……34
第19図　出土土器（４）……35
第20図　出土土器（５）……36
第21図　出土土器（６）……37
第22図　出土土器（７）……38
第23図　出土土器（８）……39
第24図　出土土器（９）……40
第25図　出土土器(10)……41
第26図　出土土器(11)……42
第27図　出土土器(12)……43
第28図　出土土器(13)……44
第29図　出土土器(14)……45
第30図　出土土器(15)……46
第31図　出土土器(16)……47
第32図　出土土器(17)……48

第33図　出土土器(18)……49
第34図　出土土器(19)……50
第35図　出土土器(20)……51
第36図　出土土器(21)……52
第37図　出土土器(22)……53
第38図　出土土器(23)……54
第39図　出土土器(24)……55
第40図　出土土器(25)……56
第41図　出土土器(26)……57
第42図　出土土器(27)……58
第43図　出土土器(28)……59
第44図　出土土器(29)……60
第45図　出土土器(30)……61
第46図　出土土器(31)……62
第47図　出土土器(32)……63
第48図　出土石器(33)……64
第49図　出土石器(１)……65
第50図　出土石器(２)……66
第51図　出土石器(３)……67
第52図　出土石器(４)……68
第53図　出土石器(５)……69
第54図　出土石器(６)……70
第55図　出土石器(７)……71
第56図　出土石器(８)……72
第57図　出土石器(９)……73
第58図　出土石器(10)……74
第59図　出土石器(11)……75
第60図　出土石器(12)……76

挿図(二石遺跡)

第１図　発掘調査対象地……121
第２図　発掘調査対象地グリット配置図……122
第３図　土層断面図(１)……123
第４図　土層断面図(２)……124
第５図　土層断面図(３)……125
第６図　土層断面図(４)……126
第７図　土層断面図(５)……127
第８図　遺構配置図……129
第９図　集石(１)……130
第10図　集石(２)……131
第11図　全遺物出土状況……135
第12図　全土器出土状況……136
第13図　口縁部出土状況……137
第14図　胴部出土状況……138
第15図　底部出土状況……139
第16図　全石器出土状況……140
第17図　石器器種別出土状況……141
第18図　出土土器(１)……142
第19図　出土土器(２)……143
第20図　出土土器(３)……144
第21図　出土土器(４)……145
第22図　出土土器(５)……146
第23図　出土土器(６)……147
第24図　出土土器(７)……148
第25図　出土土器(８)……149
第26図　出土土器(９)……50
第27図　出土土器(10)……151
第28図　出土土器(11)……152
第29図　出土土器(12)……153
第30図　出土土器(13)……154
第31図　出土土器(14)……155
第32図　出土石器(１)……156
第33図　出土石器(２)……157
第34図　出土石器(３)……158
第35図　出土石器(４)……159
第36図　出土石器(５)……160
第37図　出土石器(６)……161
第38図　出土石器(７)……162
第39図　出土石器(８)……163
第40図　出土石器(９)……164

表

第１表　長迫遺跡・二石遺跡周辺遺跡地名表　13

表(長迫遺跡)

第２表　土器観察表(１)……77
第３表　土器観察表(２)……78
第４表　土器観察表(３)……79
第５表　土器観察表(４)……80

第６表　土器観察表（５）……81
第７表　土器観察表（６）……82
第８表　土器観察表（７）……83
第９表　土器観察表（８）……84
第10表　土器観察表（９）……85
第11表　土器観察表(10)……86
第12表　土器観察表(11)……87
第13表　石器観察表（１）……88

表（二石遺跡）

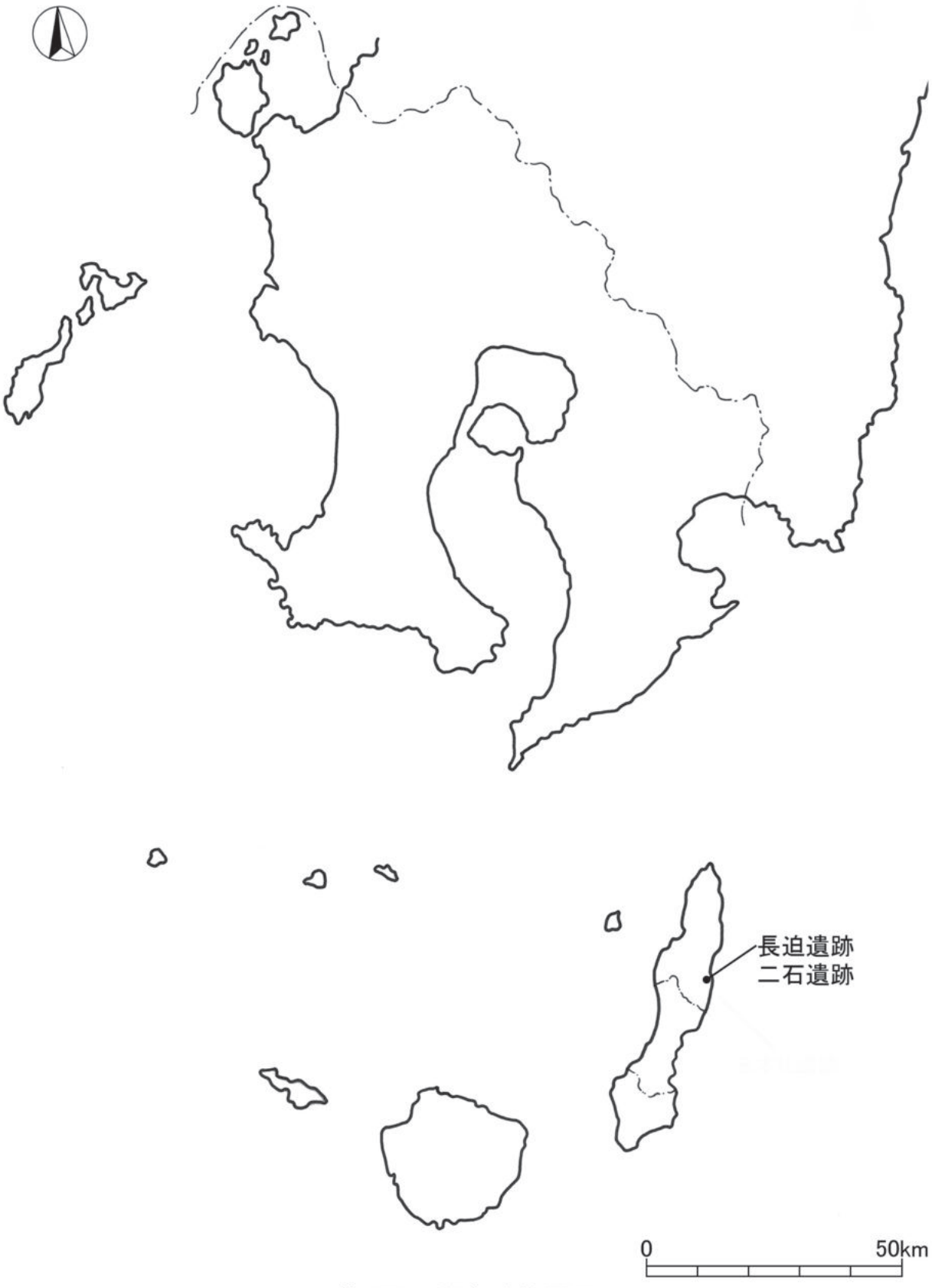
第１表　土器観察表（１）……165
第２表　土器観察表（２）……166
第３表　土器観察表（３）……167
第４表　土器観察表（４）……168
第５表　土器観察表（５）……169
第６表　石器観察表（１）……169
第７表　石器観察表（２）……170

写真図版（長迫遺跡）

図版１　発掘調査状況……89
図版２　遺物出土状況……90
図版３　土器出土状況……91
図版４　石器出土状況……92
図版５　出土土器……93
図版６　出土土器……94
図版７　出土土器……95
図版８　出土土器……96
図版９　出土土器……97
図版10　出土土器……98
図版11　出土土器……99
図版12　出土土器……100
図版13　出土土器……101
図版14　出土土器……102
図版15　出土土器……103
図版16　出土土器……104
図版17　出土土器……105
図版18　出土土器……106
図版19　出土土器……107
図版20　出土土器……108
図版21　出土土器……109
図版22　出土土器……110
図版23　出土土器……111
図版24　出土土器……112
図版25　出土土器……113
図版26　出土土器……114
図版27　出土石器……115
図版28　出土石器……116
図版29　出土石器……117
図版30　出土石器……118
図版31　出土石器……119

写真図版（二石遺跡）

図版１　発掘調査状況……171
図版２　遺物出土状況……172
図版３　集石遺構……173
図版４　土器出土状況……174
図版５　石器出土状況……175
図版６　出土土器……176
図版７　出土土器……177
図版８　出土土器……178
図版９　出土土器……179
図版10　出土土器……180
図版11　出土土器……181
図版12　出土土器……182
図版13　出土土器……183
図版14　出土石器……184
図版15　出土石器……185
図版16　出土石器……186
図版17　出土石器……187
図版18　出土石器……188
図版19　出土石器……200



第1図　調査地位置図

第Ⅰ章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

西之表市農林水産課（以下市農林水産課）は，西之表市安城地区において農道整備事業を計画し，事業区内の埋蔵文化財の有無について西之表市教育委員会社会教育課文化係（以下市教委）に照会した。

これをうけて，市教委が平成 23 年 6 月に埋蔵文化財分布調査を実施した。その結果，事業区内に長迫遺跡・二石遺跡の２遺跡が所在することが判明した。

分布調査の結果をもとに市農林水産課・市教委は，遺跡の取り扱いについて協議を行い，工事年度等を考慮しながら，工事対象地内の遺跡の有無・範囲・内容等を把握するため，埋蔵文化財確認調査を実施することとなった。

長迫遺跡・二石遺跡の確認調査は西之表市教育委員会が調査主体となり，平成 23 年度に実施した。調査の結果，土器・石器などの遺物が出土し遺物包含層が確認された。時期区分では縄文時代早期のもので，両遺跡ともに工事対象地内に遺跡は広がっていることが確認された。

確認調査の結果に基づき，西之表市教育委員会と市農林水産課・鹿児島県教育庁文化財課（以下県文化財課）で遺跡の取り扱いについて協議した結果，工事対象地内において遺跡の現状保存は不可能であり，緊急発掘調査を行い記録保存を図ることとなった。

長迫遺跡・二石遺跡の緊急発掘調査は西之表市教育委員会が調査主体となり，平成 25 年度に長迫遺跡，平成26年度に二石遺跡の調査を行った。

長迫遺跡・二石遺跡の整理・報告書作成作業は緊急発掘調査終了後から年次的に行われたが，他事業に係る遺跡の緊急発掘調査，整理・報告書作成作業と重なったことや，両遺跡の整理作業中に類例の少ない遺物が数点発見され，この遺物に関して専門家の調査・指導助言等が必要になったことから，令和元年度まで整理・報告書作成作業が及ぶこととなった。

第２節　調査の組織

（１）長迫遺跡

緊急発掘調査組織　（平成25年度）

調査主体	西之表市教育委員会		
調査責任者	西之表市教育委員会	教育長	立石　望
調査企画	西之表市教育委員会社会教育課	課　長	中村　章二
	西之表市教育委員会社会教育課	文化係長	沖田純一郎
調査庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主　査	日高　成子
調査担当	西之表市教育委員会社会教育課	主　査	和田　正樹
発掘調査作業員	長野実孝　小川浩伸　上妻忠男　川原明子　川原淳子		
	鮫島新吉　武田芳秀　宮野幸二　浜添むつ子　仲林廉		
	宇都美保子　荒木眞紀子		

整理・報告書作成作業組織

（平成 26 年度）

作業主体者	西之表市教育委員会		
作業責任者	西之表市教育委員会	教育長	立石　望
作業企画	西之表市教育委員会社会教育課	課　長	中村　章二
	西之表市教育委員会社会教育課	文化係長	沖田純一郎
作業庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主　査	日高　成子
整理作業担当	西之表市教育委員会社会教育課	主　査	和田　正樹
整理作業員	宇都美保子　荒木眞紀子　山口美香		

（平成 27 年度）

作業主体者	西之表市教育委員会		
作業責任者	西之表市教育委員会	教育長	立石　望
作業企画	西之表市教育委員会社会教育課	課　長	松下　成悟
	西之表市教育委員会社会教育課	文化係長	沖田純一郎
作業庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主　査	和田　正樹
整理作業担当	西之表市教育委員会社会教育課	主　査	和田　正樹
整理作業員	宇都美保子　荒木眞紀子　篠原典子		

（平成 28 年度）

作業主体者	西之表市教育委員会		
作業責任者	西之表市教育委員会	教育長	立石　望
作業企画	西之表市教育委員会社会教育課	課　長	松下　成悟
	西之表市教育委員会社会教育課	文化係長	沖田純一郎
作業庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主　査	和田　正樹
整理作業担当	西之表市教育委員会社会教育課	主　査	和田　正樹
整理作業員	荒木眞紀子　篠原典子		

（平成 29 年度）

作業主体者	西之表市教育委員会		
作業責任者	西之表市教育委員会	教育長	立石　望 （平成 29 年 6 月 30 日まで） 教育長　大平　和男 （平成 29 年 7 月 1 日～）
作業企画	西之表市教育委員会社会教育課	課　長	松下　成悟
	西之表市教育委員会社会教育課	参　事	沖田純一郎
作業庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	参　事	沖田純一郎

整理作業担当　　西之表市教育委員会社会教育課　参　事　沖田純一郎
整理作業員　　荒木眞紀子　篠原典子　中園愛

（平成 30 年度）
作業主体者　　西之表市教育委員会
作業責任者　　西之表市教育委員会　　教育長　大平　和男
作業企画　　西之表市教育委員会社会教育課　課　長　松下　成悟
　　西之表市教育委員会社会教育課　参　事　沖田純一郎
作業庶務担当　　西之表市教育委員会社会教育課　参　事　沖田純一郎
整理作業担当　　西之表市教育委員会社会教育課　参　事　沖田純一郎
整理作業員　　荒木眞紀子　篠原典子　中園愛　藤本まゆみ　古元真知子

（平成 31 年度・令和元年度）
作業主体者　　西之表市教育委員会
作業責任者　　西之表市教育委員会　　教育長　大平　和男
作業企画　　西之表市教育委員会社会教育課　課長級参事　沖田純一郎
作業庶務担当　　西之表市教育委員会社会教育課　課長級参事　沖田純一郎
整理作業担当　　西之表市教育委員会社会教育課　課長級参事　沖田純一郎
整理作業員　　荒木眞紀子　岩﨑寿里　中園愛　藤本まゆみ　古元真知子　元吉真澄

（２）二石迫遺跡

緊急発掘調査組織　（平成 25 年度）
調査主体　　西之表市教育委員会
調査責任者　　西之表市教育委員会　　教育長　　立石　望
調査企画　　西之表市教育委員会社会教育課　課　長　　中村　章二
　　西之表市教育委員会社会教育課　文化係長　沖田純一郎
調査庶務担当　　西之表市教育委員会社会教育課　主　査　　日高　成子
調査担当　　西之表市教育委員会社会教育課　主　査　　和田　正樹
　　西之表市教育委員会社会教育課　主　事　　前之園　公貴
発掘調査作業員　　小川浩伸　上妻忠男　川原明子　武田芳秀　宮野幸二　向井三義
　　小川千代子　鮫島あゆ子　武田美津子　西中香　徳永季就
　　小川義男　中野敏光　宇都美保子　荒木眞紀子　山口美香

整理・報告書作成作業組織

（平成 28 年度）
作業主体者　　西之表市教育委員会
作業責任者　　西之表市教育委員会　　教育長　立石　望

作業企画	西之表市教育委員会社会教育課	課　長　　松下　成悟
	西之表市教育委員会社会教育課	文化係長　沖田純一郎
作業庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主　査　　日高　成子
整理作業担当	西之表市教育委員会社会教育課	主　査　　和田　正樹
整理作業員	荒木眞紀子　篠原典子	

（平成 29 年度）

作業主体者	西之表市教育委員会	
作業責任者	西之表市教育委員会	教育長　立石　望 （平成 29 年 6 月 30 日まで） 教育長　大平　和男 （平成 29 年 7 月 1 日～）
作業企画	西之表市教育委員会社会教育課	課　長　松下　成悟
	西之表市教育委員会社会教育課	参　事　沖田純一郎
作業庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	参　事　沖田純一郎
整理作業担当	西之表市教育委員会社会教育課	参　事　沖田純一郎
整理作業員	荒木眞紀子　篠原典子　中園愛	

（平成 30 年度）

作業主体者	西之表市教育委員会	
作業責任者	西之表市教育委員会	教育長　大平　和男
作業企画	西之表市教育委員会社会教育課	課　長　松下　成悟
	西之表市教育委員会社会教育課	参　事　沖田純一郎
作業庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	参　事　沖田純一郎
整理作業担当	西之表市教育委員会社会教育課	参　事　沖田純一郎
整理作業員	荒木眞紀子　篠原典子　中園愛	

（平成 31 年度・令和元年度）

作業主体者	西之表市教育委員会	
作業責任者	西之表市教育委員会	教育長　　大平　和男
作業企画	西之表市教育委員会社会教育課	課長級参事　沖田純一郎
作業庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	課長級参事　沖田純一郎
整理作業担当	西之表市教育委員会社会教育課	課長級参事　沖田純一郎
整理作業員	荒木眞紀子　岩﨑寿里　中園愛	藤本まゆみ　古元真知子　元吉真澄

第３節　調査の経過

（１）長迫遺跡

長迫遺跡の緊急発掘調査は，平成25年11月から平成26年3月まで実施した。工事計画図面をもとに，調査対象地に20mグリッドを設置したが，この20mをさらに10mごとに細分した。調査は重機によりアカホヤ火山灰層までを除去した後，人力により掘り下げを行い進めていった。以下調査の経過については日誌抄をもってかえる。

平成25年11月～平成26年3月実施

11月21日～23日	プレハブ・ベルトコンベア・機材・道具類等の搬入。
11月26日～29日	調査地内8B・9A・9B・10A・10B区重機による表土剥ぎ。ベルトコンベアの設置。9A・9B・10A・10B区掘り下げ。土器片（塞ノ神式、吉田式）、石鏃出土。市農林水産課村永氏・中脇氏・市教委沖田文化係長来跡。
12月2日～6日	8B・9A・9B・10A・10B区掘り下げ。遺物出土状況写真撮影。平板・レベル測量。遺物取り上げ。土層断面分層後、土層断面図作成。ベルトコンベア移動、追加設置。土器片、石器類出土。市教委沖田文化係長来跡。
12月9日～13日	8B・9A・9B区掘り下げ。土層断面分層後、清掃、土層断面図作成。断面写真撮影。平板・レベル測量。遺物取り上げ。ベルトコンベア撤去。 川脇集落川原透氏・安城校区長古田氏来跡。
12月16日～20日	8B・9A・9B区底面清掃。平板・レベル測量。遺物取り上げ、写真撮影。土層断面図作成。土器片、円礫、台石出土。
12月26日	出土遺物洗浄。道具の片づけ。
1月6日～10日	8B・9A・9B・10A・10B区重機による埋め戻し。11A・7A・7B・8A・8B区表土剥ぎ。11A・7B・8A・8B区掘り下げ。昇降用土嚢作り、設置。ベルトコンベア移設。土器片、石皿出土。文化財保護審議委員松下繁氏・ボランティアガイド「じゃろじゃろ」松園氏他1名・市教委沖田文化係長来跡。
1月14日～17日	11A清掃。写真撮影。平板・レベル測量。遺物取り上げ。土層断面図作成。7A・7B・8A・8B区掘り下げ。17日8B区よりＪ字型の磨製石器出土。
1月20日～24日	7B・8A・8B区掘り下げ。土層断面図作成。清掃。写真撮影。平板・レベル測量、遺物取り上げ。7B・8Aで遺物多数出土。
1月27日～31日	7B・8A・8B・11A区埋め戻し。3B・4A・4B・5A・5B・6A・6B区表土剥ぎ。6A・6B区掘り下げ。ベルトコンベア設置。
2月3日～5日	5A・5B・6A・6B区掘り下げ。清掃。写真撮影。平板・レベル測量、遺物取り上げ。土器片、礫出土。市教委中村社会教育課長・沖田文化係長来跡。
2月12日	6A・6B土層断面図作成。4B・5A・5B区掘り下げ。土器片、礫出土。
2月20日～21日	5A・5B平板・レベル測量、遺物取り上げ。4A・4B・5A区掘り下げ。。土器片、石鏃1点出土。磨石・敲石・自然礫多数出土。安城川脇集落長来跡。

2月24日～26日	4A・4B区掘り下げ清掃。平板・レベル測量、遺物取り上げ。2A・2B・3A・3B区表土剥ぎ後、掘り下げ。土層断面図作成。4B北側壁寄りに乳赤褐色で半径約30㎝円形状に焼土検出。分析のため、土ごと採取。土器片、石器類出土。高橋建設社長・熊建梶原氏・川脇集落長・大野集落長来跡。
2月26日～3月4日	2A・2B・3A・3B区表土剥ぎ。掘り下げ。土層断面図作成。平板・レベル測量、遺物取り上げ。種子島中職場体験3名、作業に参加。川脇集落長古田氏・大野集落牧瀬氏が民泊の立命館高校生6名と来跡。
3月5日～8日	2A・2B・3A・3B・4A・4B・5A・5B・6A・6B区埋め戻し。7A区未掘部分表土剥ぎ。
3月10日～12日	7A区掘り下げ。清掃。写真撮影。平板・レベル測量、遺物取り上げ。土層断面図作成。7A区埋め戻し。埋土不足分を耕作放棄地より採取。耕作放棄地の整地。発掘調査道具類片付け。調査終了。 川脇集落川原氏・市教委中村社会教育課長・南種子町教委社会教育課小脇氏・国立歴史民俗博物館研究部総合研究大学院大学山田康弘氏・京都大学文化財総合研究センター冨井眞氏・東北大学埋蔵文化財調査室菅野智則氏・古田校区長来跡。

（2）二石遺跡

二石迫遺跡の緊急発掘調査は，平成26年9月から平成27年1月まで実施した。工事計画図面をもとに，調査対象地に20mグリッドを設置したが，この20mをさらに10mごとに細分した。調査は重機によりアカホヤ火山灰層までを除去した後，人力により掘り下げを行い進めていった。以下調査の経過については日誌抄をもってかえる。

平成26年9月～平成27年1月実施

9月16日～18日	16・17・18・19区表土剥ぎ。幅杭設置のため測量。KBMの設置。プレハブ・ベルトコンベア・排土仮置場設置。道具類の搬入。遮光ネット張り。17・18・19区掘り下げ。吉田式土器、石鏃出土。19区は本来の調査対象地ではないため除外する。（掘削状況から包含層残存の気配なし。） 中村社会教育課長・大野集落牧瀬義雄氏来跡。
9月22日	16・17区掘り下げ。18区南側壁面調整。17・18区土層断面分層。
9月29日 ～10月3日	16・17・18区掘り下げ。清掃。写真撮影。平板・レベル測量、遺物取り上げ。土層断面図作成。
10月6日～7日	台風18号によるプレハブ･仮設トイレ等の被害への対処。台風19号対策。18区土層断面図作成。16・17・18区埋め戻し。
10月14日～17日	16・17・18区ハエ敷き作業。8・9・10区表土剥ぎ掘り下げ。調査地案内板設置。土器片、石鏃3点出土。

10 月 20 日～24 日	8・9・10 区掘り下げ。清掃。写真撮影。平板・レベル測量、遺物取り上げ。土層断面図作成。石鏃・敲石片出土。 20 日 8 区で石製装飾品出土。
10 月 27 日～30 日	9・10 区写真撮影。平板・レベル測量、遺物取り上げ。土層断面図作成。8・9・10 区埋め戻し。5・6・7 区表土剥ぎ。土器片、石器類出土。
11 月 5 日～7 日	5・6・7 区掘り下げ。排土処理。土嚢作り。6 区石斧 1 点出土。5・6 区塞ノ神式土器が吉田式土器と同レベルに出土。
11 月 10 日～13 日	5・6・7 区掘り下げ。清掃。写真撮影。平板・レベル測量、遺物取り上げ。土層断面図作成。7 区塞ノ神式土器と吉田式土器が混在する傾向。
11 月 18 日～21 日	5・6・7 区埋め戻し。表土剥ぎ。0・1・2 区掘り下げ。1 区石斧 2 点出土。。市農業委員会前田事務局長・臨時職員 1 名来跡。
11 月 26 日～28 日	0・1・2 区掘り下げ。写真撮影。平板・レベル測量、遺物取り上げ。土層断面図作成。石が多く土器は小片が少し出土する程度。
12 月 1 日～5 日	清掃。写真撮影。平板・レベル測量、遺物取り上げ。土層断面図作成。調査グリッドの再設定。3・4・5 区掘り下げ。16 区表土剥ぎ。 1 区石器・礫の集中出土地は、集石遺構と判断（1 号集石)。中村社会教育課長・沖田文化係長来跡。
12 月 8 日～12 日	清掃。写真撮影。平板・レベル測量、遺物取り上げ。土層断面図作成。集石 1 号断面図作成。取り上げ後掘り込み面調査。11・12・13 区表土剥ぎ。13・14・15・16 区掘り下げ。土層分層。13 区 2 号集石検出。実測、平面図・断面図作成。15 区台石、石皿類出土。13・14 区吉田式土器を中心に遺物出土。中村社会教育課長来跡。
12 月 15 日～19 日	11・12・13・14・15・16 区掘り下げ。分層。清掃。写真撮影。平板・レベル測量、遺物取り上げ。土層断面図作成。13 区 2 号集石遺物取り上げ。0・1・2・3・4・5 区埋め戻し。12 区石斧 1 点出土。2 号集石より県道側へ 2m 先付近北側壁で 3 号集石を検出。
12 月 22 日～26 日	11・12 区掘り下げ。大雨により区内が浸水し、排水ポンプにて排水しながら作業。土層断面図作成。清掃。写真撮影。平板・レベル測量遺物取り上げ。3 号集石断面図作成。13・14・15・16 区埋め戻し。5・6・7 区砂利での埋め戻し。道具片付け。中村社会教育課長、沖田文化係長来跡。
1 月 5 日～9 日	5 区未掘箇所表土剥ぎ、掘り下げ。5・11・12・13 区埋め戻し。調査終了。沖田文化係長来跡。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　自然環境

長迫遺跡・二石遺跡の所在する種子島は，大隅半島最南端の佐多岬から南東約 40km の洋上に位置する。面積 447.0 ㎡，延長 52km，幅 12km で中種子町野間の地峡部では約 6km に過ぎない。最高海抜は，282.3mの比較的平で，九州最高峰の宮之浦岳（標高 1935m）を有する屋久島とは地形的に対照的な島である。島の長軸は，北北東から南南西に細長く伸びており，九州本土や琉球列島の配列にほぼ近い。行政区は北から西之表市・中種子町・南種子町と１市２町からなる。

西之表市は，本土に最も近い海の玄関口として人・物の交流拠点となっている。面積は，205.66㎢（馬毛島「8.17㎢」を含む）で，種子島の総面積の 44.4%を占めており，南北の長さは 25.2km・東西の幅は 8.2km・周囲は 63.0km であり，東・西・北の３面は海に面し，南は中種子町と接している。気温は，平均気温 19.8 度の亜熱帯性の気候で四季を通して温暖であり，台風の常襲地帯に位置している。

種子島の地質構造は，島全体に海岸段丘がよく発達しており，種子島北部の国上丘陵地域では高度 60m，中部の中種子町中山から油久にかけては高度 80m，南部の南種子町門倉付近では高度 100mに達する。この海岸段丘は西之表市の東西海岸，中種子町全域，南種子町の西側に見られ，極めて特徴的である。西海岸部には比較的砂丘が発達しているが，東海岸は断崖に富んでいる。島は，二つの断層線によって，地形上，北部・中部・南部に分けることができる。西海岸・西之表市上西大広野と東海岸・西之表市現和田之脇を結ぶ西南向きの断層線が島の北部と中部の境となると言われている。北部には，島で２番目に高い天女神楽（あまめかぐら）「標高 237.9m」が，風雨の浸食で開析され台地状となる。北部の大部分は，開析台地や海岸段丘が不規則に絡み合い，変化に富んだ地形を呈している。

西海岸・西之表市上西大広野と東海岸・西之表市現和田之脇を結ぶ西南向きの断層線と西海岸・中種子町納官の竹之川と中種子町野間をとおり，東海岸中種子町中山を結ぶ断層線の間が，中部とされる。島の最高標高石之峰口（標高 282.3m）もこの地に位置する。開析台地の発達と海岸段丘が不規則に交錯していて，一見低平と言われる種子島の地形も複雑さを呈している。

南部は，西海岸・中種子町納官の竹之川と中種子町野間をとおり，東海岸中種子町中山を結ぶ断層線から南であり，西海岸は単調で屈曲が少なく，「長浜」と呼ばれる砂丘が続く。これに対し，東海岸部は中種子町増田の犬城海岸から中種子町熊野海岸まで，沈水によって入り組んだ複雑な海岸線（リアス式海岸）が続き，美しい風景を形成している。南部の中央部は，起伏の少ない中種子中央台地と呼ばれ，これに続く南種子中央台地は比較的開析が進み，地形が複雑となる。西海岸は，海岸段丘も急傾斜し，平地が少なくなる傾向にある。南種子町門倉岬から竹崎にかけては，南流する鹿鳴川・郡川・宮瀬川などで沖積平野が形成される。地質構造は，島全体に海岸段丘がよく発達しており，種子島北部の国上丘陵地域では高度 60m，中部の中種子町中山から油久にかけては高度 80m，南部の南種子町門倉付近では高度 100mにも達す

る。この海岸段丘は西之表市の東西海岸，中種子町全域，南種子町の西側に見られ，極めて特徴的である。

島の基盤となる地層は熊毛層群と呼ばれる砂岩・頁岩の互層である。この層の上を不整合に茎永層群及び増田層，長谷層，竹之川層が覆っている。

熊毛層群の堆積した時代は，新生代古第三紀，始新世の頃とされ，本層群は大きくさらに 3 つの層に分けられている。（門倉崎層・立石層・西之表層）茎永層群は，特色のある 3 つの層に細分化されており，田代層・河内層・大崎層と名付けられている。最上部は，新期ローム層が堆積している。茎永層群はそこから出土する示準化石から中新世前期頃と言われており，種子島の環境や地形の変化の過程を推論できる貴重なものである。増田層はほぼ全域にわたって認められる淡茶褐色砂を主体とする地層である。長谷層は中種子町中田以南から南種子町門倉岬に至る地に広く発達し，礫層が主体であり，第四紀前期と推定されている。竹之川層は中種子町竹之川から中種子町屋久津に至る西海岸地帯に見られる。基底礫層を伴い熊毛層群や増田層を不整合に覆い，平均10mの層位である。他，火山灰起源の風成層であるローム層や，沖積世の堆積物として，旧砂丘砂層・現砂丘砂層・河川堆積物などが見られる。種子島は全島の99%以上が堆積岩からなるが，一部の限られた地にアルカリ岩体のランプロファイア・セキエイハンガン岩体・ゲンブ岩質岩塊の枕状溶岩と３種類の火成岩が見られる。

第２節 歴史的環境

種子島の名は古く天武 6 年（677 年）に史上に現れ，以後は隋・唐と日本を結ぶ南方ルートの港として重要な位置を占めるに至った。建仁年間（1201 年頃）平信基が南海 12 島を領し，種子島入りした。居館は赤尾木周辺にあったと思われ，以後赤尾木は島主種子島氏の府元として栄えていくこととなる。天文 12 年（1543 年）種子島の南端に漂着した中国船に乗船していた，ポルトガル人によってもたらされた鉄砲（火縄銃）は，島主の命により赤尾木の鍛冶職人によって国産化され，近世日本への幕開けとなった。元禄 11 年（1698 年）琉球王から贈られた甘藷が島主の政策によって栽培をはじめて成功し，その後甘藷が全国へ伝播していったことは史実でも明らかとなっている。この南方ルートの要津赤尾木は日向の細島を経て，豊後水道から瀬戸内海を通り京都へ向かう直通ホットラインでもあり，このルートを通じて，中央の文化をダイレクトに吸収したため，学問・武芸・技芸の上でも中央に比肩し得る多くの学者・名人・達人を輩出し，その文化力も高かった。明治以降は全国から多数の移住者を受け入れ，在地の文化と移住者の文化が融合し，種子島島独特の文化が育まれていくこととなった。

考古学的見地から種子島を概観すると，種子島は南島北部文化課圏（本土南九州の影響を受けた南九州文化圏）に属すると考えられている。この南九州文化圏に包括される種子島の遺跡を概観してみると，平成4年に発掘調査が行われた横峯C遺跡で礫群が島内で初めて検出され，約 4 万年前の後期旧石器時代の年代値を示し，種子島で初めて旧石器時代の遺跡の存在が明らかとなった。その後の調査で，旧石器時代の遺跡が続々と発見され，立切遺跡（中種子町）からは，同時期の国内最古級の落とし穴や磨製石斧などの石器類が多数発見され，旧石器時代の様相を調査研究するうえで全国的に注目されている。それ以後のナイフ形石器の文化層は現在

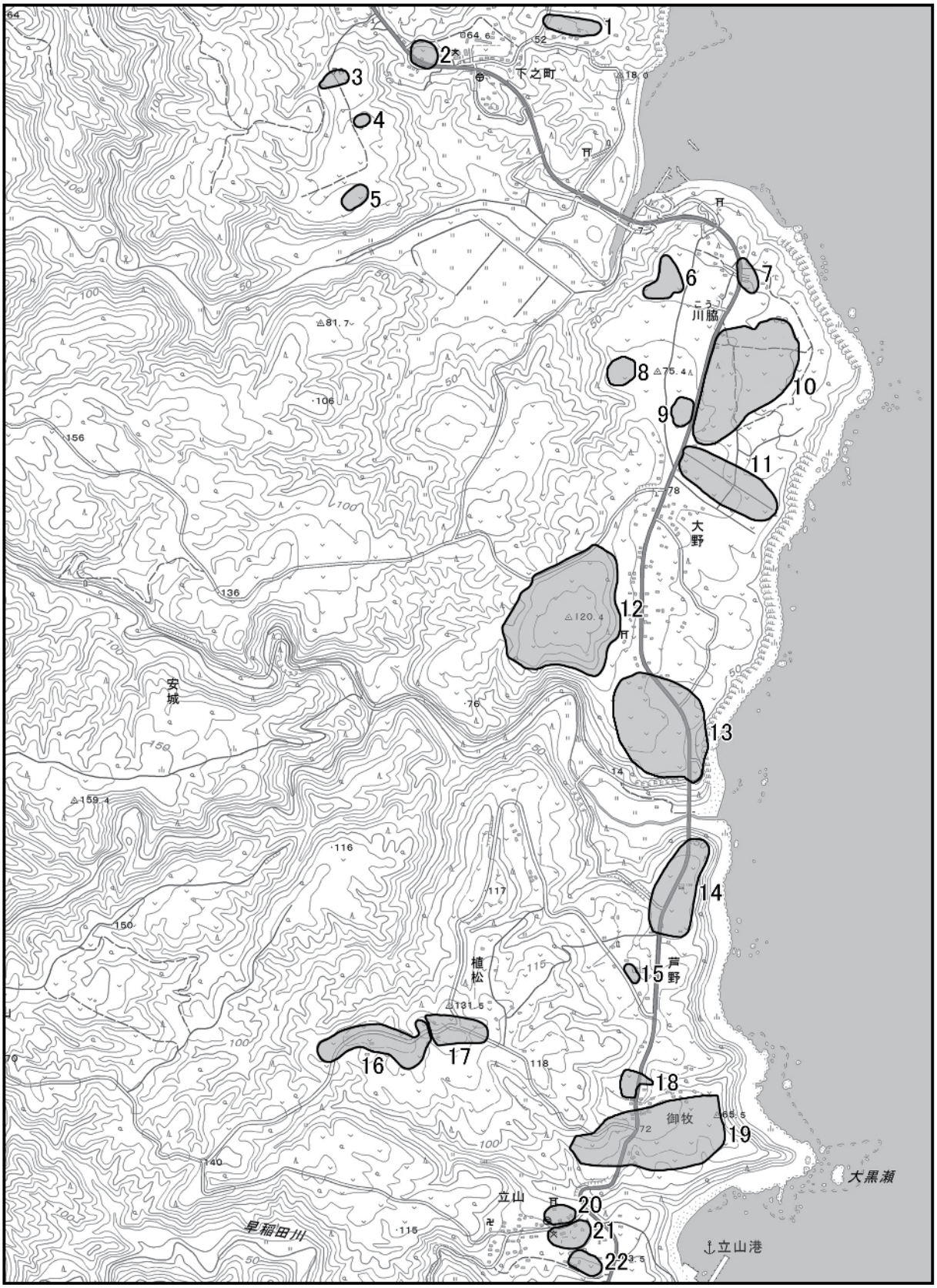
種子島では確認されていないが，旧石器時代終末期とされている細石刃核・細石刃が確認された遺跡は湊遺跡・大中峯遺跡・葉山遺跡（西之表市）・立切遺跡（中種子町）・銭亀遺跡（南種子町）などがある。縄文時代では，近年の調査で縄文時代草創期の良好な資料・遺構が相次いで発見されている。奥ノ仁田遺跡（西之表市）の調査で縄文時代草創期の遺跡が本土以南で初めて確認され，その後三角山遺跡（中種子町）・鬼ケ野遺跡（西之表市）・横峯C・D遺跡の調査で隆帯文土器片や石器類，多数の遺構が発見されている。その後の縄文時代早期では前平式・吉田式・塞ノ神式・平栫式などが出土した遺跡の報告例が多数あり，良好な資料が増加している。特に，平成15年度から約10年間にわたり，西之表市東南部地区（安城・立山地区）において県道整備事業に伴う発掘調査が西之表市教育員会により実施され，縄文時代早期の遺構や良好な資料（主に吉田式土器が主体）が増加してきている。また，遺跡や出土遺物が国の重要文化財に指定された「廣田遺跡（南種子町）」などをはじめとする，国内最古・国内最多・国内初など極めて重要な遺跡・遺物が島内で発見・報告されている。さらに，弥生時代後期から古墳時代及び中世の時代に島内では砂丘に埋葬址が形成され，良好な状態で遺構や遺物が発見されていることも特筆される。

時代が移り，8世紀に入ると多禰国が設置され，大和朝廷との関係が深くなるが，国府・国分寺（島府・島分寺）の所在地は未だ解明されていない。中世に入ると「律宗から法華宗への全島宗教改革」，「遣唐船・遣明船の寄港地」，「火縄銃の伝来・国産化」，「ザビエルの寄港」など島で重要な出来事があり，文献史上では確認されているが，考古学的な調査は行われていない。江戸時代に入ると，「甘藷伝来」，「カタリナ永俊尼の種子島への配流（キリスト教）」，「名跡松寿院の三大土木工事・種子島家墓地の整備」などの特筆される出来事があるが，やはり文献史では垣間見ることができるが，考古学的な調査は行われておらず，先史時代の考古学的調査は行われているが，中世以降については，発掘調査等はあまり行われていない状態であり，今後の調査に期待するところが大きい。

平成31年3月，西之表市の西海上12ｋｍに位置する馬毛島で，馬毛島葉山王籠遺跡の発掘調査が行われた。遺跡の発見の経緯は厚生労働省が馬毛島で行った戦没者遺骨収集確認調査によるものである。調査の結果，同遺跡は中世の埋葬址と古墳時代の貝塚からなる複合遺跡であることが確認され，特に中世の埋葬址としては鹿児島県本土での報告例はなく，本市の小浜遺跡と奄美・喜界でわずかに確認されているのみで，その類例は極めて少なく，学術的にも非常に重要なものである。

第３節　遺跡の環境

長迫遺跡・二石遺跡は西之表市の東南部，安城地区川脇の標高約50～60mの台地に位置する。遺跡の周囲には縄文時代草創期・早期の遺跡が多数所在する。遺跡がこの地に集中する理由として照葉樹林の発達により，植物性食料の確保が容易にできる環境化にあった点や，海岸部までの距離がそれほど遠くないことなどが挙げられる。また各遺跡周辺には名前の付かないような小川や水源地がいたるところにあり，水の確保も十分であったと思われる。石器の石材も，周辺の河原や海岸部に見られることから，石材の採取も容易であったことが伺える。



第2図　長迫遺跡・二石遺跡周辺遺跡図

第1表　長迫遺跡・二石遺跡周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	時代	備考
1	仮屋園	西之表市安城平山	縄文時代早期	平成10年農政分布調査
2	通利山	西之表市安城上之町	縄文時代	平成13年県道分布調査 平成15年試掘調査
3	鬼ヶ野A	西之表市安城上之町	縄文時代早期	平成12年確認調査
4	鬼ヶ野B	西之表市安城上之町	縄文時代早期	平成12年確認調査
5	鬼ヶ野	西之表市安城上之町	縄文時代草創期・早期	平成13年発掘調査 出土石器類は県文化財に指定
6	日守C	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成6年確認調査
7	三本松	西之表市安城川脇	縄文時代早期	平成17・18年発掘調査
8	日守B	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成6年確認調査
9	日守	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成7・8年発掘調査
10	**長迫**	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成23年確認調査 平成25年発掘調査
11	**二石**	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成23年確認調査 平成26年発掘調査
12	鍬ノ刃	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成17・18年発掘調査
13	東前平	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成14・15年発掘調査
14	芦野	西之表市立山芦野	縄文時代早期	平成16年度発掘調査
15	九郎三ェ門	西之表市立山芦野	縄文時代	平成3年農政分布調査
16	奥ノ仁田	西之表市立山植松	縄文時代草創期・早期	平成5年発掘調査，平成12年・23年詳細分布調査　出土品は県文化財に指定
17	奥嵐	西之表市立山植松	縄文時代早期	平成5年発掘調査
18	尾呂ノ平	西之表市立山御牧	縄文時代早期	平成13年県道分布調査
19	長崎	西之表市立山御牧	縄文時代早期	平成13年県道分布調査
20	中園A	西之表市立山立山	縄文時代早期	平成23年発掘調査
21	中園B	西之表市立山立山	縄文時代早期・近世	平成23年発掘調査
22	下ノ平	西之表市立山立山	縄文時代早期	平成13年県道分布調査

第Ⅲ章　長迫遺跡　発掘調査の概要

第１節　調査の概要

長迫遺跡の発掘調査は，調査対象地がほぼ一直線であったため，当初 20mごとに杭を設置し，調査を進めていく予定であったが，遺物の出土量が密であったため，10mに変更して，調査を行った。調査対象地の道路は調査期間中も一部耕作道として利用されていたため，調査対象地全体の表土剥ぎを行う事が難しく，周辺の耕作者と協議・調整を行ないながら，20ｍごとに表土を重機で取り除いた後，人力で掘り下げながら，遺物及び遺構の検出を行ない，調査終了後はすぐに埋戻し，次の対象地（20m）の表土剥ぎを行ない人力での掘り下げ調査，埋戻し作業を繰り返しながらの調査となった。

調査対象地東側にいくにつれ，遺物の出土分布が非常に密となり，遺物の平板実測・レベル測定作業にかなりの時間を割いた。調査地の土層断面は実測作業を行い，遺物出土状況・土層断面・作業状況などは写真撮影で記録を行った。また，焼土が確認されたため，科学分析用に焼土内の土壌の一部をサンプルとして採取した。番号を付けて取上げた遺物は1,067点であった。海岸部（東側）に進むにつれ，遺物の出土量が徐々に増加する傾向がみられた。調査面積は約720㎡である。（幅約4m×長さ約190m）

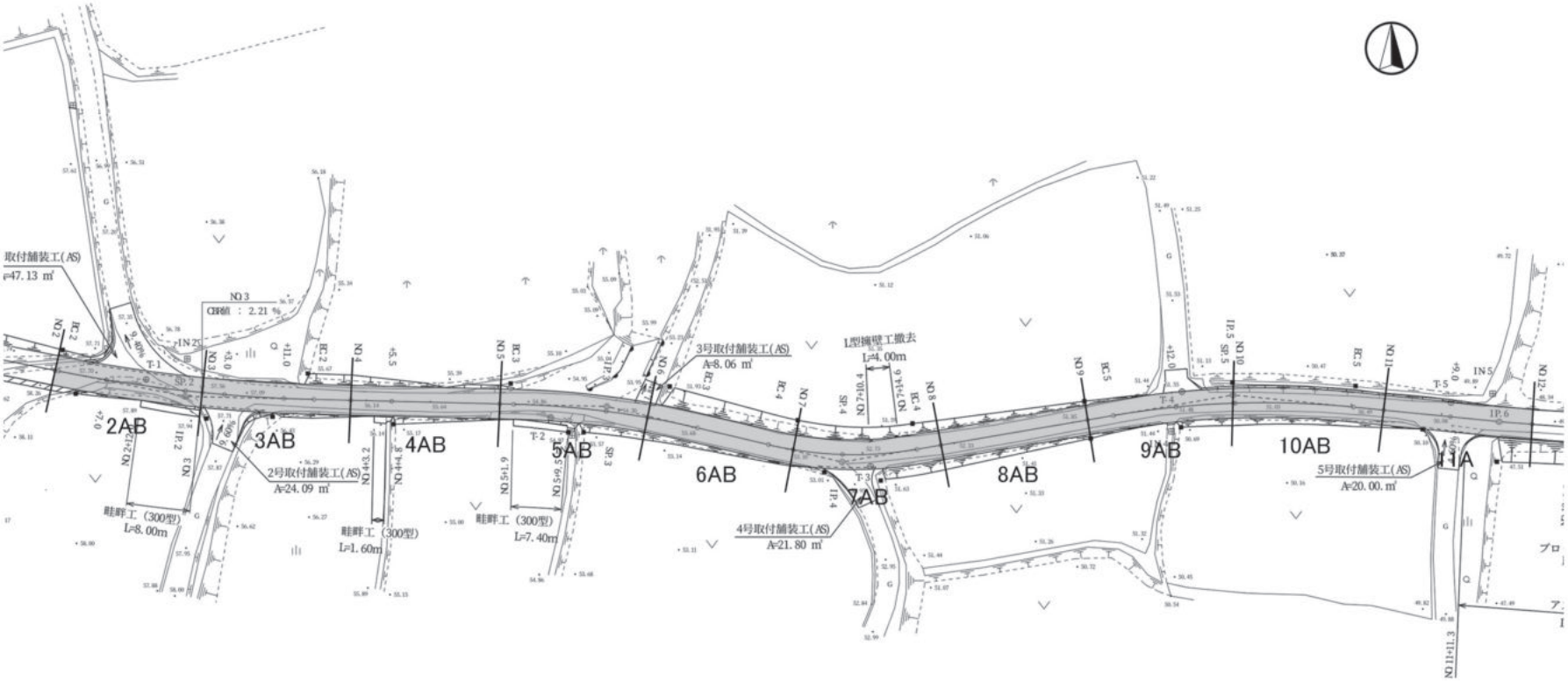
第２節　層　位

土層は場所によって一部の層が欠落している部分もあるが，基本的には下記のとおりである。土層の堆積状況は下位にいくにつれ良好であった。

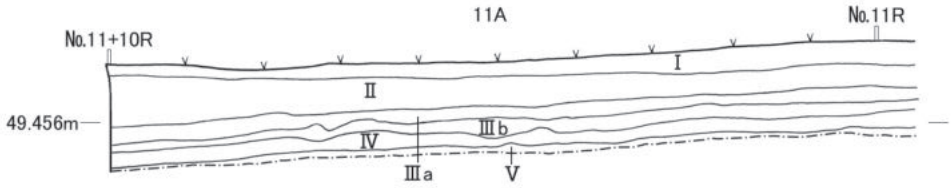
Ⅰ層	表土	ハエ石層を含む。場所によって，著しく堅く締まっている。
Ⅱ層	黒色土層（旧表土）	下位にカクラン層が混じる場合あり。
Ⅲ層	黄橙色火山灰土層	アカホヤ火山灰層，鬼界カルデラ噴出堆積物。場所によっては， 「Ⅲa」・・・・・2 次堆積物 「Ⅲb」・・・・・1 次堆積物に分層可能である。
Ⅳ層	ベージュ色粘質土層	遺物包含層（縄文時代早期）
Ⅴ層	黒褐色土層	場所によって粘質が強くなる。Ⅳ層との分層部分に漸移がみられる。
Ⅵ層	黄褐色ローム層	粘質が強い。

213-70
日守C
213-115
三木松
発掘調査対象地
川脇
213-106
長迫
213-69
日守B
△75.4
213-68
日守
213-124
二石
大野
△120.4
0
200m

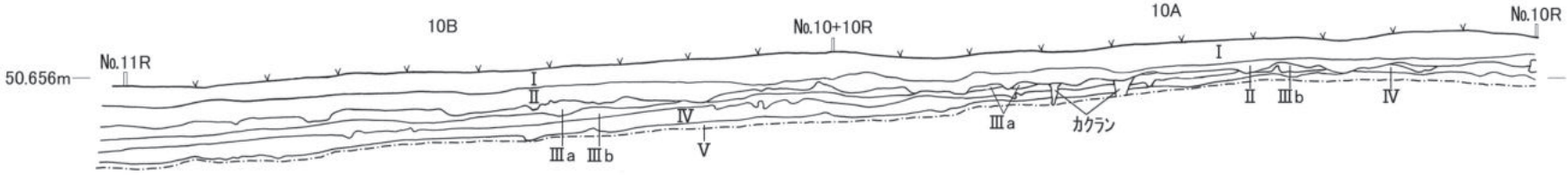
第3図　発掘調査対象地



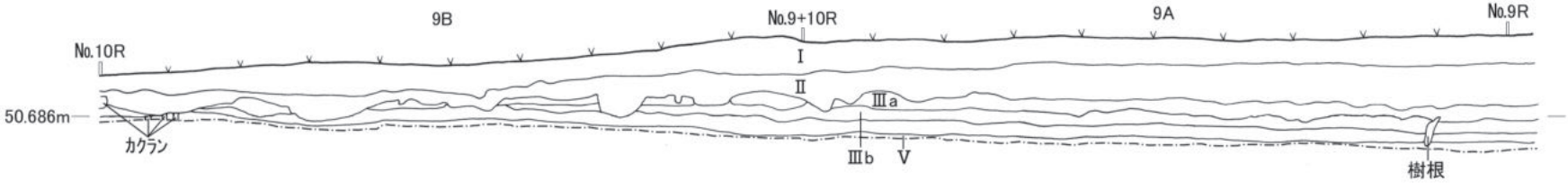
第4図　発掘調査対象地グリット配置図



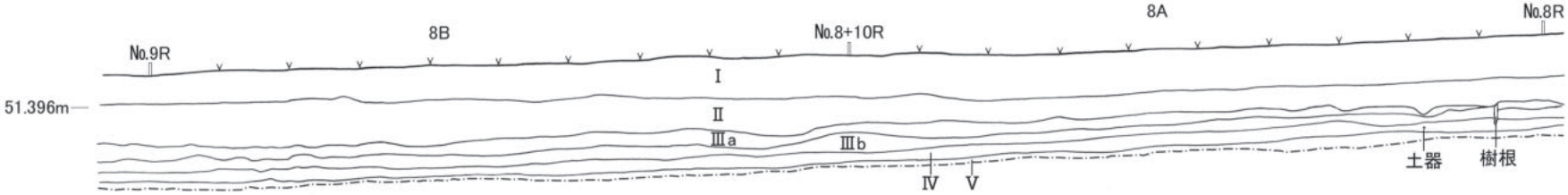
11区南側土層断面



10区南側土層断面

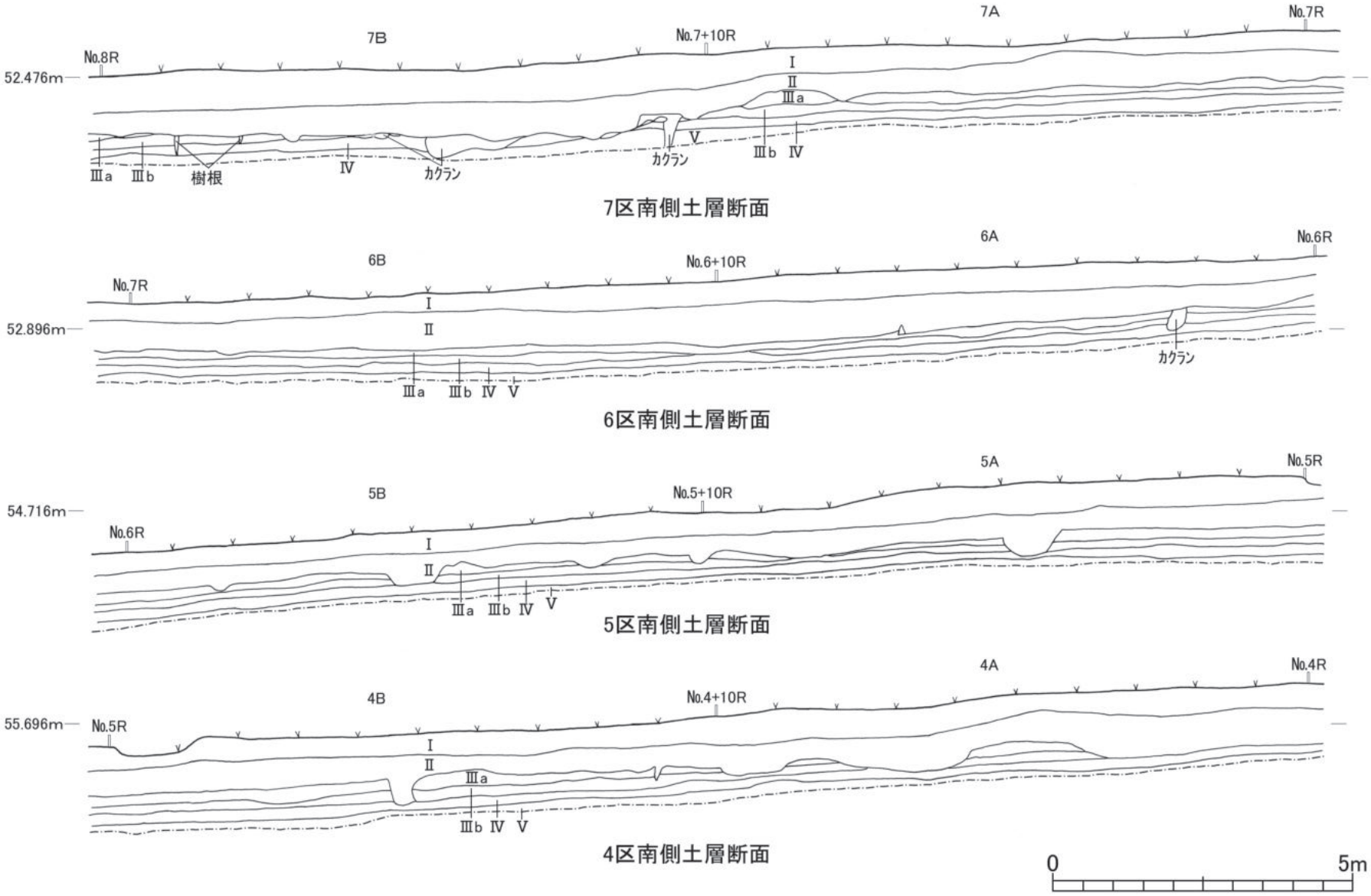


9区南側土層断面

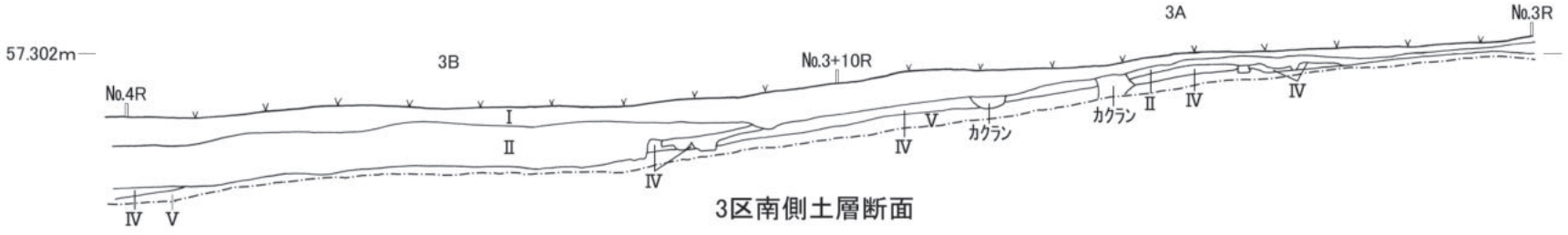


8区南側土層断面

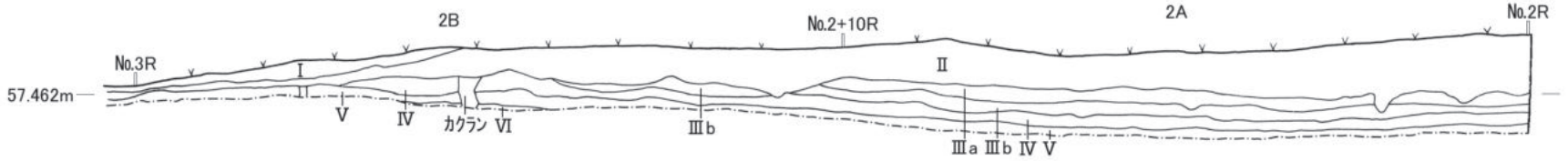
第5図　土層断面図(1)


7B
No.7+10R
7A
No.7R
No.8R
52.476m
I
II
IIIa
IIIa
IIIb
樹根
IV
カクラン
V
カクラン
IIIb
IV
7区南側土層断面
6B
No.6+10R
6A
No.6R
No.7R
52.896m
I
II
IIIa
IIIb
IV
V
カクラン
6区南側土層断面
5B
No.5+10R
5A
No.5R
54.716m
No.6R
I
II
IIIa
IIIb
IV
V
5区南側土層断面
4B
No.4+10R
4A
No.4R
55.696m
No.5R
I
II
IIIa
IIIb
IV
V
4区南側土層断面
0
5m

第6図　土層断面図(2)

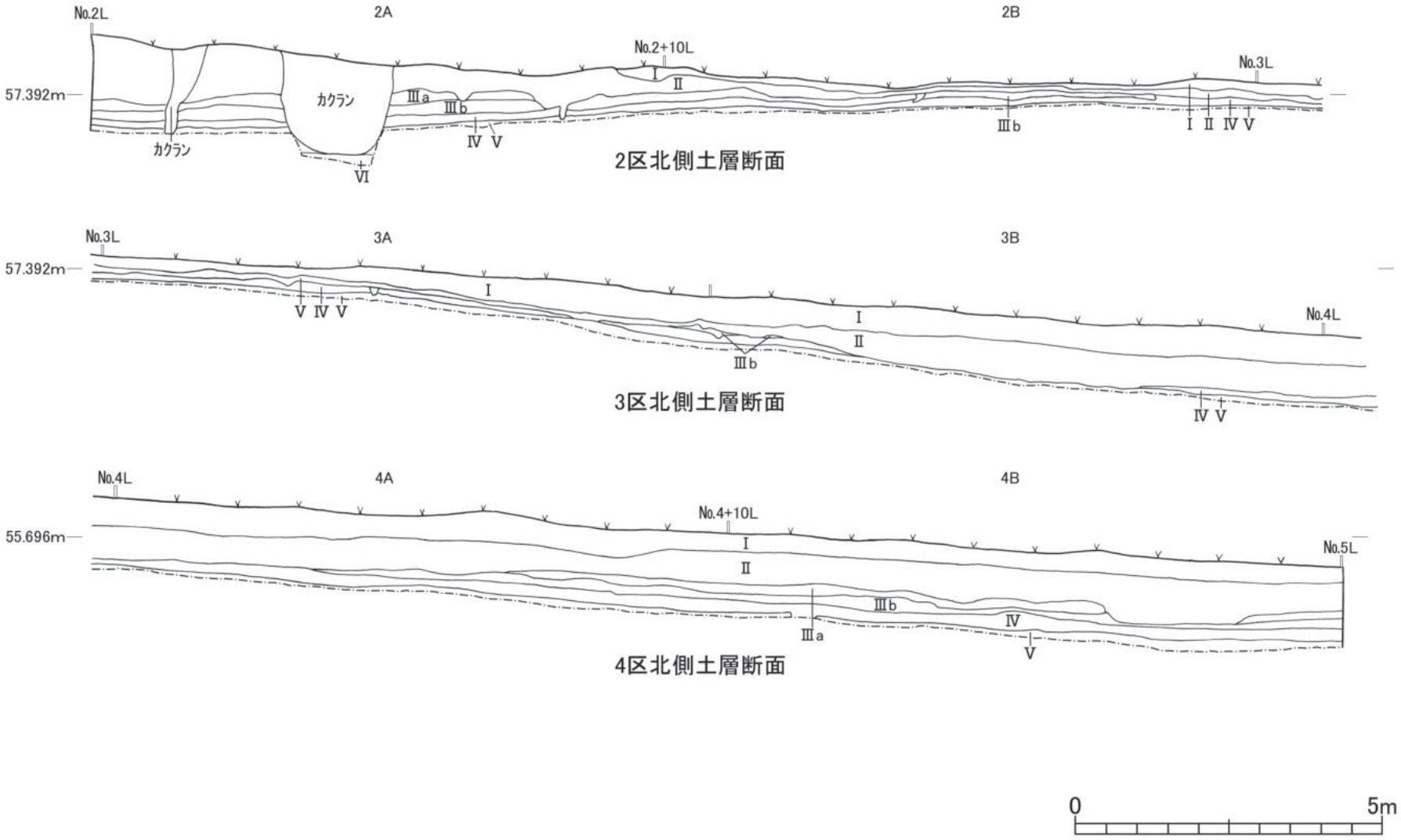


3区南側土層断面



2区南側土層断面

第7図　土層断面図(3)


No.2L
2A
2B
No.2+10L
No.3L
57.392m
カクラン
カクラン
Ⅲa
Ⅲb
Ⅳ Ⅴ
Ⅵ
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲb
Ⅰ Ⅱ Ⅳ Ⅴ
2区北側土層断面
No.3L
3A
3B
57.392m
Ⅴ Ⅳ Ⅴ
Ⅰ
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲb
No.4L
Ⅳ Ⅴ
3区北側土層断面
No.4L
4A
4B
No.4+10L
55.696m
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲb
Ⅲa
Ⅳ
Ⅴ
No.5L
4区北側土層断面
0
5m

第8図　土層断面図(4)

第３節　遺　構

長迫遺跡の発掘調査においては，遺構は検出されなかった。ただし，４Ｂ区の東側部分から長軸 25 ㎝×短軸 16 ㎝の楕円形で，埋土が乳赤褐色を呈したピット状のものが検出された。検出面は，Ⅳ層ベージュ色粘質土層である。埋土内には 3 ㎝程度の赤褐色のパミスの混入が見られた。下層確認のため半裁確認を行ったが，乳赤褐色土は約 30 ㎝堆積でその下位はⅤ層の黒褐色土であり，遺物の出土も見られなかった。掘り込みの有無を確認しながらの掘り下げであったが，周辺の土色はぼんやりとしており，明確な掘り込みラインは確認されず，人工的に形成されたものではないと判断した。なお，埋土の一部をサンプルとして採取し科学分析を行った。

第４節　遺　物

遺物は土器片・石器類が出土した。出土した層は全てアカホヤ火山灰層下位の，第Ⅳ層であるが，ごくまれに第Ⅴ層上位が見られた。時期区分では縄文時代早期に該当するものである。ただし，１点だけ縄文時代草創期に該当する土器が出土している。

（1）土　器

番号を付けて取り上げた土器は 850 点である。特に口縁部については，諸特徴から大きく第１類～第５類に分類した。分類は文様のあり方及び器形を総合的に判断して行った。

①第１類土器（第 16 図 1）

10 Ａ区から出土したものである。800 点を超える土器片を取り上げたが，この１点だけの出土である，器面（胴部）に１条の隆帯を施し隆帯には指頭で施文が施され，器面全体は丁寧になでられている。本市の奥ノ仁田遺跡・鬼ヶ野遺跡で出土しているものと同じタイプであり，縄文時代草創期のものである。

②第２類土器（第 16 図 2 ～第 20 図 66）

口縁部が緩やかに外傾する円筒形が主であるが，口縁部に稜をもつ器形もあり，中には角筒の器形に近いものもある。口唇部には連続した浅いキザミを施すものもあり，口縁部下に貝殻腹縁部により横位の刺突文を１段～２段めぐらす。その下位に縦位のクサビ形の貼付文をめぐらす。また，貝殻腹縁による押圧文を意識して，クサビ形貼付文の名残として表現されたと考えられる縦位の貝殻刺突文を施しているものなどである。この類の最大の特徴はこのクサビ形の貼付文であり，細分化するとクサビ形の貼付文を有するものと，クサビ形の貼付文を意識して施文しているものの一群である。胴部には貝殻腹縁による押し引き文が施されるが，押し引きと貝殻条痕文を交互に施すなどのアクセントを付けているものもある。内面は丁寧なナデ整形がみられる。中には角筒の器形に近いものがあり，口縁部の角部が４つのものと２つのものがある。口縁部下位にクサビ形が崩れたと考えられる縦位の貝殻刺突文がＶ字状に非常に密に，または間延びして施文が行われているものである。これらの文様は１段のものもあるが，多く

は２段～３段，または４段施されているものもある。胴部の文様帯は貝殻腹縁部を利用した押し引き文が施されている。この押し引き文は横位に施されているが，押し引き文自体に強弱を施したり，あるいは貝殻条痕文と組み合わせた施文を行っているものがある。内面には丁寧なナデ整形がみられる。

③第３類土器（第 20 図 67 ～第 22 図 86）

口縁部が緩やかに外傾する円筒形や，稜を有し角筒形に近いものもあり，口縁部の角部が４つのものと２つのものがある。口縁部下位に貝殻腹縁部による横位の刺突文を１～３段めぐらし，その下位に大きな特徴である半載竹管状工具による「C」あるいは逆「C」字形の刺突文を２～５段程めぐらす。胴部は貝殻腹縁による横位の押し引き文や貝殻条痕文を施すものである。「C」状の施文は基本的にクサビ形貼付文の流れを系譜するものであると考えられる。また一部「C」状が崩れ，「爪形」状に施文が施されているものもある。大きな特徴として，「C」状の施文は,「C」状のみのものと,「C」状＋斜位の貝殻腹縁刺突文が施されているものがある。内面には丁寧なナデ整形が見られる。

④第４類土器（第 22 図 87 ～第 27 図 159）

口縁部が緩やかに外傾する円筒土器が主であるが，口縁部に稜を持つ角筒形に近い器形の土器も存在し，口縁部の角部が４つのものと２つのものがある。口唇部には連続したキザミを施す。キザミは密なものとやや幅広のものも見られる。口縁部下位に貝殻腹縁部による横位の刺突文を１～４段めぐらすが，４段以上の複数段施すものもある。またこの横位の刺突文が斜位に施されているものもある。この斜位の施文は「横位の施文のバリエーションのひとつ」と思われる。貝殻腹縁部による刺突文の形状は連点状・波形状・三角形状あるいは刺突文が浅く明瞭でないもの等がある。胴部は貝殻腹縁部による押し引き文を横位に施すが，押し引き文と貝殻条痕文を交互に施したり，条痕文のみのものなどがある。内面は丁寧なナデ整形がみられ，全体的に器壁が薄く精製されていることが特徴である。

⑤第５類土器（第 27 図 160）

外面に横位の貝殻刺突文・沈線文を施すものである。器形は口縁部がラッパ状に大きく開く形態で，胴部は円筒形を呈する。口唇部には貝殻腹縁部による縦位の刺突文を施すものである。内面はナデ整形がみられる。

⑥録胴部片（第 27 図 161 ～第 42 図）

161 から 398 は，２類土器から４類土器の範疇に入ると思わる胴部片である。胴部片そのものでは，上述の分類の判別が困難であるため，胴部の施文３パターンごとに掲載している。第１のパターンは胴部に貝殻腹縁部による横位の押し引き文を施し，貝殻腹縁部による密な連続刺突文の段間に無文部を置くタイプである。第２のパターンは胴部の施文が横位の貝殻腹縁部による押し引き文を施すが,一部貝殻腹縁部による連続刺突文をもつものである。第３のパター

ンは貝殻腹縁による横位の押し引き文がみられず，横位の貝殻条痕文を施しているものや，無文のものである。内面はほとんどが丁寧になでられている。器形は大部分が円筒形であるが，182・183 のように角筒形を呈するものもある。

399 から 414 は器面に数条の貝殻条痕文または沈線文を施すものであり，器壁が全体的に厚く，焼成はもろい。415 から 419 は器面全体に貝殻刺突文を施すものである。420 から 427 は外面に押型文を施す土器群である。外面に山形押型文や山形に近い押型文を施し，この押型文が細やかで小波状に近いもの，間延びした彫りの浅いものなどがある。押型には幾何学状や同心円文状・玉形状・撚糸状の施文具原体を回転させて，文様を施しているものもある。内面には丁寧なナデ整形がみられ，420 のように器壁が薄いのも見られる。428 は焼成が非常よく，器面には数条の条痕文が施されているものであり，他の土器とは様相が異なるものである。

⑦底部片（第 43 図～第 48 図）

429 から 501 は 2 類から 4 類土器相当の底部片である。底部立ち上がりの施文にいくつかのパターンがみられる。429 から 474 は底部立ち上がりの部分に鋭利なヘラ状の施文具で縦位のキザミを施しているものである。このキザミは数センチに及ぶ長いものや，２重に施しているものもある。475 から 501 は，この縦位のキザミが貝殻刺突文・押し引き文によって施されているものであり，キザミの名残がみられるものである。器形は大部分が円筒形を呈するが，491 のように角筒形になるものもある。502 から 505 は器面に条痕文を施すものであり，505 は非常に小さなものである。

（2）石　器

本遺跡出土石器には，石鏃破損品・剥片石器・磨石敲石類・台石石皿類・砥石・異形石器などが出土した。いずれも縄文時代早期該当層である第Ⅳ層から出土したものである。番号を付けて取り上げた石器類は 217 点であった。

①石鏃（第 49 図 506 ～ 507）

石鏃は，破損品が 2 点出土した。2 点とも形状は石鏃基部に抉りをもち，507 はこの抉りが特に深い。石材は，506 がチャート，507 は頁岩である。506 は先端が，507 は基部に近い部分が破損している。

②剥片石器（第 49 図 508 ～ 511）

剥片石器は 4 点掲載している。石材はいずれも砂岩である。礫の割れ口面を利用して，刃部が形成されており，特に 511 は縦長の割れ口を加工して，約 20 ㎝の刃部が形成されている。

③磨石敲石類（第 50 図～第 54 図）

磨石・敲石類は本遺跡出土石器の中で大部分を占めるものである。22 点を掲載した。全てが砂岩を石材としている。円形のもの，楕円形のもの，不定形のものなどがあり，「磨る」・「磨

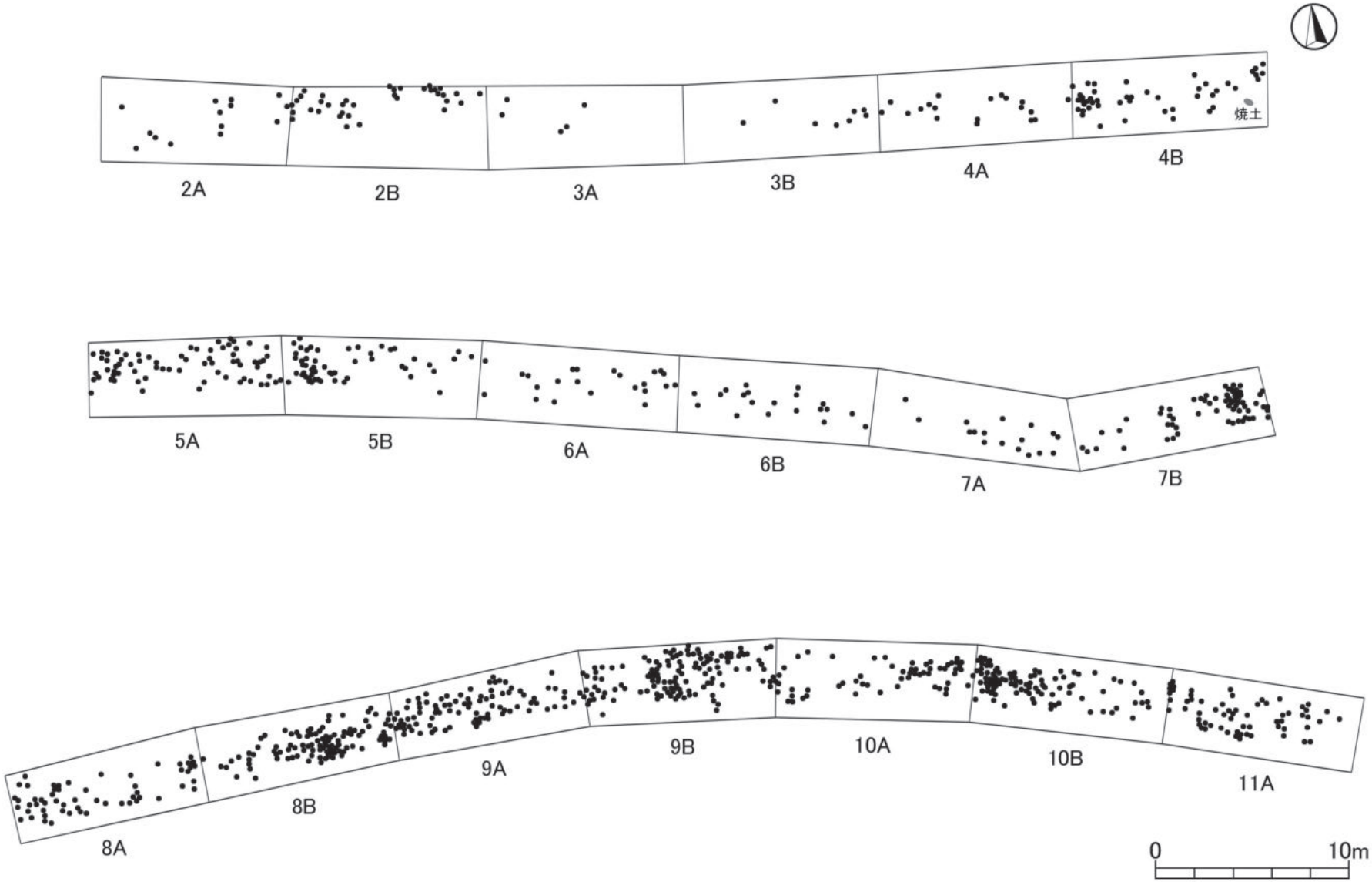
る＋敲くの両方に使われたもの」・「全周が敲打して使用されたもの」・「凹石として使われたもの」などがある。また，自然礫の一端に若干の敲打痕や磨痕がみられるものもある。

④台石石皿類（第 55 図～第 58 図）

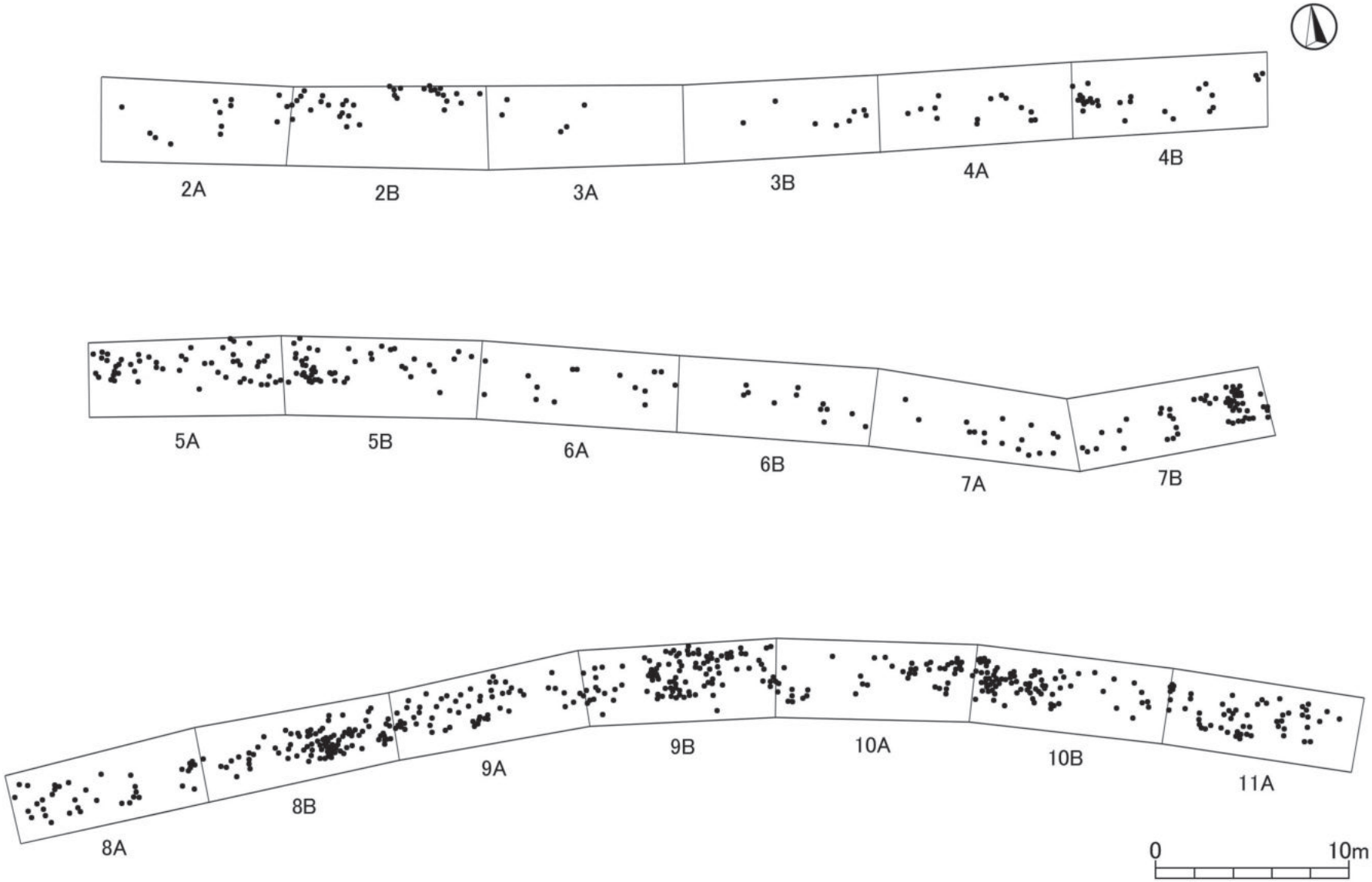
台石・石皿類で掲載したものは 10 点である。形状により磨面が凹面を呈するもの，磨面が平坦なもの，凹状の凹部を持つものなどがある。磨面が平坦なものと凹部をもつものは石皿としての機能の他に台石としての使用が考えられる。非常に大型のものや小型のものなどがあり，石材は全て砂岩である。

⑤異形石器（第 59 図～第 60 図）

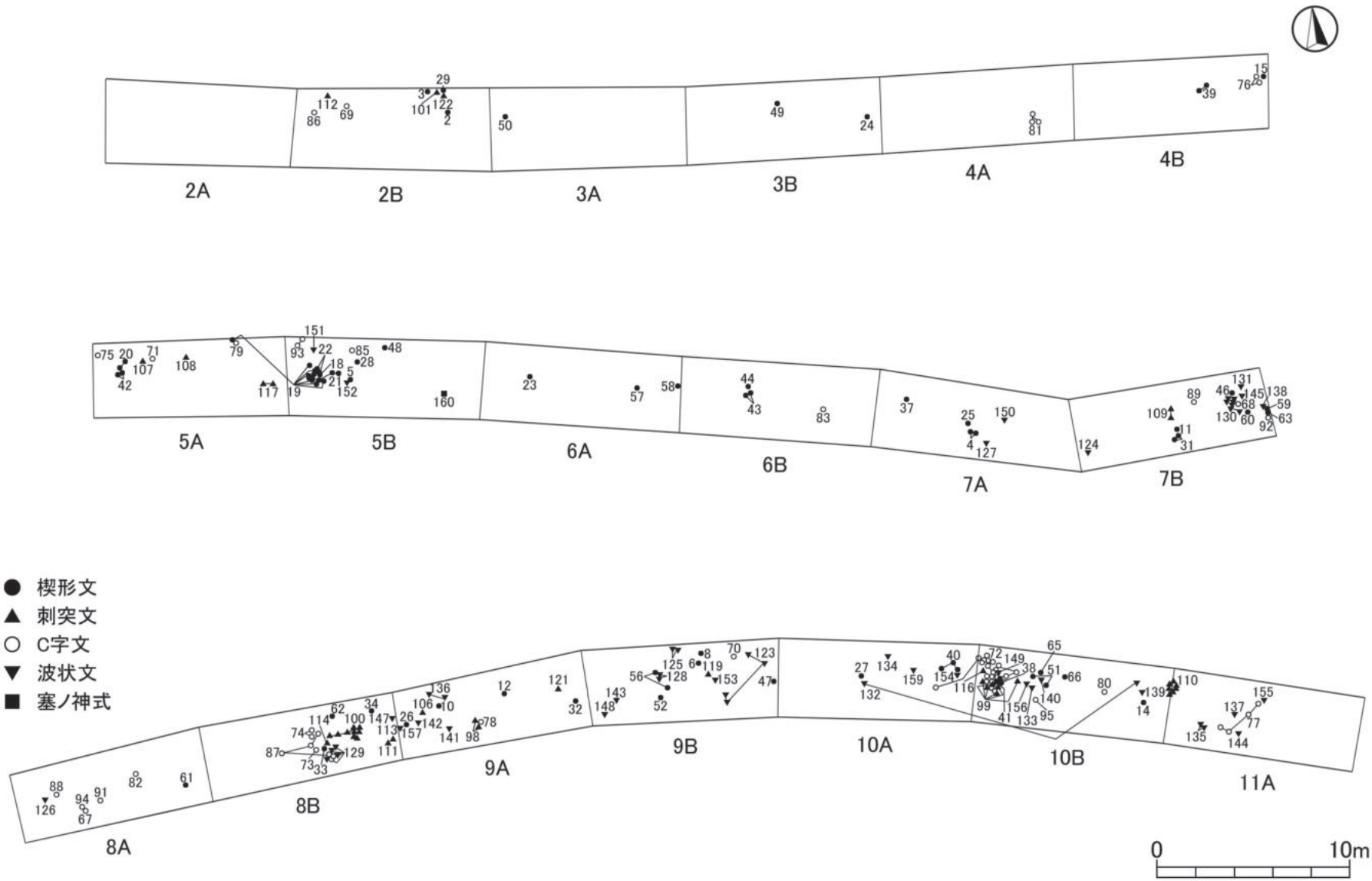
558 は，8B 区第Ⅳ層から出土したもので，周辺からは吉田式土器が出土している。アルファベットの J 字の形を呈しており，最大長 8.5 ㎝・最大幅 4.1 ㎝，最大厚は 0.8 ㎝である。石材は片岩と思われる。側面には穿孔痕跡と擦切り痕跡がみられる。その形状から実用品とは考えにくく，石製祭祀具である可能性が高い。国内の縄文文化の調査で同様の製品の報告例がないため，九州南部の早期縄文文化で創生された極めて地域性の高い独自のものであると思われる。
種子島及び南九州の早期縄文文化の祭祀の形成を考える上で，重要な資料である。
559 は，9A 区第Ⅳ層，吉田式土器に伴って出土したものである。石材は砂岩で，最大長 10 ㎝・最大幅 5.6 ㎝・最大厚 5.3 ㎝である。ほぼ全面に敲打痕がみられる。先細りの箇所には，くびれが見られ，このくびれに紐をかけ垂下したとも考えられるが（装身具としての利用），本州の事例から，象徴物と思われる。特に底面と思われる部分は，敲打により面取りが行なわれ，「座る・置く」ということを意識しているのではと思われる。吉田式土器の時代範疇とされている縄文時代早期前葉（約 10,000 年前）で，この種のものの類例は，全国的に希有であり，西日本には見当たらない。現段階では，祭祀のための石製品であり「石偶」としての可能性が高いと思われる。他の類例を待ちたいところである



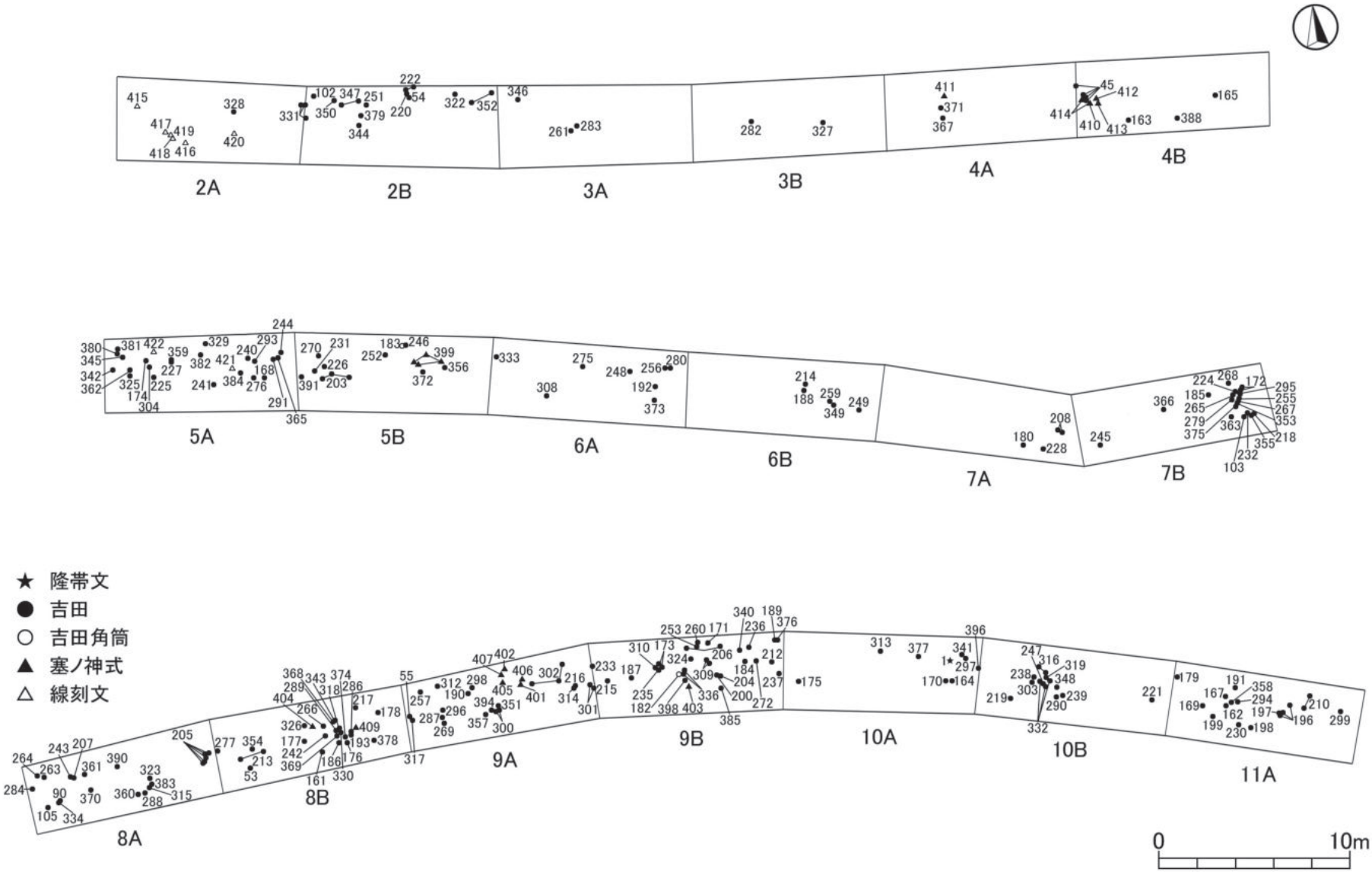
第9図　全遺物出土状況



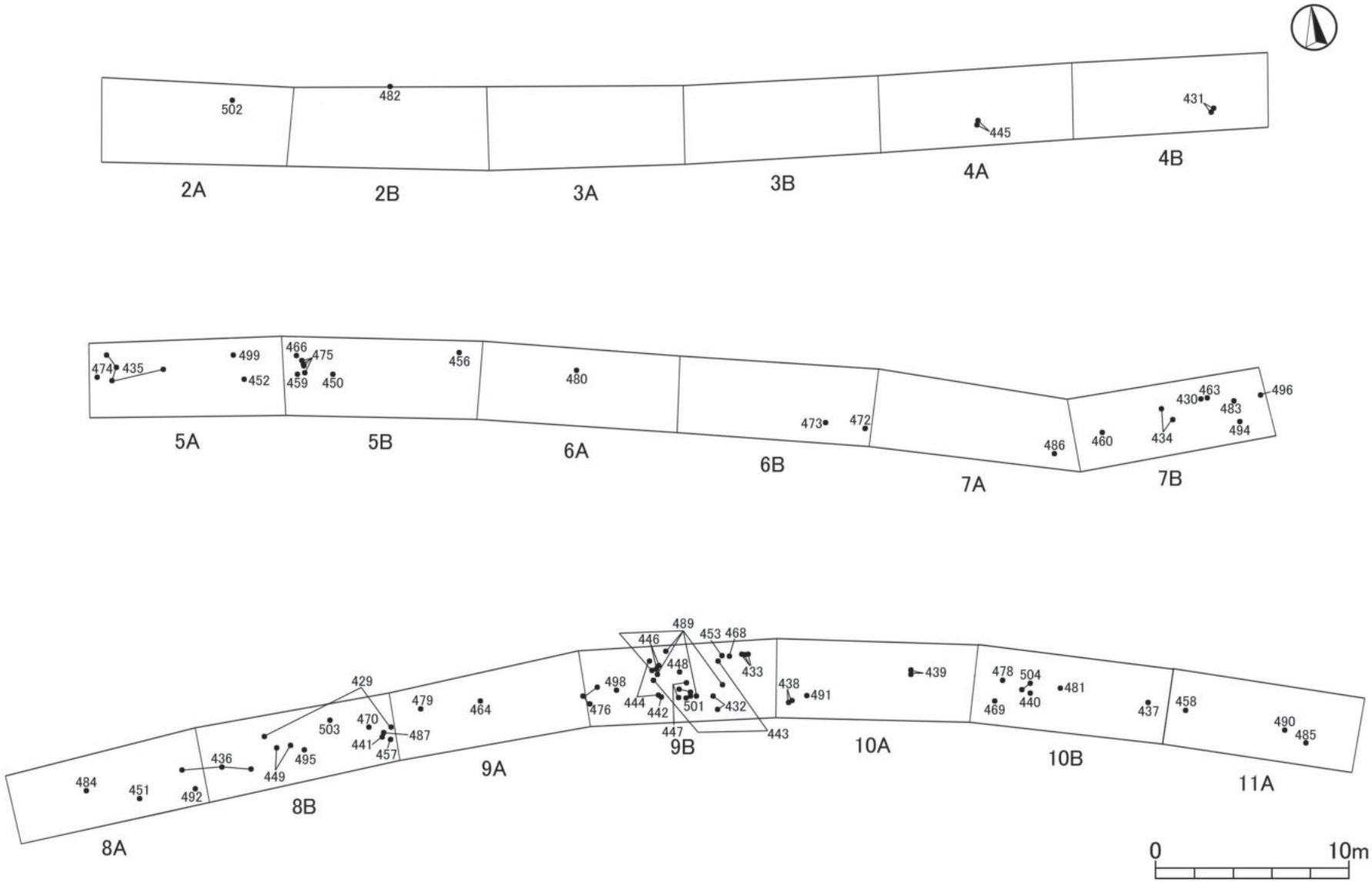
第10図　全土器出土状況



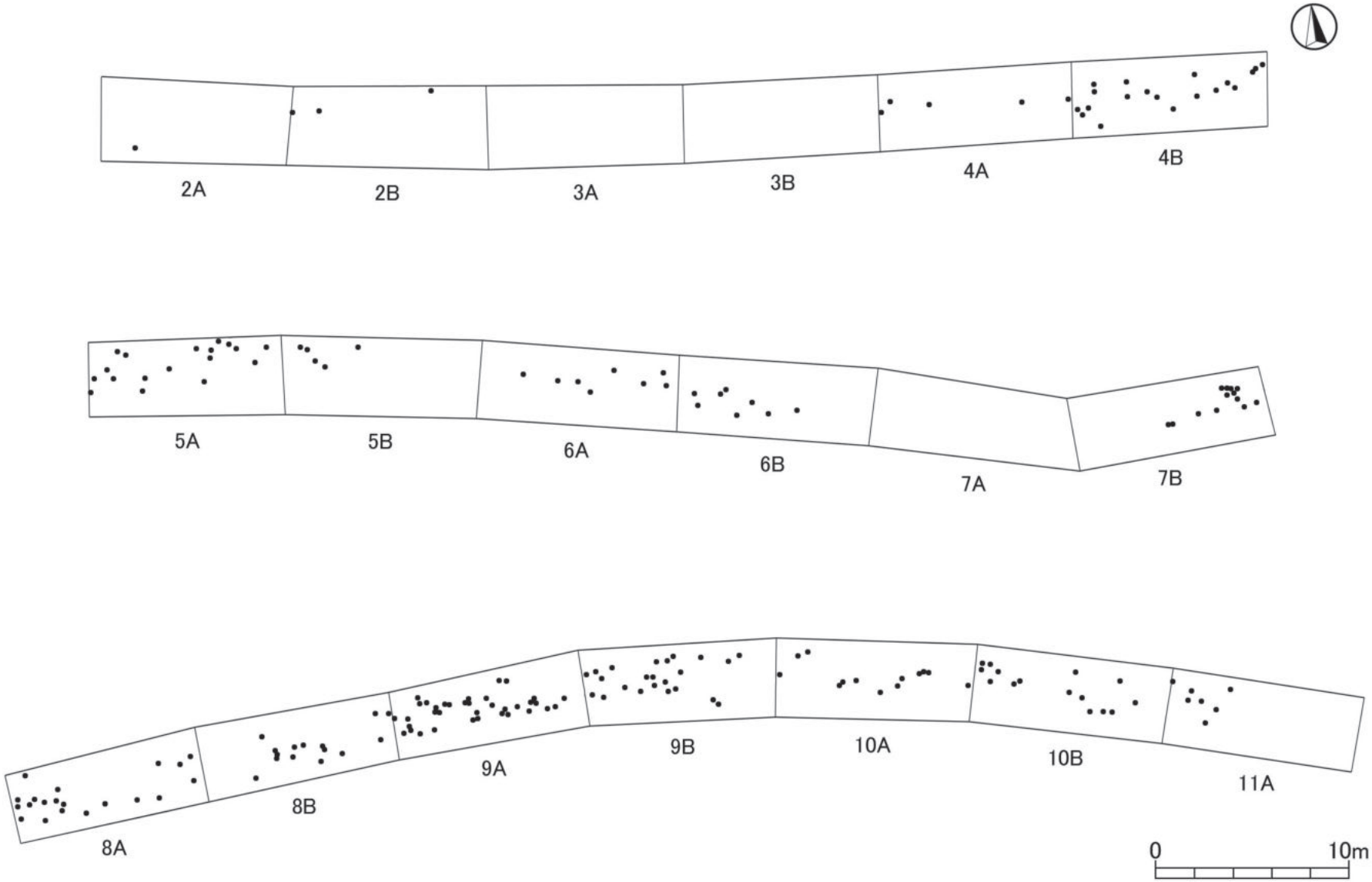
第11図　口縁部出土状況


★ 隆帯文
● 吉田
○ 吉田角筒
▲ 塞ノ神式
△ 線刻文
2A
2B
3A
3B
4A
4B
5A
5B
6A
6B
7A
7B
8A
8B
9A
9B
10A
10B
11A
0
10m

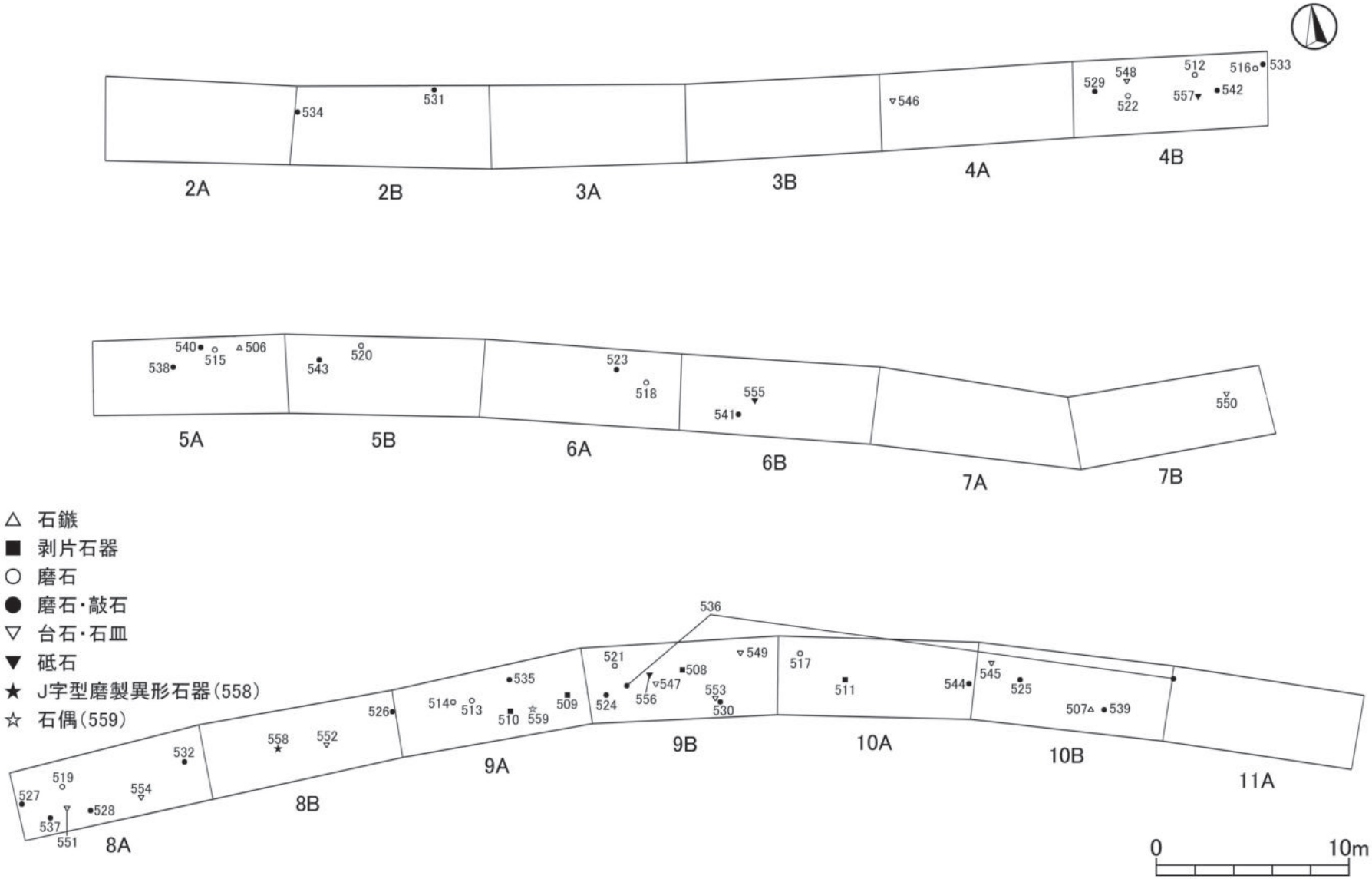
第12図　胴部出土状況


2A
2B
3A
3B
4A
4B
5A
5B
6A
6B
7A
7B
8A
8B
9A
9B
10A
10B
11A
502
482
445
431
474
435
499
452
466
475
459
450
456
480
473
472
486
460
434
430
463
483
494
496
484
451
492
436
449
495
503
470
441
487
457
429
479
464
498
476
444
442
446
448
489
501
453
468
433
432
447
443
438
491
439
478
504
440
469
481
437
458
490
485
0
10m

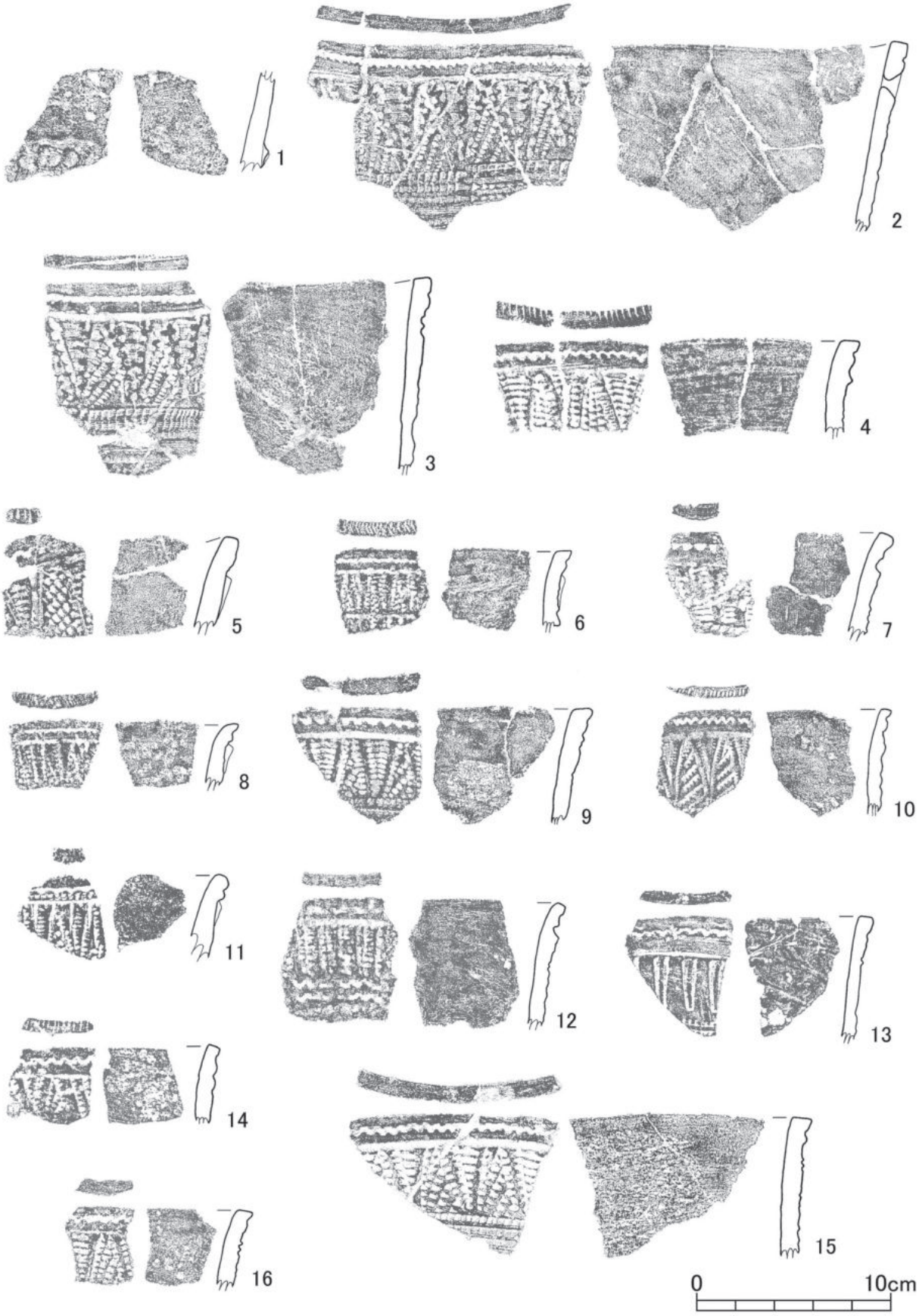
第13図　底部出土状況



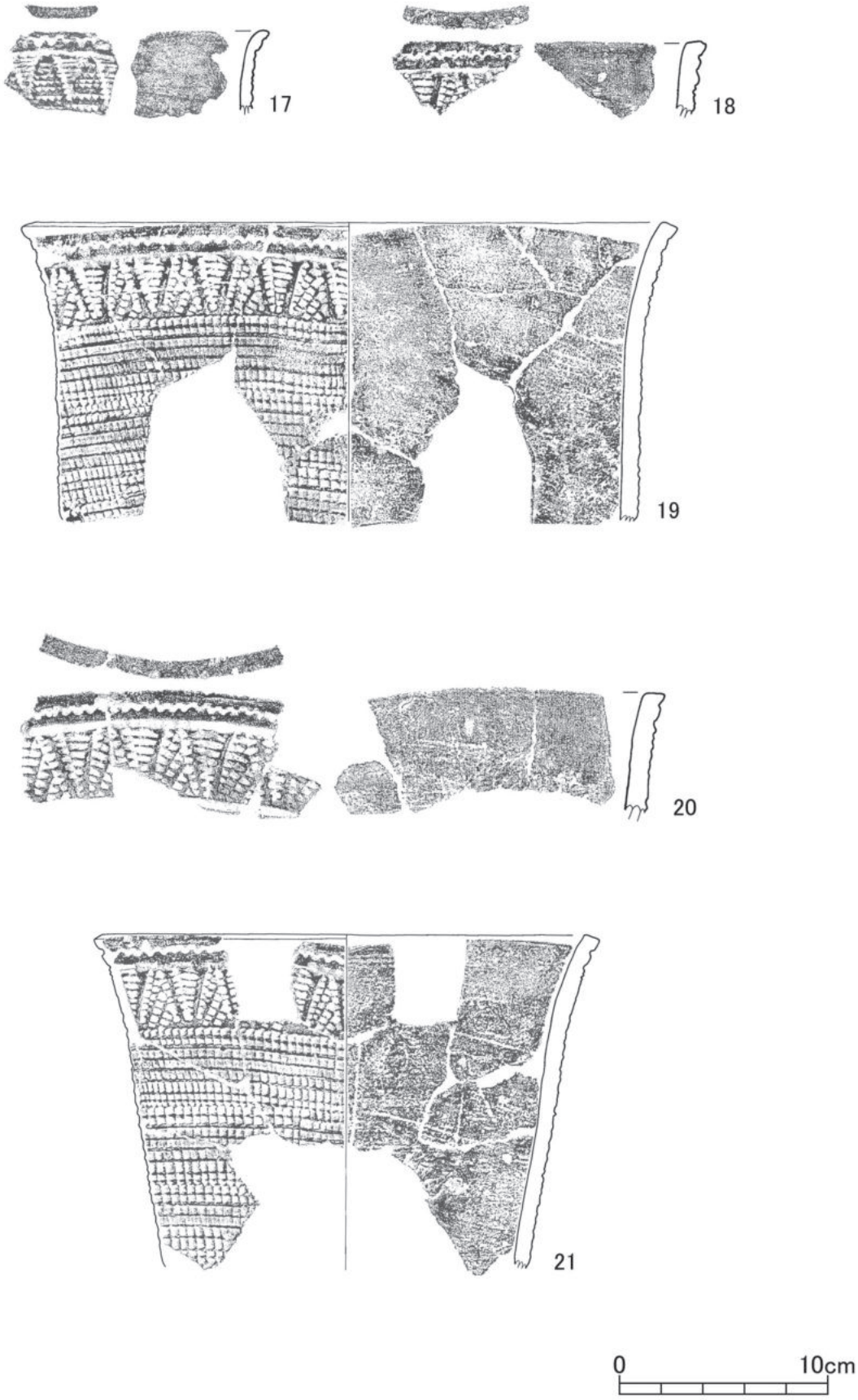
第14図　全石器出土状況



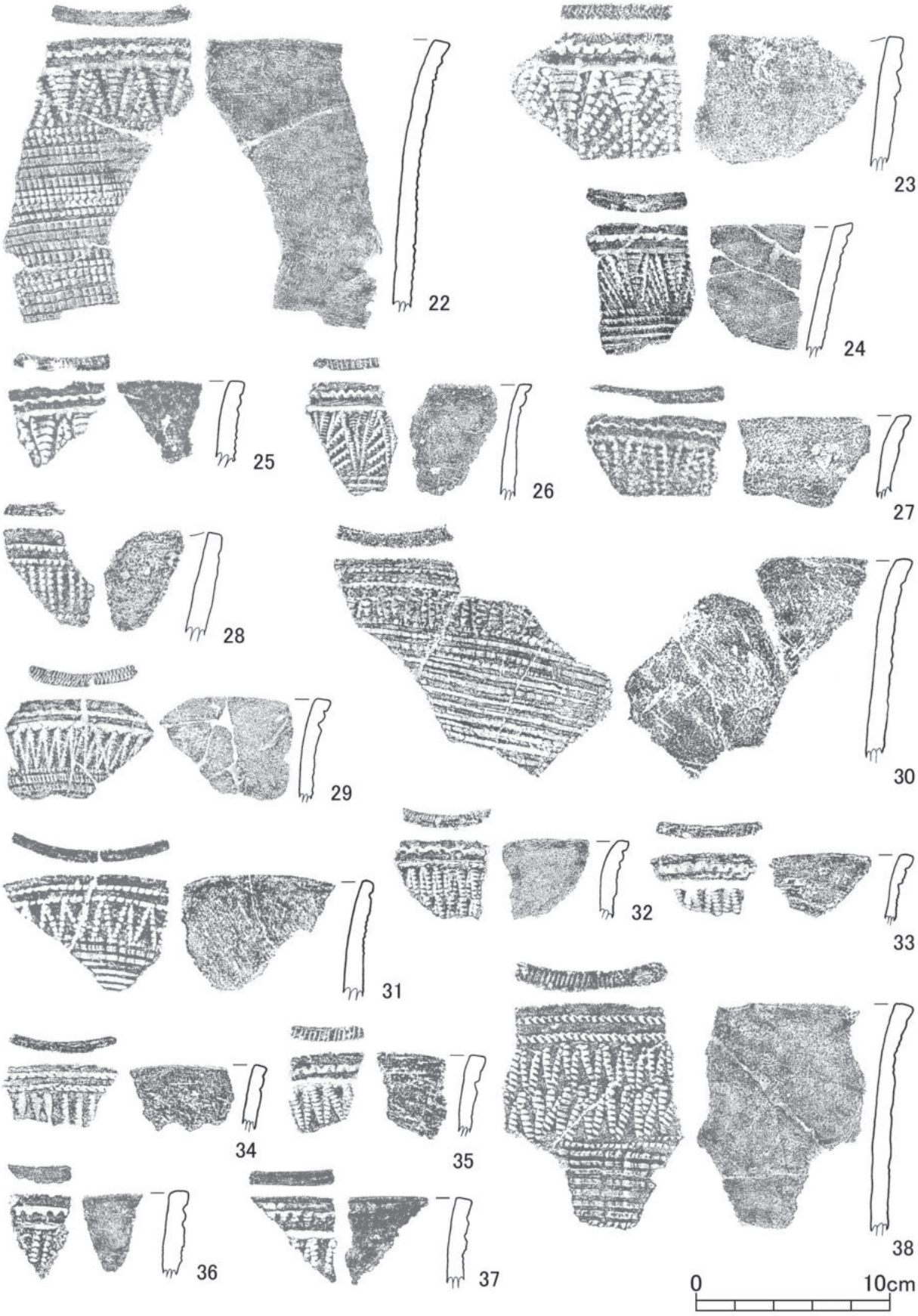
第15図　石器器種別出土状況



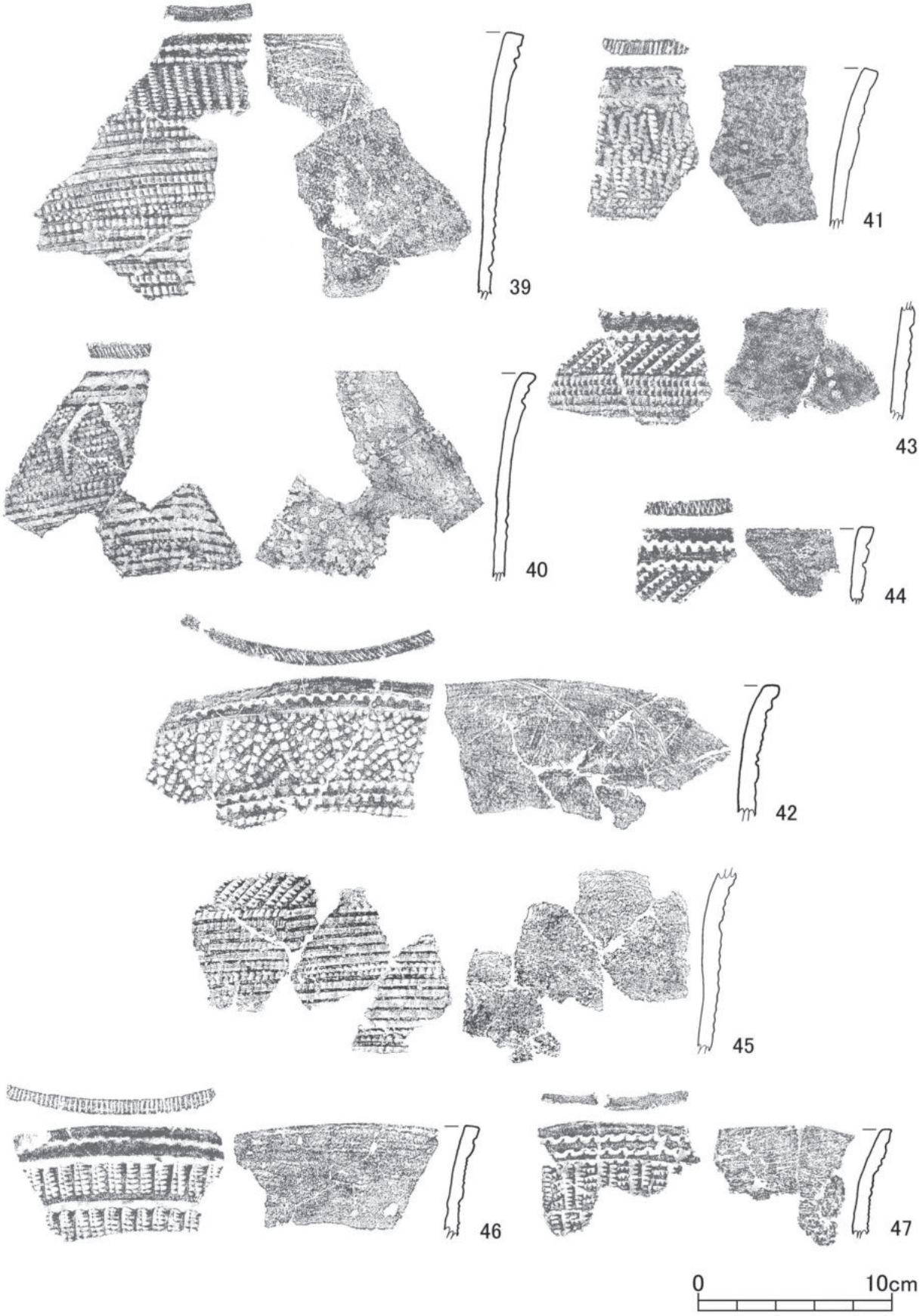
第16図　出土土器(1)



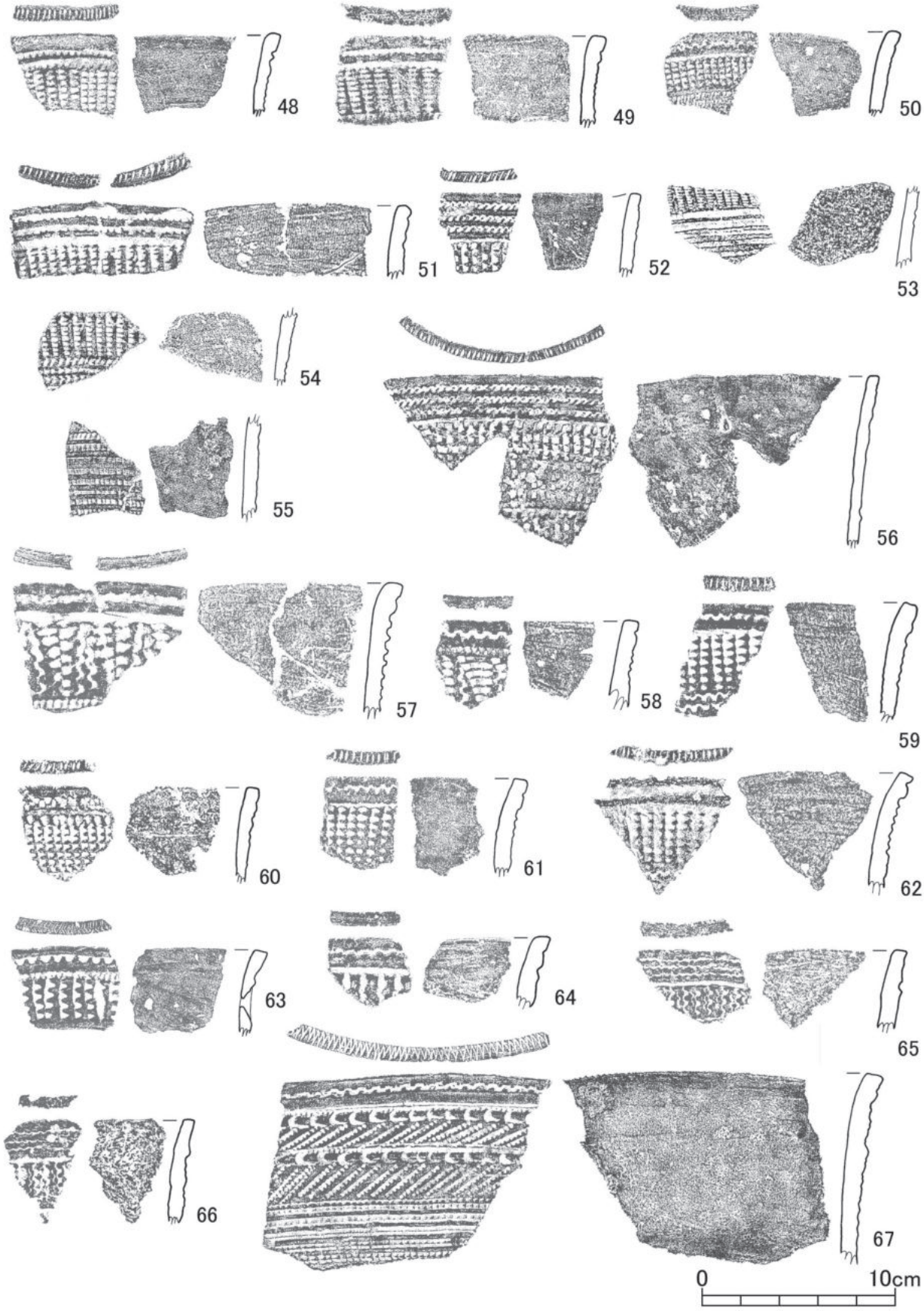
第17図　出土土器(2)



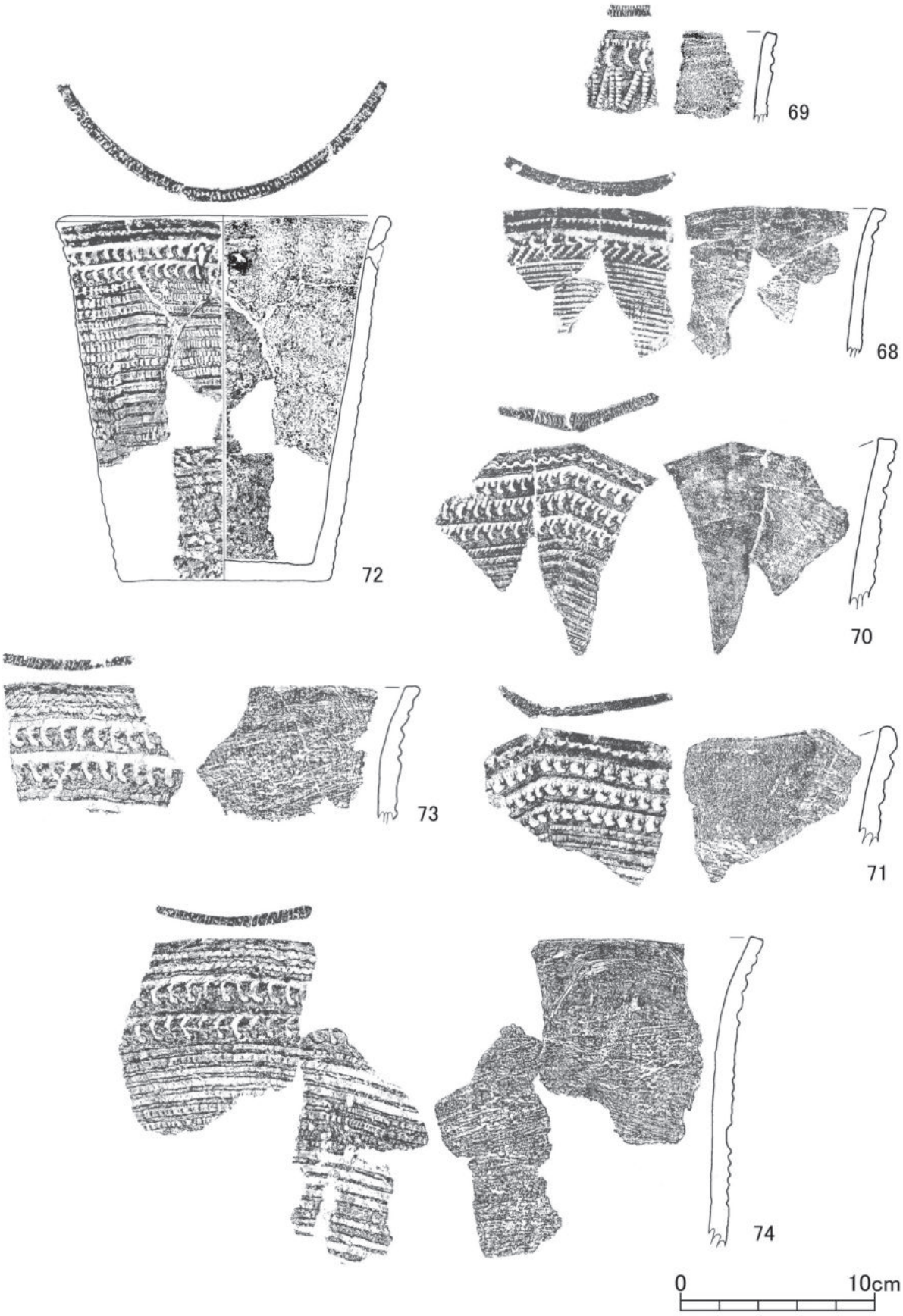
第18図　出土土器(3)



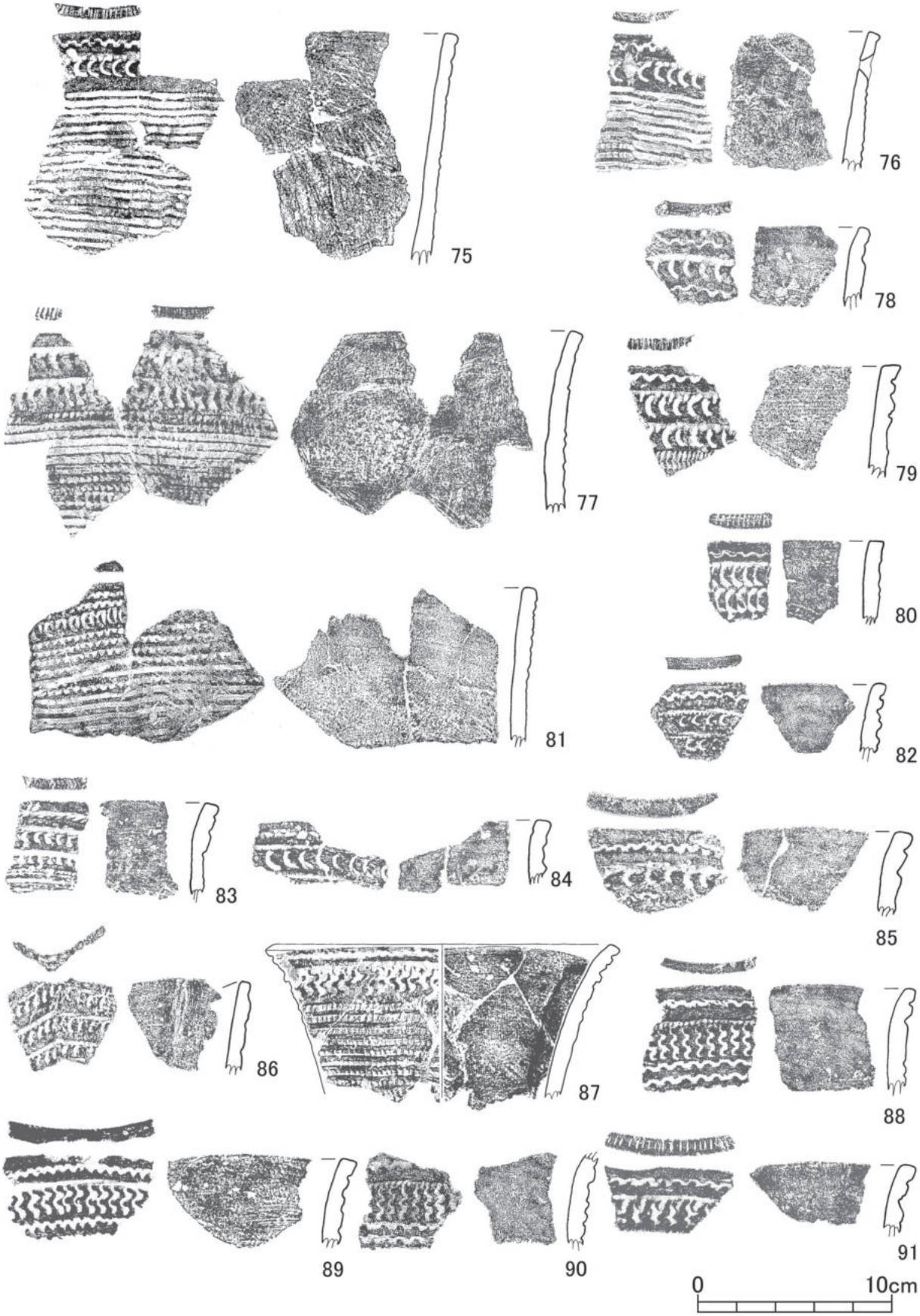
第19図　出土土器(4)



第20図　出土土器(5)



第21図　出土土器(6)

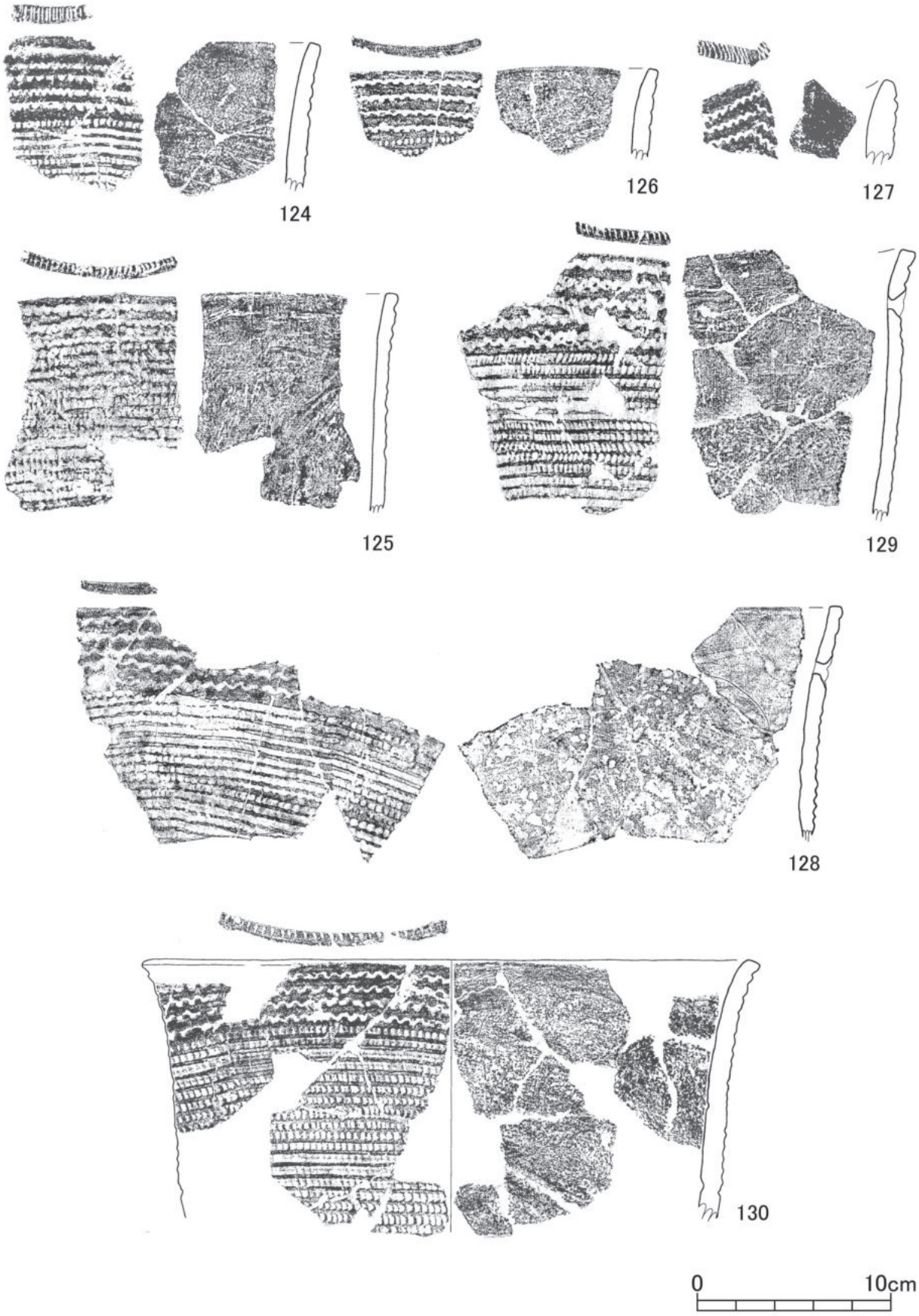


第22図　出土土器(7)

92
94
93
95
96
97
99
98
100
101
102
103
106
107
104
105
108
109
0
10cm

第23図　出土土器(8)

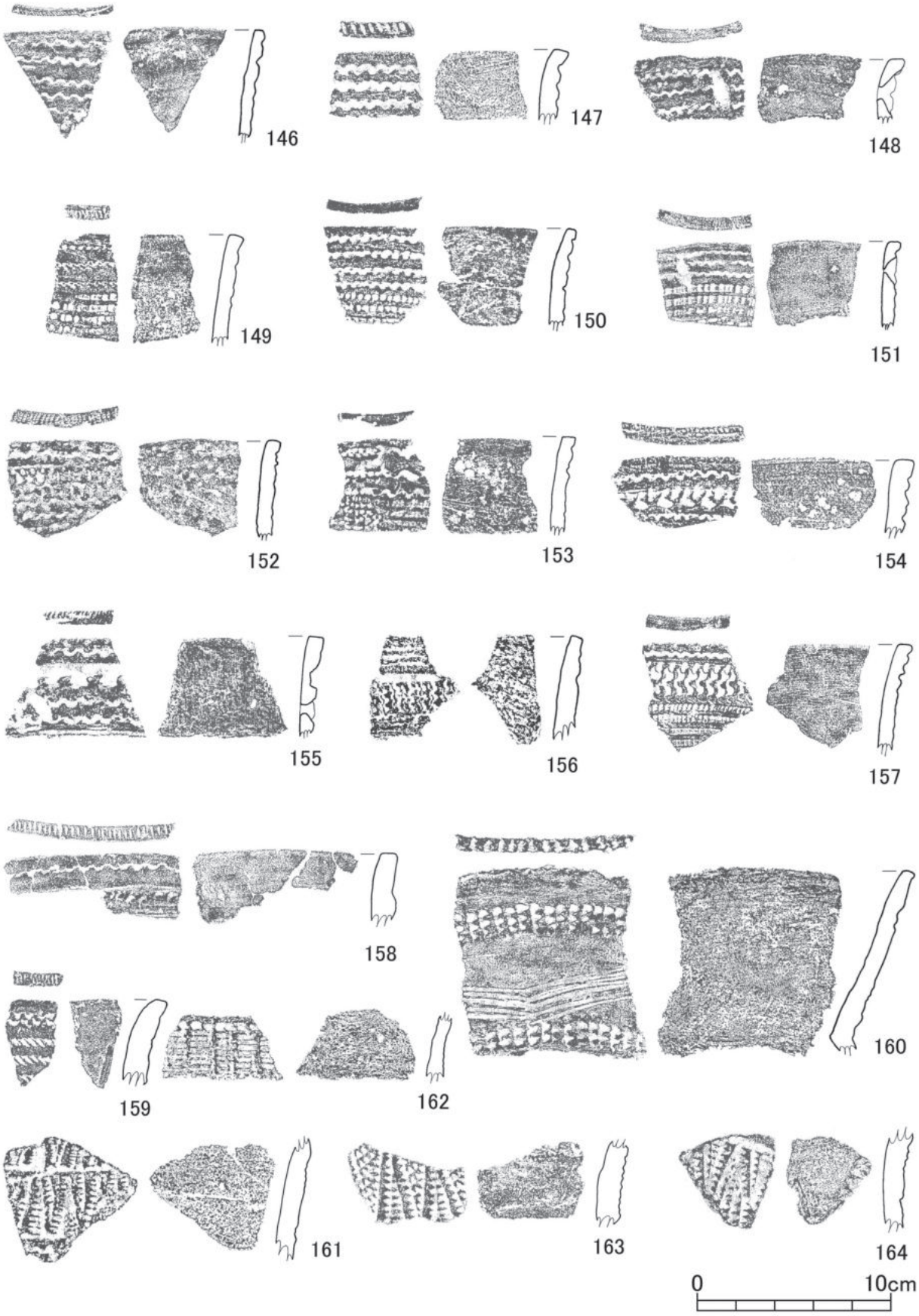
第24図　出土土器(9)



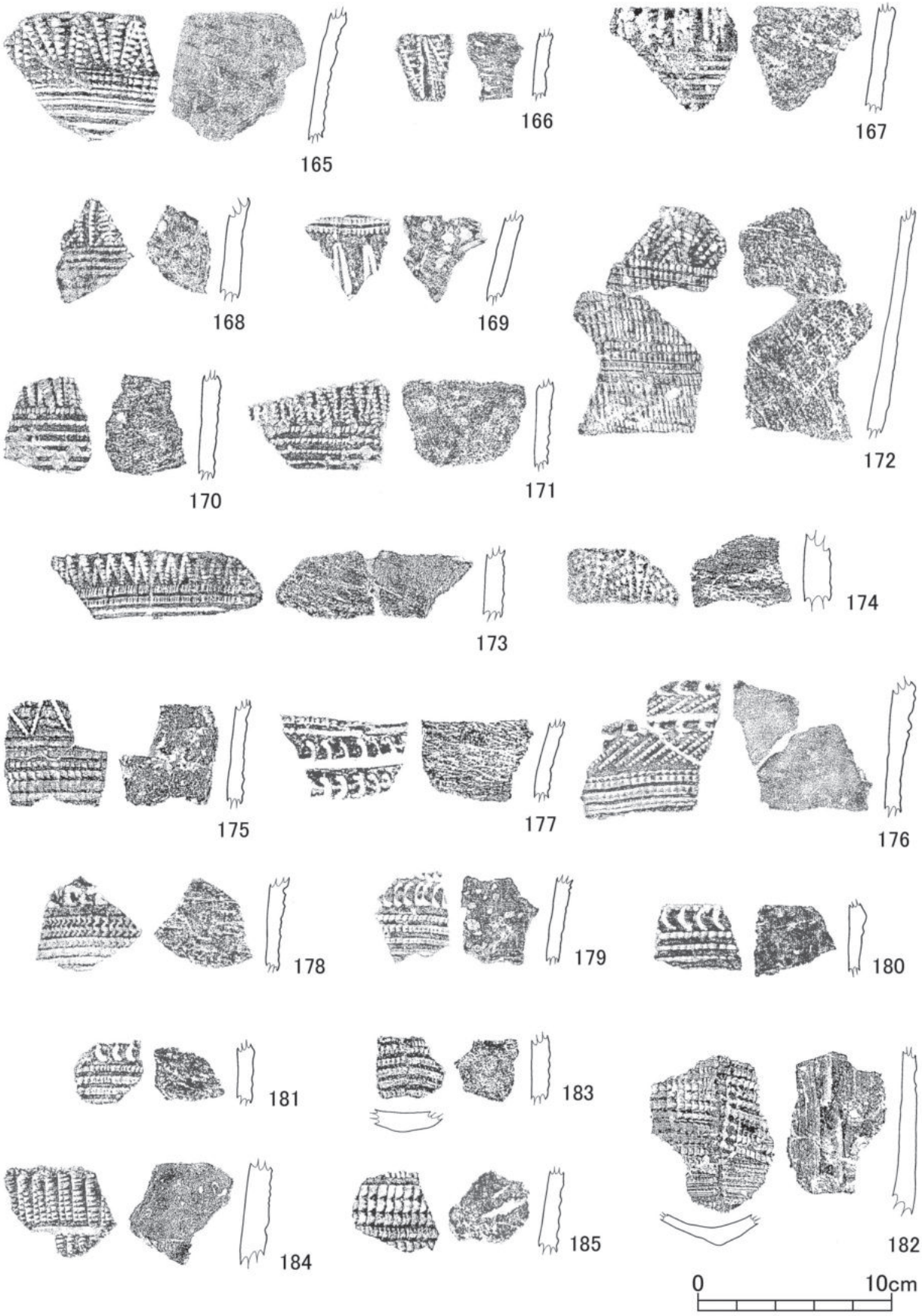
第25図　出土土器(10)

131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
0
10cm

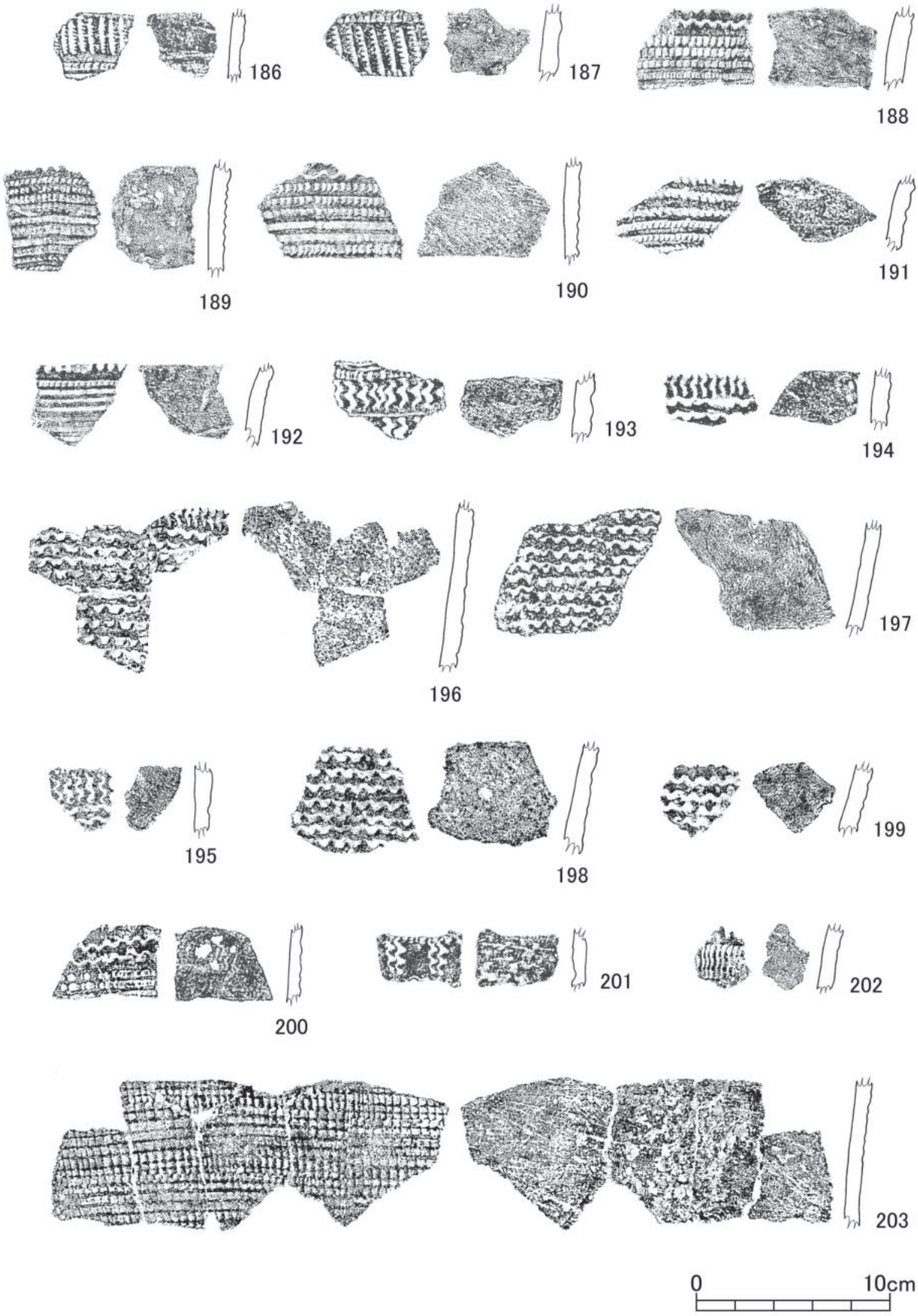
第26図　出土土器(11)


146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
0
10cm

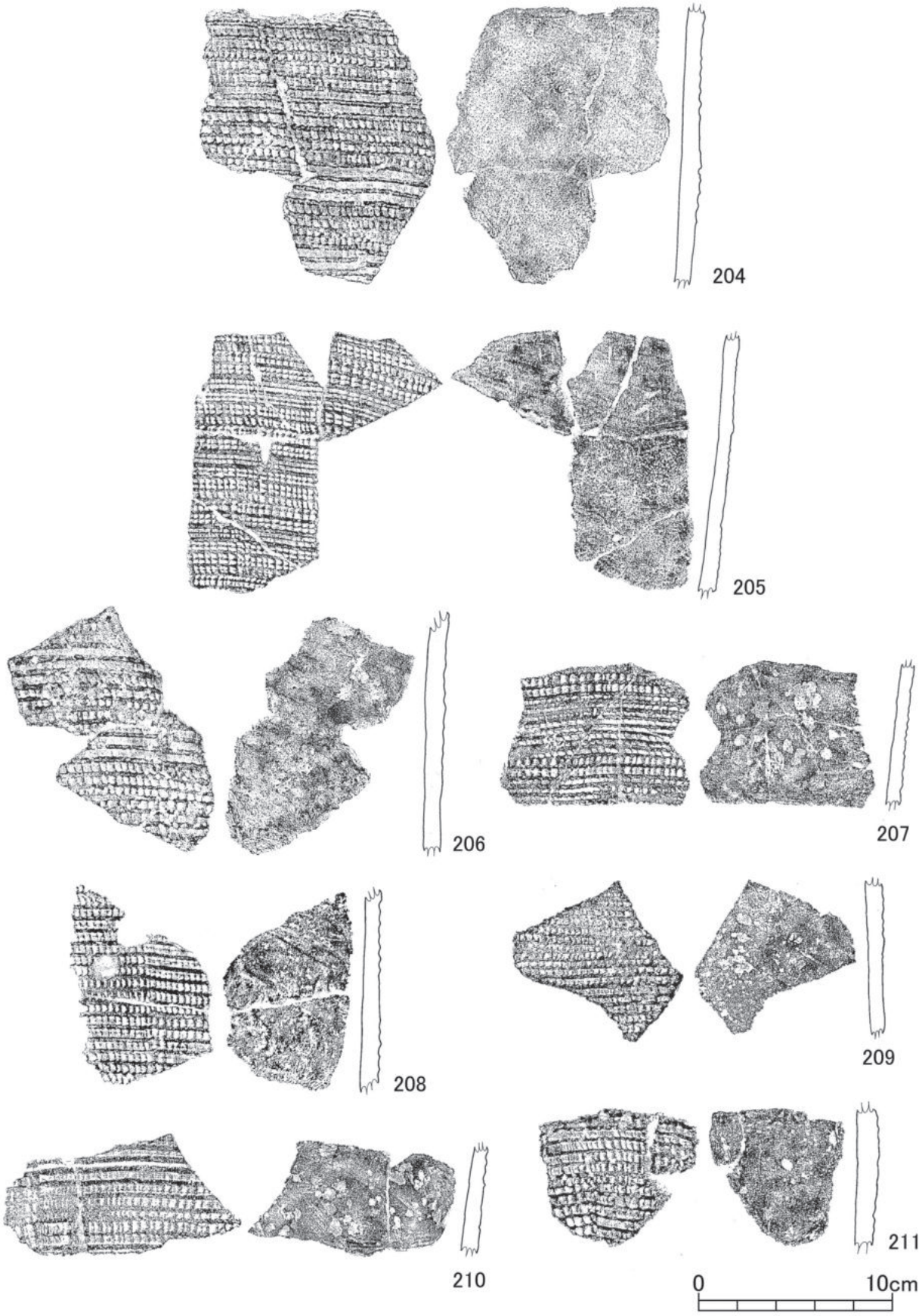
第27図　出土土器(12)


165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
0
10cm

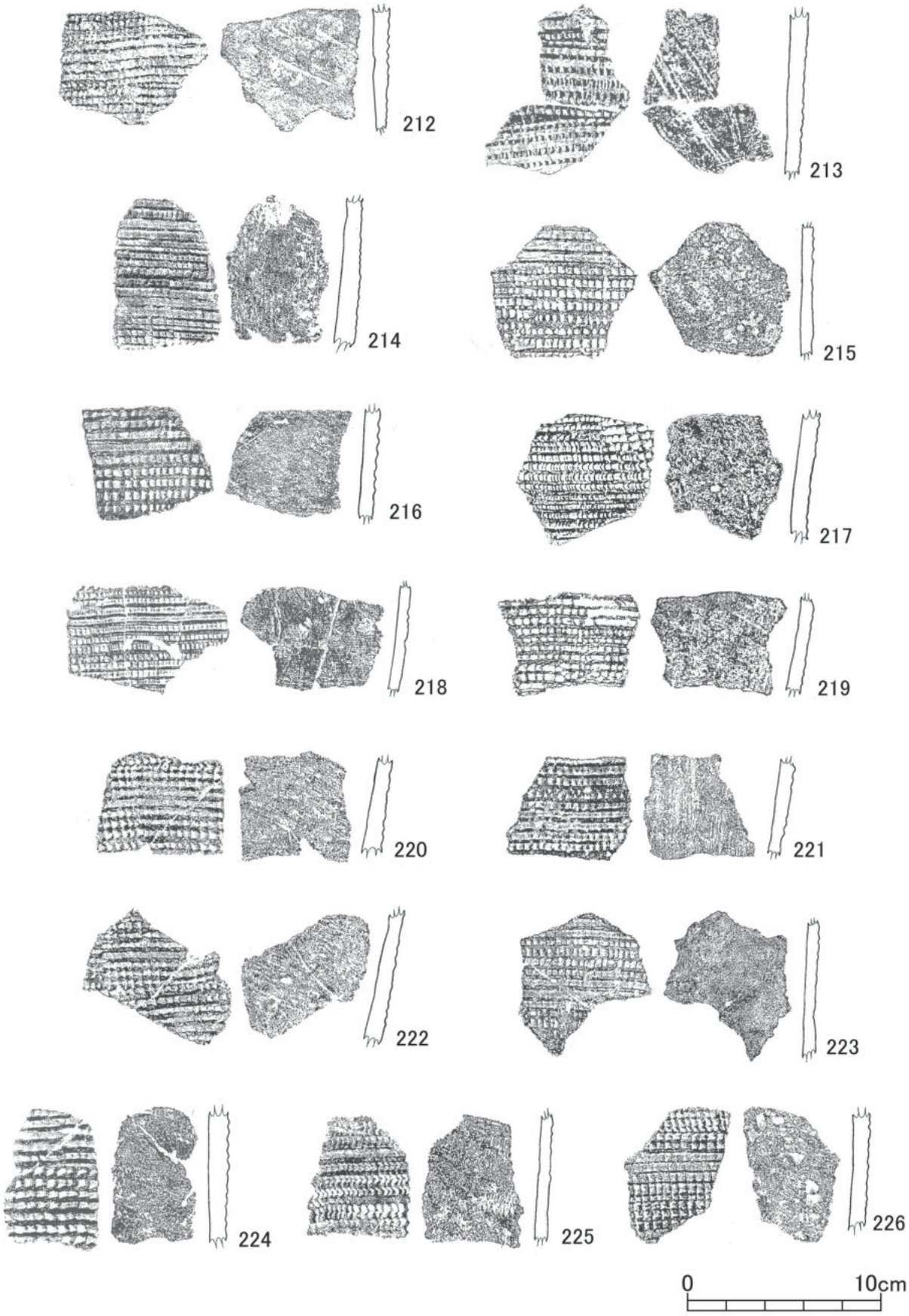
第28図　出土土器(13)


186
187
188
189
190
191
192
193
194
196
197
195
198
199
200
201
202
203
0
10cm

第29図　出土土器(14)



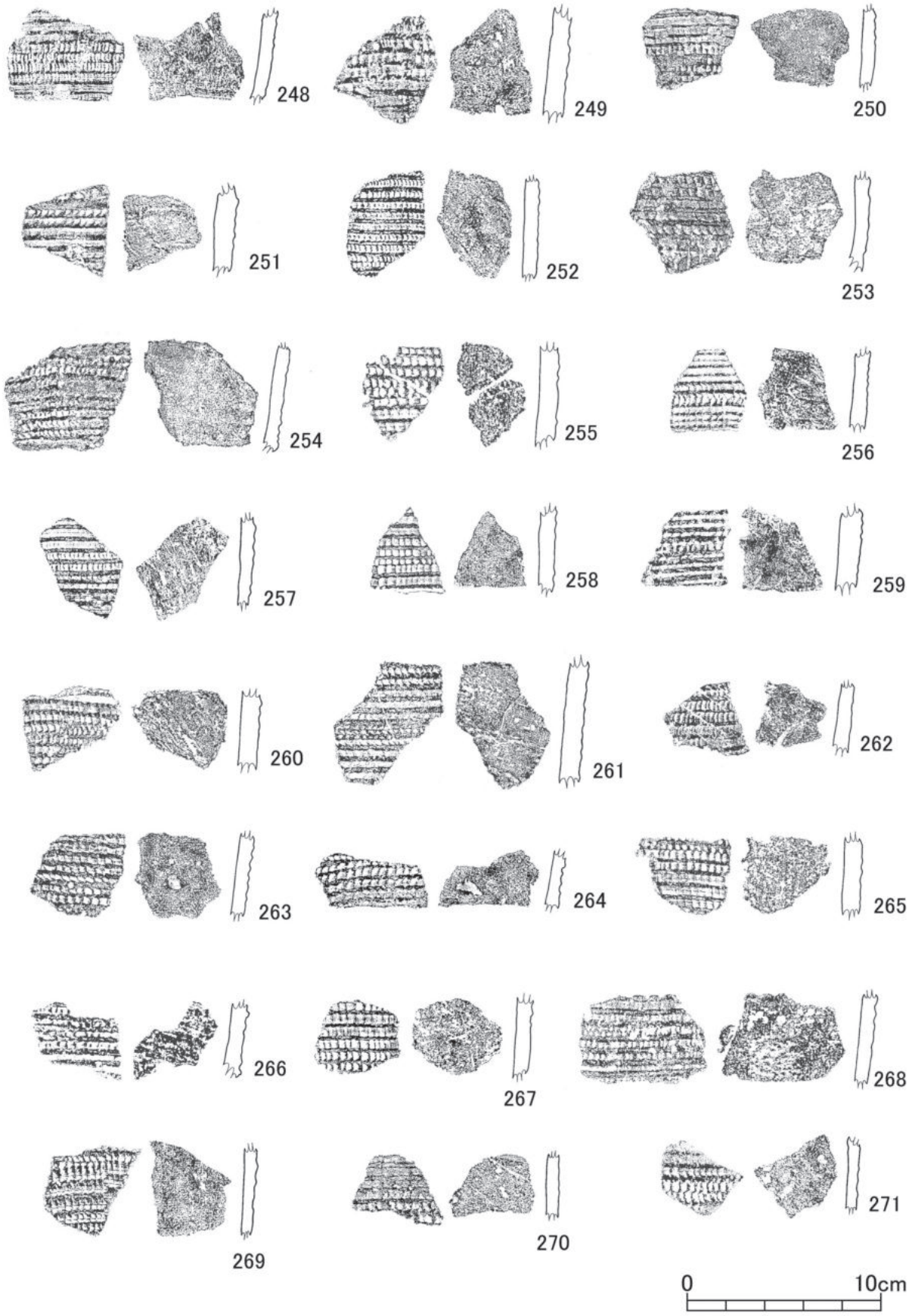
第30図　出土土器(15)


212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
0
10cm

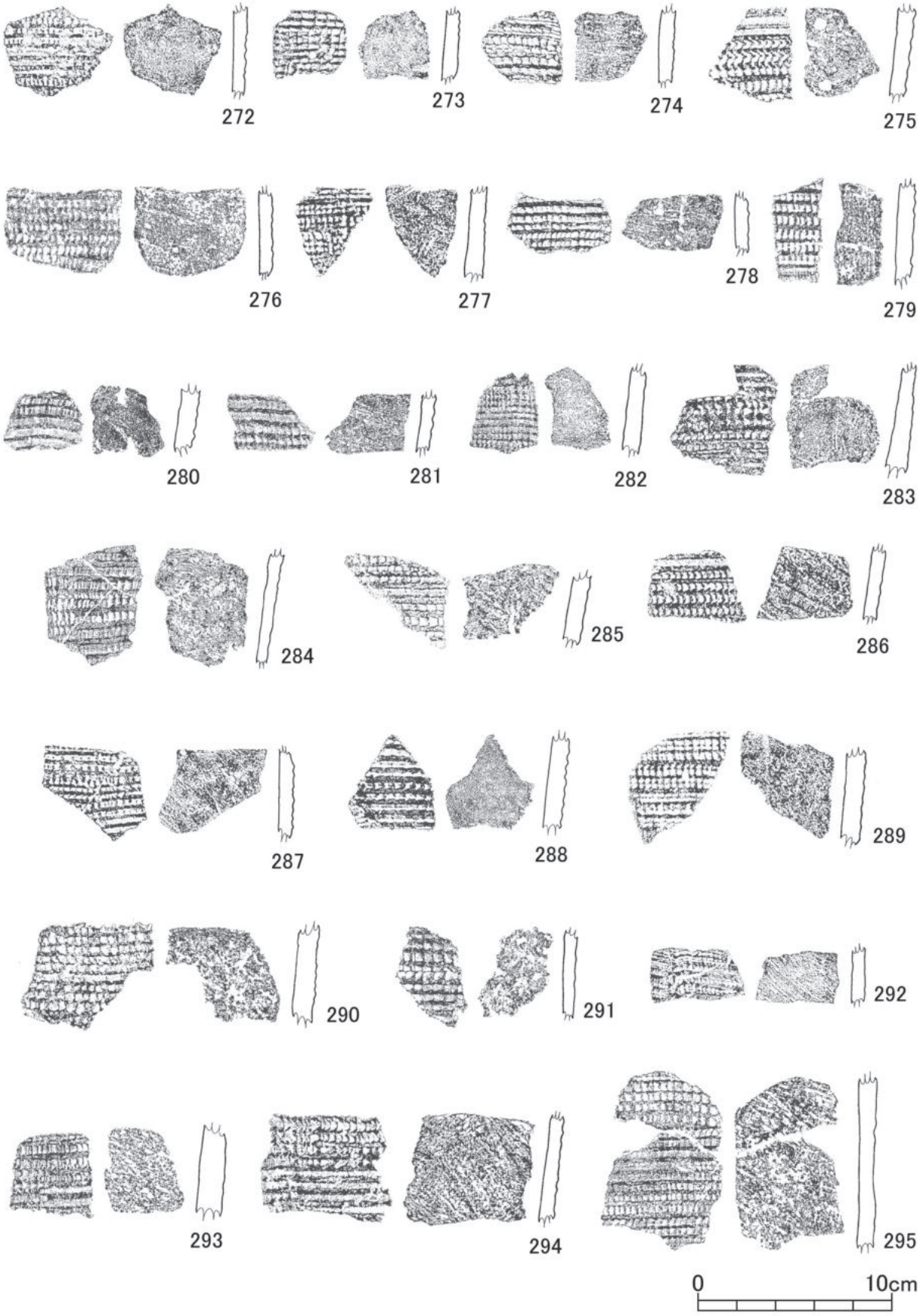
第31図　出土土器(16)

227
228
231
229
230
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
0
10cm

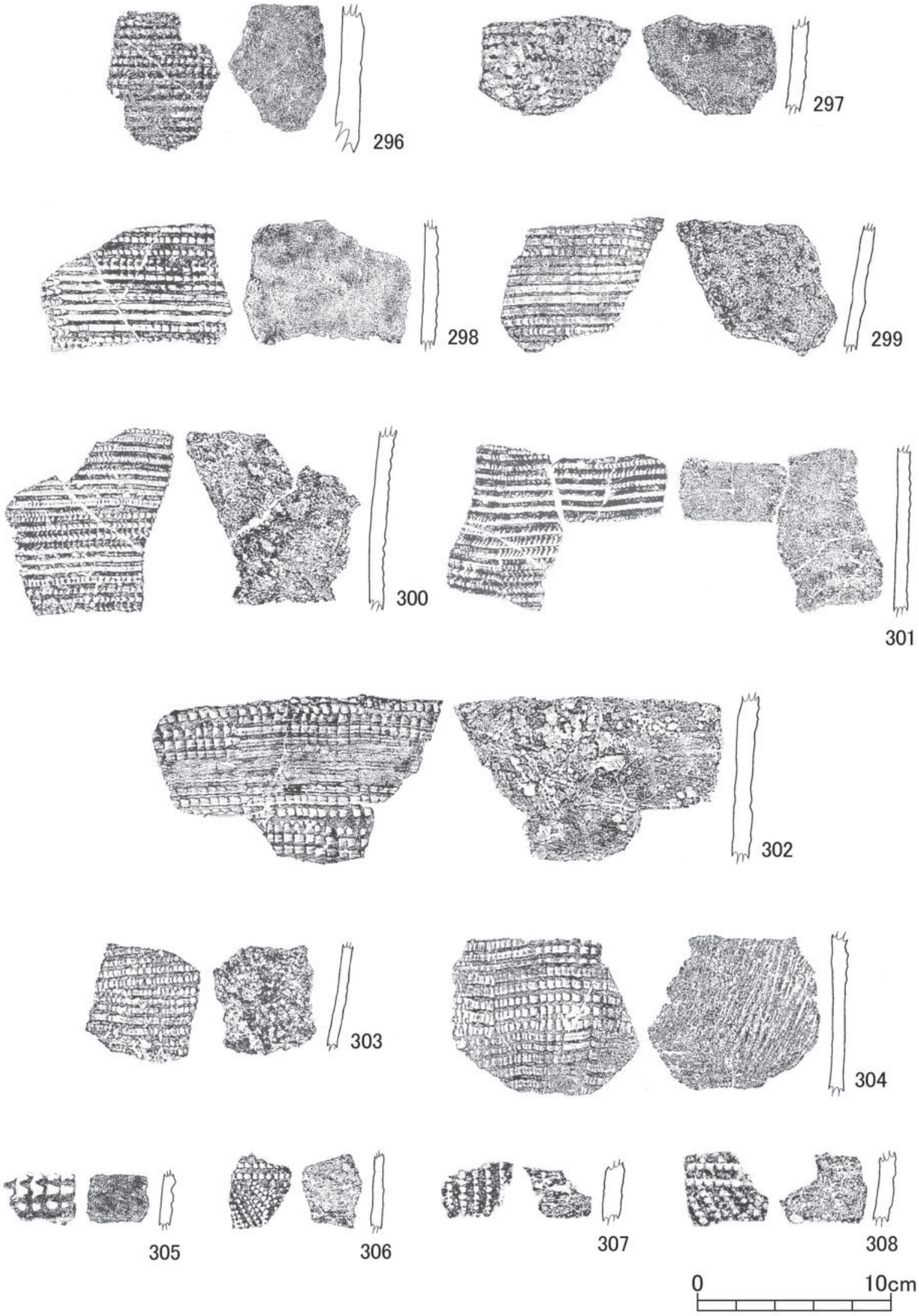
第32図　出土土器(17)


248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
0
10cm

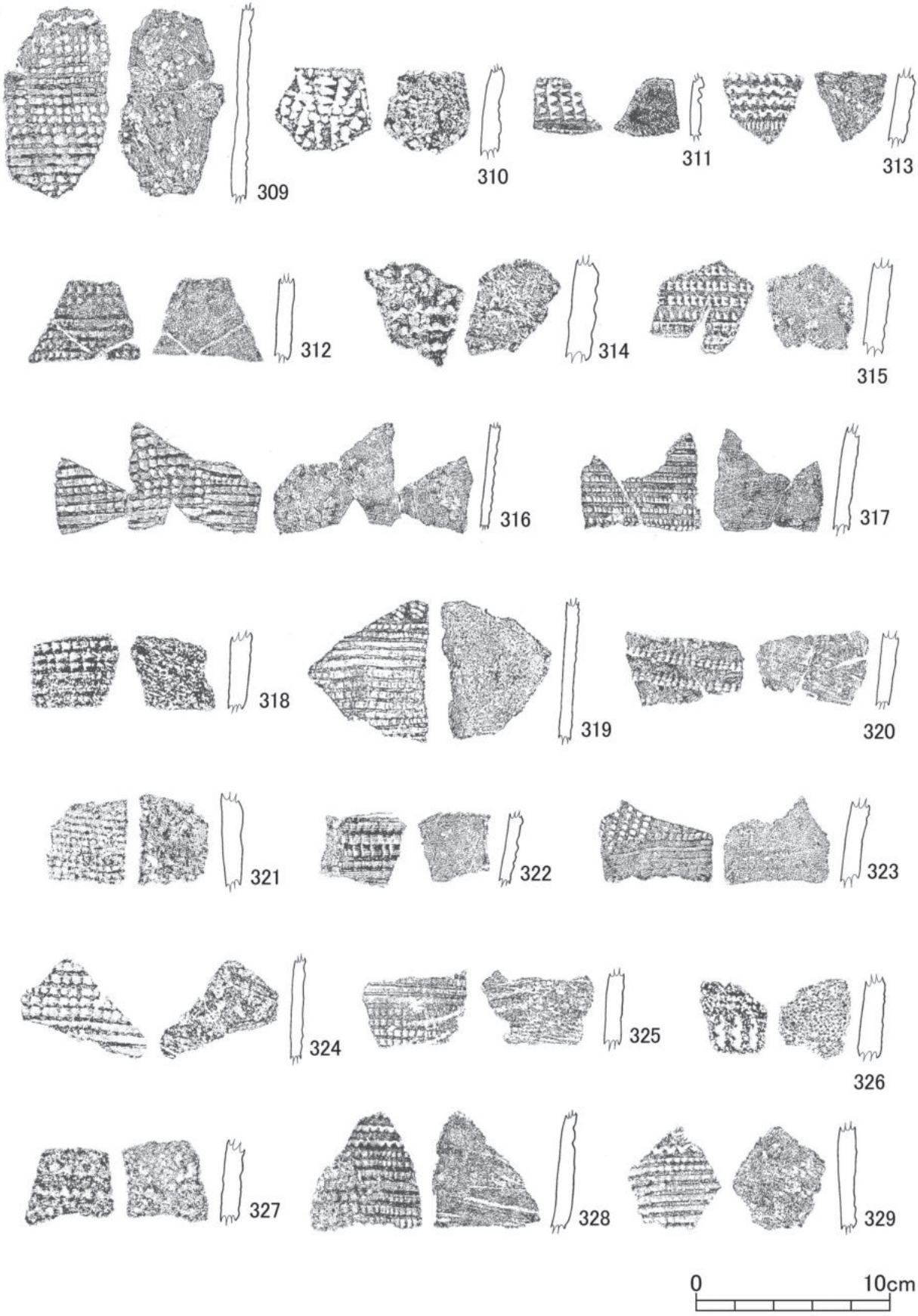
第33図　出土土器(18)


272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
0
10cm

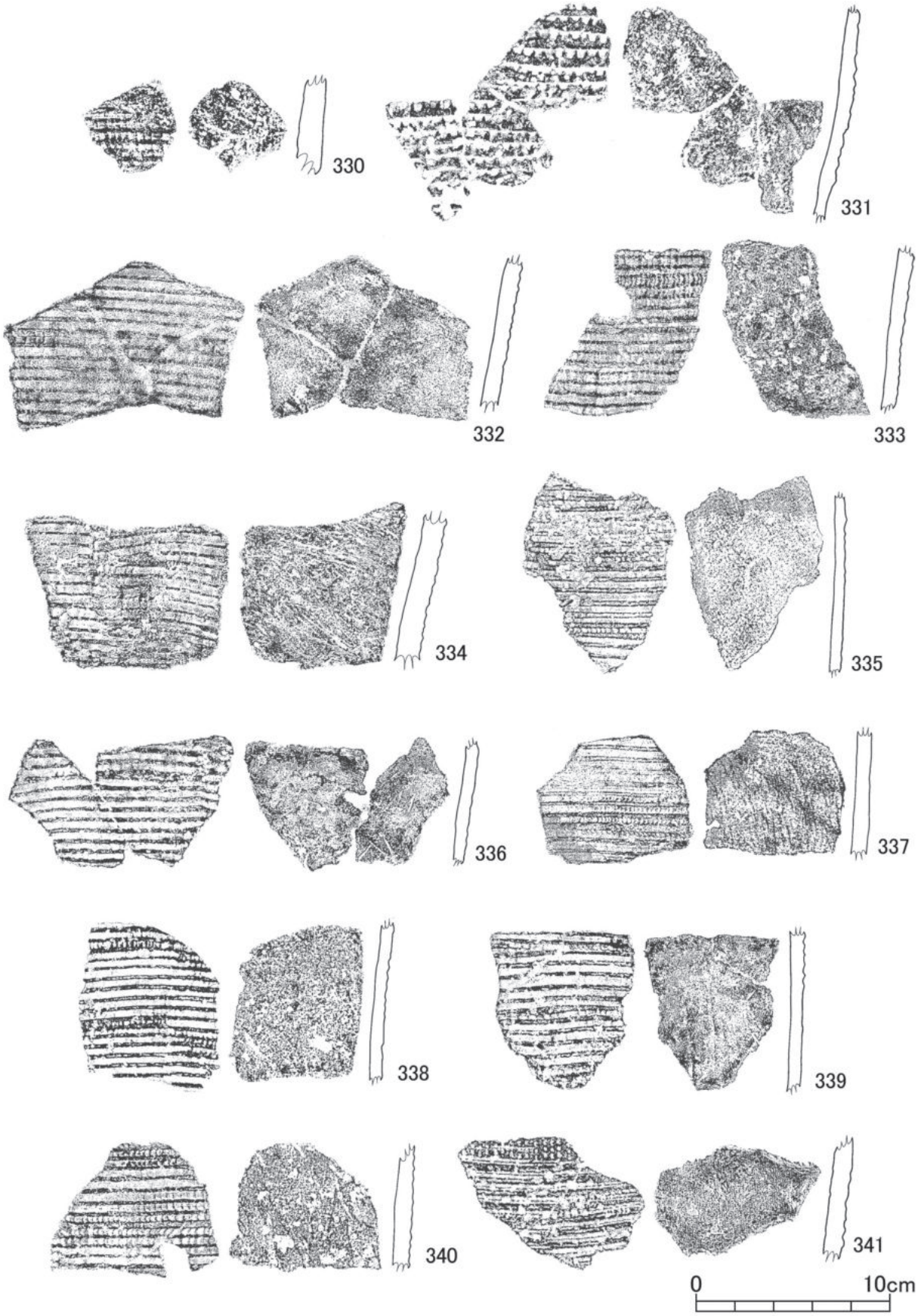
第34図　出土土器(19)



第35図　出土土器(20)

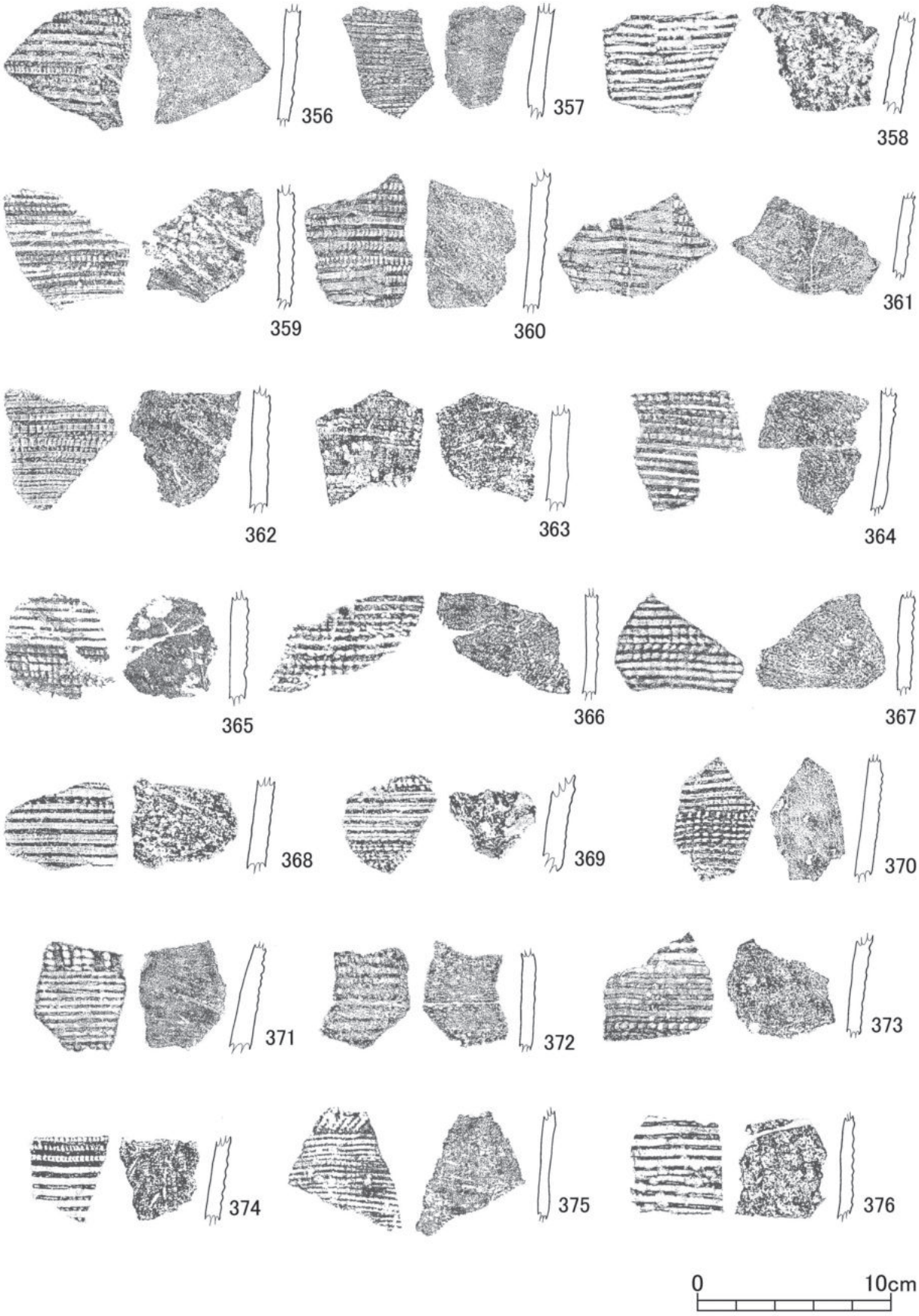

309
310
311
313
312
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
0
10cm

第36図　出土土器(21)

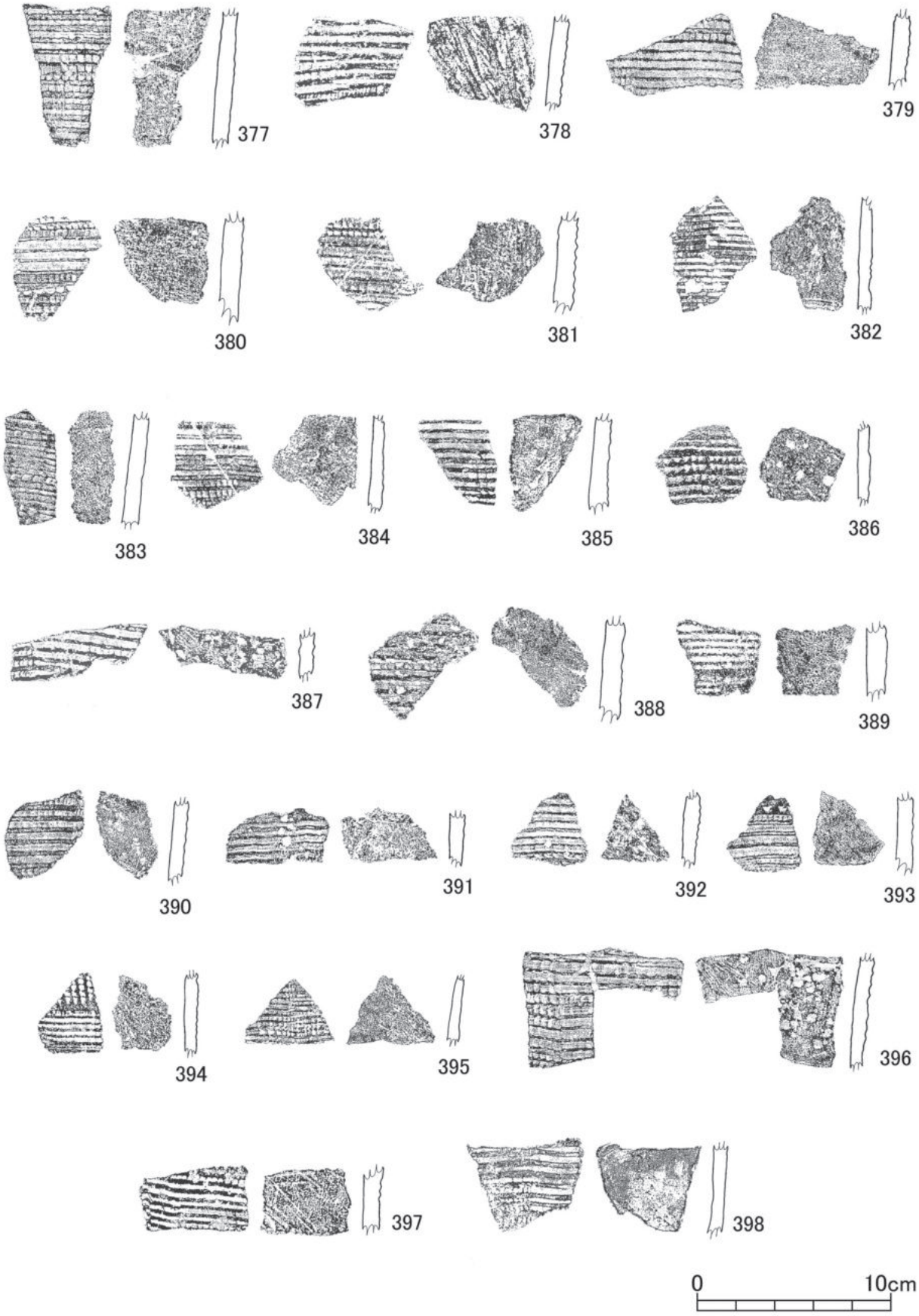


第37図　出土土器(22)

第38図　出土土器(23)

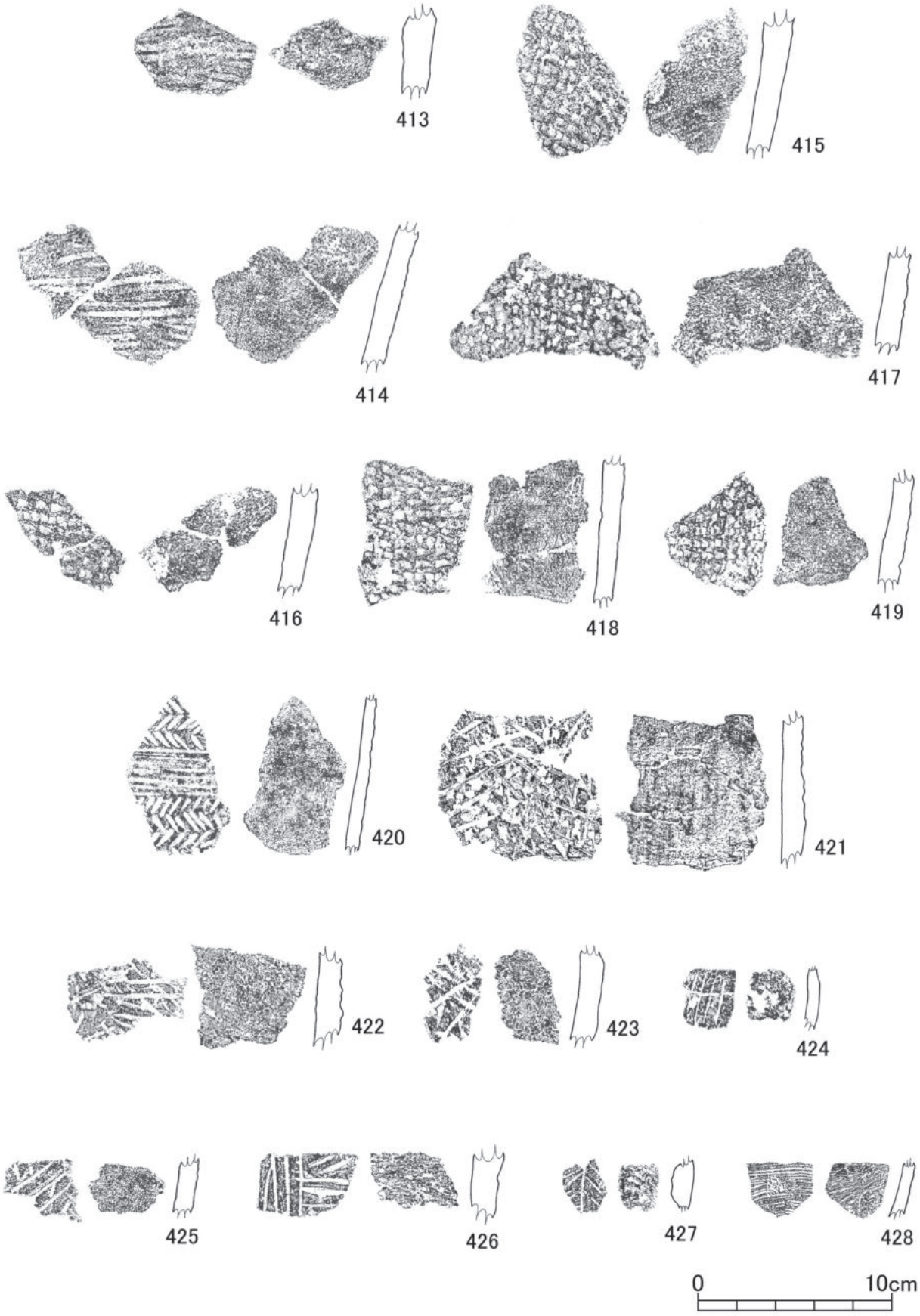

356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
0
10cm

第39図　出土土器(24)

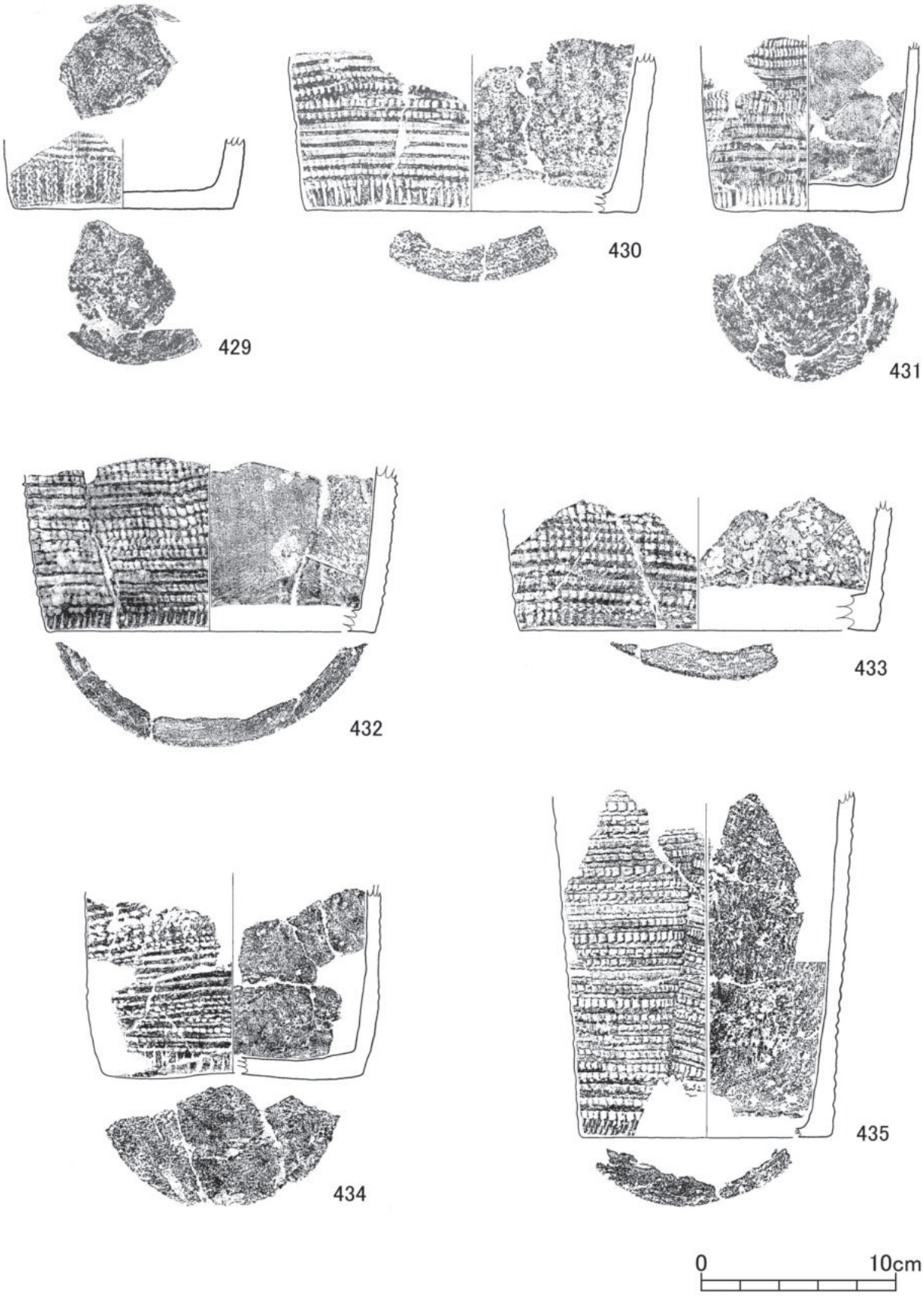

377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
0
10cm

第40図　出土土器(25)

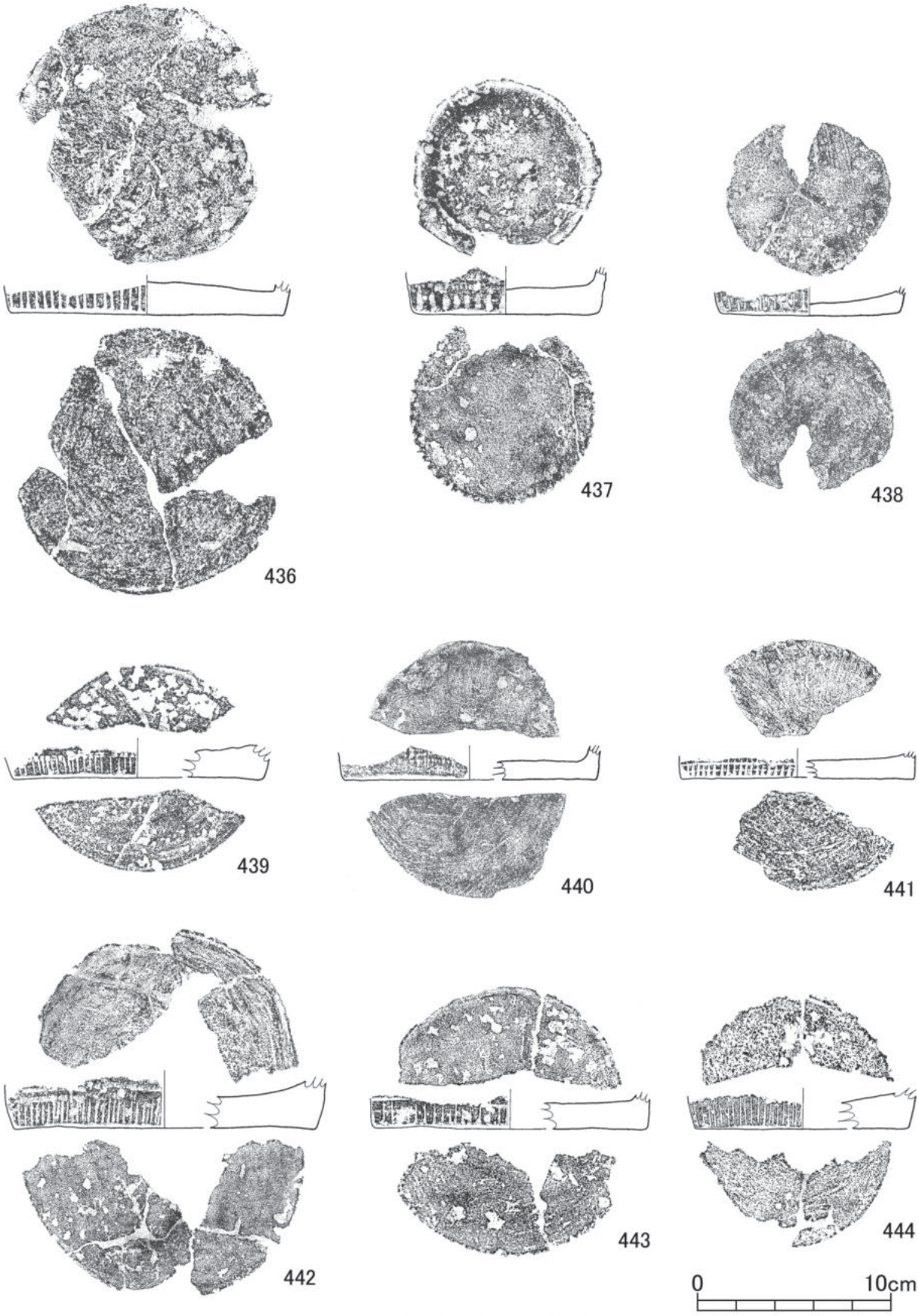
第41図　出土土器(26)


413
415
414
417
416
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
0
10cm

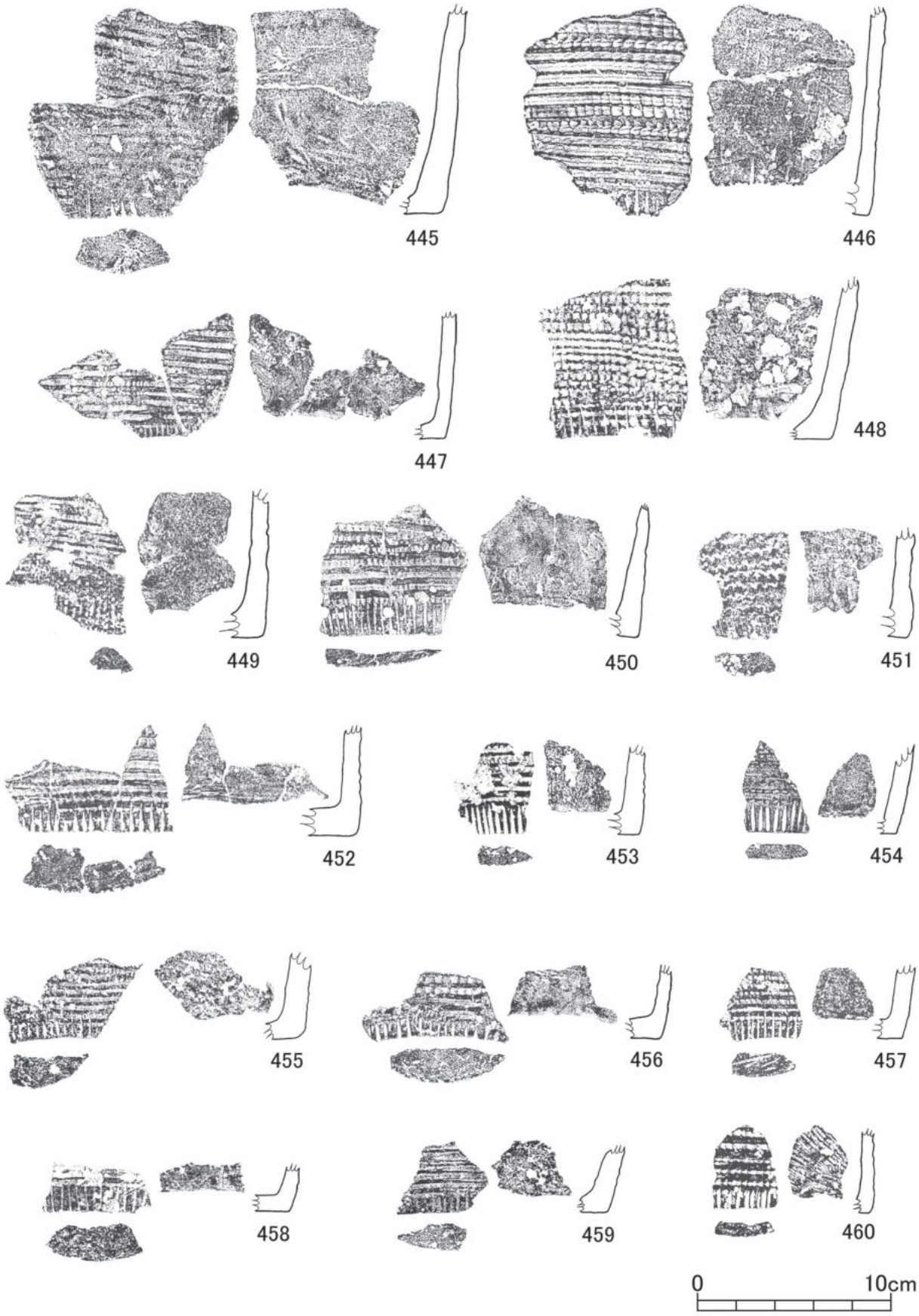
第42図　出土土器(27)



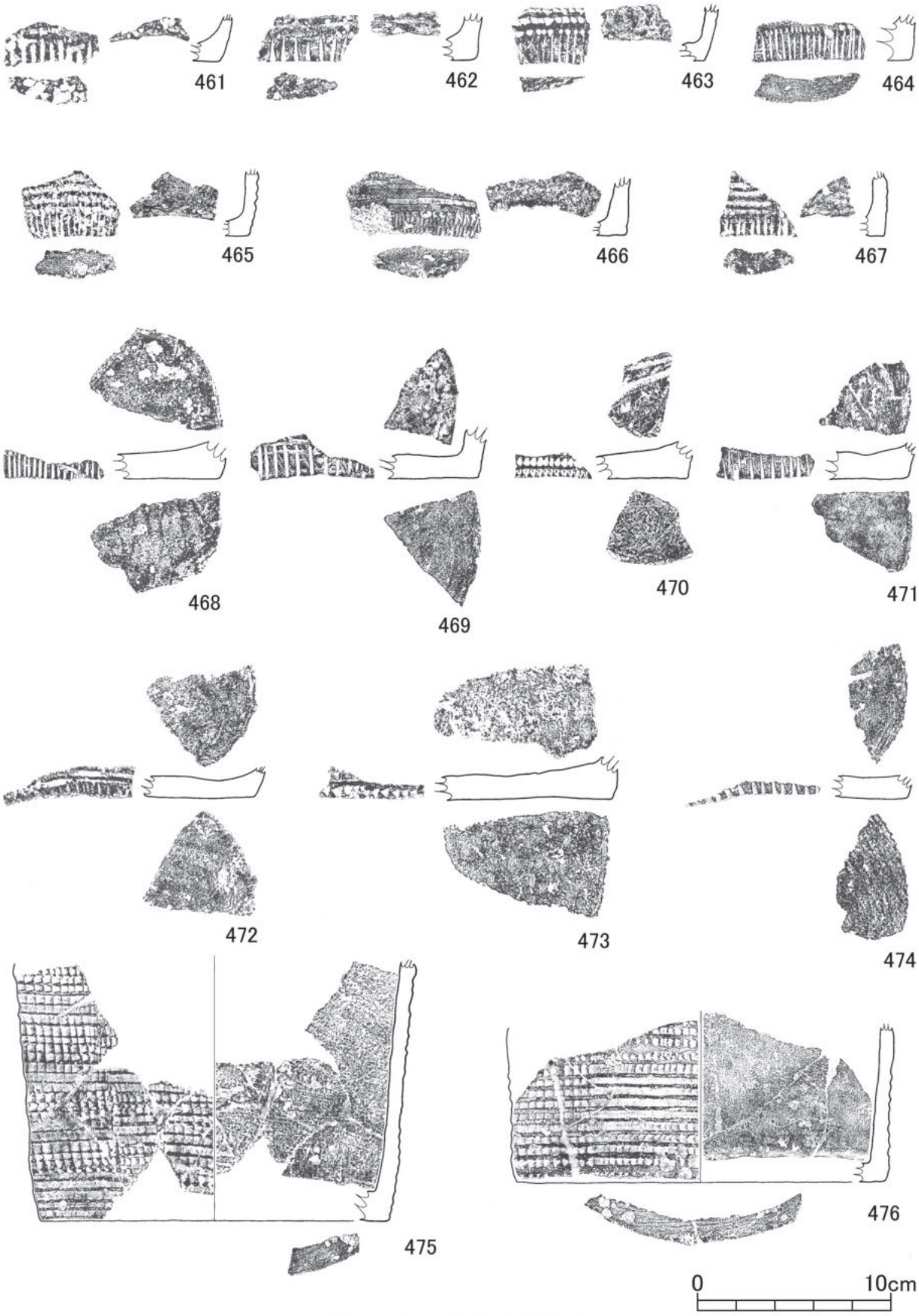
第43図　出土土器(28)



第44図　出土土器(29)


445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
0
10cm

第45図　出土土器(30)

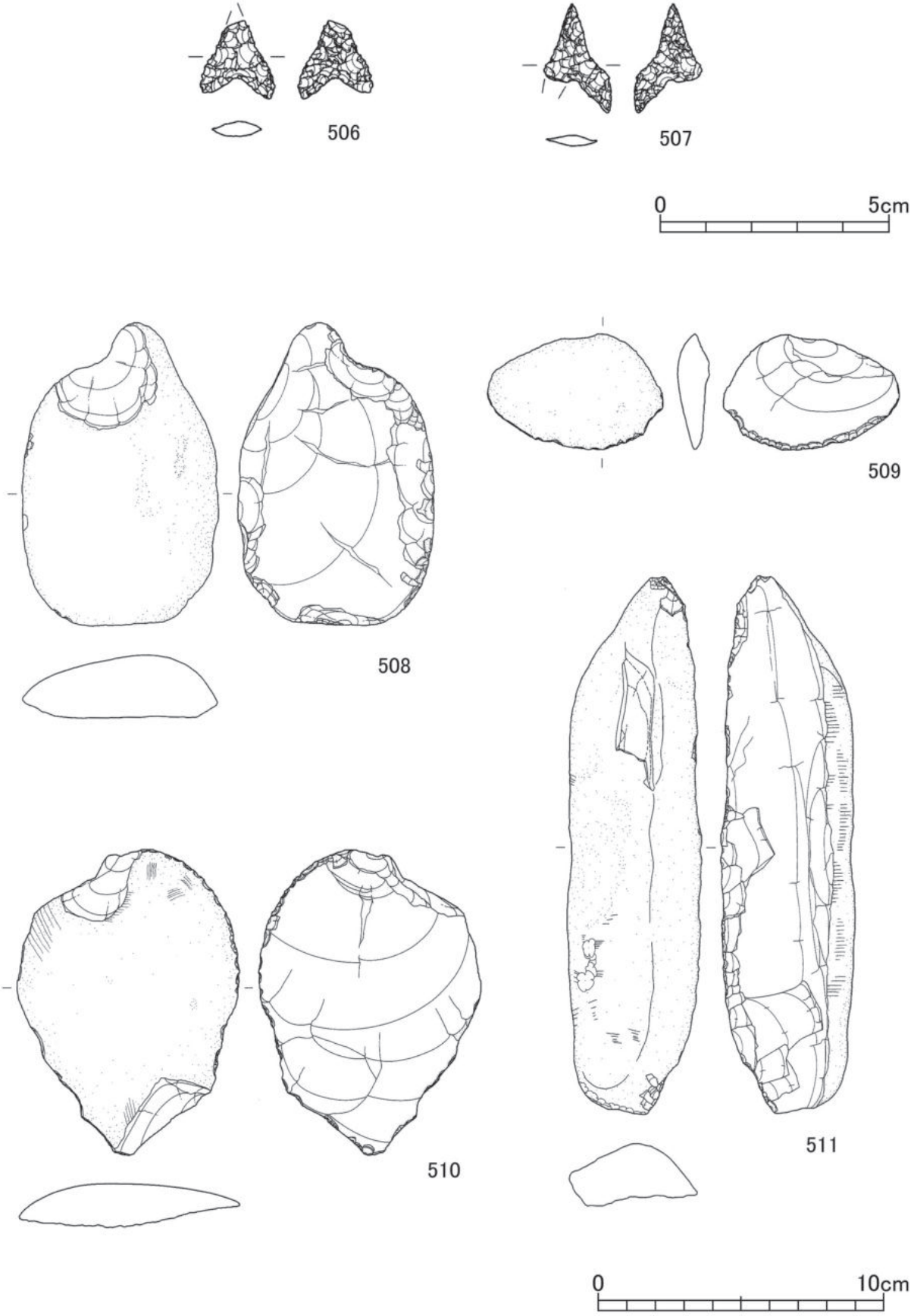

461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
0
10cm

第46図　出土土器(31)

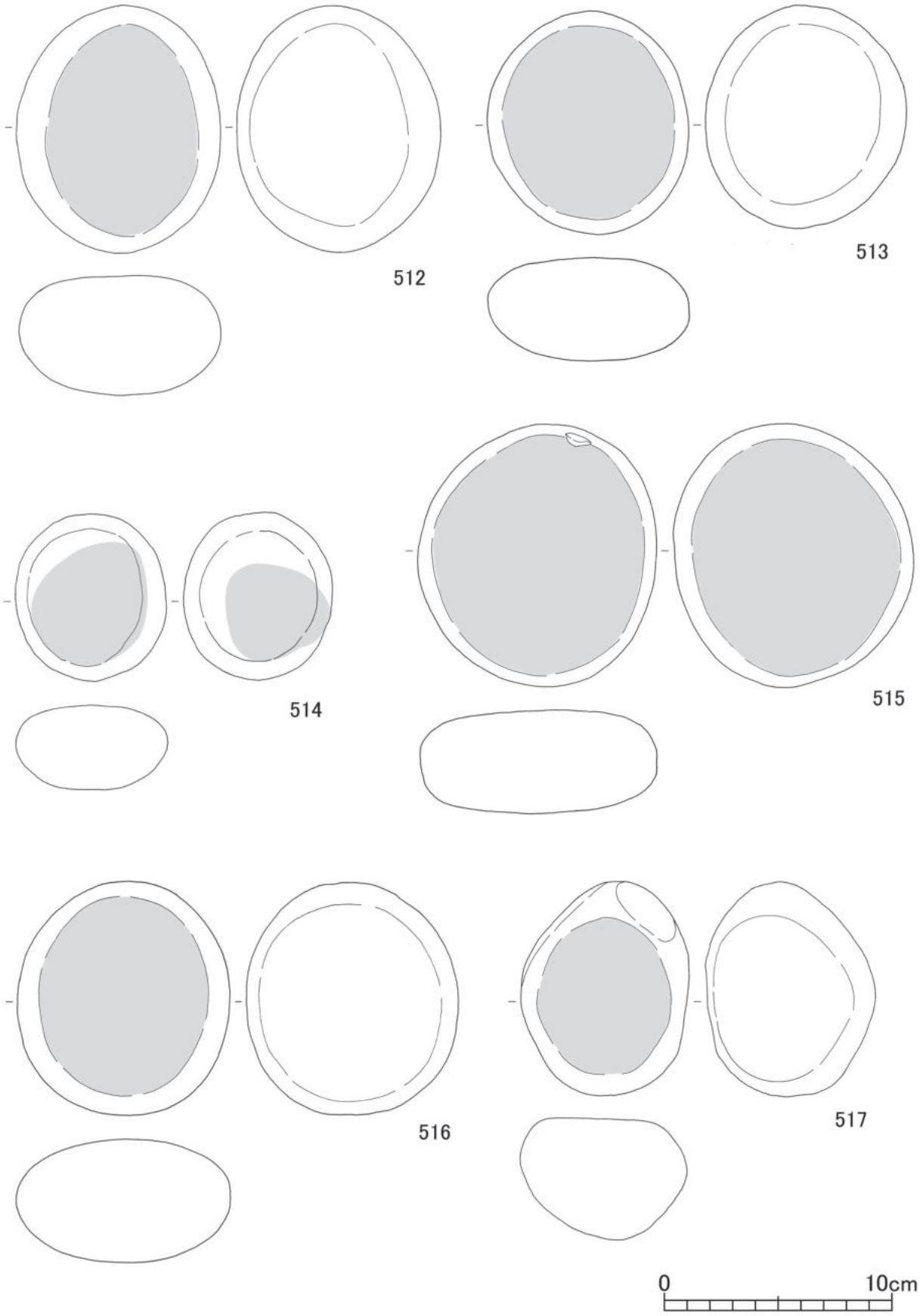
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
0
10cm

第47図　出土土器(32)

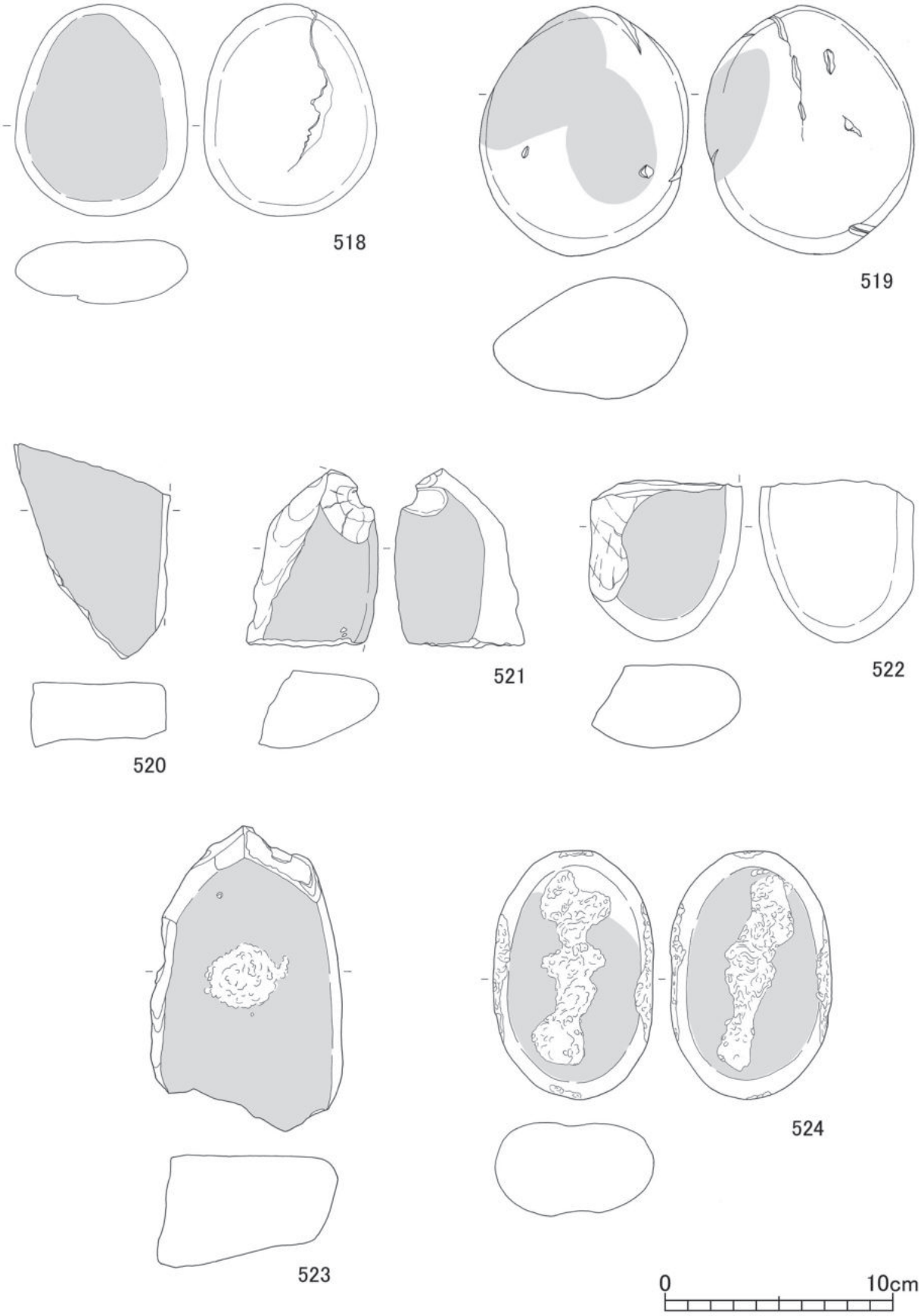
第48図　出土土器(33)



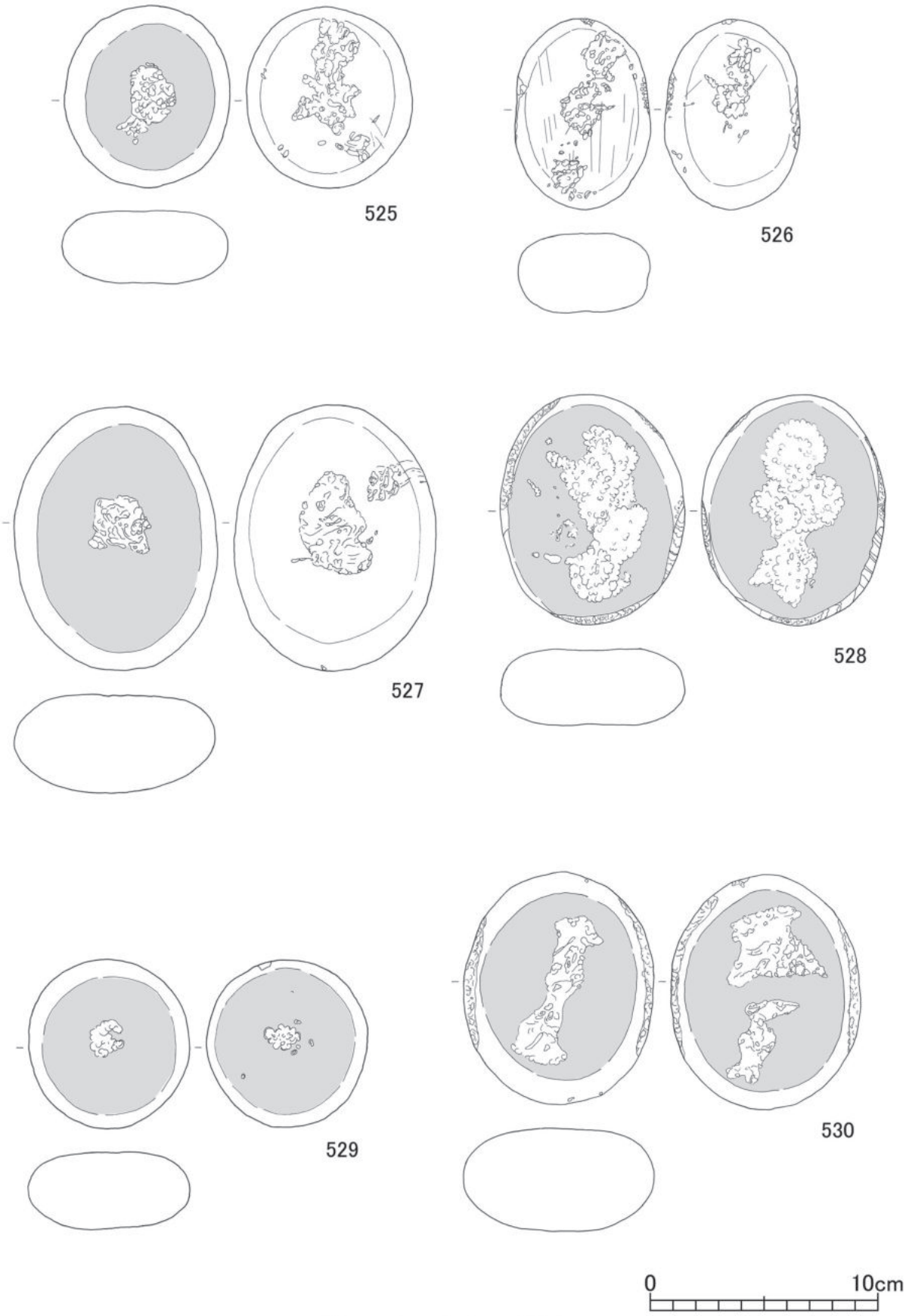
第49図　出土石器(1)



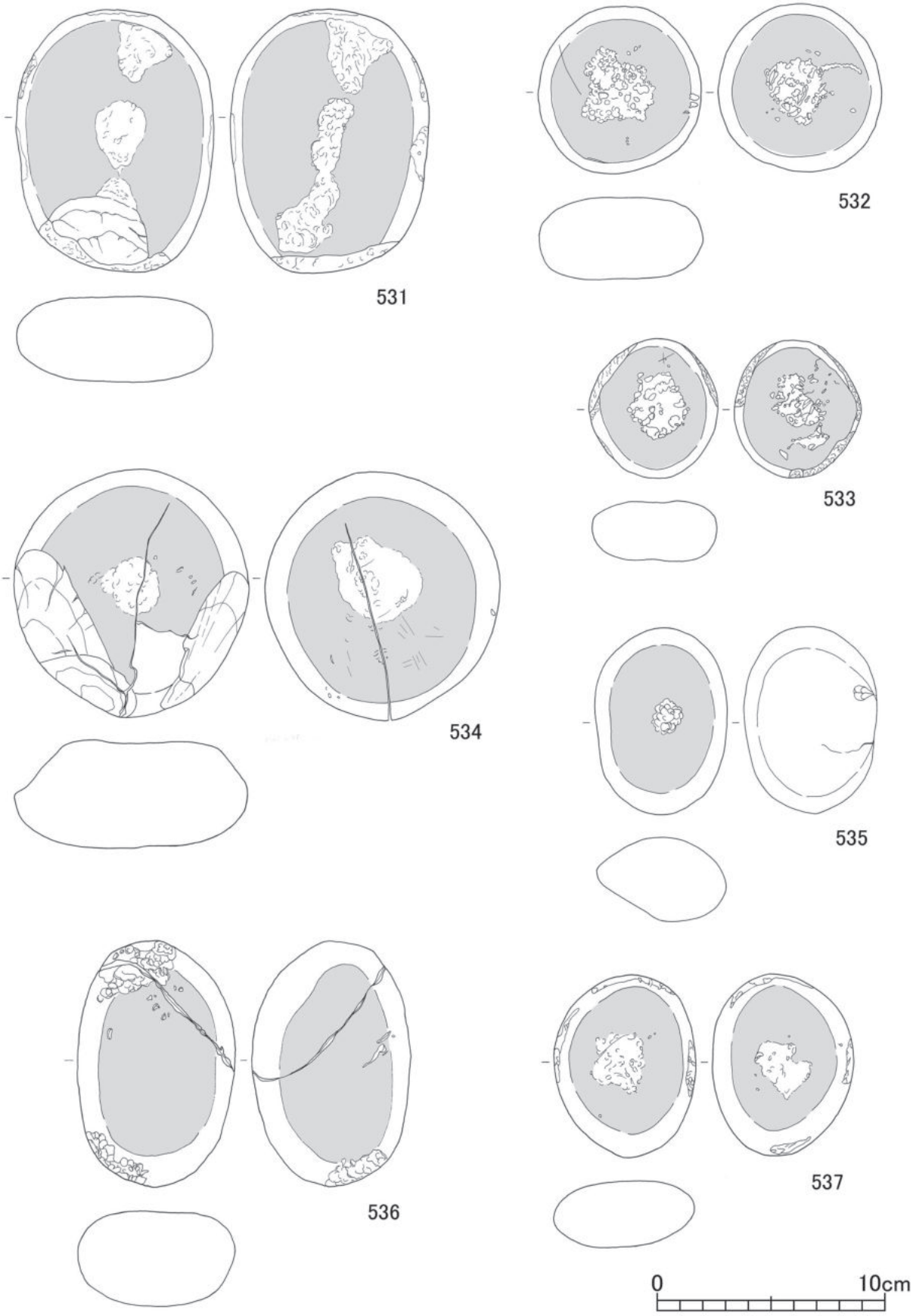
第50図　出土石器(2)



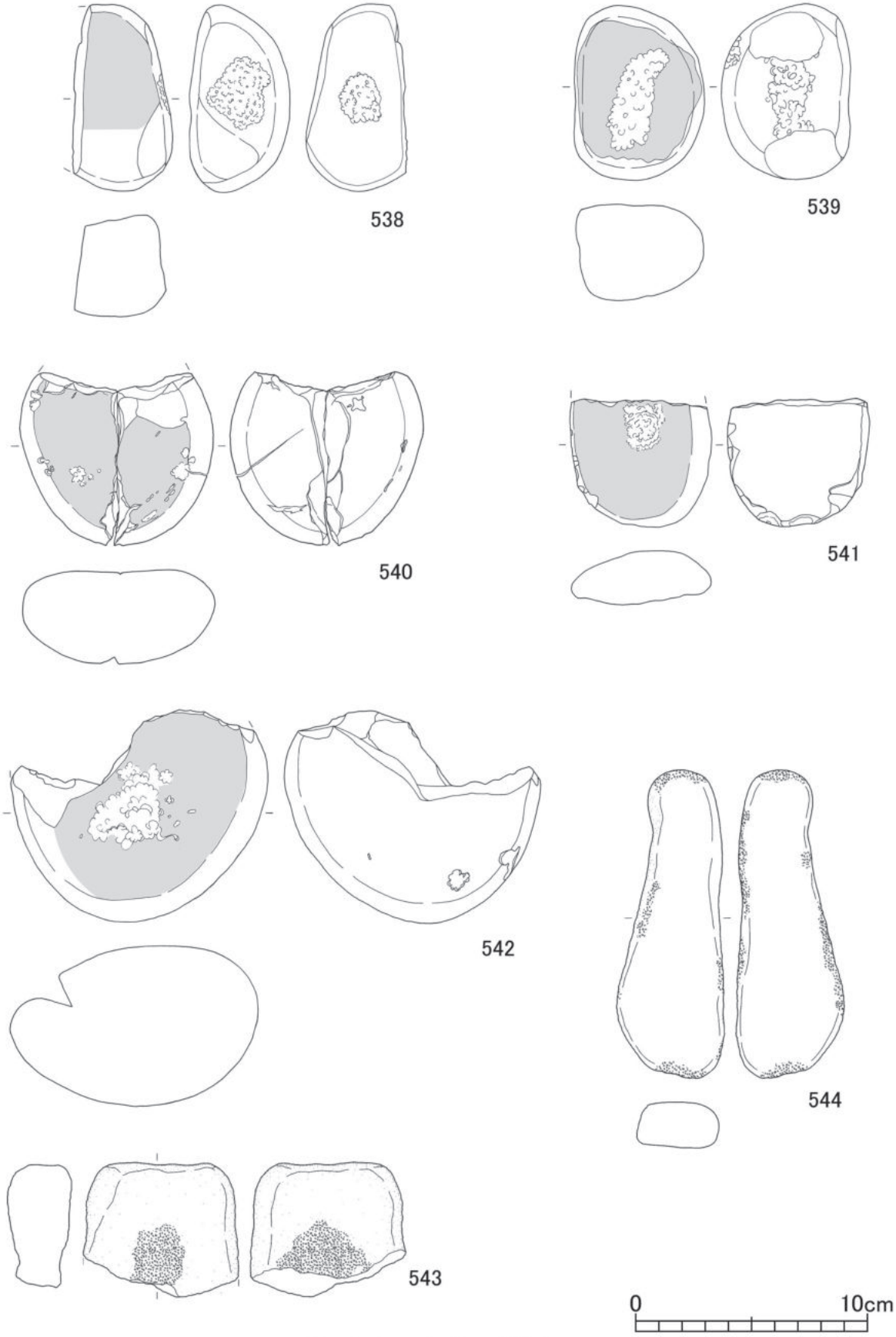
第51図　出土石器(3)



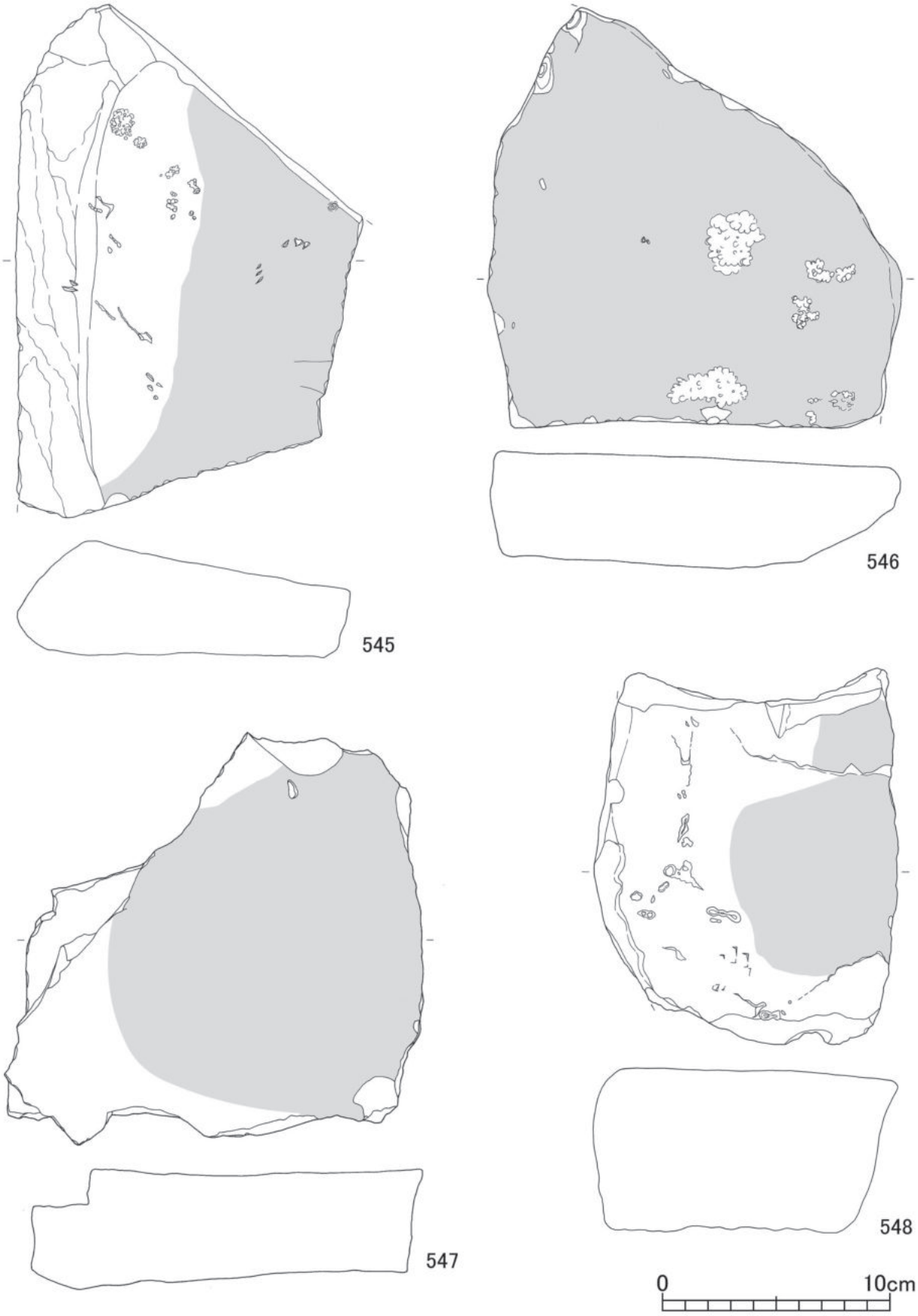
第52図　出土石器(4)



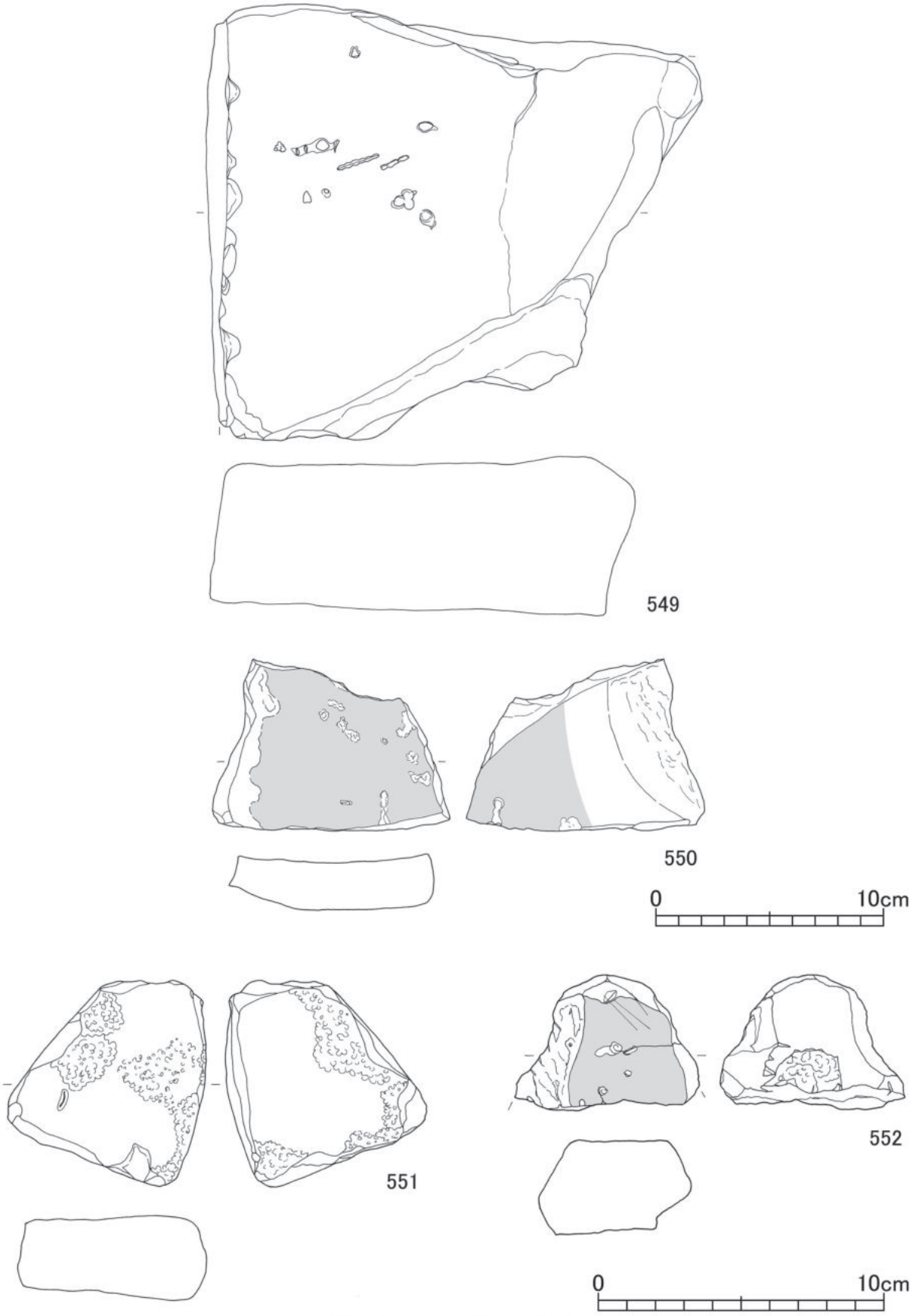
第53図　出土石器(5)



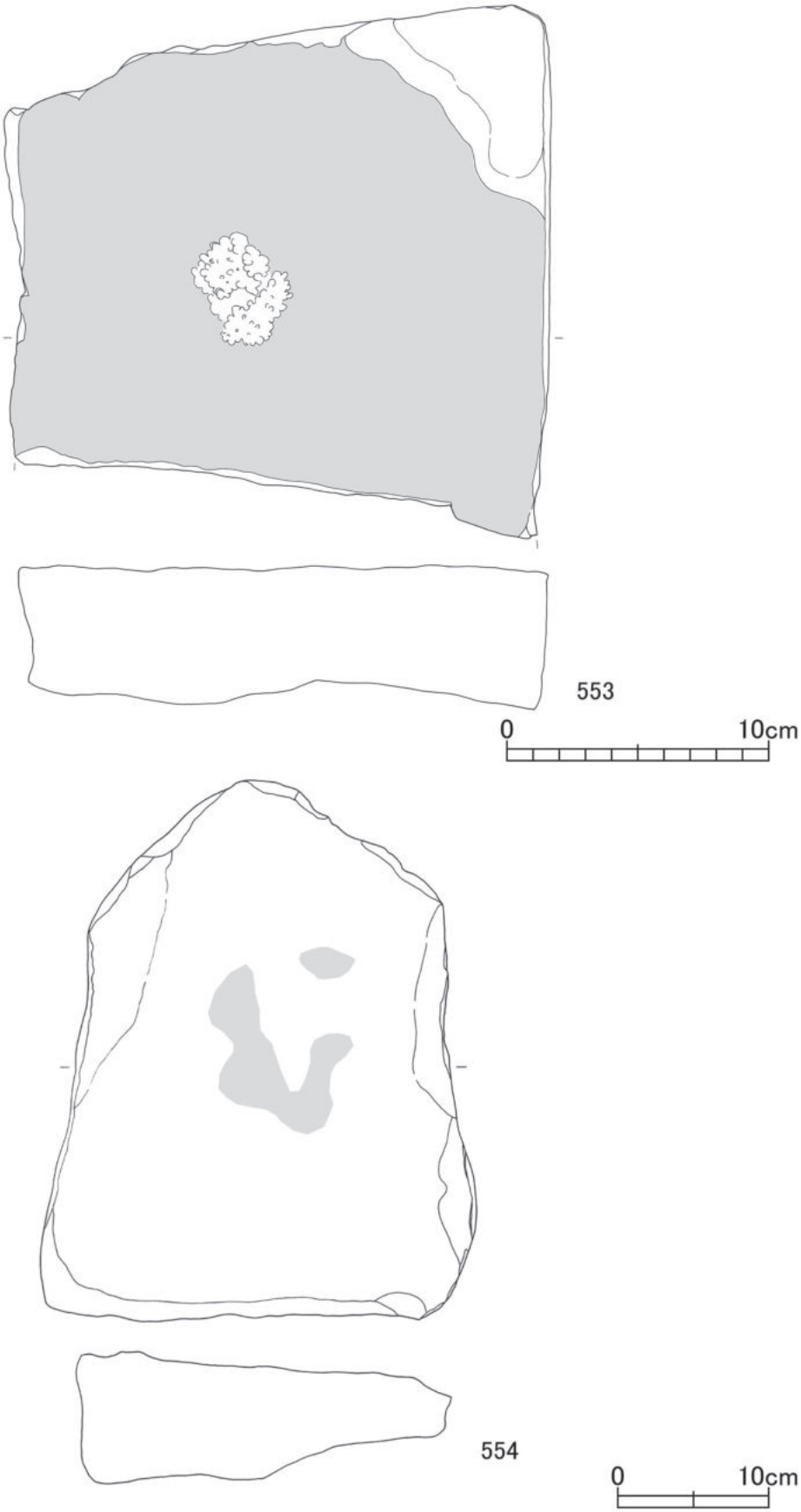
第54図　出土石器(6)



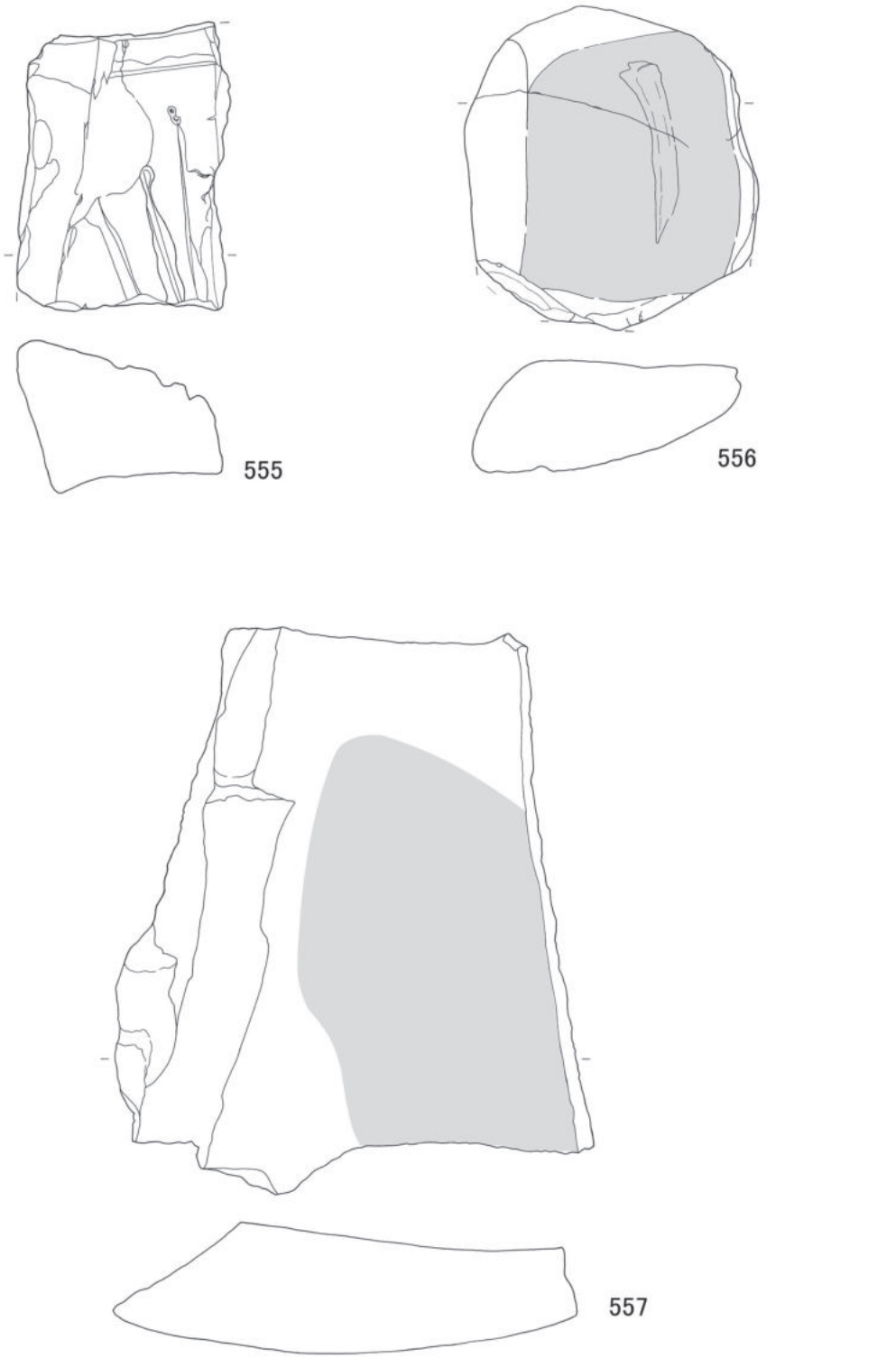
第55図　出土石器(7)



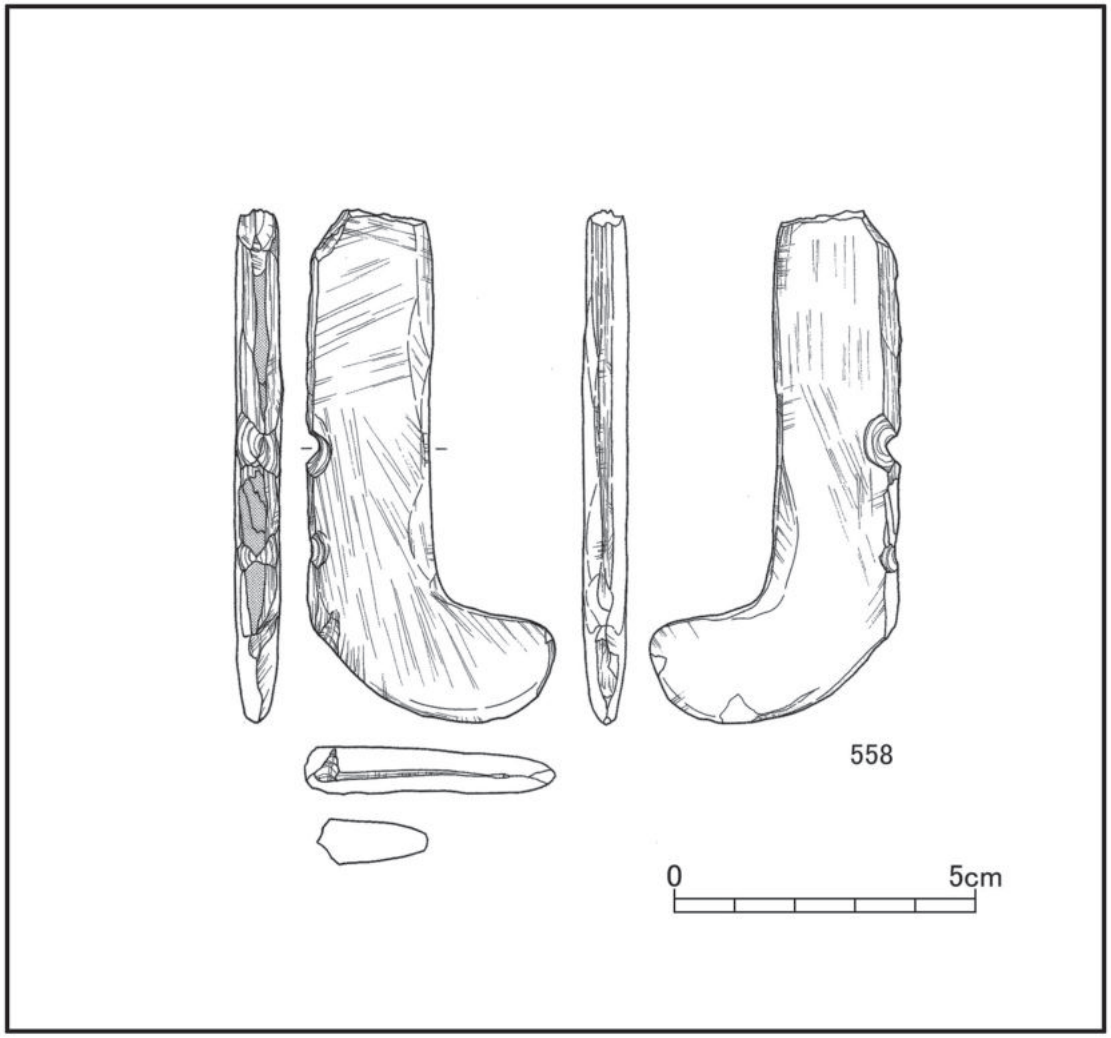
第56図　出土石器(8)



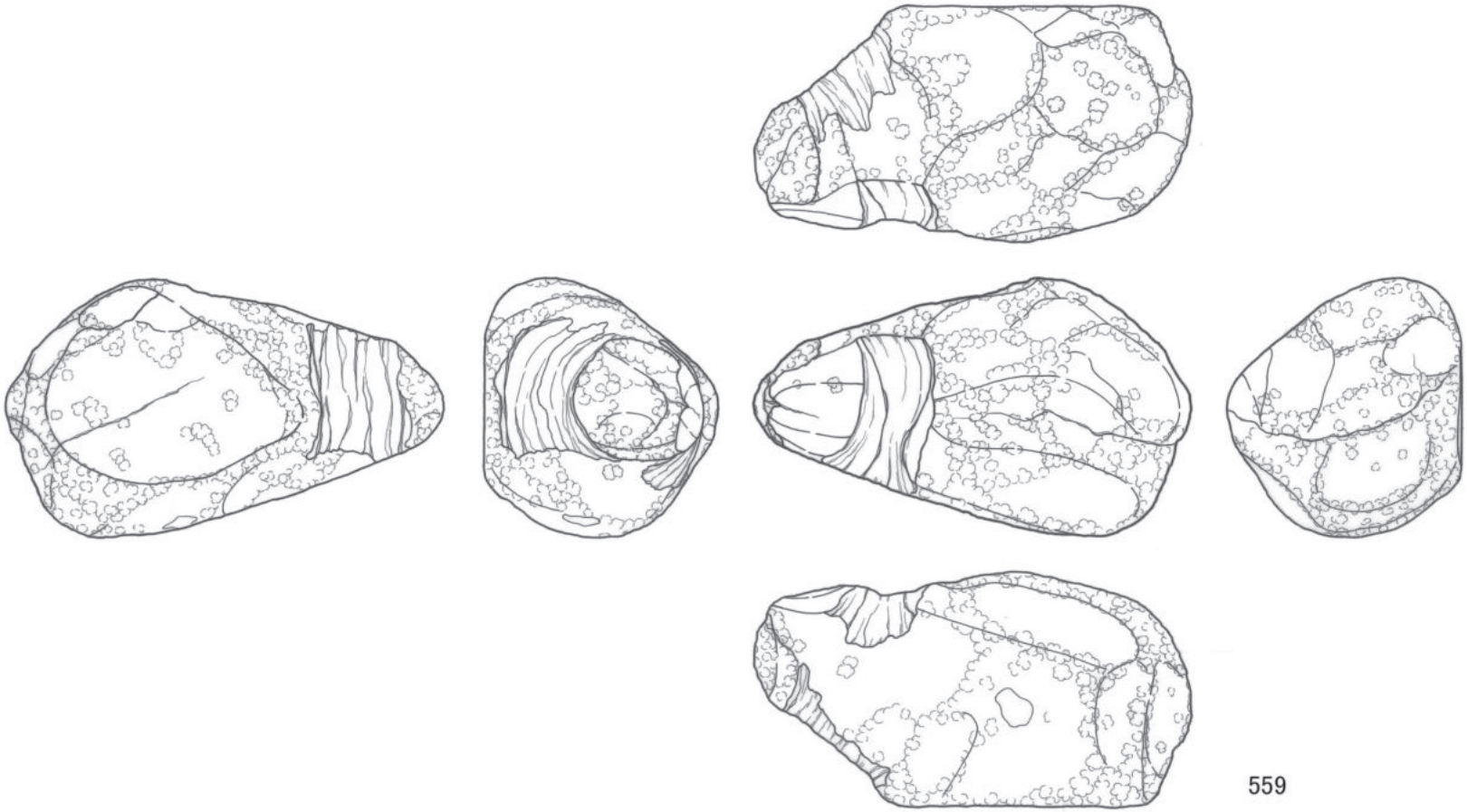
第57図　出土石器(9)

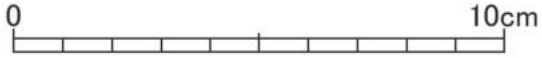


第58図　出土石器(10)



第59図　出土石器(11)





第60図　出土石器(12)

第2表　土器観察表(1)

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
16	1	116-1,116-2,116-3	Ⅳ	10A	胴部	明赤褐	明赤褐
	2	1002-1,1002-2,1007,1008,一括13	Ⅳ	2B	口縁部	にぶい赤褐	橙
	3	1010-1～1010-5	Ⅳ	2B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	4	10,531,054	Ⅳ	7A	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	5	804-1,804-2,804-3	Ⅳ	5B	口縁部	橙	にぶい赤褐
	6	243	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐
	7	一括20,一括22	Ⅳ	7B	口縁部	にぶい赤褐	淡橙
	8	236	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐
	9	一括C19、一括C20	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい橙
	10	393	Ⅳ	9A	口縁部	にぶい橙	橙
	11	570	Ⅳ	7B	口縁部	明赤褐	にぶい赤褐
	12	350	Ⅳ	9A	口縁部	明赤褐	赤褐
	13	200	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい橙
	14	3	Ⅳ	10B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	15	992-1,992-2	Ⅳ	4B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	16	一括1	Ⅳ	5B	口縁部	にぶい橙	橙
17	17	一括C21	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐
	18	837	Ⅳ	5B	口縁部	にぶい橙	橙
	19	822,827-1～6,830,832,836,862-1～8,865	Ⅳ	5B	口縁部	にぶい橙	橙
	20	900,902,一括24	Ⅳ	5A	口縁部	橙	橙
	21	807,809-1,809-2,828,829,833,834,840	Ⅳ	5B	口縁部	にぶい橙	橙
18	22	838,841-1,841-2	Ⅳ	5B	口縁部	にぶい橙	橙
	23	785	Ⅳ	6A	口縁部	橙	にぶい橙
	24	984-1,984-2,984-3,984-4	Ⅳ	3B	口縁部	橙	橙
	25	1055	Ⅳ	7A	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	26	418	Ⅳ	9A	口縁部	橙	橙
	27	143	Ⅳ	10A	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	28	861	Ⅳ	5B	口縁部	にぶい橙	明赤褐
	29	1005-1～1005-6	Ⅳ	2B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	30	201,209,216	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐
	31	568,569	Ⅳ	7B	口縁部	灰褐	灰褐
	32	331	Ⅳ	9A	口縁部	赤褐	にぶい赤褐
	33	738	Ⅳ	8B	口縁部	にぶい褐	明赤褐
	34	443	Ⅳ	8B	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐
	35	一括4	Ⅳ	8B	口縁部	にぶい橙	橙
	36	一括C40	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい橙
	37	1057	Ⅳ	7A	口縁部	赤褐	赤褐
	38	81,82,一括16	Ⅳ	10B	口縁部	橙	にぶい赤褐
19	39	930-1,930-2,931,一括2	Ⅳ	4B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	40	108,111-1～111-4,122-1,122-2	Ⅳ	10A	口縁部	にぶい赤褐	にぶい橙
	41	87,88	Ⅳ	10B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	42	903-1～903-11,904-1,904-2	Ⅳ	5A	口縁部	にぶい橙	にぶい褐
	43	758,759	Ⅳ	6B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	44	760	Ⅳ	6B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	45	952-1～952-4,954,955-1,955-2,962-1	Ⅳ	4B	胴部	赤褐	暗赤褐
	46	678-1,678-2,678-3	Ⅳ	7B	口縁部	にぶい赤褐	赤褐
	47	162-1,162-2,一括6,一括8	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい赤褐	赤褐
20	48	800	Ⅳ	5B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	49	990	Ⅳ	3B	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐
	50	996	Ⅳ	3A	口縁部	にぶい橙	にぶい橙

第3表　土器観察表(2)

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
20	51	32,41	Ⅳ	10B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	52	283	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい橙	橙
	53	697	Ⅳ	8B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	54	1011	Ⅳ	2B	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	55	433	Ⅳ	9A	胴部	にぶい赤褐	にぶい橙
	56	277,297-1,297-2	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	57	774-1,774-2,774-3	Ⅳ	6A	口縁部	にぶい赤褐	にぶい橙
	58	766	Ⅳ	6A	口縁部	暗赤褐	赤褐
	59	629	Ⅳ	7B	口縁部	赤褐	赤褐
	60	592	Ⅳ	7B	口縁部	明赤褐	明赤褐
	61	690	Ⅳ	8A	口縁部	赤褐	明赤褐
	62	466	Ⅳ	8B	口縁部	赤褐	赤褐
	63	630	Ⅳ	7B	口縁部	にぶい赤褐	明赤褐
	64	一括C22	Ⅳ	9B	口縁部	明赤褐	明赤褐
	65	30	Ⅳ	10B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい橙
	66	22	Ⅳ	10B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	67	658	Ⅳ	8A	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙
21	68	677-1～677-6	Ⅳ	7B	口縁部	にぶい赤褐	暗赤褐
	69	1022	Ⅳ	2B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	70	184,195,214	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい赤褐	明赤褐
	71	890	Ⅳ	5A	口縁部	暗赤褐	暗赤褐
	72	57,64-1～2,65-1～3,66-1,66-2, 67,68,70,73,79,83-1,83-2,85,86, 96-1,98,99,100,101,102,104,121	Ⅳ	10B	口縁部	暗赤褐	にぶい赤褐
	73	731-1,731-2	Ⅳ	8B	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙
	74	720-1～720-6,722	Ⅳ	8B	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐
22	75	914-1～914-4,一括7	Ⅳ	5A	口縁部	赤褐	暗赤褐
	76	922-1,922-2,923	Ⅳ	4B	口縁部	赤褐	暗赤褐
	77	513,514,522,531-1,531-2	Ⅳ	11A	口縁部	明赤褐	明赤褐
	78	360	Ⅳ	9A	口縁部	にぶい橙	にぶい褐
	79	866	Ⅳ	5A	口縁部	にぶい赤褐	にぶい橙
	80	13	Ⅳ	10B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	81	964-1,964-2,965-1,965-2,980	Ⅳ	4A	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	82	674	Ⅳ	8A	口縁部	暗赤褐	にぶい赤褐
	83	751	Ⅳ	6B	口縁部	にぶい橙	灰褐
	84	一括9,一括10	Ⅳ	8A	口縁部	明赤褐	明赤褐
	85	803-1,803-2	Ⅳ	5B	口縁部	橙	橙
	86	1028	Ⅳ	2B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	87	708,726,733,740-1～740-5	Ⅳ	8B	口縁部	橙	橙
	88	651	Ⅳ	8A	口縁部	赤褐	明赤褐
	89	579	Ⅳ	7B	口縁部	赤褐	極暗赤褐
	90	645	Ⅳ	8A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	91	663	Ⅳ	8A	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
23	92	631	Ⅳ	7B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	93	816,863	Ⅳ	5B	口縁部	橙	明赤褐
	94	659	Ⅳ	8A	口縁部	極暗赤褐	極暗赤褐
	95	38-1,38-2	Ⅳ	10B	口縁部	橙	橙
	96	一括14	Ⅳ	8B	口縁部	橙	橙
	97	一括18	Ⅳ	7B	口縁部	明赤褐	赤褐
	98	375-1～375-4,376-1,376-2	Ⅳ	9A	口縁部	にぶい赤褐	赤褐

第4表　土器観察表(3)

挿図番号	遺物番号	取上番号	Ⅳ	出土区	部位	色調外面	色調内面
23	99	51,62-1～2,80,89,90-1～2,94-1～4	Ⅳ	10B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	100	449,450,451,453,454,456,458,465-1,465-2,472-3	Ⅳ	8B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	101	1006-1,1006-2,1006-3	Ⅳ	2B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	102	1030	Ⅳ	2B	胴部	にぶい橙	橙
	103	588	Ⅳ	7B	胴部	灰褐	にぶい橙
	104	一括C10	Ⅳ	7B	胴部	暗赤褐	明赤褐
	105	634	Ⅳ	8A	胴部	赤褐	
	106	407-1～407-3	Ⅳ	9A	口縁部	橙	明赤褐
	107	892	Ⅳ	5A	口縁部	にぶい赤褐	明赤褐
	108	883-1,883-2,883-3	Ⅳ	5A	口縁部	にぶい赤褐	明赤褐
	109	574-1,574-2,575-1,575-2	Ⅳ	7B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい橙
24	110	549,551,552,553-1～2,554-1～2,555,556	Ⅳ	11A	口縁部	にぶい橙	赤褐
	111	439	Ⅳ	8B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	112	1024-1,1024-2	Ⅳ	2B	口縁部	赤褐	明赤褐
	113	436	Ⅳ	8B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	114	476	Ⅳ	8B	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐
	115	一括3	Ⅳ	11A	口縁部	灰褐	にぶい橙
	116	74	Ⅳ	10B	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐
	117	851,852	Ⅳ	5A	口縁部	明褐灰	明褐灰
	118	215	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい赤褐	明赤褐
	119	224	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	120	一括C12	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐
	121	336	Ⅳ	9A	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	122	1004	Ⅳ	2B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	123	171,180,196-1～3,218-1～3,一括C3	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
25	124	561-1,561-2,561-3,561-4	Ⅳ	7B	口縁部	赤褐	にぶい赤褐
	125	270-1,270-2,270-3,271	Ⅳ	9B	口縁部	明赤褐	明赤褐
	126	642-1,642-2	Ⅳ	8A	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	127	1051	Ⅳ	7A	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	128	220-1～2,286-1～3,288-1～4	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい橙	橙
	129	739-1～7,741,742,743	Ⅳ	8B	口縁部	にぶい橙	灰褐
	130	610,611,612-1～2,613-1～2,614,617-1～3,675,一括23,一括26,一括C5,一括C8,一括C9,一括C13,一括C16,一括C19～一括C21	Ⅳ	7B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
26	131	595-1～595-12,595-15～595-18	Ⅳ	7B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	132	5(10B),142-1,142-2	Ⅳ	10A	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	133	44	Ⅳ	10B	口縁部	にぶい赤褐	明赤褐
	134	138	Ⅳ	10A	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	135	535,536,537,538	Ⅳ	11A	口縁部	明赤褐	にぶい赤褐
	136	391,402-4	Ⅳ	9A	口縁部	橙	橙
	137	524-1,524-2	Ⅳ	11A	口縁部	にぶい赤褐	灰褐
	138	628-1,628-2,一括6	Ⅳ	7B	口縁部	明赤褐	明赤褐
	139	1-1,1-2,1-3,1-4	Ⅳ	10B	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐
	140	78	Ⅳ	10B	口縁部	橙	にぶい赤褐
	141	397	Ⅳ	9A	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	142	409	Ⅳ	9A	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐
	143	312	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	144	521	Ⅳ	11A	口縁部	橙	赤褐

第5表　土器観察表(4)

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
26	145	595-13,595-14	Ⅳ	7B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
27	146	一括C11	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	147	426	Ⅳ	8B	口縁部	橙	橙
	148	311	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	149	84	Ⅳ	10B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい橙
	150	1050,一括3	Ⅳ	7A	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	151	813	Ⅳ	5B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい橙
	152	805	Ⅳ	5B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	153	227	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	154	109	Ⅳ	10A	口縁部	浅黄橙	にぶい橙
	155	512	Ⅳ	11A	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	156	45	Ⅳ	10B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	157	422	Ⅳ	9A	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐
	158	一括C1,一括C2,一括C7	Ⅳ	9B	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	159	131	Ⅳ	10A	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	160	792	Ⅳ	5B	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	161	728-1,728-2	Ⅳ	8B	胴部	明赤褐	明赤褐
	162	530	Ⅳ	11A	胴部	にぶい橙	浅黄橙
	163	943	Ⅳ	4B	胴部	明赤褐	明赤褐
	164	118	Ⅳ	10A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
28	165	927	Ⅳ	4B	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	166	一括15	Ⅳ	10B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	167	529	Ⅳ	11A	胴部	にぶい赤褐	にぶい橙
	168	853	Ⅳ	5A	胴部	にぶい橙	灰褐
	169	540	Ⅳ	11A	胴部	にぶい赤褐	にぶい橙
	170	120	Ⅳ	10A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	171	247	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	172	603,604-1～604-4	Ⅳ	7B	胴部	明赤褐	明赤褐
	173	290,295	Ⅳ	9B	胴部	赤褐	にぶい橙
	174	894	Ⅳ	5A	胴部	明赤褐	橙
	175	158-1,158-2	Ⅳ	10A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	176	469,一括11	Ⅳ	8B	胴部	にぶい褐	にぶい褐
	177	729	Ⅳ	8B	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	178	444	Ⅳ	8B	胴部	にぶい赤褐	赤褐
	179	557	Ⅳ	11A	胴部	にぶい褐	にぶい橙
	180	1066	Ⅳ	7A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	181	一括11	Ⅳ	7A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	182	275-1,275-2	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	183	799	Ⅳ	5B	胴部	橙	にぶい赤褐
	184	181	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	185	582	Ⅳ	7B	胴部	暗赤褐	にぶい赤褐
29	186	480	Ⅳ	8B	胴部	灰黄褐	にぶい褐
	187	307	Ⅳ	9B	胴部	にぶい赤褐	赤褐
	188	753	Ⅳ	6B	胴部	にぶい赤褐	橙
	189	170	Ⅳ	9B	胴部	橙	にぶい赤褐
	190	386	Ⅳ	9A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	191	527	Ⅳ	11A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	192	772	Ⅳ	6A	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	193	462	Ⅳ	8B	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	194	一括5	Ⅳ	11A	胴部	灰褐	にぶい褐

第6表　土器観察表(5)

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
29	195	一括11	Ⅳ	7B	胴部	明赤褐	にぶい橙
	196	505,506-1,506-2,510	Ⅳ	11A	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	197	508	Ⅳ	11A	胴部	橙	にぶい橙
	198	517	Ⅳ	11A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	199	533	Ⅳ	11A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	200	223-1,223-2	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	201	一括36	Ⅳ	9B	胴部	赤褐	明赤褐
	202	一括31	Ⅳ	5A	胴部	にぶい赤褐	暗赤褐
	203	806,831-1～831-4,835	Ⅳ	5B	胴部	にぶい橙	橙
30	204	206-1,206-2,222-1,222-2	Ⅳ	9B	胴部	橙	にぶい赤褐
	205	684,685,686,687,744	Ⅳ	8A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	206	234-1,234-2,268	Ⅳ	9B	胴部	橙	にぶい橙
	207	653-1～653-8	Ⅳ	8A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	208	1060,1061	Ⅳ	7A	胴部	明赤褐	橙
	209	198	Ⅳ	9B	胴部	橙	橙
	210	494,498	Ⅳ	11A	胴部	にぶい橙	橙
	211	一括C6,一括C31	Ⅳ	9B	胴部	明赤褐	橙
31	212	173	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	213	694,695	Ⅳ	8B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	214	754	Ⅳ	6B	胴部	淡橙	にぶい橙
	215	320	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	216	332-1	Ⅳ	9A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	217	457	Ⅳ	8B	胴部	橙	明赤褐
	218	591-1～591-5	Ⅳ	7B	胴部	にぶい赤褐	明赤褐
	219	58	Ⅳ	10B	胴部	橙	にぶい赤褐
	220	1012-1,1012-2	Ⅳ	2B	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	221	4	Ⅳ	10B	胴部	明赤褐	暗赤褐
	222	1013,1014	Ⅳ	2B	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	223	213-1,213-2	Ⅳ	9B	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	224	600-1,600-2	Ⅳ	7B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	225	896	Ⅳ	5A	胴部	赤褐	赤褐
	226	839	Ⅳ	5B	胴部	橙	橙
32	227	888-1,888-2	Ⅳ	5A	胴部	赤褐	にぶい赤褐
	228	1063-1,1063-2	Ⅳ	7A	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	229	199	Ⅳ	9B	胴部	橙	にぶい赤褐
	230	520	Ⅳ	11A	胴部	にぶい赤褐	橙
	231	826-1,826-2	Ⅳ	5B	胴部	にぶい赤褐	橙
	232	590-1,590-2	Ⅳ	7B	胴部	にぶい赤褐	明赤褐
	233	326	Ⅳ	9B	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	234	一括C13,一括C14,一括C15	Ⅳ	9B	胴部	橙	橙
	235	293	Ⅳ	9B	胴部	赤褐	明赤褐
	236	177	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	237	163	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	明赤褐
	238	43	Ⅳ	10B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	239	24	Ⅳ	10B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	240	870	Ⅳ	5A	胴部	橙	明赤褐
	241	880-1,880-2	Ⅳ	5A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	242	730	Ⅳ	8B	胴部	灰褐	極暗赤褐
	243	655	Ⅳ	8A	胴部	橙	暗赤褐
	244	846	Ⅳ	5A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐

第7表　土器観察表(6)

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
32	245	562	Ⅳ	7B	胴部	赤褐	暗赤褐
	246	798	Ⅳ	5B	胴部	明赤褐	明赤褐
	247	36	Ⅳ	10B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
33	248	775	Ⅳ	6A	胴部	明赤褐	暗赤褐
	249	1059	Ⅳ	6B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	250	一括31	Ⅳ	9B	胴部	橙	にぶい赤褐
	251	1017	Ⅳ	2B	胴部	にぶい赤褐	明赤褐
	252	801	Ⅳ	5B	胴部	橙	にぶい橙
	253	239	Ⅳ	9B	胴部	橙	にぶい橙
	254	一括C9	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	255	618-1,618-2	Ⅳ	7B	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	256	770	Ⅳ	6A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	257	412	Ⅳ	9A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	258	一括C3	Ⅳ	7B	胴部	赤褐	明赤褐
	259	750	Ⅳ	6B	胴部	橙	橙
	260	238	Ⅳ	9B	胴部	明赤褐	赤褐
	261	993-1,993-2,993-3	Ⅳ	3A	胴部	橙	橙
	262	一括C7	Ⅳ	7B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	263	637	Ⅳ	8A	胴部	明赤褐	赤褐
	264	640	Ⅳ	8A	胴部	明赤褐	暗赤褐
	265	615	Ⅳ	7B	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	266	721	Ⅳ	8B	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	267	616	Ⅳ	7B	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	268	621	Ⅳ	7B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	269	432	Ⅳ	9A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	270	823	Ⅳ	5B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	271	一括13	Ⅳ	5A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
34	272	174	Ⅳ	9B	胴部	橙	赤褐
	273	一括14	Ⅳ	5B	胴部	橙	にぶい赤褐
	274	一括16	Ⅳ	5B	胴部	にぶい橙	赤褐
	275	779	Ⅳ	6A	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	276	855	Ⅳ	5A	胴部	明赤褐	明赤褐
	277	692	Ⅳ	8B	胴部	にぶい黄橙	にぶい橙
	278	一括32	Ⅳ	9B	胴部	にぶい赤褐	明赤褐
	279	676-1,676-2	Ⅳ	7B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	280	769	Ⅳ	6A	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	281	一括35	Ⅳ	5A	胴部	明赤褐	明赤褐
	282	991	Ⅳ	3B	胴部	橙	橙
	283	994-1,994-2	Ⅳ	3A	胴部	橙	にぶい赤褐
	284	627-1,627-2,627-3	Ⅳ	8A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	285	一括15	Ⅳ	5A	胴部	明赤褐	赤褐
	286	463	Ⅳ	8B	胴部	にぶい橙	にぶい褐
	287	400-1,400-2	Ⅳ	9A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	288	667	Ⅳ	8A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	289	477	Ⅳ	8B	胴部	にぶい黄橙	明褐灰
	290	28	Ⅳ	10B	胴部	橙	にぶい橙
	291	849	Ⅳ	5A	胴部	暗赤褐	明赤褐
	292	一括C29	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	293	856	Ⅳ	5A	胴部	にぶい赤褐	明赤褐
	294	525	Ⅳ	11A	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐

第8表　土器観察表(7)

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
34	295	601-1,601-2	Ⅳ	7B	胴部	明赤褐	明赤褐
35	296	401-1,401-2	Ⅳ	9A	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	297	107-1,107-2	Ⅳ	10A	胴部	橙	明赤褐
	298	385-1,385-2,385-3	Ⅳ	9A	胴部	赤褐	にぶい赤褐
	299	491	Ⅳ	11A	胴部	赤褐	赤褐
	300	368,369	Ⅳ	9A	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	301	329,330-1,330-2	Ⅳ	9A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	302	335,337-1,337-2,345	Ⅳ	9A	胴部	にぶい橙	橙
	303	47	Ⅳ	10B	胴部	にぶい赤褐	暗赤褐
	304	895-1,895-2	Ⅳ	5A	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	305	一括1	Ⅳ	7B	胴部	赤褐	にぶい赤褐
	306	一括34	Ⅳ	9B	胴部	にぶい赤褐	にぶい橙
	307	一括20	Ⅳ	2B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	308	783	Ⅳ	6A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
36	309	244,245	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	310	294	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	明赤褐
	311	一括10	Ⅳ	7B	胴部	赤褐	にぶい赤褐
	312	402-1,402-2,402-3	Ⅳ	9A	胴部	にぶい赤褐	にぶい橙
	313	140	Ⅳ	10A	胴部	にぶい橙	橙
	314	332-2	Ⅳ	9A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	315	669	Ⅳ	8A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	316	31,40,一括9	Ⅳ	10B	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	317	419,一括1	Ⅳ	9A	胴部	橙	にぶい赤褐
	318	485	Ⅳ	8B	胴部	にぶい橙	橙
	319	34	Ⅳ	10B	胴部	暗赤褐	にぶい赤褐
	320	一括C2,一括C6	Ⅳ	7B	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	321	一括15	Ⅳ	4B	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	322	1003	Ⅳ	2B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	323	671	Ⅳ	8A	胴部	橙	橙
	324	265-1,265-2	Ⅳ	9B	胴部	橙	にぶい赤褐
	325	907	Ⅳ	5A	胴部	明赤褐	にぶい橙
	326	717	Ⅳ	8B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	327	989	Ⅳ	3B	胴部	橙	にぶい橙
	328	1041	Ⅳ	2A	胴部	明赤褐	赤褐
	329	884	Ⅳ	5A	胴部	明赤褐	橙
37	330	474	Ⅳ	8B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	331	1032,1033,1035(2B)	Ⅳ	2A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	332	33,35,37	Ⅳ	10B	胴部	橙	橙
	333	787	Ⅳ	6A	胴部	明赤褐	明赤褐
	334	644	Ⅳ	8A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	335	204	Ⅳ	9B	胴部	橙	暗赤褐
	336	261,262-1,262-2	Ⅳ	9B	胴部	明赤褐	赤褐
	337	一括C8	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	338	211	Ⅳ	9B	胴部	明赤褐	橙
	339	192,一括26	Ⅳ	9B	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	340	183	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	341	113-1,113-2	Ⅳ	10A	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
38	342	915,一括18	Ⅳ	5A	胴部	明赤褐	にぶい橙
	343	483	Ⅳ	8B	胴部	にぶい橙	橙
	344	1019	Ⅳ	2B	胴部	にぶい橙	にぶい橙

第9表　土器観察表(8)

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
38	345	912-1,912-2	Ⅳ	5A	胴部	にぶい赤褐	にぶい橙
	346	997-1,997-2	Ⅳ	3A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	347	1023,1025	Ⅳ	2B	胴部	明赤褐	明赤褐
	348	26	Ⅳ	10B	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	349	749-1～749-4	Ⅳ	6B	胴部	橙	橙
	350	1026	Ⅳ	2B	胴部	明赤褐	赤褐
	351	358	Ⅳ	9A	胴部	にぶい赤褐	橙
	352	998,999	Ⅳ	2B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	353	608	Ⅳ	7B	胴部	明赤褐	暗赤褐
	354	698	Ⅳ	8B	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙
	355	589	Ⅳ	7B	胴部	にぶい赤褐	赤褐
39	356	793	Ⅳ	5B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	357	377	Ⅳ	9A	胴部	にぶい赤褐	赤褐
	358	526	Ⅳ	11A	胴部	明赤褐	明赤褐
	359	889-1,889-2	Ⅳ	5A	胴部	赤褐	にぶい赤褐
	360	666	Ⅳ	8A	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	361	656-1,656-2	Ⅳ	8A	胴部	橙	橙
	362	906	Ⅳ	5A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	363	585	Ⅳ	7B	胴部	明赤褐	明赤褐
	364	一括4,一括27	Ⅳ	5A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	365	847-1～847-5	Ⅳ	5A	胴部	赤褐	にぶい赤褐
	366	576-1,576-2,576-3	Ⅳ	7B	胴部	赤褐	暗赤褐
	367	972	Ⅳ	4A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	368	484	Ⅳ	8B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	369	486	Ⅳ	8B	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	370	661	Ⅳ	8A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	371	973	Ⅳ	4A	胴部	にぶい橙	灰褐
	372	796-1,796-2	Ⅳ	5B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	373	773-1	Ⅳ	6A	胴部	明赤褐	赤褐
	374	471	Ⅳ	8B	胴部	橙	にぶい赤褐
	375	609	Ⅳ	7B	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	376	169	Ⅳ	9B	胴部	橙	にぶい橙
40	377	132-1,132-2	Ⅳ	10A	胴部	にぶい橙	橙
	378	447	Ⅳ	8B	胴部	にぶい橙	にぶい褐
	379	1018	Ⅳ	2B	胴部	明赤褐	暗赤褐
	380	913	Ⅳ	5A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	381	911-1,911-2	Ⅳ	5A	胴部	明赤褐	にぶい橙
	382	882	Ⅳ	5A	胴部	赤褐	にぶい赤褐
	383	670	Ⅳ	8A	胴部	にぶい橙	橙
	384	878-1,878-2	Ⅳ	5A	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	385	327-4	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	386	一括5	Ⅳ	5A	胴部	にぶい赤褐	赤褐
	387	一括19,一括20	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	388	934	Ⅳ	4B	胴部	明赤褐	橙
	389	一括5	Ⅳ	4B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	390	665	Ⅳ	8A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	391	842	Ⅳ	5B	胴部	にぶい橙	灰褐
	392	一括34	Ⅳ	5A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	393	一括25	Ⅳ	7B	胴部	暗赤褐	赤褐
	394	373	Ⅳ	9A	胴部	灰褐	灰褐

第10表　土器観察表(9)

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
40	395	一括21	Ⅳ	7B	胴部	赤褐	極暗赤褐
	396	75,一括10(10B)	Ⅳ	10A	胴部	にぶい橙	橙
	397	202	Ⅳ	9B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	398	258	Ⅳ	9B	胴部	橙	赤褐
41	399	794,795,797,859	Ⅳ	5B	胴部	橙	にぶい赤褐
	400	一括10,一括13	Ⅳ	5B	胴部	橙	にぶい赤褐
	401	346	Ⅳ	9A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	402	352	Ⅳ	9A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	403	253	Ⅳ	9B	胴部	明赤褐	灰褐
	404	718	Ⅳ	8B	胴部	橙	黒褐
	405	354	Ⅳ	9A	胴部	赤褐	暗赤褐
	406	348-1,348-2	Ⅳ	9A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	407	353	Ⅳ	9A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	408	一括2	Ⅳ	2A	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	409	460	Ⅳ	8B	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	410	956-2～956-7	Ⅳ	4B	胴部	にぶい赤褐	暗赤褐
	411	971	Ⅳ	4A	胴部	にぶい赤褐	暗赤褐
	412	950-1	Ⅳ	4B	胴部	にぶい赤褐	暗赤褐
42	413	950-2	Ⅳ	4B	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	414	956-1,979-1	Ⅳ	4B	胴部	にぶい赤褐	暗赤褐
	415	1048-1	Ⅳ	2A	胴部	暗赤褐	にぶい赤褐
	416	1044-1,1044-2	Ⅳ	2A	胴部	暗赤褐	にぶい赤褐
	417	1046	Ⅳ	2A	胴部	にぶい橙	暗赤褐
	418	1045-1	Ⅳ	2A	胴部	にぶい赤褐	暗赤褐
	419	1045-2	Ⅳ	2A	胴部	にぶい赤褐	暗赤褐
	420	1043	Ⅳ	2A	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	421	877-1～877-4	Ⅳ	5A	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	422	891	Ⅳ	5A	胴部	にぶい橙	灰褐
	423	一括30	Ⅳ	5A	胴部	にぶい橙	明褐灰
	424	一括18	Ⅳ	4B	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	425	一括32	Ⅳ	5A	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	426	一括19	Ⅳ	4B	胴部	明赤褐	明赤褐
	427	一括47	Ⅳ	5A	胴部	にぶい赤褐	赤褐
	428	一括10	Ⅳ	3B	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
43	429	427,706-1,706-2	Ⅳ	8B	底部	にぶい褐	灰褐
	430	580-1,580-2	Ⅳ	7B	底部	明赤褐	明赤褐
	431	928-1～18,978-1～4	Ⅳ	4B	底部	明赤褐	明赤褐
	432	327-1～3,490-1～3	Ⅳ	9B	底部	橙	明赤褐
	433	178,179,190	Ⅳ	9B	底部	にぶい橙	橙
	434	573,577-1～577-10	Ⅳ	7B	底部	明赤褐	明赤褐
	435	887,910-1,910-2,一括20,901,908	Ⅳ	5A	底部	赤褐	にぶい赤褐
44	436	691-1(8A),691-2(8A),693,700	Ⅳ	8B	底部	にぶい橙	にぶい橙
	437	2-1,2-2,2-3,一括17	Ⅳ	10B	底部	にぶい橙	橙
	438	154,156-1,156-2	Ⅳ	10A	底部	にぶい赤褐	赤褐
	439	133,168	Ⅳ	10A	底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙
	440	46	Ⅳ	10B	底部	にぶい橙	にぶい橙
	441	435	Ⅳ	8B	底部	明赤褐	赤褐
	442	242,266,281-1～4	Ⅳ	9B	底部	にぶい橙	にぶい赤褐
	443	189,287	Ⅳ	9B	底部	にぶい橙	にぶい橙
	444	282-1,282-2,302	Ⅳ	9B	底部	にぶい橙	にぶい橙

第11表　土器観察表(10)

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
45	445	976,977	Ⅳ	4A	底部	橙	橙
	446	298,300	Ⅳ	9B	底部	橙	明赤褐
	447	251,256-1,256-2	Ⅳ	9B	底部	明赤褐	にぶい赤褐
	448	264	Ⅳ	9B	底部	にぶい橙	にぶい橙
	449	709,746	Ⅳ	8B	底部	にぶい橙	にぶい褐
	450	808-1,808-2	Ⅳ	5B	底部	橙	にぶい赤褐
	451	680	Ⅳ	8A	底部	にぶい橙	にぶい赤褐
	452	854,一括45,一括46	Ⅳ	5A	底部	橙	にぶい赤褐
	453	188	Ⅳ	9B	底部	にぶい橙	にぶい橙
	454	194	Ⅳ	9B	底部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	455	一括10	Ⅳ	2A	底部	にぶい赤褐	にぶい橙
	456	791	Ⅳ	5B	底部	橙	橙
	457	428	Ⅳ	8B	底部	にぶい橙	にぶい橙
	458	546	Ⅳ	11A	底部	橙	明赤褐
	459	824	Ⅳ	5B	底部	にぶい橙	橙
	460	563	Ⅳ	7B	底部	にぶい橙	にぶい赤褐
46	461	一括4	Ⅳ	11A	底部	にぶい橙	にぶい橙
	462	一括9	Ⅳ	2A	底部	明赤褐	赤褐
	463	581	Ⅳ	7B	底部	灰褐	暗赤褐
	464	367	Ⅳ	9A	底部	にぶい褐	にぶい橙
	465	208	Ⅳ	9B	底部	明赤褐	にぶい赤褐
	466	817	Ⅳ	5B	底部	明赤褐	明赤褐
	467	一括5	Ⅳ	7A	底部	赤褐	赤褐
	468	185	Ⅳ	9B	底部	にぶい橙	明赤褐
	469	61	Ⅳ	10B	底部	橙	橙
	470	445	Ⅳ	8B	底部	にぶい赤褐	明赤褐
	471	一括C18	Ⅳ	9B	底部	にぶい赤褐	にぶい橙
	472	1058	Ⅳ	6B	底部	にぶい赤褐	にぶい橙
	473	748	Ⅳ	6B	底部	にぶい橙	にぶい橙
	474	916	Ⅳ	5A	底部	にぶい橙	にぶい橙
	475	819,820-1～3,821,825-1～11	Ⅳ	5B	底部	にぶい橙	にぶい橙
	476	321,323-1,323-2,363	Ⅳ	9B	底部	にぶい橙	にぶい橙
47	477	193,203	Ⅳ	9B	底部	明赤褐	にぶい赤褐
	478	59	Ⅳ	10B	底部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	479	406,424-1～3	Ⅳ	9A	底部	にぶい赤褐	赤褐
	480	780	Ⅳ	6A	底部	にぶい赤褐	赤褐
	481	23-1,23-2	Ⅳ	10B	底部	にぶい橙	にぶい橙
	482	1015	Ⅳ	2B	底部	にぶい橙	にぶい橙
	483	618-3,一括C11	Ⅳ	7B	底部	明赤褐	にぶい赤褐
	484	662	Ⅳ	8A	底部	橙	にぶい橙
	485	501-1,501-2	Ⅳ	11A	底部	橙	明赤褐
	486	1062	Ⅳ	7A	底部	にぶい赤褐	赤褐
	487	438	Ⅳ	8B	底部	橙	橙
	488	一括6	Ⅳ	2B	底部	にぶい橙	にぶい橙
	489	246,272,289,299,328	Ⅳ	9B	底部	橙	橙
	490	503	Ⅳ	11A	底部	橙	にぶい橙
	491	152	Ⅳ	10A	底部	橙	明赤褐
48	492	689	Ⅳ	8A	底部	にぶい橙	淡橙
	493	一括10	Ⅳ	2B	底部	橙	橙
	494	587	Ⅳ	7B	底部	にぶい橙	にぶい橙

第12表　土器観察表(11)

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
48	495	725	Ⅳ	8B	底部	にぶい橙	にぶい橙
	496	623	Ⅳ	7B	底部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	497	一括19	Ⅳ	5A	底部	赤褐	にぶい赤褐
	498	310	Ⅳ	9B	底部	にぶい橙	にぶい橙
	499	869	Ⅳ	5A	底部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	500	一括C16	Ⅳ	9B	底部	橙	にぶい橙
	501	248,250,254,257,一括25	Ⅳ	9B	底部	にぶい橙	橙
	502	1038	Ⅳ	2A	底部	暗赤褐	暗赤褐
	503	467	Ⅳ	8B	底部	にぶい橙	にぶい橙
	504	42,49	Ⅳ	10B	底部	にぶい橙	にぶい橙
	505	一括7	Ⅳ	3B	底部	にぶい赤褐	にぶい赤褐

第13表　石器観察表(1)

挿図番号	遺物番号	器種	出土区	取上番号	出土層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量g	石材
49	506	石鏃	5A	858	Ⅳ	1.3	1.6	0.3	0.7	チャート
	507	石鏃	10B	15	Ⅳ	1.7	1.3	0.2	0.4	頁岩
	508	剥片石器	9B	263	Ⅳ	10.4	6.8	2.1	192.3	砂岩
	509	剥片石器	9A	333	Ⅳ	4.0	6.1	1.1	22.7	砂岩
	510	剥片石器	9A	361	Ⅳ	10.5	7.7	1.6	123	砂岩
	511	剥片石器	10A	147	Ⅳ	18.5	4.6	2.2	260.7	砂岩
50	512	磨石	4B	932	Ⅳ	10.8	8.8	5.3	719	砂岩
	513	磨石	9A	382	Ⅳ	9.8	8.8	4.5	554	砂岩
	514	磨石	9A	389	Ⅳ	7.3	6.7	3.7	265	砂岩
	515	磨石	5A	873	Ⅳ	11.6	10.3	3.7	627	砂岩
	516	磨石	4B	920	Ⅳ	10.3	9.3	5.4	734	砂岩
	517	磨石	10A	151	Ⅳ	9.3	7.3	5.3	493	砂岩
51	518	磨石	6A	771	Ⅳ	10.2	7.5	2.7	255	砂岩
	519	磨石	8A	652	Ⅳ	15.0	12.0	5.4	619	砂岩
	520	磨石	5B	802	Ⅳ	9.4	5.9	2.9	222	砂岩
	521	磨石	9B	309	Ⅳ	7.8	5.2	3.4	151	砂岩
	522	磨石	4B	939	Ⅳ	7.0	6.6	3.8	235	砂岩
	523	磨石敲石	6A	776	Ⅳ	12.6	8.4	4.9	688	砂岩
	524	磨石敲石	9B	319	Ⅳ	10.9	7.0	4.0	440	砂岩
52	525	磨石敲石	10B	50	Ⅳ	8.0	7.3	3.2	264	砂岩
	526	磨石敲石	8B	425	Ⅳ	8.4	5.9	3.5	253	砂岩
	527	磨石敲石	8A	625	Ⅳ	11.5	8.8	4.7	631	砂岩
	528	磨石敲石	8A	660	Ⅳ	10.1	8.1	3.4	420	砂岩
	529	磨石敲石	4B	945	Ⅳ	7.3	7.0	3.4	250	砂岩
	530	磨石敲石	9B	489	Ⅳ	10.2	8.3	4.5	583	砂岩
53	531	磨石敲石	2B	1009	Ⅳ	11.5	8.6	3.8	567	砂岩
	532	磨石敲石	8A	681	Ⅳ	7.3	7.2	3.5	267	砂岩
	533	磨石敲石	4B	918	Ⅳ	6.1	5.5	2.7	130	砂岩
	534	磨石敲石	2B	1034	Ⅳ	10.8	10.3	4.8	730	砂岩
	535	磨石敲石	9A	349	Ⅳ	8.1	5.6	3.7	230	砂岩
	536	磨石敲石	11A	558	Ⅳ	10.7	6.9	4.2	476	砂岩
	537	磨石敲石	8A	646	Ⅳ	8.0	6.2	3.0	218	砂岩
54	538	磨石敲石	5A	886	Ⅳ	8.0	4.3	4.3	198	砂岩
	539	磨石敲石	10B	12	Ⅳ	7.5	5.5	4.1	245	砂岩
	540	磨石敲石	5A	881	Ⅳ	7.4	8.2	4.0	276	砂岩
	541	磨石敲石	6B	761	Ⅳ	5.4	6.0	2.3	99	砂岩
	542	磨石敲石	4B	926	Ⅳ	8.9	11.0	6.9	699	砂岩
	543	磨石敲石	5B	812	Ⅳ	5.7	6.6	2.8	151.1	砂岩
	544	磨石敲石	10A	77	Ⅳ	13.2	4.6	1.9	151.1	砂岩
55	545	台石石皿	10B	71	Ⅳ	22.0	15.1	5.0	1965	砂岩
	546	台石石皿	4A	982	Ⅳ	18.1	18.1	5.1	2380	砂岩
	547	台石石皿	9B	285	Ⅳ	17.7	17.7	5.6	2210	砂岩
	548	台石石皿	4B	938	Ⅳ	15.8	13.3	7.0	2140	砂岩
56	549	台石石皿	9B	176	Ⅳ	19.0	21.6	7.1	4050	砂岩
	550	台石石皿	7B	632	Ⅳ	7.5	10.4	2.2	225	砂岩
	551	台石石皿	8A	648	Ⅳ	7.2	6.8	3.0	201	砂岩
	552	台石石皿	8B	737	Ⅳ	4.7	6.5	3.8	100	砂岩
57	553	台石石皿	9B	488	Ⅳ	20.2	20.7	5.6	3930	砂岩
	554	台石石皿	8A	668	Ⅳ	35.6	28.6	9.8	11890	砂岩
58	555	砥石	6B	757	Ⅳ	10.5	7.7	5.6	489	砂岩
	556	砥石	9B	292	Ⅳ	11.6	10.5	5.0	673	砂岩
	557	砥石	4B	929	Ⅳ	20.7	17.0	4.8	1910	砂岩
59	558	J字型磨製異形石器	8B	707	Ⅳ	8.5	4.1	0.8	29.5	片岩
60	559	石偶	9A	343	Ⅳ	10.0	5.6	5.3	295	砂岩

写真図版

写真図版1　発掘調査状況(上段9A区・下段4A,4B区)

写真図版2　遺物出土状況(上段8B，9A区・下段8B区)

（左10A区・右10B区）

（左5A区・右8B区）

（左9A区・右9B区）

写真図版3　土器出土状況

（左5A区・右9A区）

（左6B区・右10A区）

（8B区J字型磨製異形石器出土状況）

写真図版4　石器出土状況

写真図版5　出土土器

写真図版6　出土土器

写真図版7　出土土器

写真図版8　出土土器

写真図版9　出土土器

写真図版10　出土土器

写真図版11　出土土器

98
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116

写真図版12　出土土器

写真図版13　出土土器

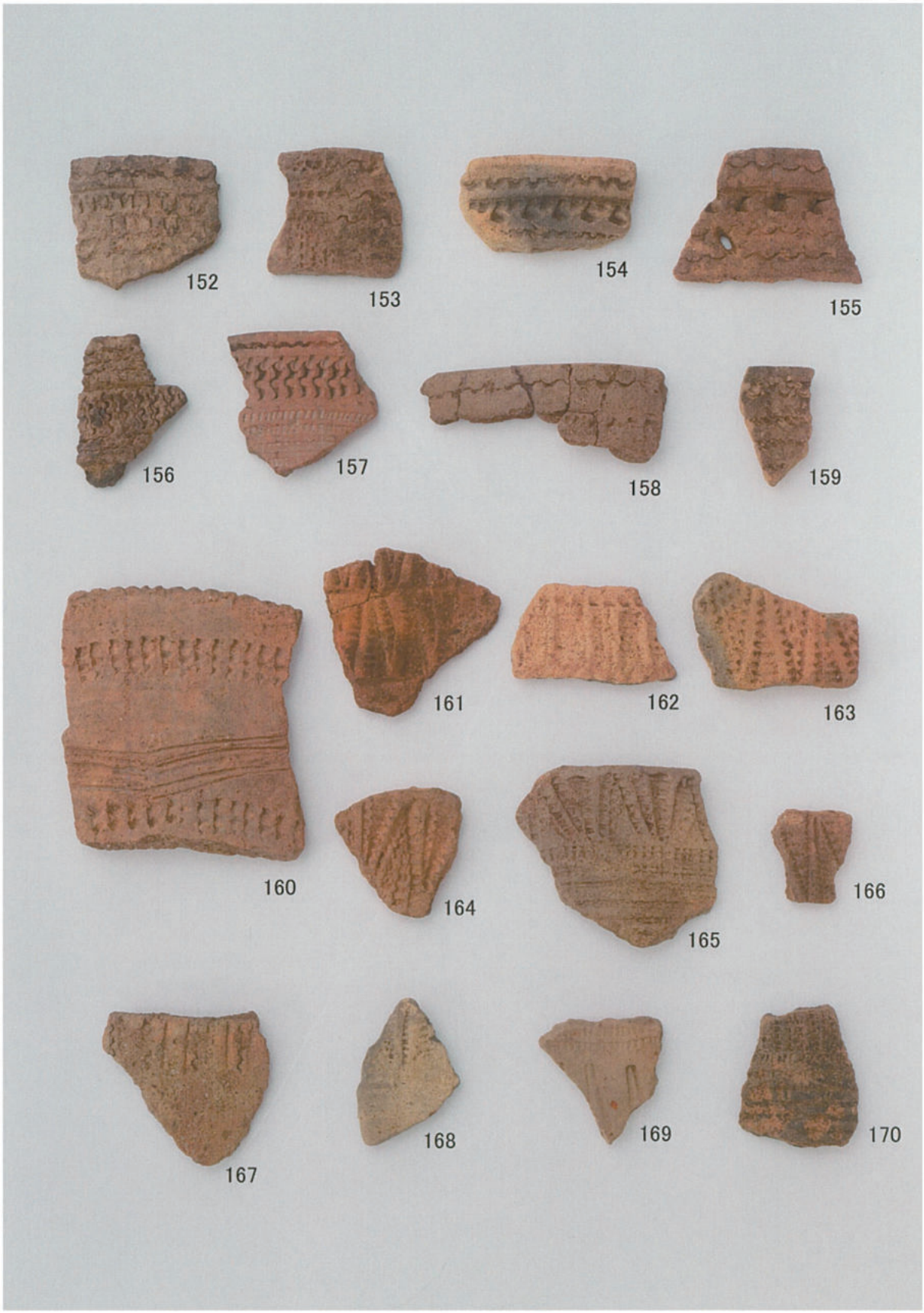
123

130

写真図版14　出土土器

133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151

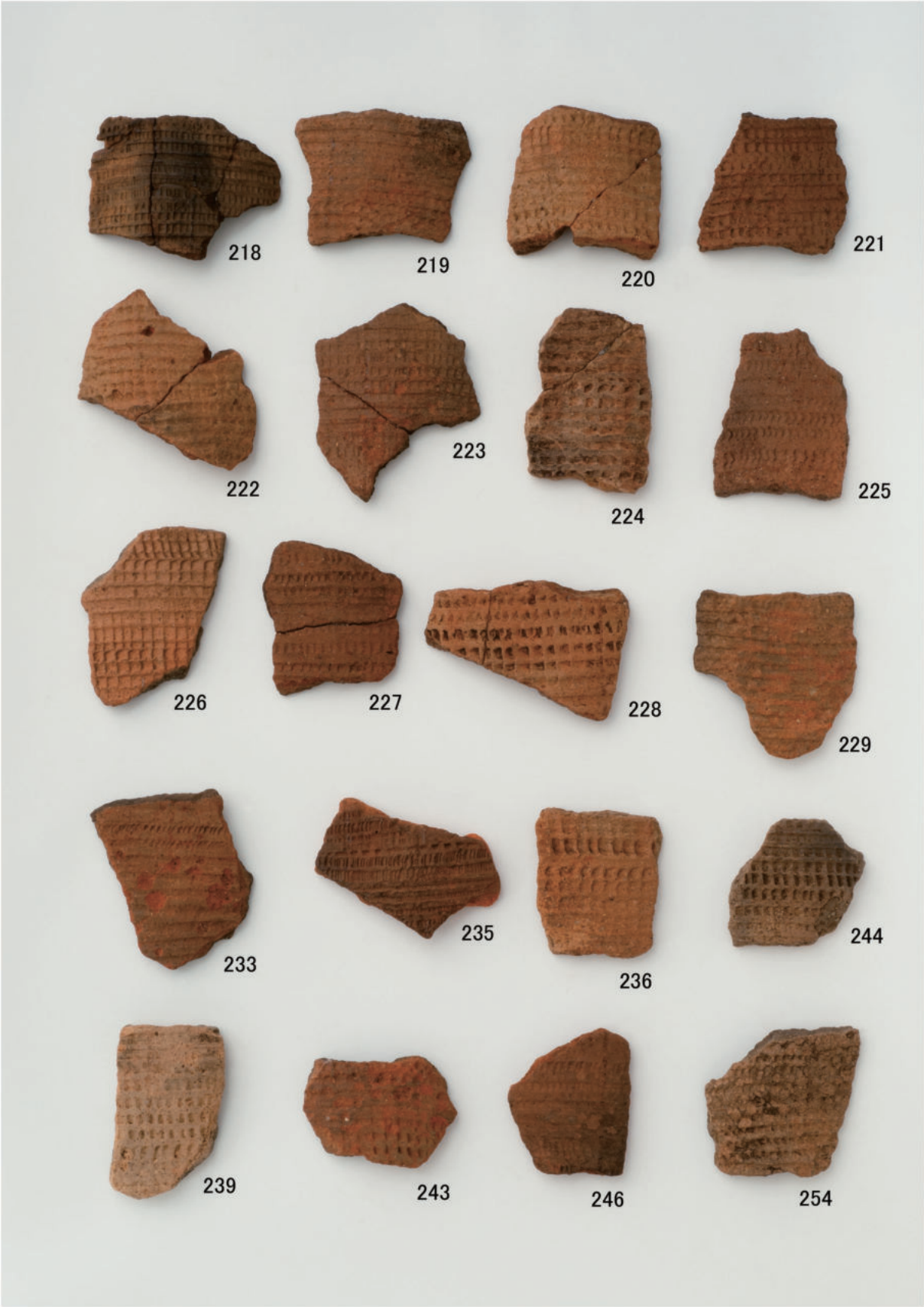
写真図版15　出土土器


152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170

写真図版16　出土土器

写真図版17　出土土器

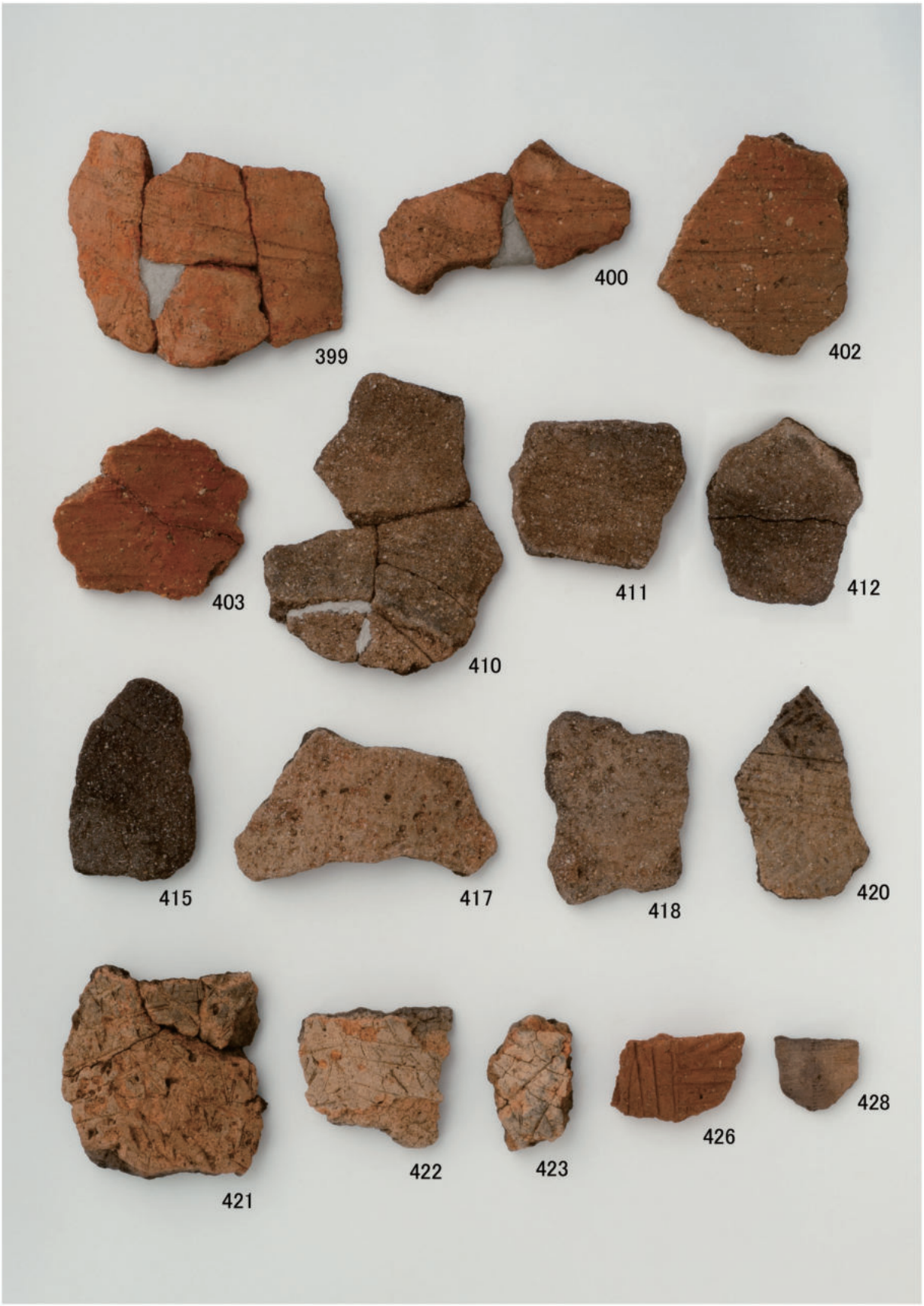
写真図版18　出土土器


218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
233
235
236
244
239
243
246
254

写真図版19　出土土器

写真図版20　出土土器

写真図版21　出土土器



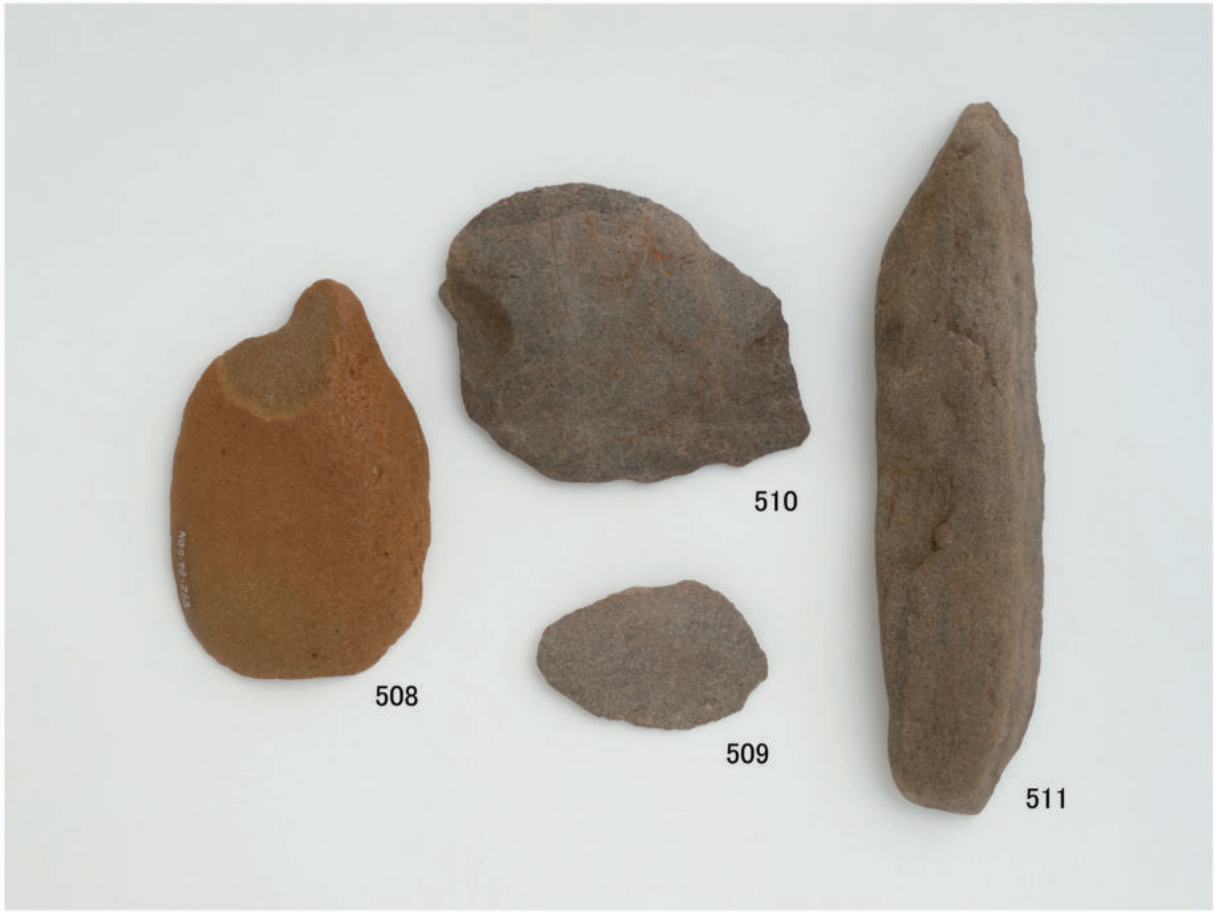
写真図版22　出土土器

写真図版23　出土土器

写真図版24　出土土器

写真図版25　出土土器

写真図版26　出土土器



写真図版27　出土石器

写真図版28　出土石器

写真図版29　出土石器

写真図版30　出土石器

559

写真図版31　出土石器

第Ⅳ章　二石遺跡　発掘調査の概要

第１節　調査の概要

二石遺跡の発掘調査対象地に 20 ｍごとに杭を設置し，調査を進めていった。調査対象地の道路は調査期間中も耕作道として利用されている農道であり，道沿いに隣接する畑地の管理を耕作者が常に行う必要があったため，複数の耕作者と協議調整を行ないながら，調査着手順を決めて作業を行った。よって,調査は必ずしも調査区昇順どおりには,行うことが出来なかった。

調査は，表土から第Ⅲ層までを重機で取り除いた後，人力で掘り下げながら，遺物及び遺構の検出を行なっていった。遺物の出土分布状況は，調査区ごとにバラつきが見られ、0 区・9 区及び 13 区～ 15 区は遺物の出土分布量が密であり，遺物の平板実測・レベル測定作業にかなりの時間を割いた。調査地の土層断面は実測作業を行い，遺物出土状況・土層断面・発掘作業状況などは随時写真撮影で記録を行った。

また，検出した 3 基の遺構（集石）については，写真撮影・実測作業を行った。番号を付けて取上げた遺物は 860 点であった。調査面積は約 1,000 ㎡である。

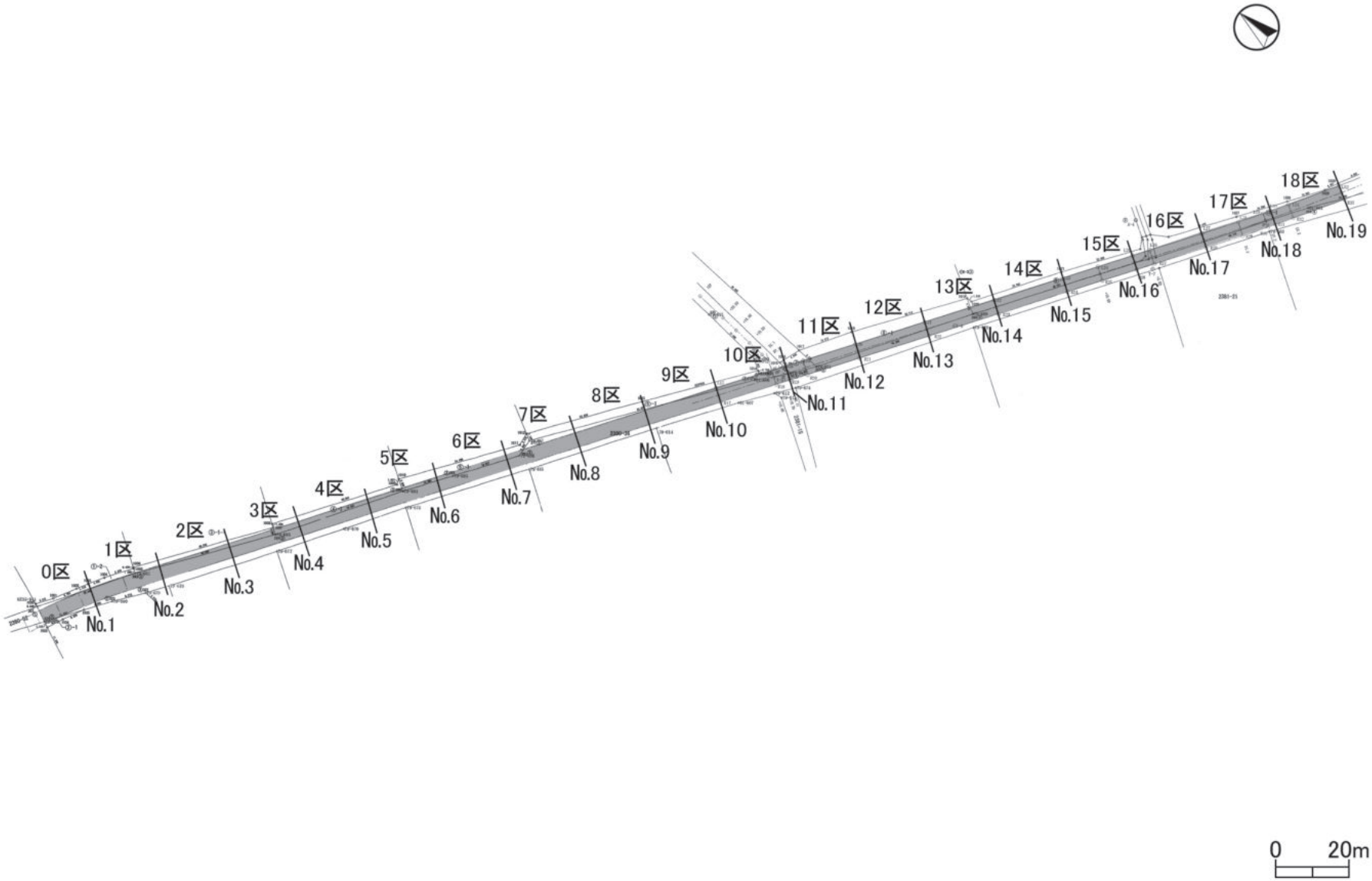
第２節　層　位

土層は場所によって一部の層が欠落している部分もあるが，基本的には下記のとおりである。土層の堆積状況は下位にいくにつれ良好であった。前述した，長迫遺跡の層位と同様である。

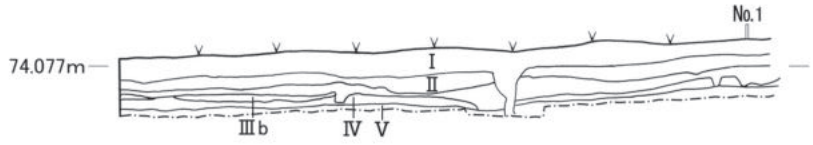
Ⅰ層	表土	ハエ石層を含む。場所によって，著しく堅く締まっている。
Ⅱ層	黒色土層（旧表土）	下位にカクラン層が混じる場合あり。
Ⅲ層	黄橙色火山灰土層	アカホヤ火山灰層，鬼界カルデラ噴出堆積物。 場所によっては， 「Ⅲａ」・・・・・2 次堆積物 「Ⅲｂ」・・・・・1 次堆積物に分層可能である。
Ⅳ層	ベージュ色粘質土層	遺物包含層（縄文時代早期）
Ⅴ層	褐色土層	場所によって粘質が強くなる。Ⅳ層との分層部分に漸移がみられる。
Ⅵ層	黄褐色ローム層	粘質が強い。

213-70
日守C
213-115
三本松
川脇
213-106
長迫
213-69
日守B
△75.4
213-68
日守
発掘調査対象地
78
213-124
大野
213-120
△120.4
213-135
中峯
213-108
東前平
0
200m

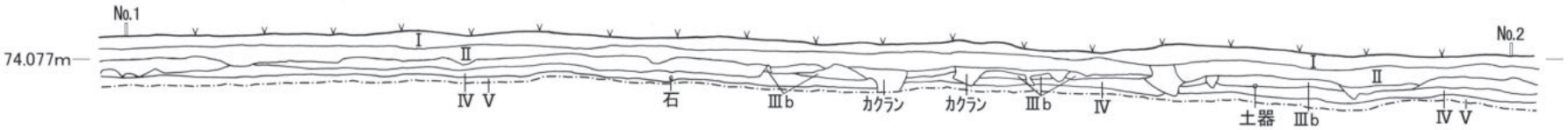
第1図　発掘調査対象地



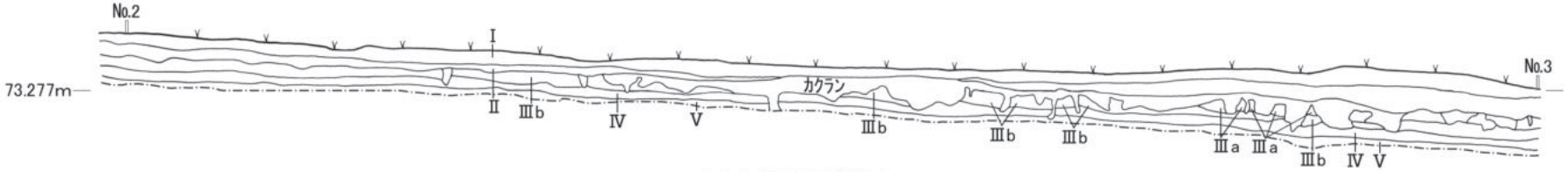
第2図　発掘調査対象地グリット配置図



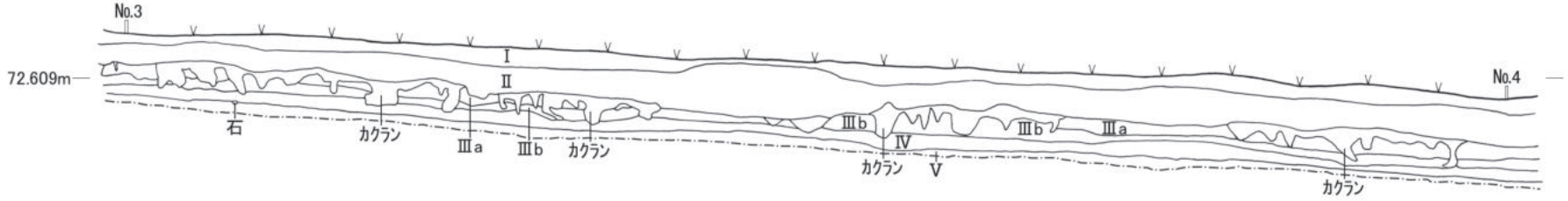
0区北側土層断面



1区北側土層断面

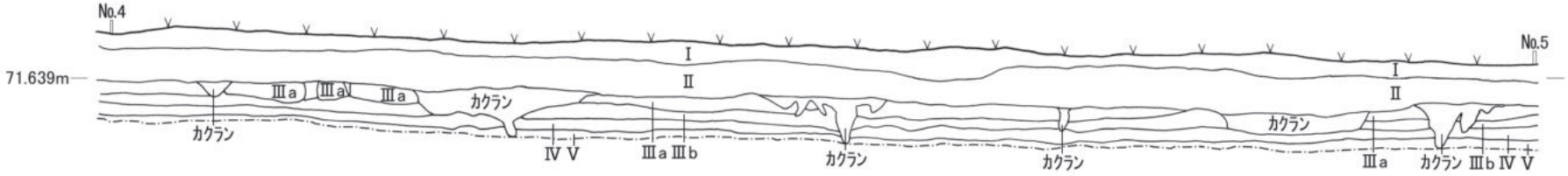


2区北側土層断面

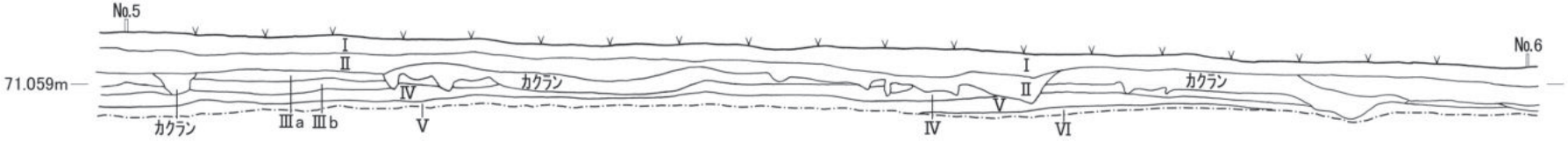


3区北側土層断面

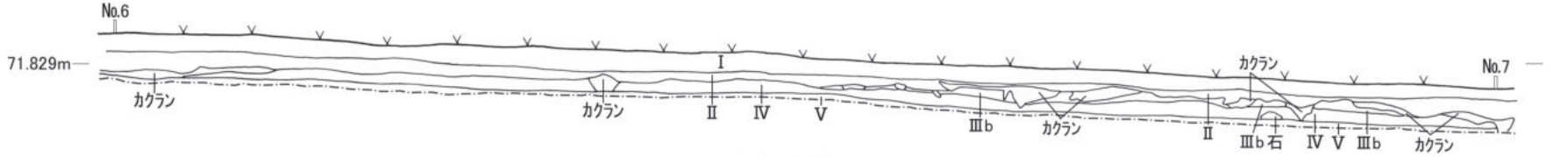
第3図　土層断面図(1)



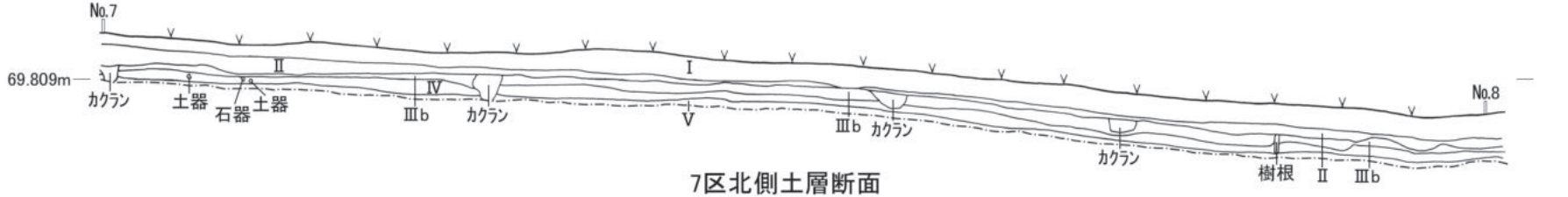
4区北側土層断面



5区北側土層断面



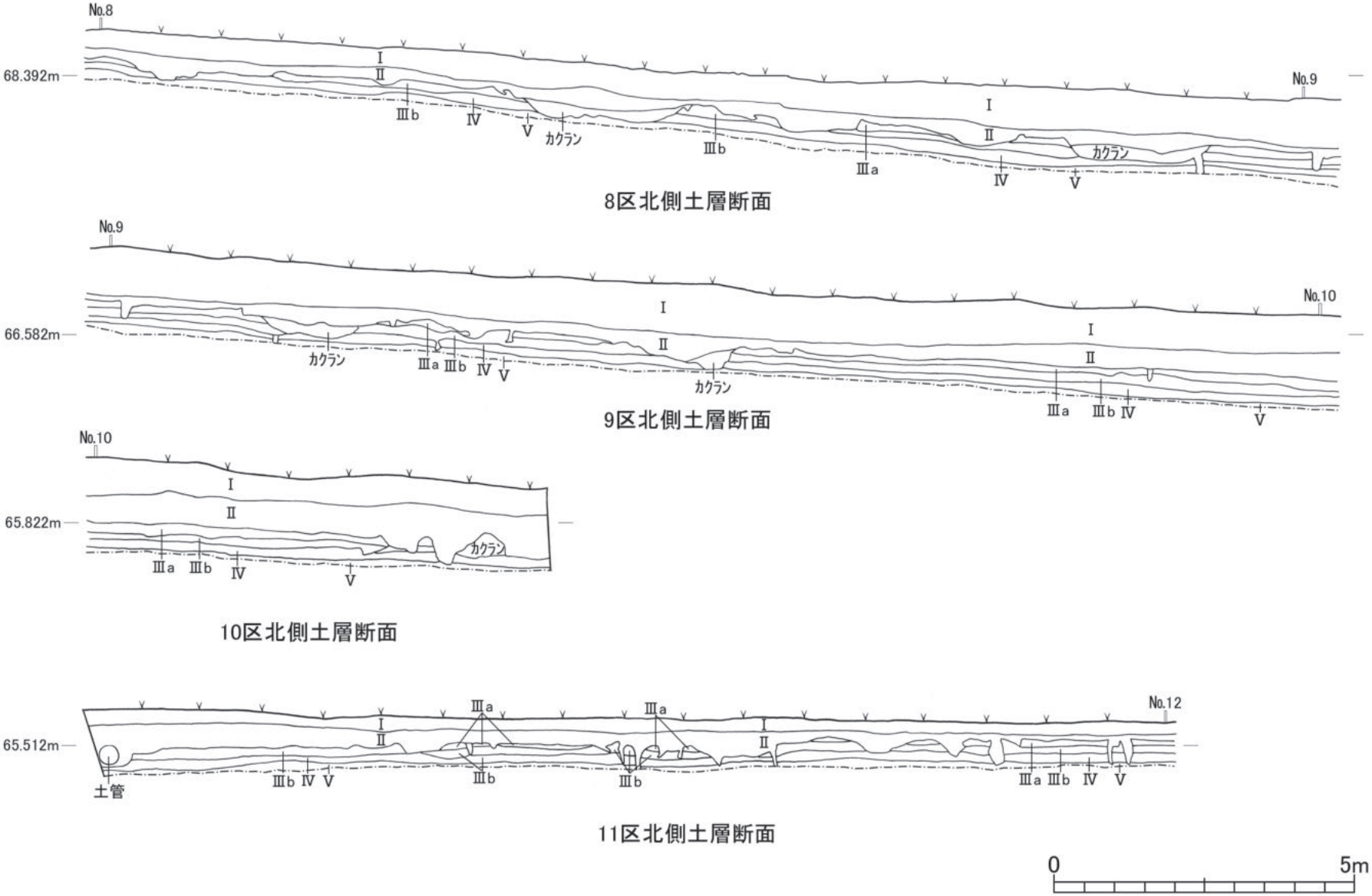
6区北側土層断面



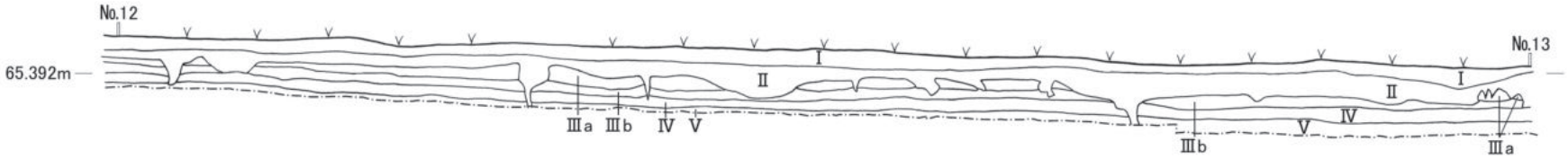
7区北側土層断面

0 5m

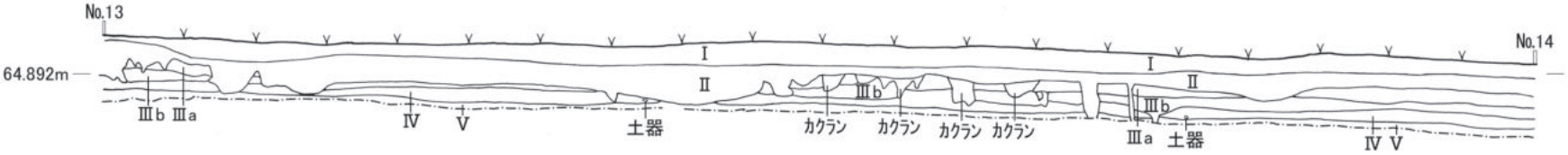
第4図　土層断面図(2)


No.8
68.392m
No.9
I
II
IIIb
IV
V
カクラン
IIIa
8区北側土層断面
No.9
66.582m
No.10
9区北側土層断面
No.10
65.822m
10区北側土層断面
No.12
65.512m
土管
11区北側土層断面
0
5m

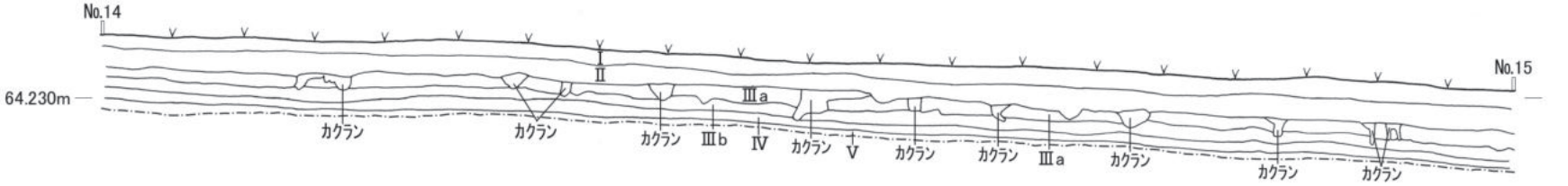
第5図　土層断面図(3)



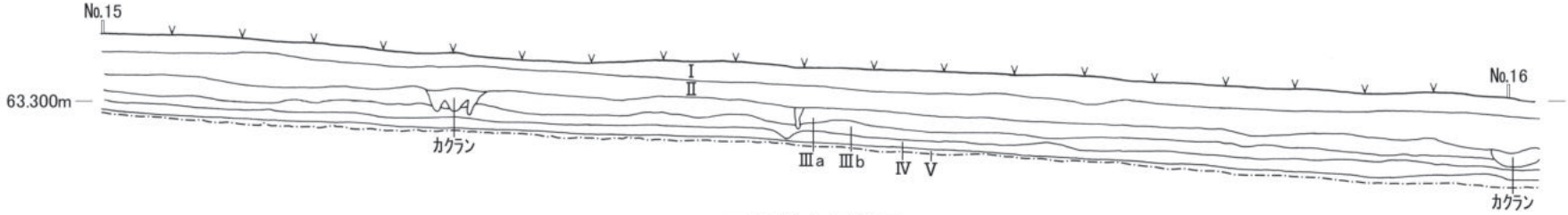
12区北側土層断面



13区北側土層断面

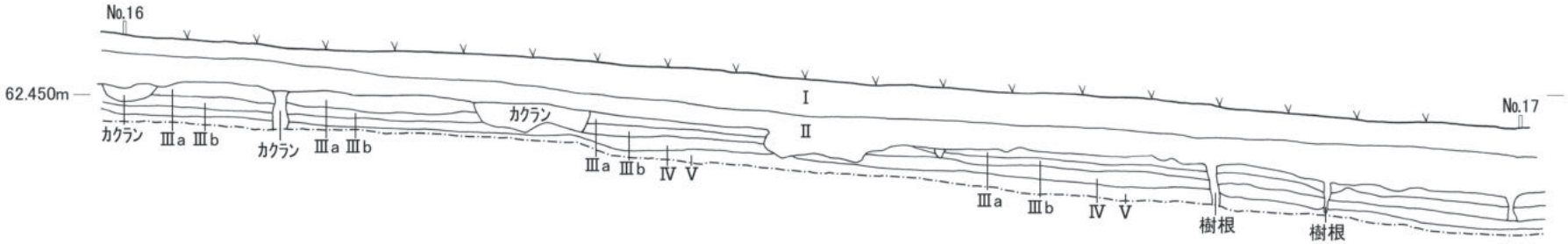


14区北側土層断面

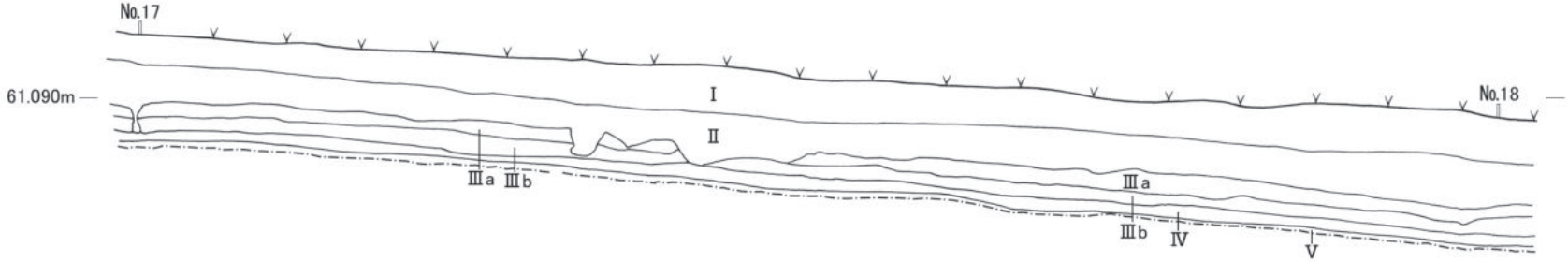


15区北側土層断面

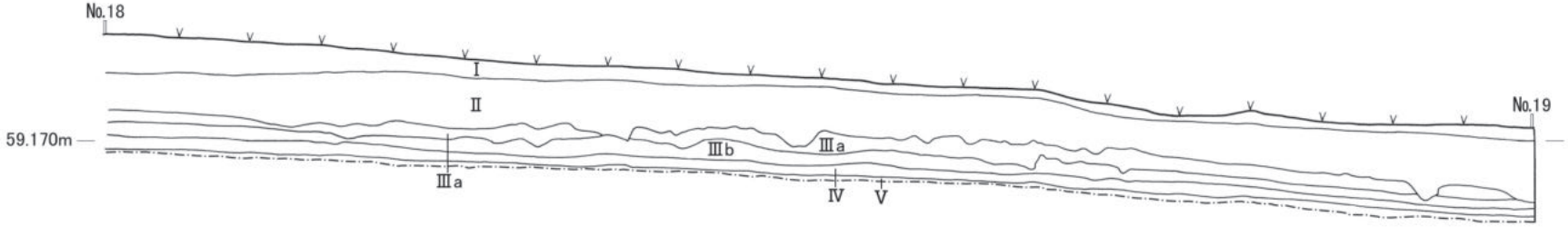
第6図　土層断面図(4)



16区北側土層断面



17区北側土層断面



18区北側土層断面

第7図　土層断面図(5)

第３節　遺　構

遺構は集石が３基検出され，検出地は１区・12 区・13 区であった。検出面はいずれも第Ⅳ層である。

１号集石遺構（第９図）

検出状況　　１区，第Ⅳ層面で検出。

形状と規模　100 ㎝× 100 ㎝の範囲内に，約 30 ㎝の大型の礫が２点配置され，その北側に 50 ㎝以下の礫数十点が一部まとまった状態で検出されたが，礫がぎっしり密集している感ではなく，全体的にばらついた状態である。大型の礫２点は炎熱を受け赤化していた。

２号集石遺構（第９図）

検出状況　　13 区，第Ⅳ層面で検出。

形状と規模　80 ㎝× 70 ㎝の範囲内に，礫約 50 点がぎっしり密集した形で構成されている。礫のほとんどが炎熱を受け赤化している。また，炭化物が付着している礫が２点あり，サンプルを採取し年代測定を行った。構成される礫の大きさは拳大か，それよりやや大きめのものであった。

３号集石遺構（第 10 図）

検出状況　　12 区北側壁面そば，第Ⅳ層面で検出

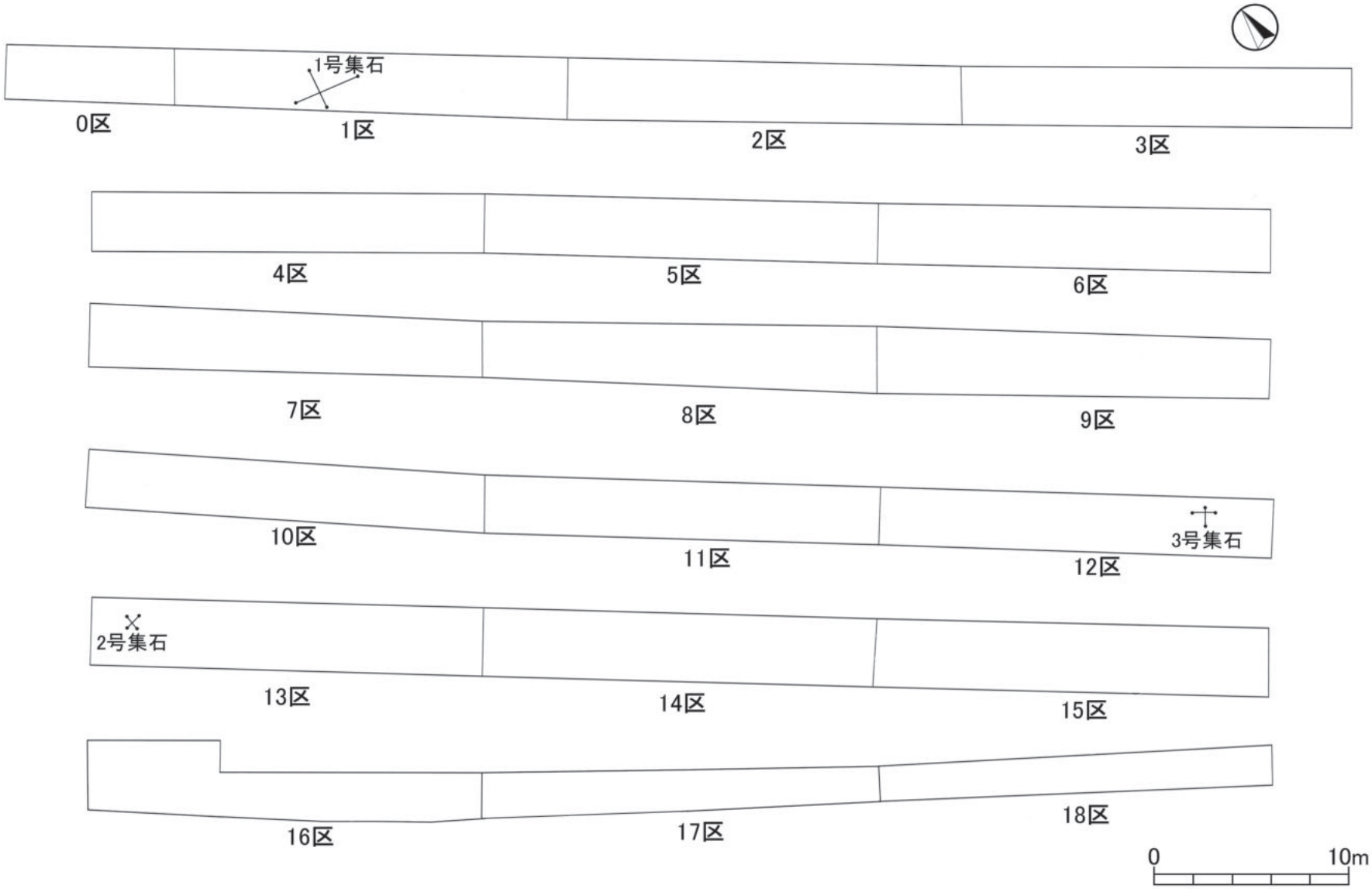
形状と規模　80 ㎝× 60 ㎝の範囲内に，礫約 40 点から構成されており，礫はぎっしり密集した形である。礫は大きいもので約 20 ㎝，小さいものは約５㎝であり，全体的に炎熱を受け赤化しており，熱破砕を受けているものも一部見られる。北壁面側での検出であったため，全体像を捉えることができず，集石は北壁面側に向けて若干広がると思われる。なお，集石から約 20 ㎝離れたところで，稜をもつ吉田式土器が出土している。

第４節　遺　物

遺物は土器片・石器類等が出土した。出土した層は全てアカホヤ火山灰層下位の，第Ⅳ層である。時期区分では１を除いて，縄文時代早期に該当するものである。

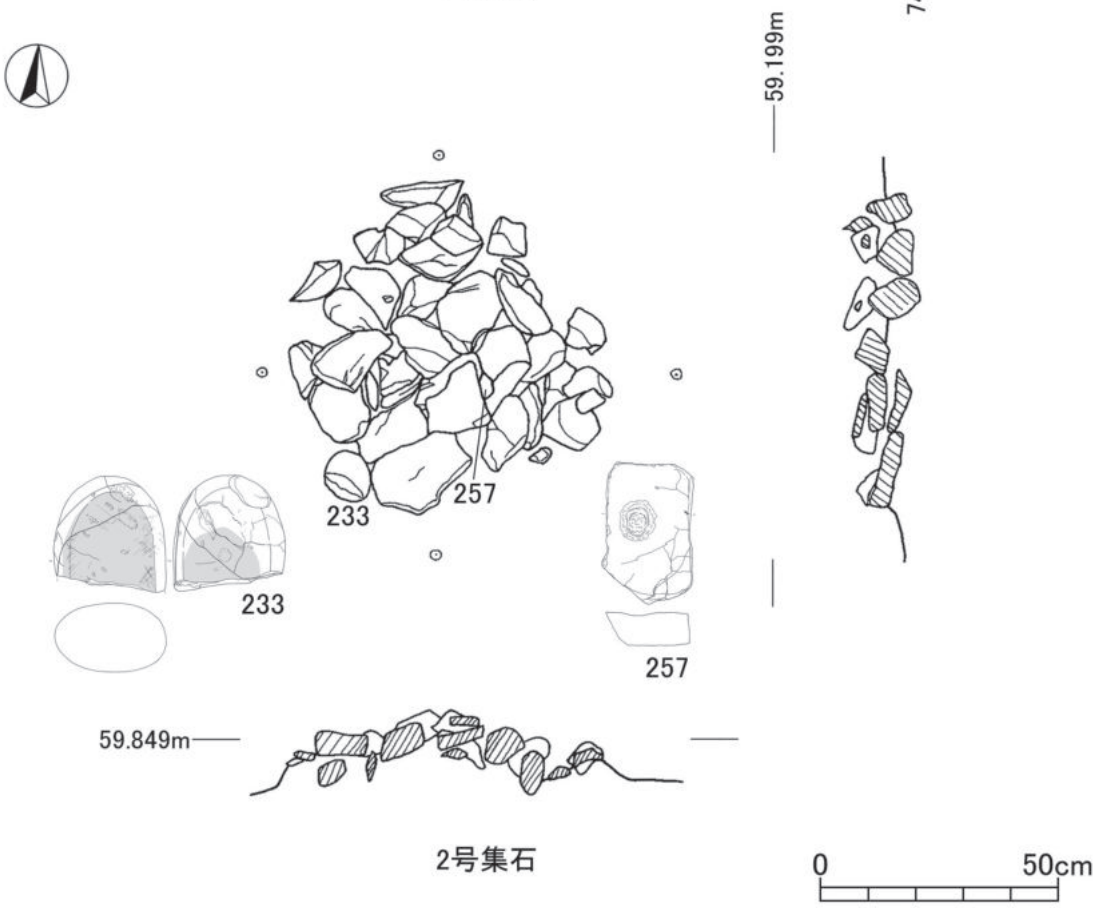
（1）土　器

土器片は全て第Ⅳ層からの出土であり，番号を付けて取り上げた土器片は 507 点であった。これらを口縁部の諸特徴から大きく第１類～第６類に分類した。分類は文様のあり方及び器形を総合的に判断して行った。なお，胴部片・底部片は特徴ごとに一括して掲載している。


1号集石
0区
1区
2区
3区
4区
5区
6区
7区
8区
9区
10区
11区
12区
3号集石
2号集石
13区
14区
15区
16区
17区
18区
0
10m

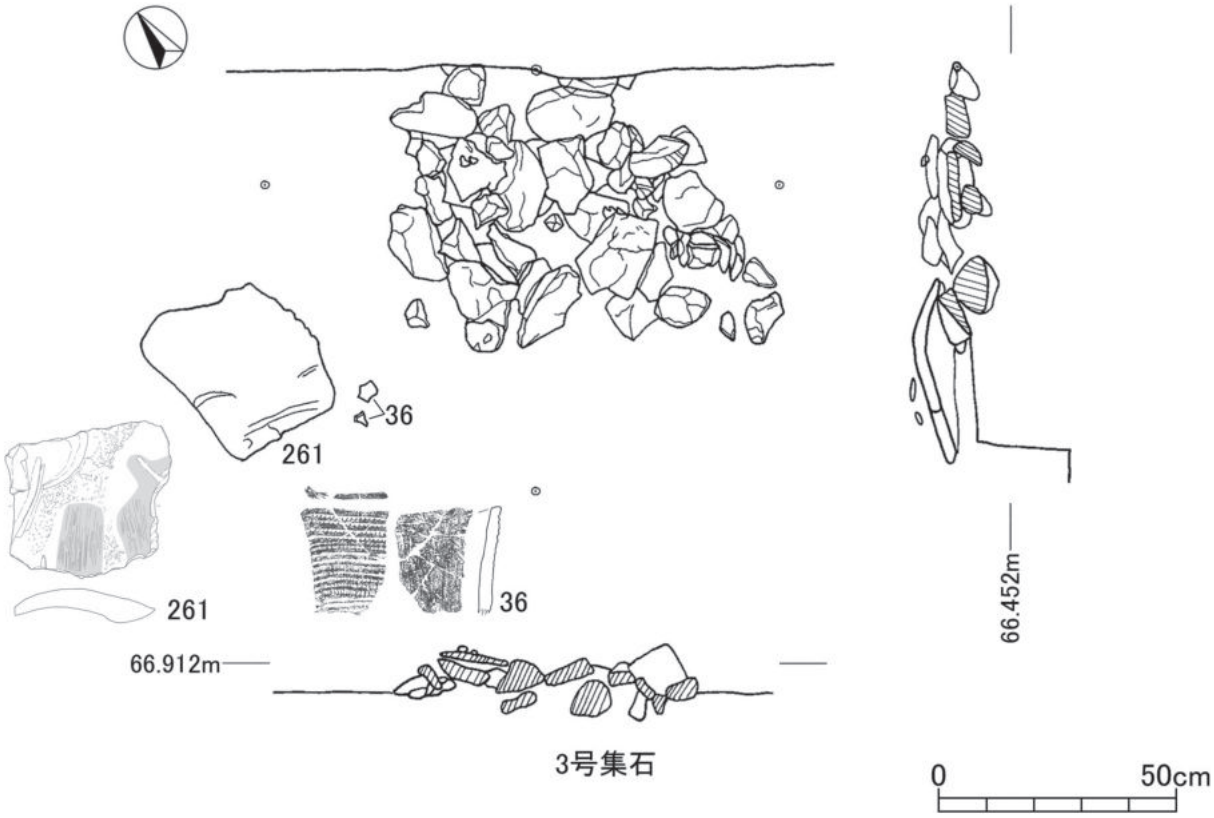
第8図　遺構配置図

1号集石



2号集石

第9図　集石(1)



第10図　集石(2)

①第１類土器（第 18 図 1）

12 区から出土したものである。器面（胴部）に１条の隆帯を施し，器面全体は丁寧になでられている。本市の奥ノ仁田遺跡・鬼ヶ野遺跡で出土しているものと同じタイプであり，縄文時代草創期のものである。このタイプのものは１点だけの出土であった。

②第２類土器（第 18 図 2 ～ 5）

口縁部が緩やかに外傾する円筒形が主であるが，口縁部に稜をもつ器形もあり，中には角筒の器形に近いものもある。口唇部には連続した浅いキザミを施すものもあり，口縁部下に貝殻腹縁部により横位の刺突文を１段～２段めぐらす。その下位に縦位のクサビ形の貼付文をめぐらす。また，貝殻腹縁による押圧文を意識して，クサビ形貼付文の名残として表現されたと考えられる縦位の貝殻刺突文を施しているものなどである。この類の最大の特徴はこのクサビ形の貼付文であり，細分化するとクサビ形の貼付文を有するものと，クサビ形の貼付文を意識して施文しているものの一群である。胴部には貝殻腹縁による押し引き文が施されるが，押し引きと貝殻条痕文を交互に施すなどのアクセントを付けているものもある。内面は丁寧なナデ整形がみられる。

③第３類土器（第 18 図 6 ～第 19 図 26）

口縁部が緩やかに外傾する円筒形または口縁部に稜をもつ器形で，中には角筒の器形に近いものがあり，口縁部の角部が４つのものと２つのものがある。口縁部下位にクサビ形が崩れたと考えられる縦位の貝殻刺突文がＶ字状に非常に密に，または間延びして施文が行われているものである。なかには，この貝殻刺突文を斜位に施すものも見られる。これらの文様は１段のものもあるが，多くは２段～３段，または４段施されているものもある。胴部の文様帯は貝殻腹縁部を利用した押し引き文が施されている。この押し引き文は横位に施されているが，押し引き文自体に強弱をつけたり，あるいは貝殻条痕文と組み合わせた施文を行っているものがある。内面には丁寧なナデ整形がみられる。

④第４類土器（第 19 図 27 ～第 20 図 33）

口縁部が緩やかに外傾する円筒形や，稜を有し角筒形に近いものもあり，口縁部の角部が４つのものと２つのものがある。口縁部下位に貝殻腹縁部による横位の刺突文を１～３段めぐらし，その下位に大きな特徴である半載竹管状工具による「Ｃ」あるいは逆「Ｃ」字形の刺突文を２～５段程めぐらす。胴部は貝殻腹縁による横位の押し引き文や貝殻条痕文を施すものである。「Ｃ」状の施文は基本的にクサビ形貼付文の流れを系譜するものであると考えられる。また一部「Ｃ」状が崩れ，「爪形」状に施文が施されているものもある。大きな特徴として，「Ｃ」状の施文は，「Ｃ」状のみのものと，「Ｃ」状＋斜位の貝殻腹縁刺突文が施されているものがある。内面には丁寧なナデ整形が見られる。

⑤第５類土器（第 20 図 34 ～第 22 図 65）

口縁部が緩やかに外傾する円筒土器が主であるが，口縁部に稜を持つ角筒形に近い器形の土器も存在し，口縁部の角部が４つのものと２つのものがある。口唇部には連続したキザミを施す。キザミは密なものとやや幅広のものも見られる。口縁部下位に貝殻腹縁部による横位の刺突文を１～４段めぐらすが，４段以上の複数段施すものもある。またこの横位の刺突文が斜位に施されているものもある。この斜位の施文は「横位の施文のバリエーションのひとつ」と思われる。貝殻腹縁部による刺突文の形状は連点状・波形状・三角形状あるいは刺突文が浅く明瞭でないもの等がある。胴部は貝殻腹縁部による押し引き文を横位に施すが，押し引き文と貝殻条痕文を交互に施したり，条痕文のみのものなどがある。内面は丁寧なナデ整形がみられ，精製されたものが多いことが特徴である。

⑥第６類土器（第 22 図 66 ～第 22 図 74）

口縁部が緩やかに外傾あるいは直行し，バケツ状を呈するものである。口唇部はやや内湾気味のものもある。底部は平底である。貝殻腹縁部による横位または縦位の刺突文を施したり，先端の鋭利な工具による沈線もみられる。内面はナデ整形がみられる。器壁が厚いのが，特徴的である。

⑦胴部片（第 22 図 75 ～第 28 図 180）

75 から 152 は 2 類土器から 5 類土器の範疇に入ると思わる胴部編を一括した。2 類から 5 類の胴部は, 胴部そのものでは, 判別が困難であるため, 胴部の施文パターンごとに掲載している。第１のパターンは胴部に貝殻腹縁部による横位の押し引き文を施し，貝殻腹縁部による密な連続刺突文の段間に無文部を置くタイプである。第２のパターンは胴部の施文が横位の貝殻腹縁部による押し引き文を施すが，一部貝殻腹縁部による連続刺突文をもつものである。第３のパターンは貝殻腹縁による横位の押し引き文がみられず，横位の貝殻条痕文を施しているものである。153 から 161 はや，第 6 類土器の胴部片である。器面に貝殻腹縁部による横位または縦位の刺突文を施したり，先端の鋭利な工具による沈線もみられる。縄文時代早期の下剥峯式土器の範疇に入るものである 162 から 180 は外面に斜位や横位の貝殻刺突文・貝殻条痕文，条線・沈線文を施すものである。縄文時代早期の塞ノ神式土器の範疇に入るものである。

⑧底部片（第 29 図～第 31 図）

2 類から 5 類土器相当（吉田式土器）の底部片を一括した。底部立ち上がりの施文により大きく 3 つのパターンがみられる。181 ～ 195 は底部立ち上がりに鋭利なヘラ状の施文具で縦位のキザミを施しているものである。このキザミは数センチに及ぶ長いものや，２重に施しているものもある。196 ～ 201 は縦位のキザミが貝殻刺突文・押し引き文によって施されているものである。202 ～ 205 は，この底部立ち上がり部分のキザミが消滅し，横位の貝殻腹縁による条痕文や無文のものなどである。206 ～ 209 は丸底を呈するものである。なお，底部片のなかで下剥峯式・塞ノ神式土器の底部片を特定することはできなかった。

（2）石　器

本遺跡出土石器には，石鏃・石鏃破損品・剥片石器・石斧・磨石敲石類・台石石皿類・砥石・石製装飾品が出土した。いずれも縄文時代早期該当層である第Ⅳ層から出土したものである。番号を付けて取り上げた石器類は 353 点であった。

①石鏃（第 32 図 210 ～ 217）

石鏃は，8 点出土した。形状は正三角形状・二等辺三角形状・やや細身で縦長を呈し，石鏃基部に抉りをもち，この抉りが深いものや，浅いものである。全面磨製のものが 1 点で，他は打製である。石材は粘板岩・チャート・頁岩である。

②剥片石器（第 32 図 218）

剥片石器は 1 点出土している。最大長 5 ㎝・最大幅 3 ㎝・最大厚 1 ㎝と小型のものである。石材は頁岩である。

③石斧（第 32 図 219 ～ 222）

石斧は 4 点出土している。刃部を磨き上げて製作しているものが 1 点，他 3 点は打製である。る。石斧の石材は砂質ホルンフェルス・泥質ホルンフェルス・ホルンフェルス化した千枚岩などである。刃部の形状より，磨製の 220 は木材の伐採加工用として，219・221・222 は土掘具としての用途が考えられる。

④磨石敲石類（第 33 図～第 37 図）

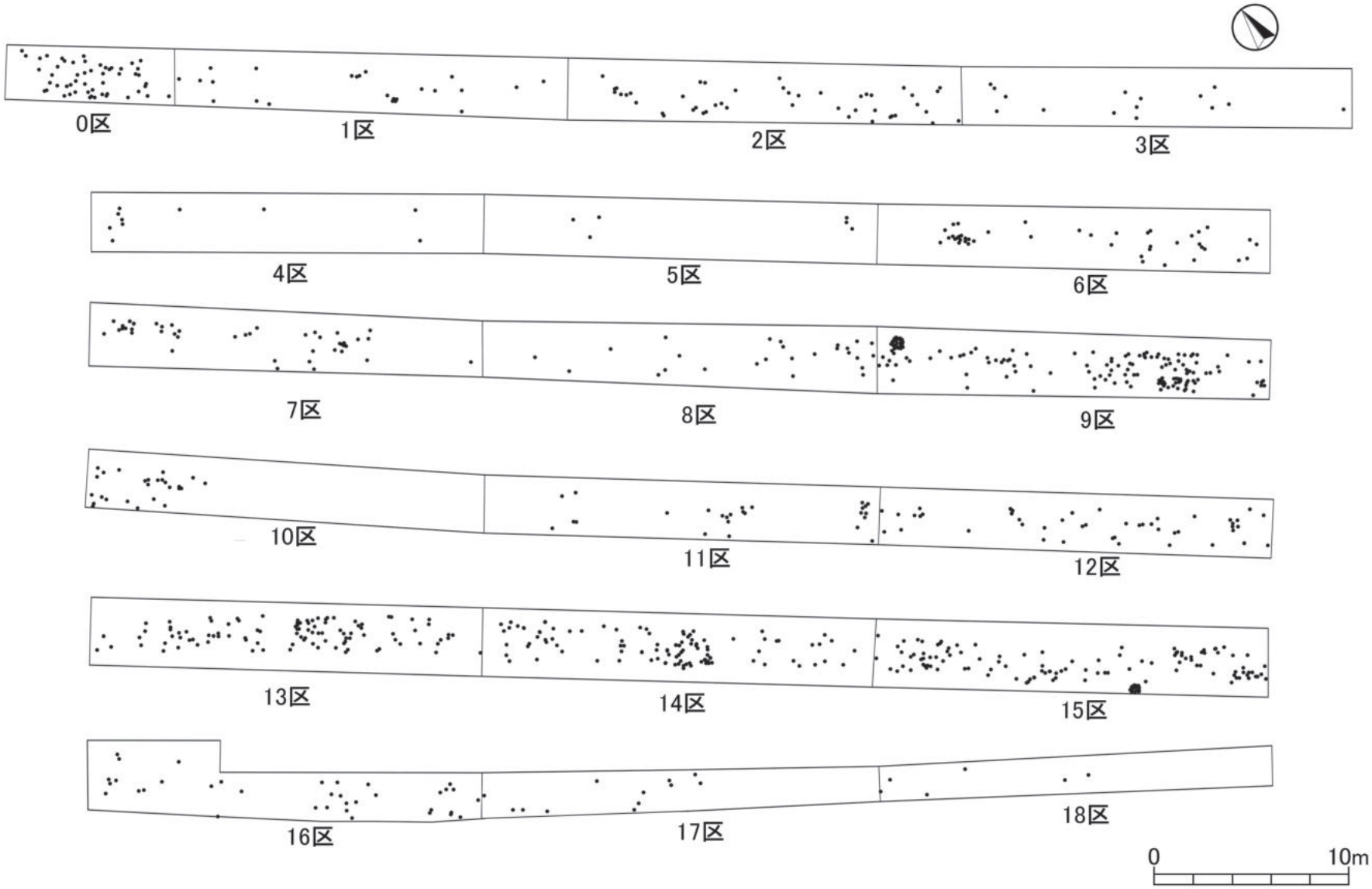
磨石・敲石類は本遺跡出土石器の中で大部分を占める。全てが砂岩を石材としている。円形のもの，楕円形のものなどがあり，「磨る」・「磨る＋敲くの両方に使われたもの」・「敲打痕のみ顕著なもの」・「凹石として使われたもの」などがある。256 は側面中央部に抉り痕が見られ，漁具として利用された可能性もある。

⑤台石石皿類・砥石（第 38 図～第 40 図 265）

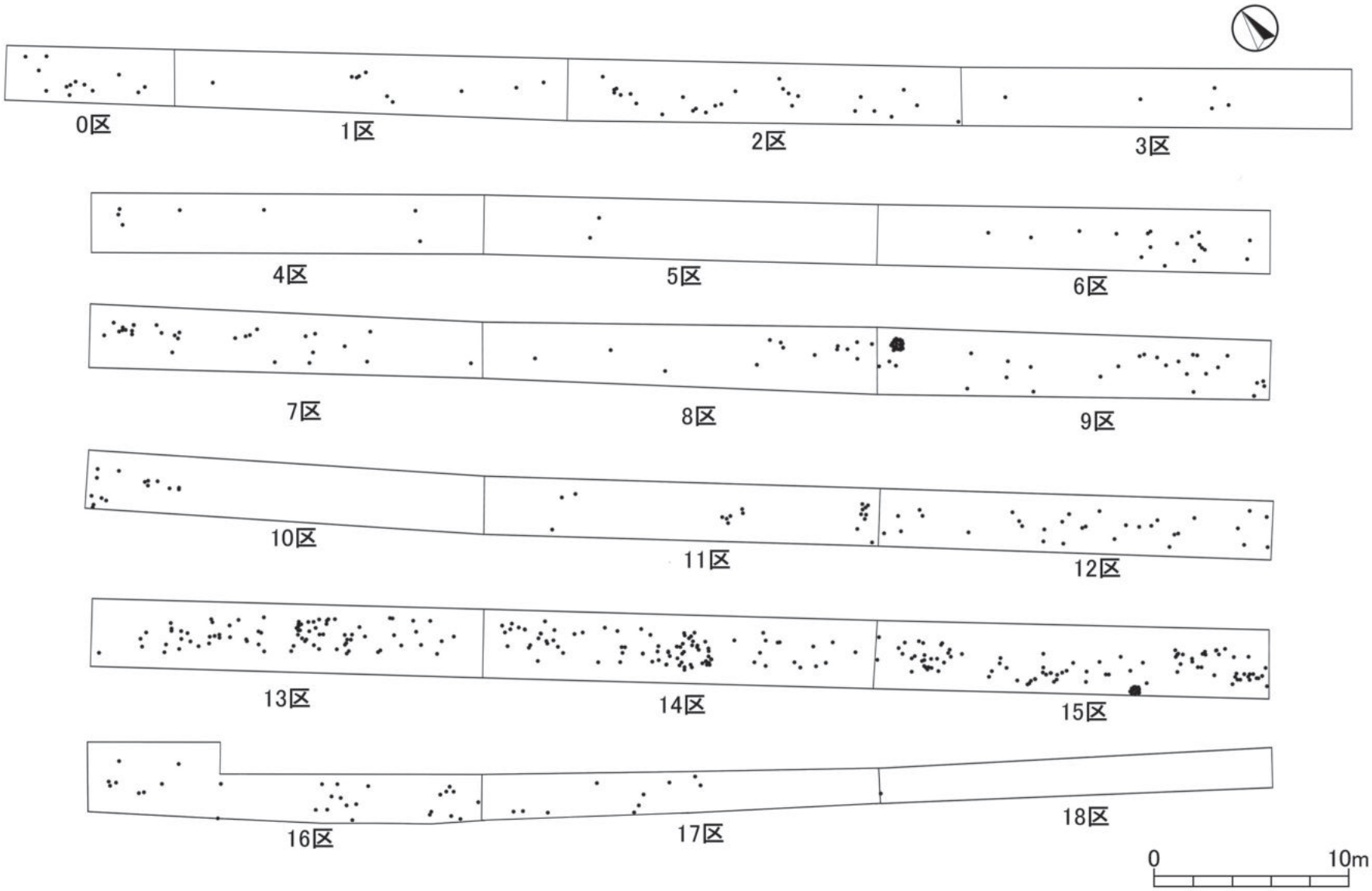
257 ～ 262 は台石石皿類であり，形状により凹面が顕著なものを呈するもの，磨面が平坦なもの，凹状の凹部を持つものなどがある。磨面が平坦なものと凹部をもつものは石皿としての機能の他に台石としての使用が考えられる。261 や 262 など最大長・最大幅が 30 ㎝を超える非常に大型のものや小型のものなどがある。石材は全て砂岩である。263 ～ 265 は砥石であり，263・265 は両面に使用痕が見られた。石材は砂岩である。

⑥石製装飾品

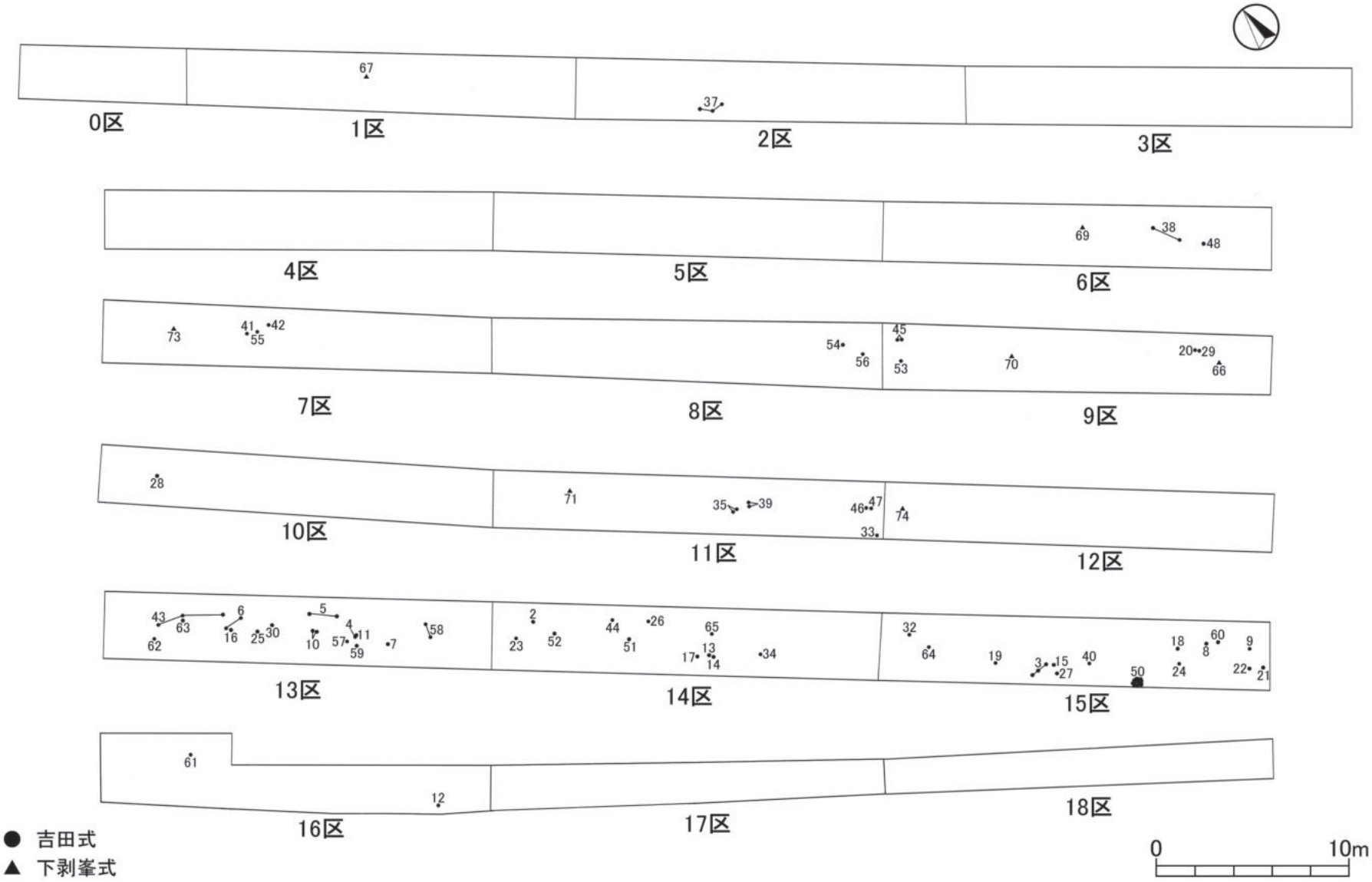
8 区，第Ⅳ層からの出土であり，出土状況から吉田式土器に共伴するものである。最大長 1.7 ㎝・最大幅 0.95 ㎝・最大厚 0.4 ㎝を呈する。全面に研磨が施され、頭部に 3 筋の切込みが見られる。穿孔痕が 1 ヶ所あり，この穿孔部分から欠損している。石材は滑石と思われる。



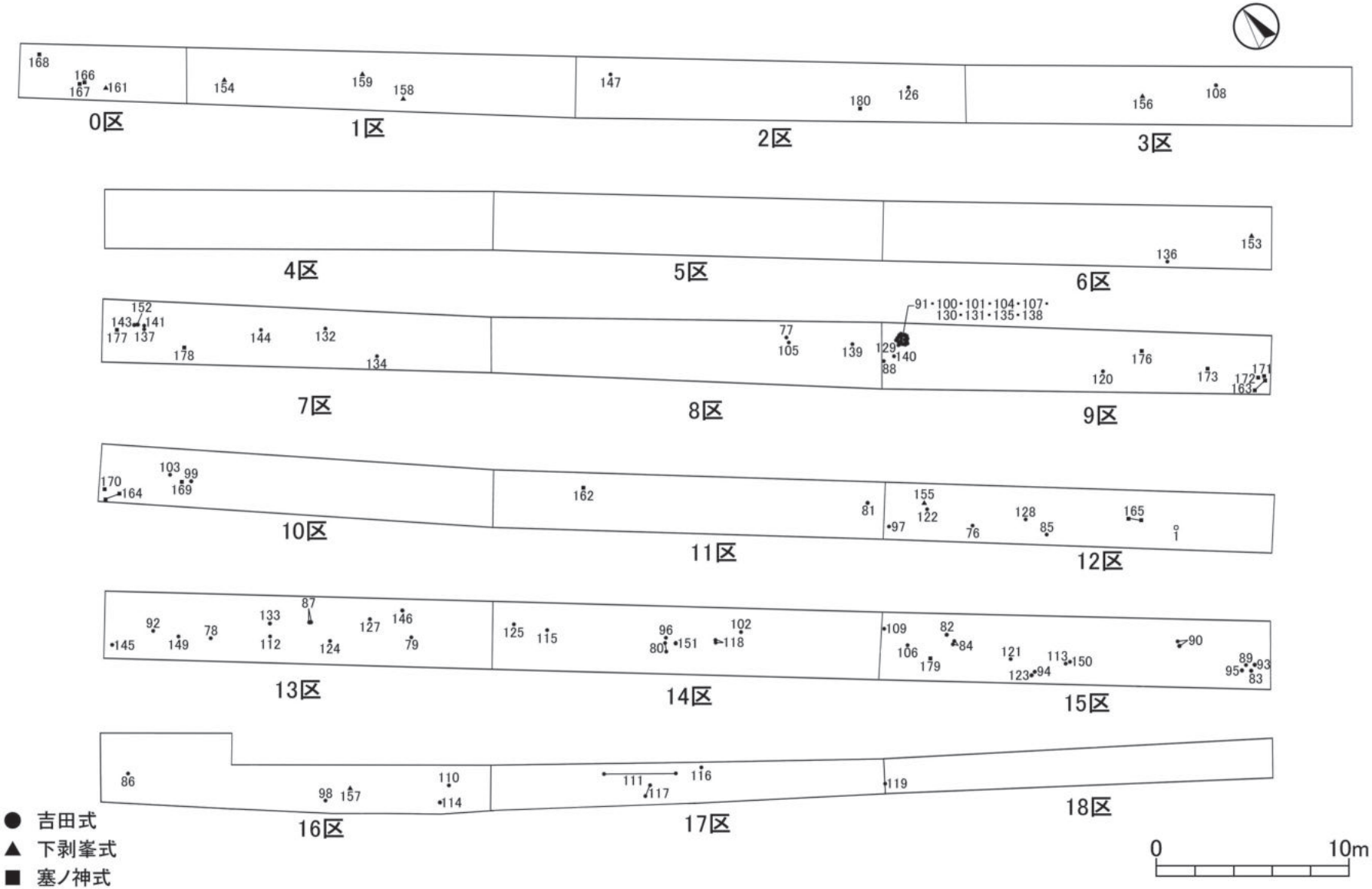
第11図　全遺物出土状況



第12図　全土器出土状況

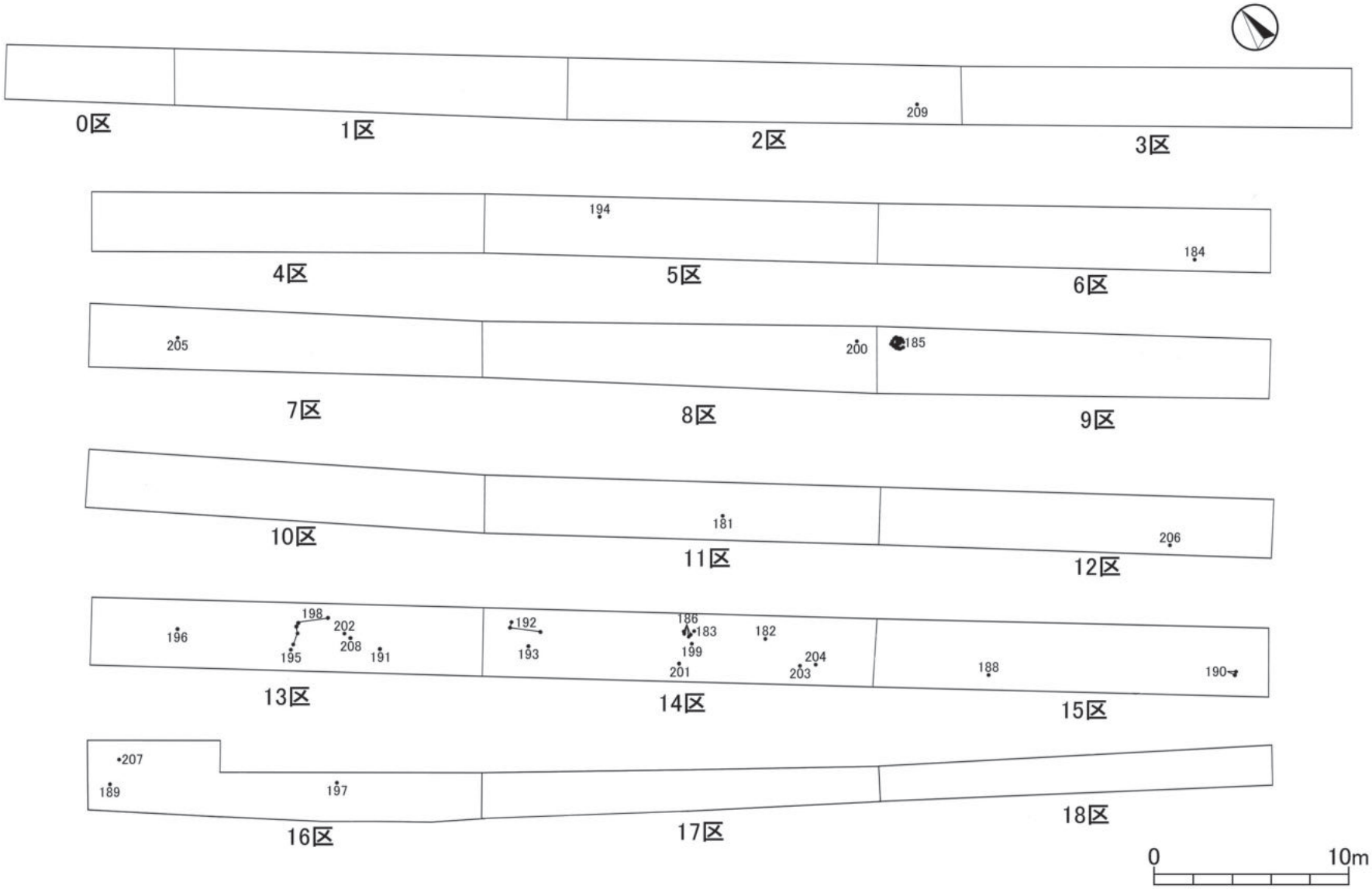


第13図　口縁部出土状況

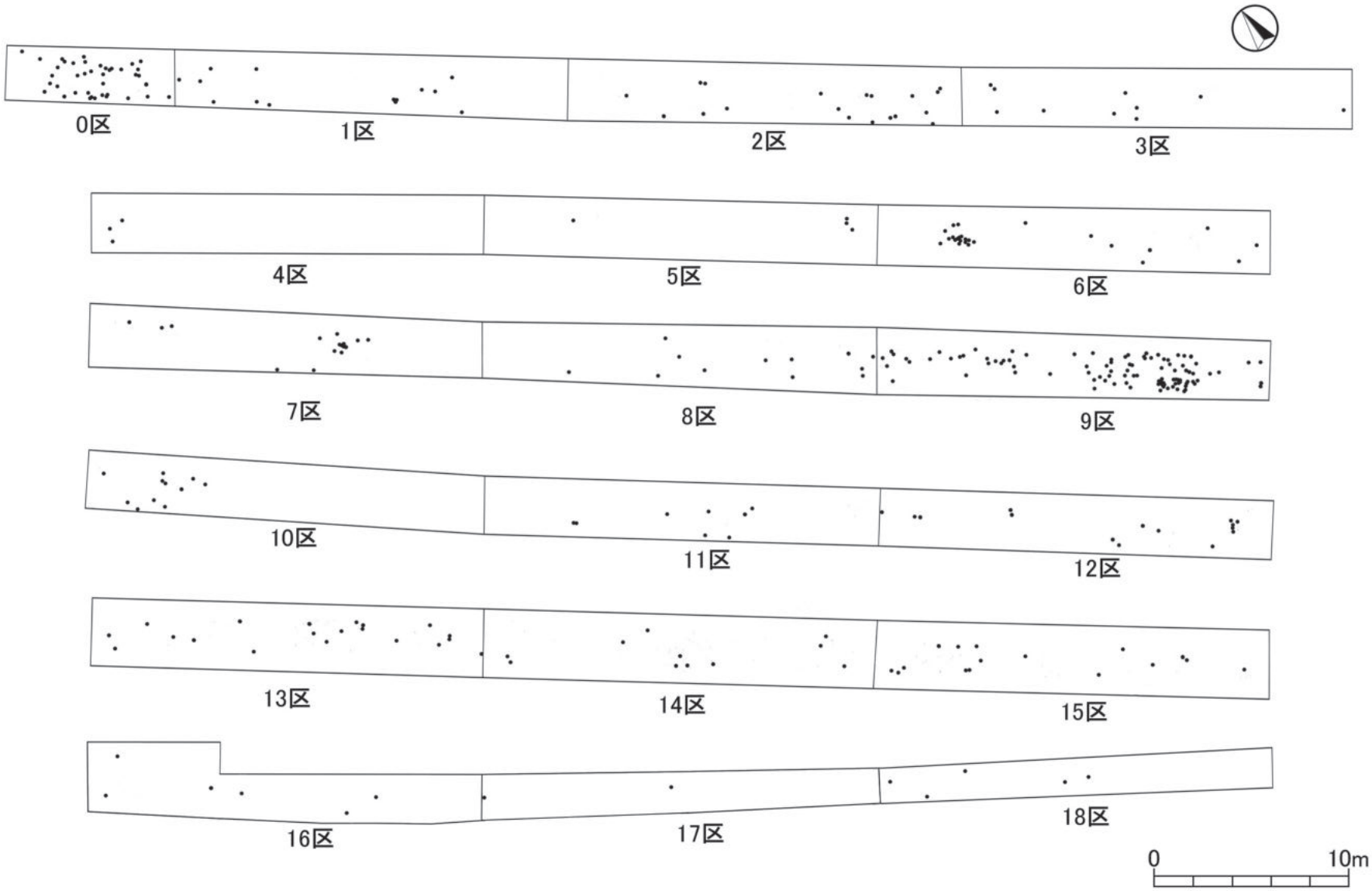


● 吉田式
▲ 下剥峯式
■ 塞ノ神式
○ 隆帯文

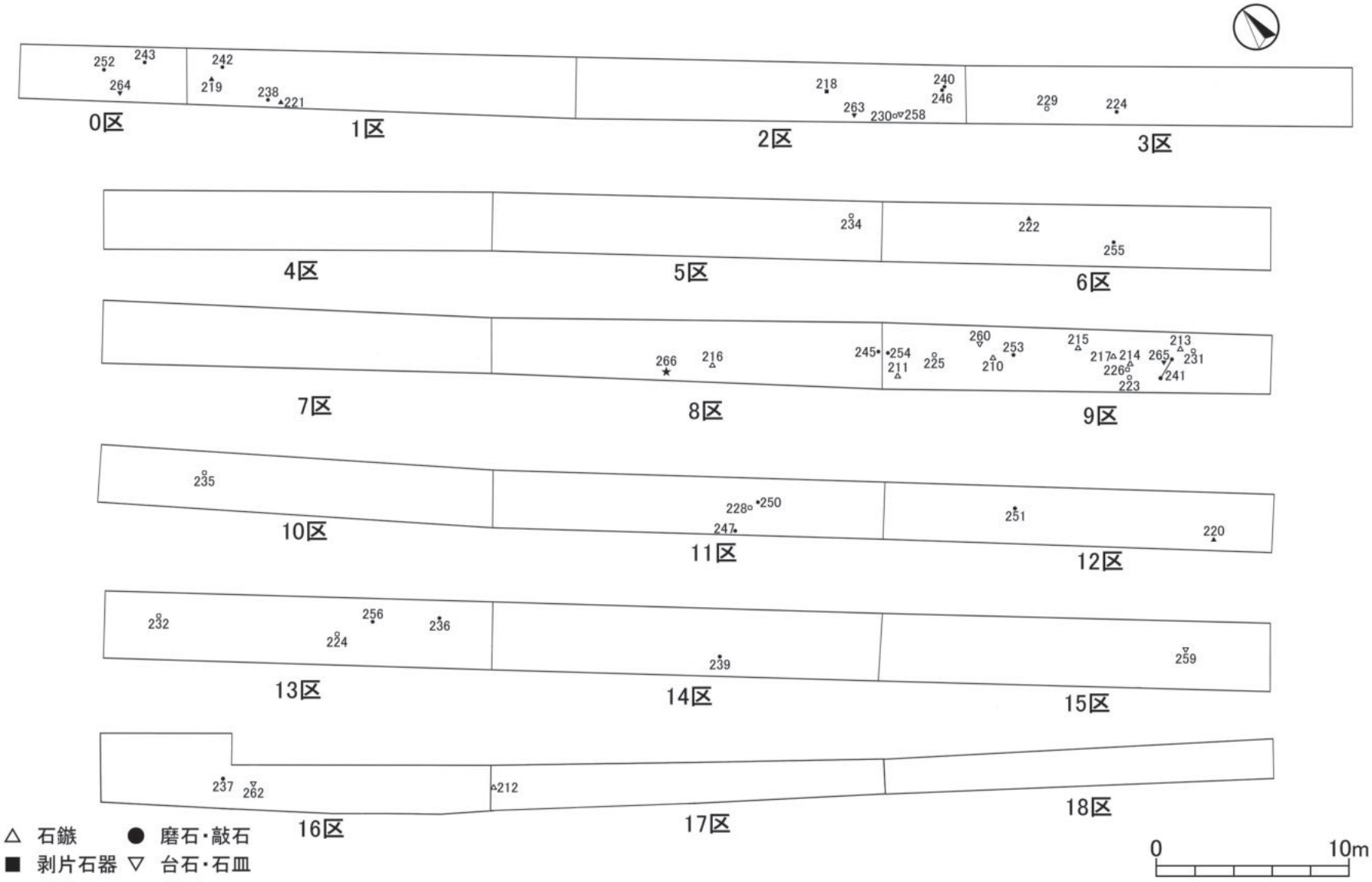
第14図　胴部出土状況


0区
1区
2区
209
3区
194
4区
5区
184
6区
205
200
185
7区
8区
9区
181
10区
11区
206
12区
198
196
202
208
195
191
192
193
186
183
199
201
182
204
203
188
190
13区
14区
15区
207
189
197
16区
17区
18区
0
10m

第15図　底部出土状況

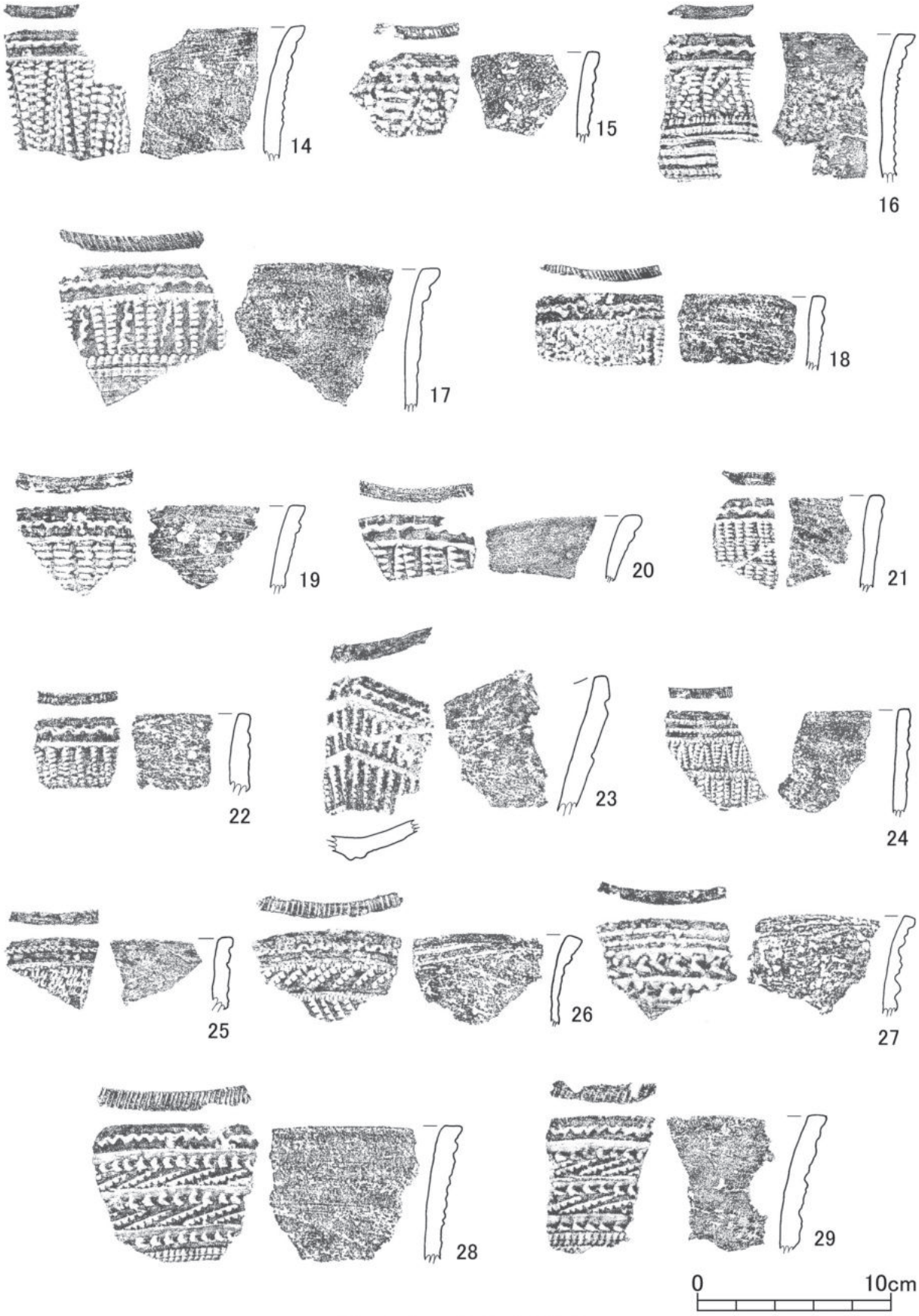


第16図　全石器出土状況



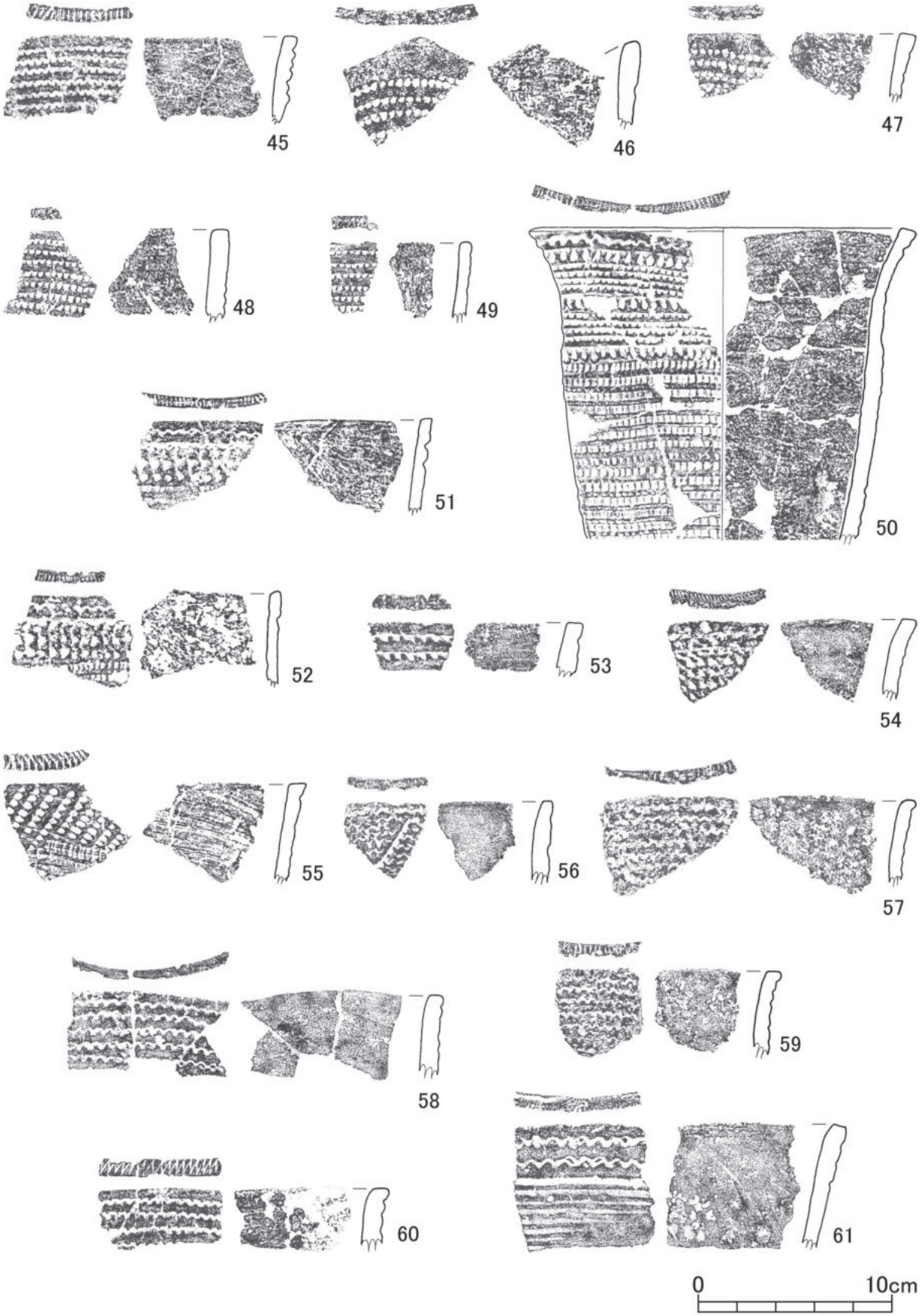
第17図　石器器種別出土状況

第18図　出土土器(1)



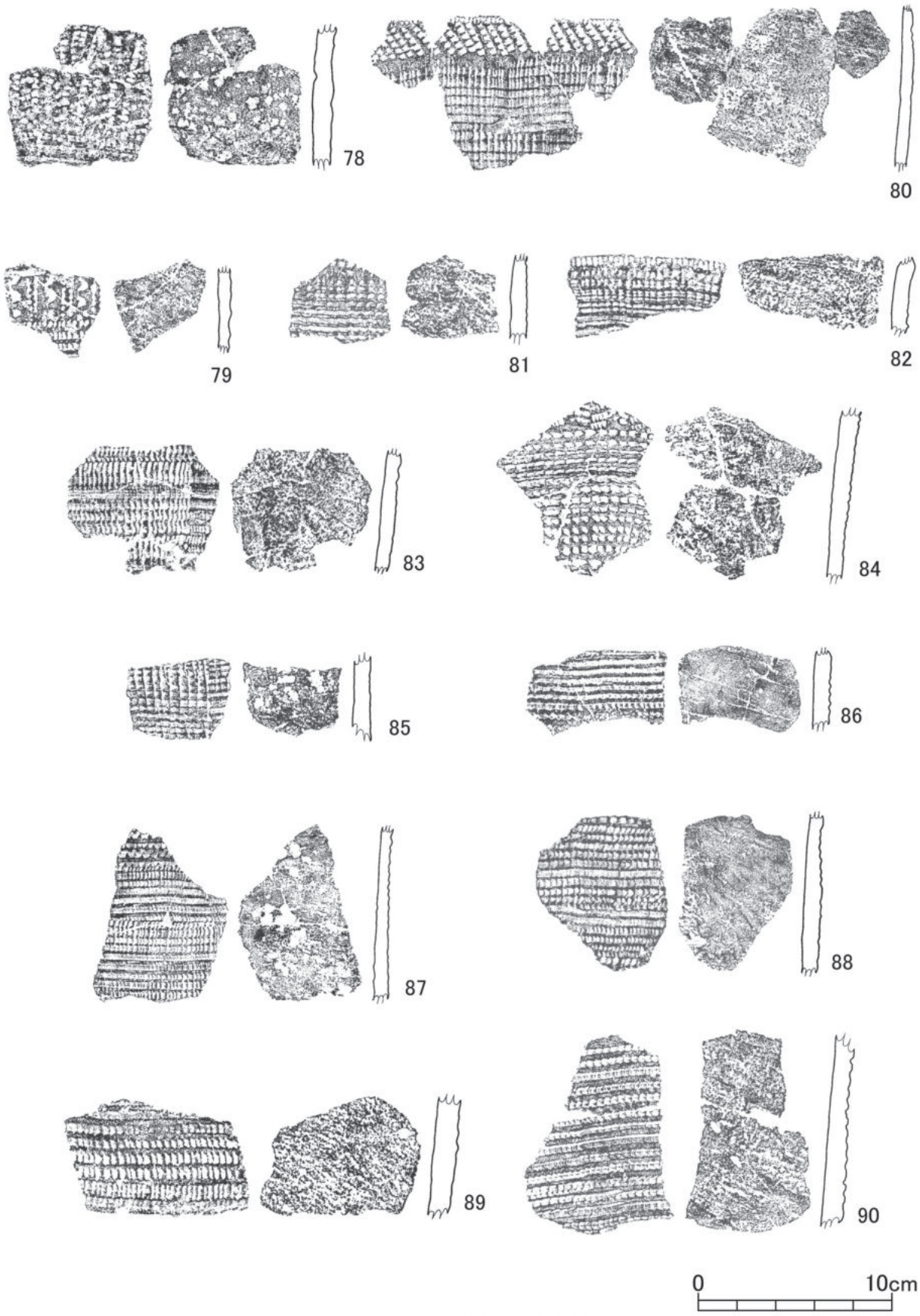
第19図　出土土器(2)

第20図　出土土器(3)



第21図　出土土器(4)

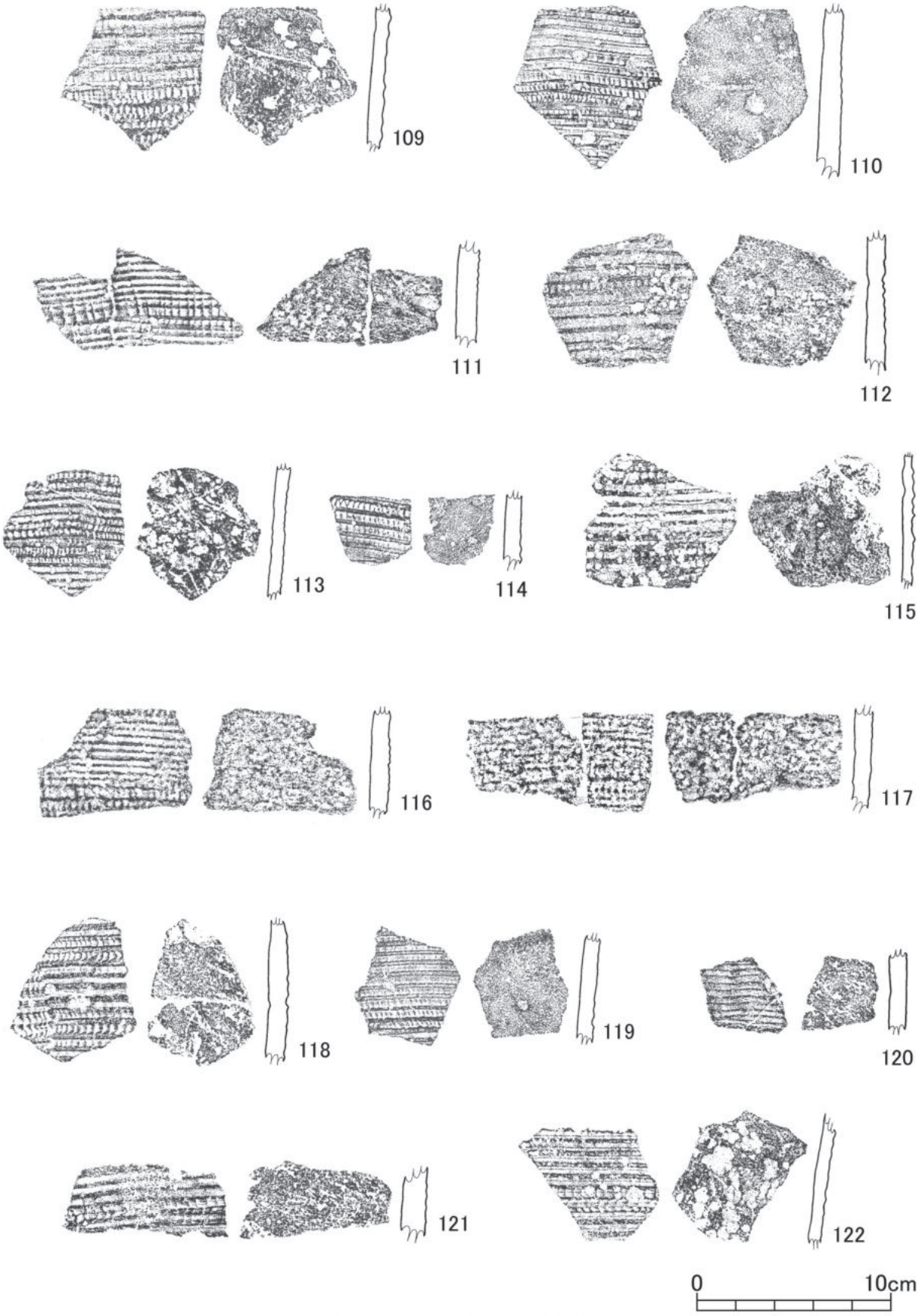
第22図　出土土器(5)



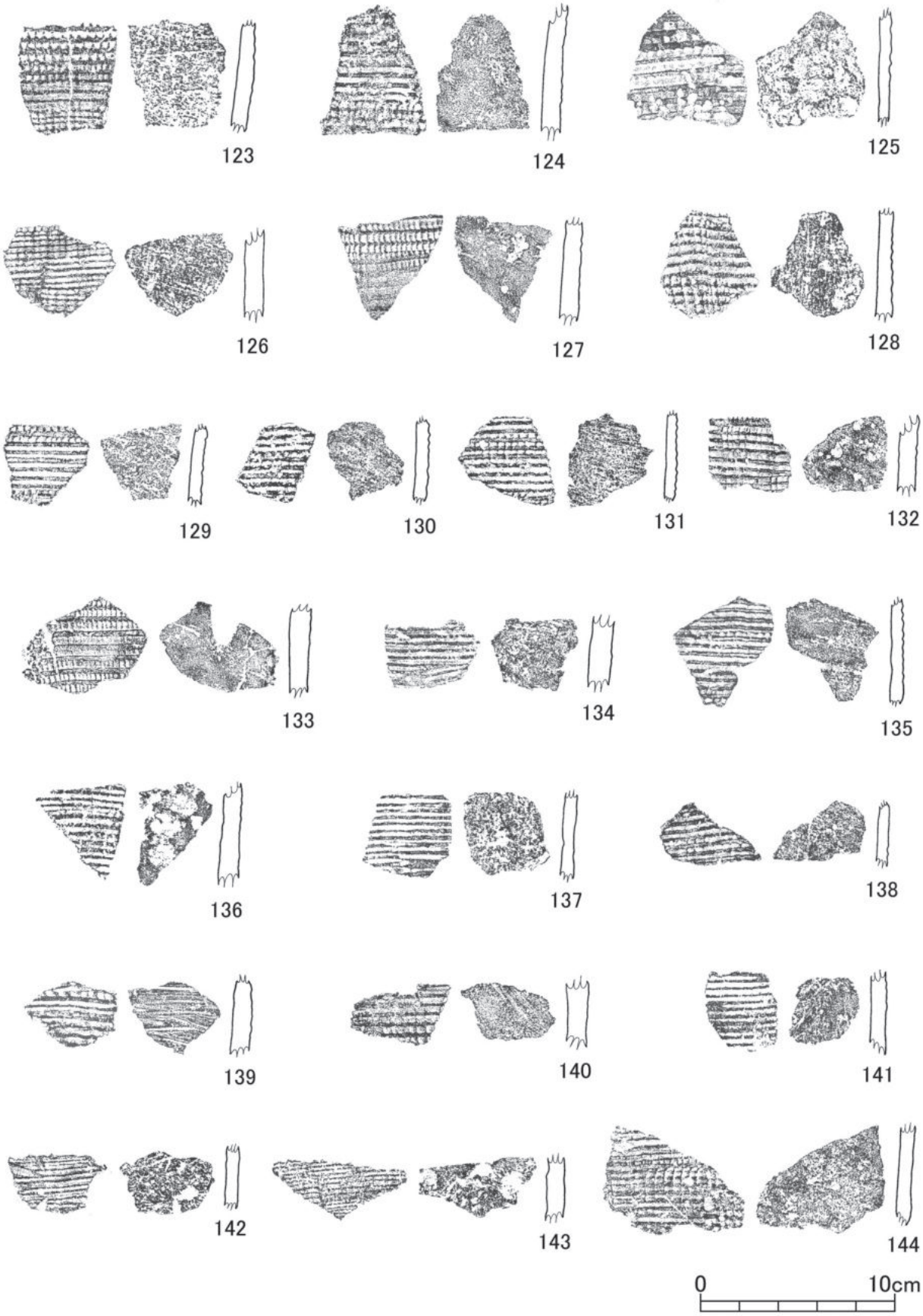
第23図　出土土器(6)

91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
0
10cm

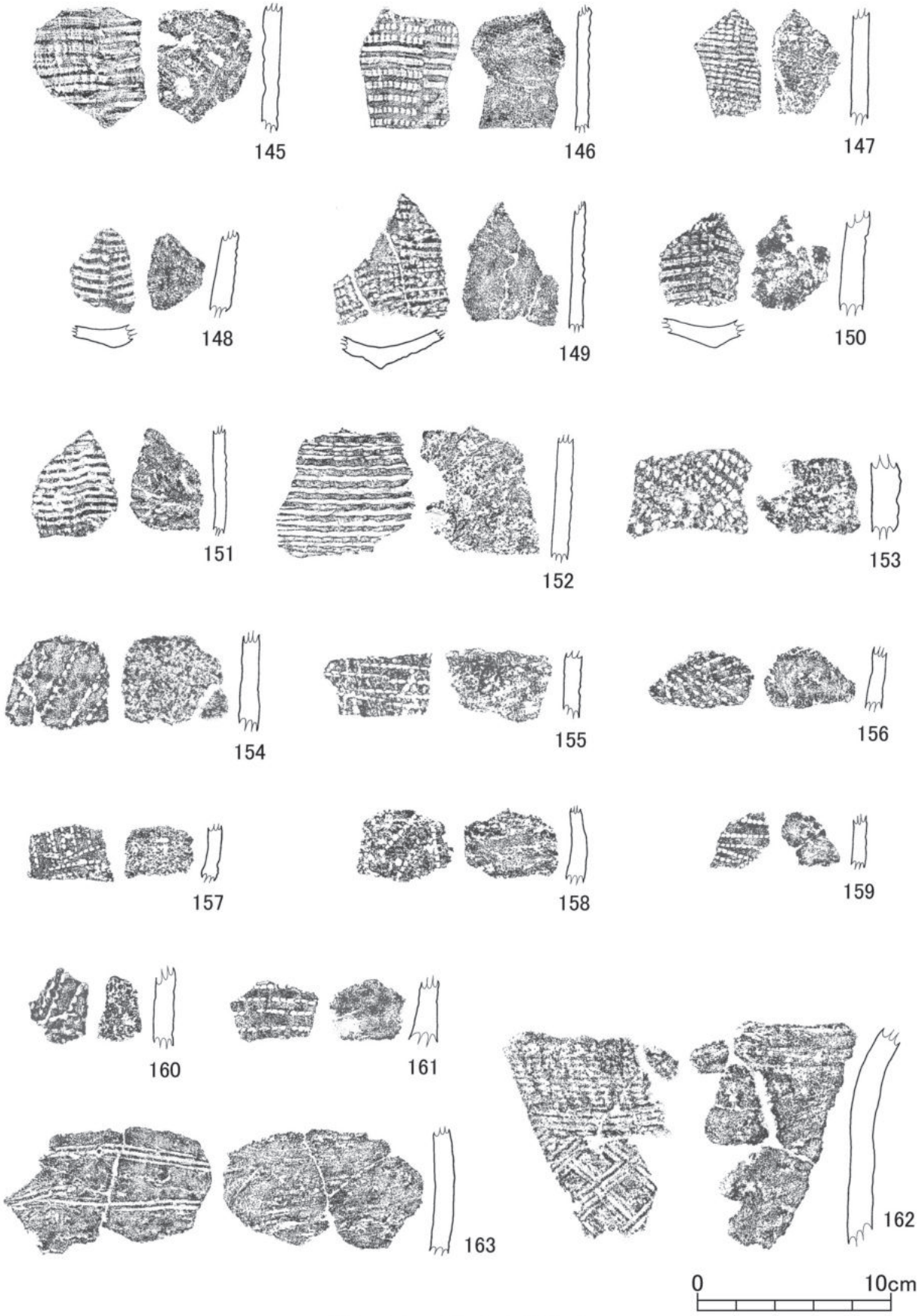
第24図　出土土器(7)



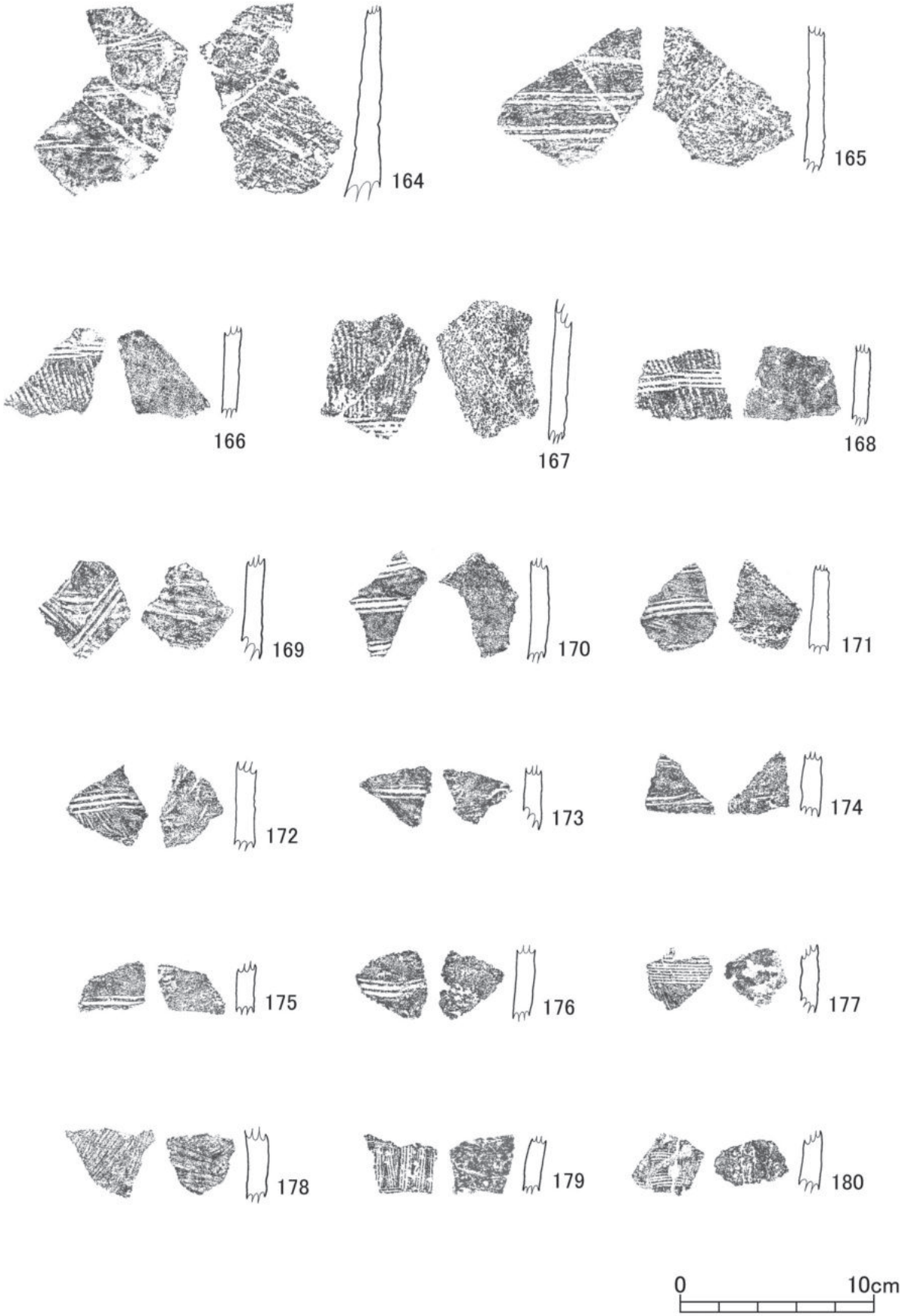
第25図　出土土器(8)


123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
0
10cm

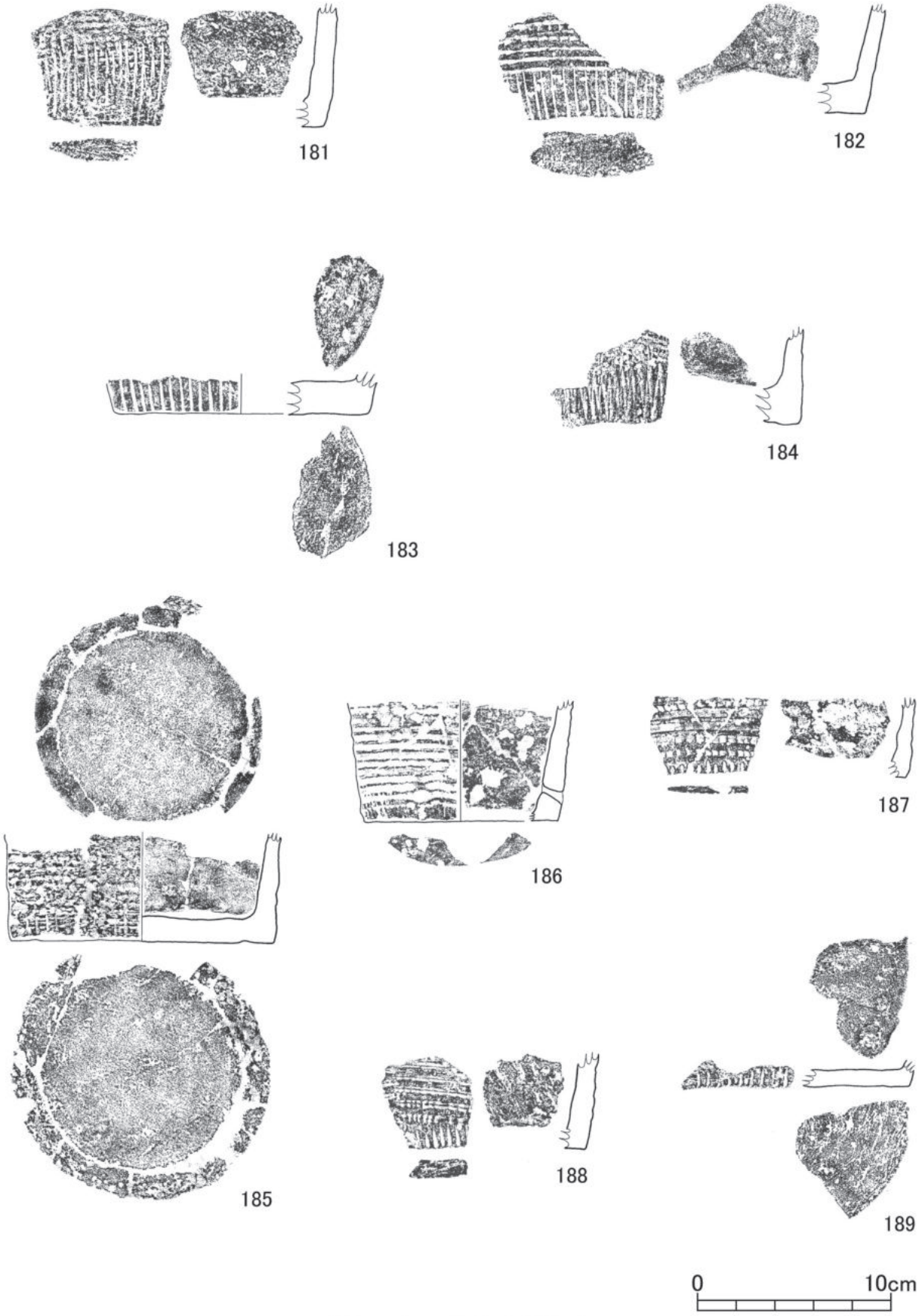
第26図　出土土器(9)


145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
0
10cm

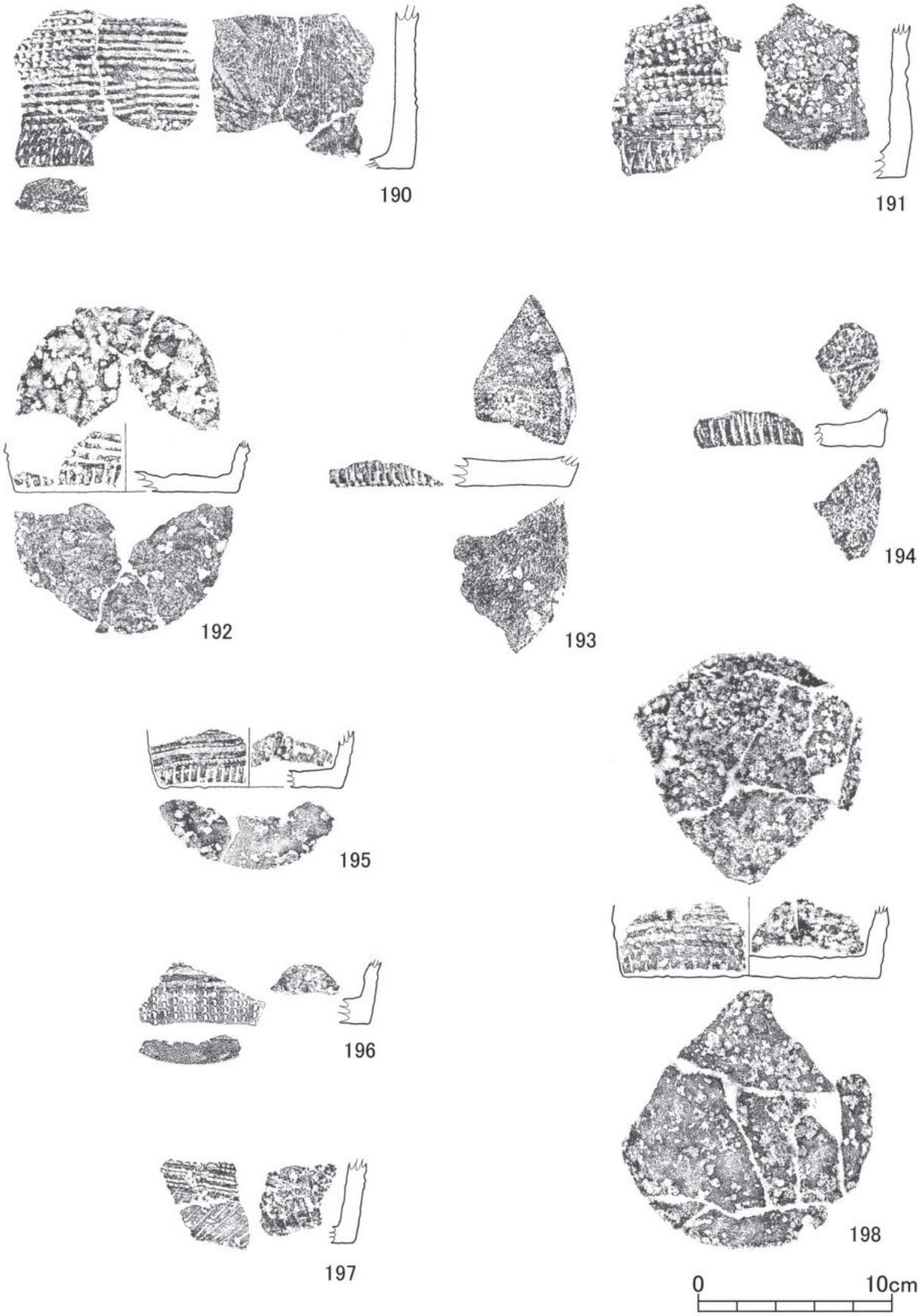
第27図　出土土器(10)


164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
0
10cm

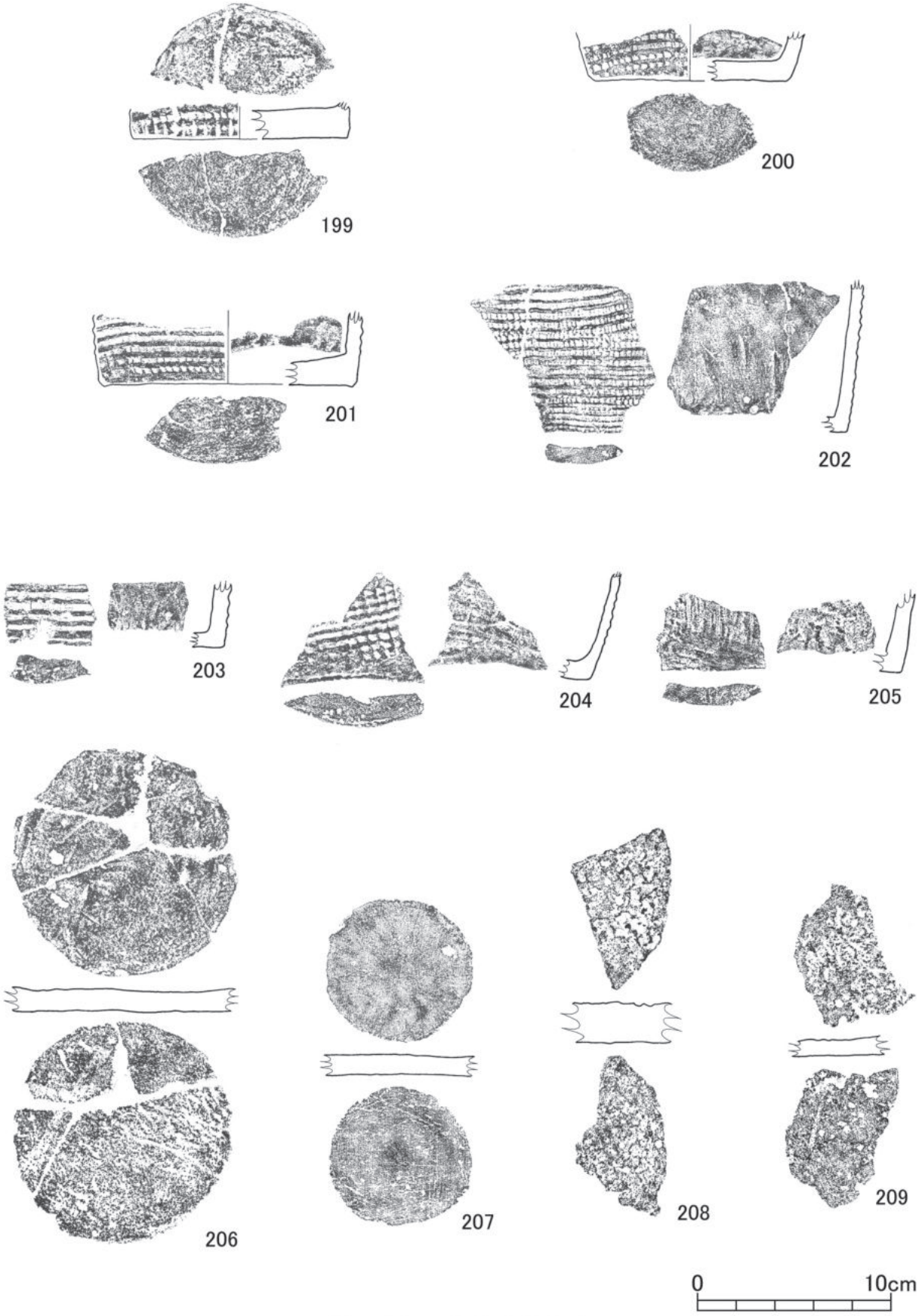
第28図　出土土器(11)



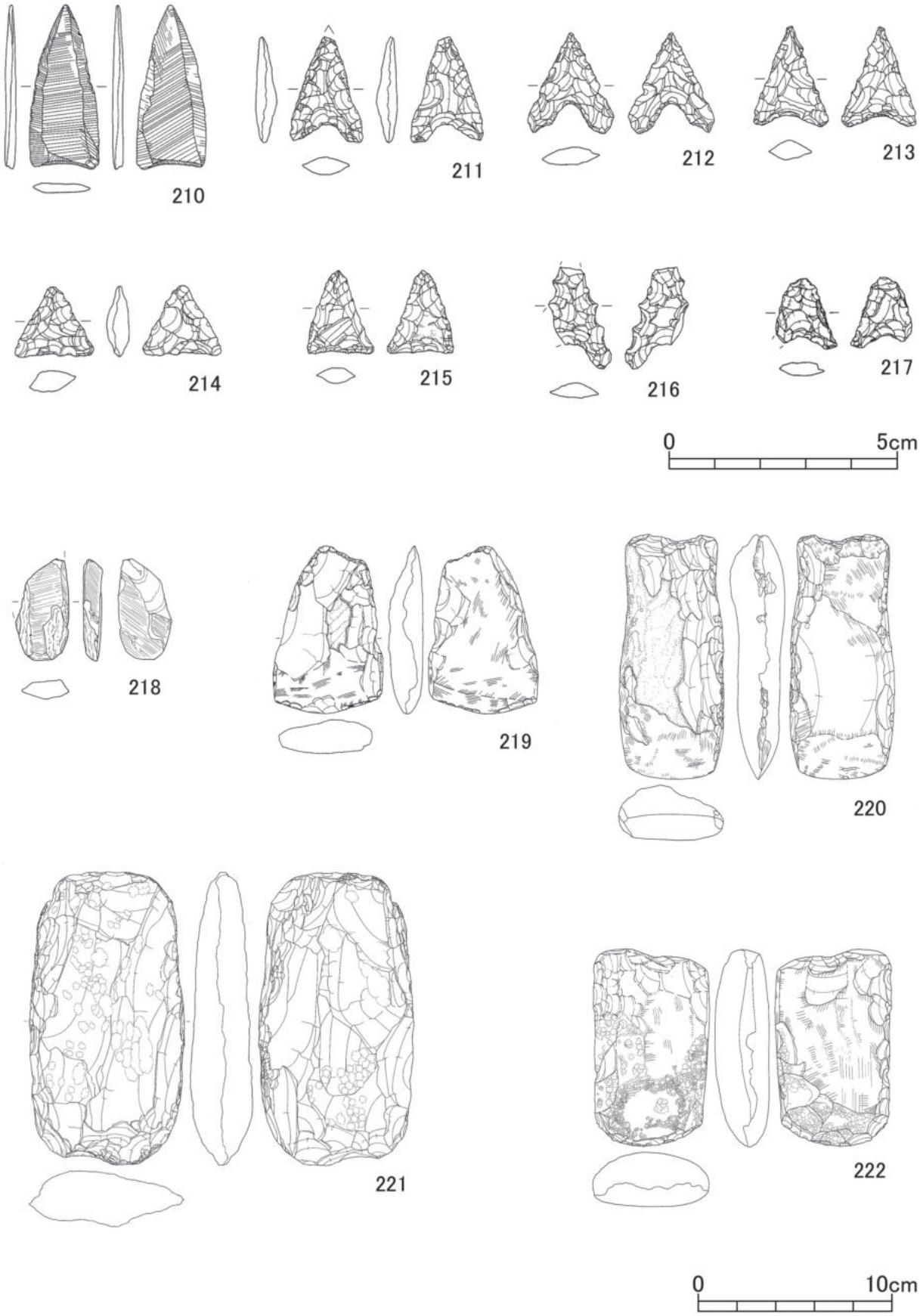
第29図　出土土器(12)



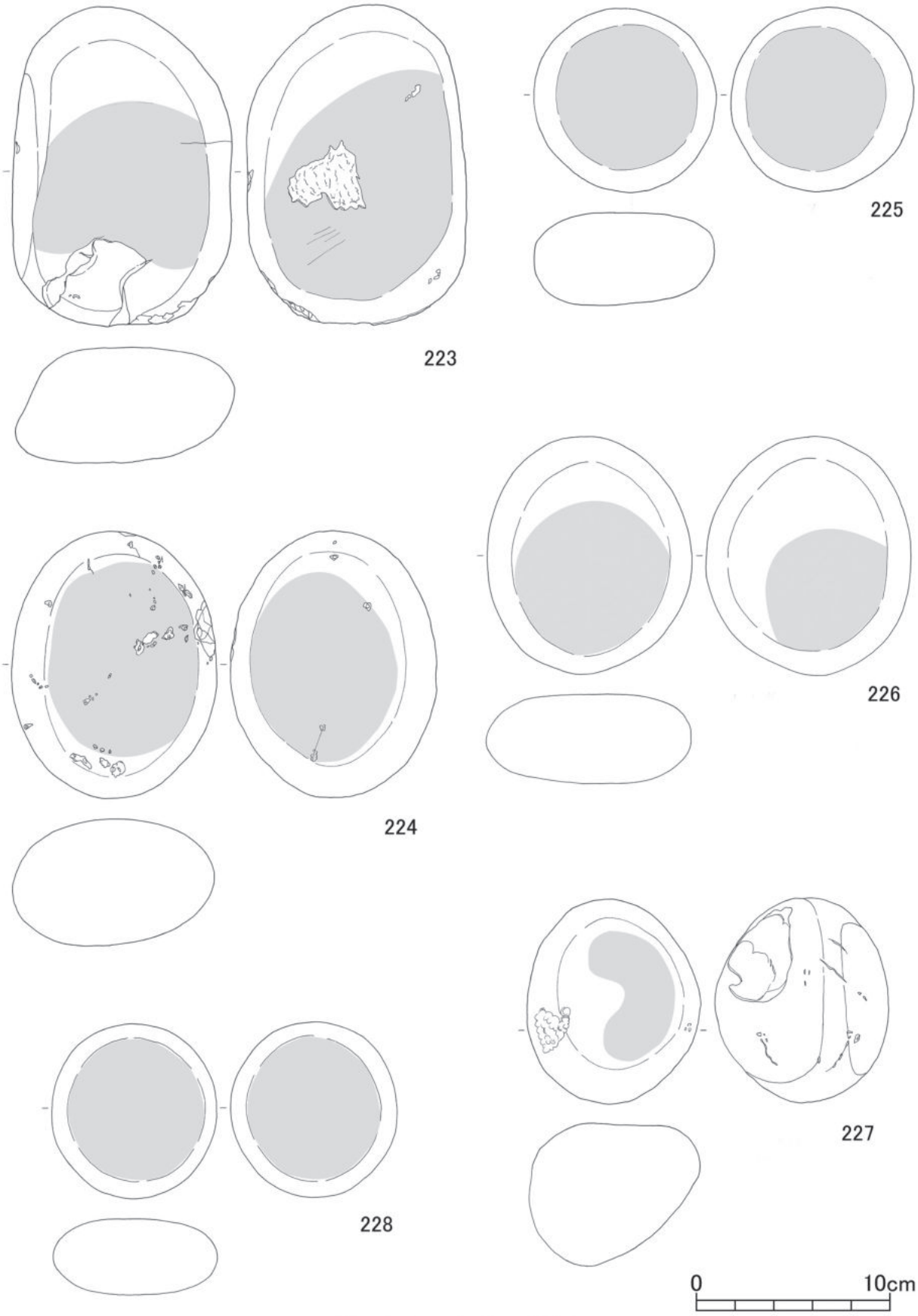
第30図　出土土器(13)



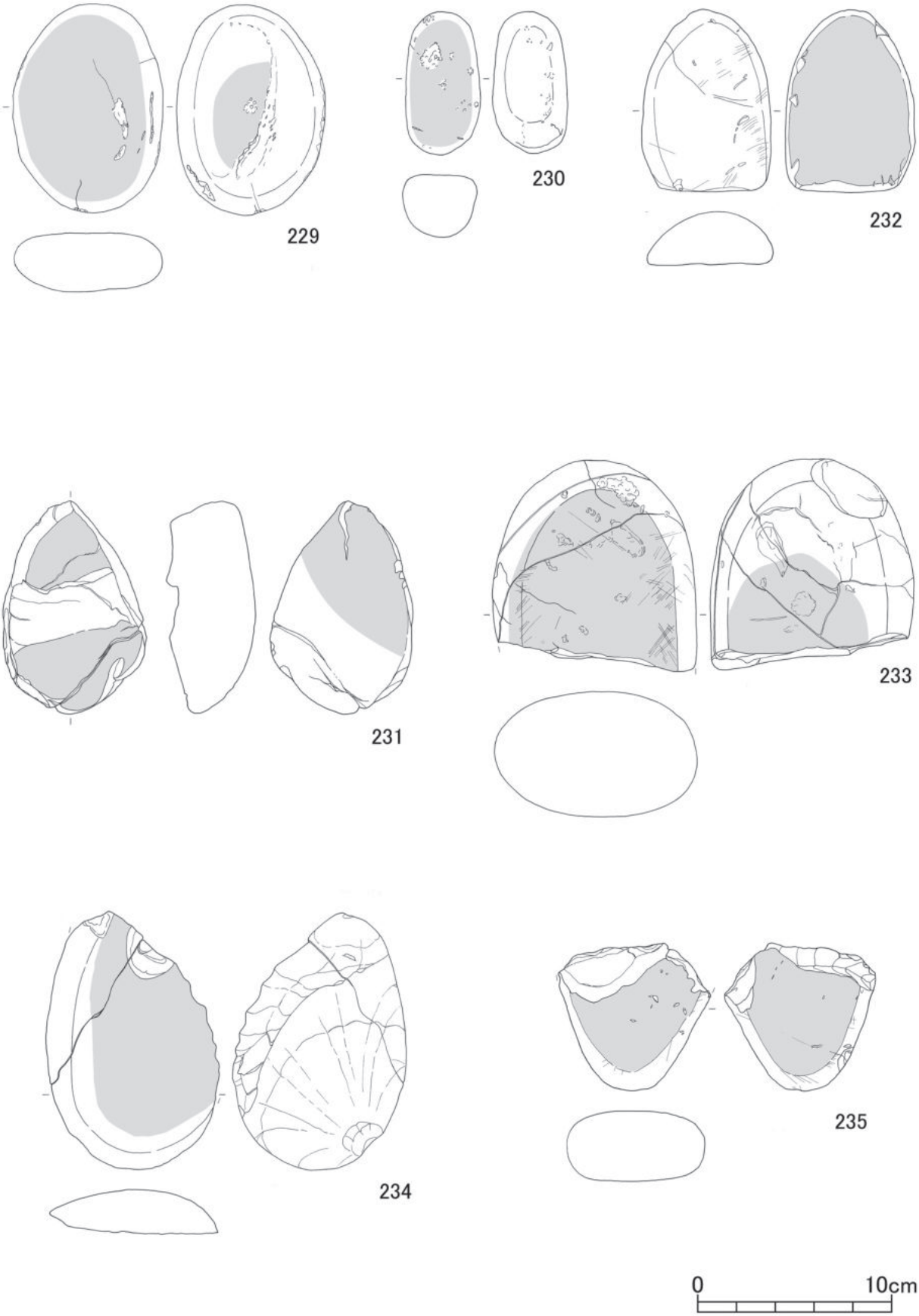
第31図　出土土器(14)



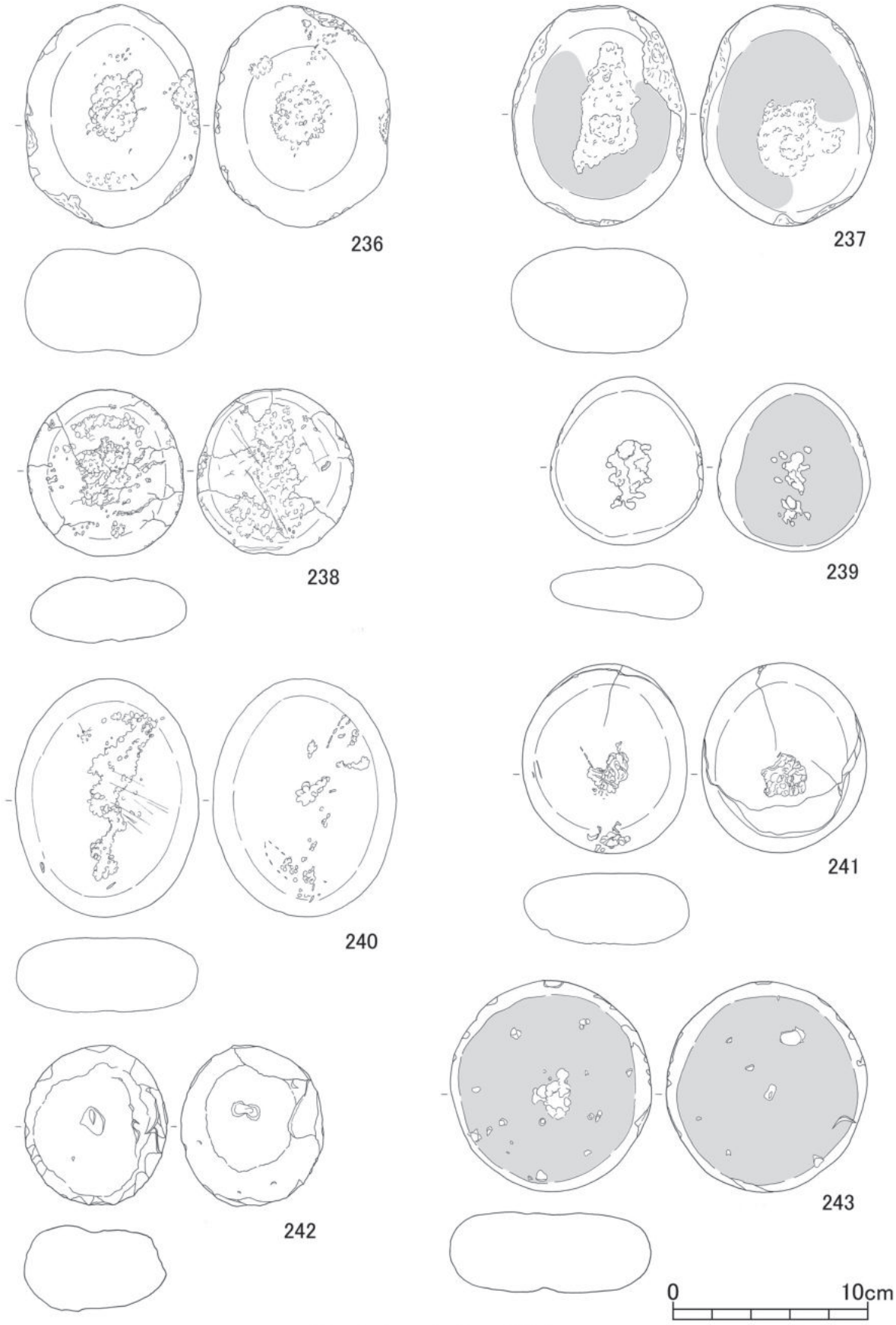
第32図　出土石器(1)



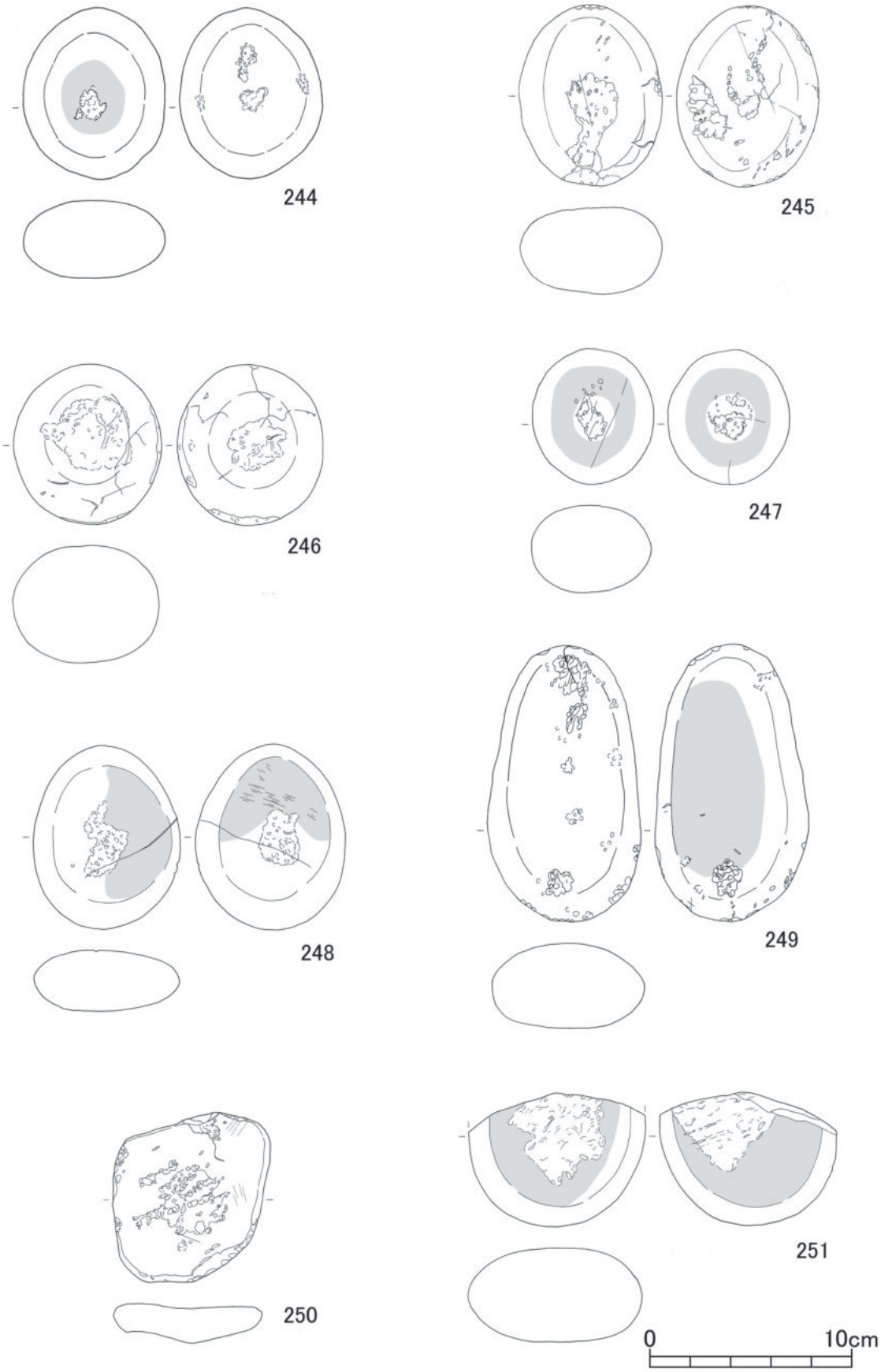
第33図　出土石器(2)



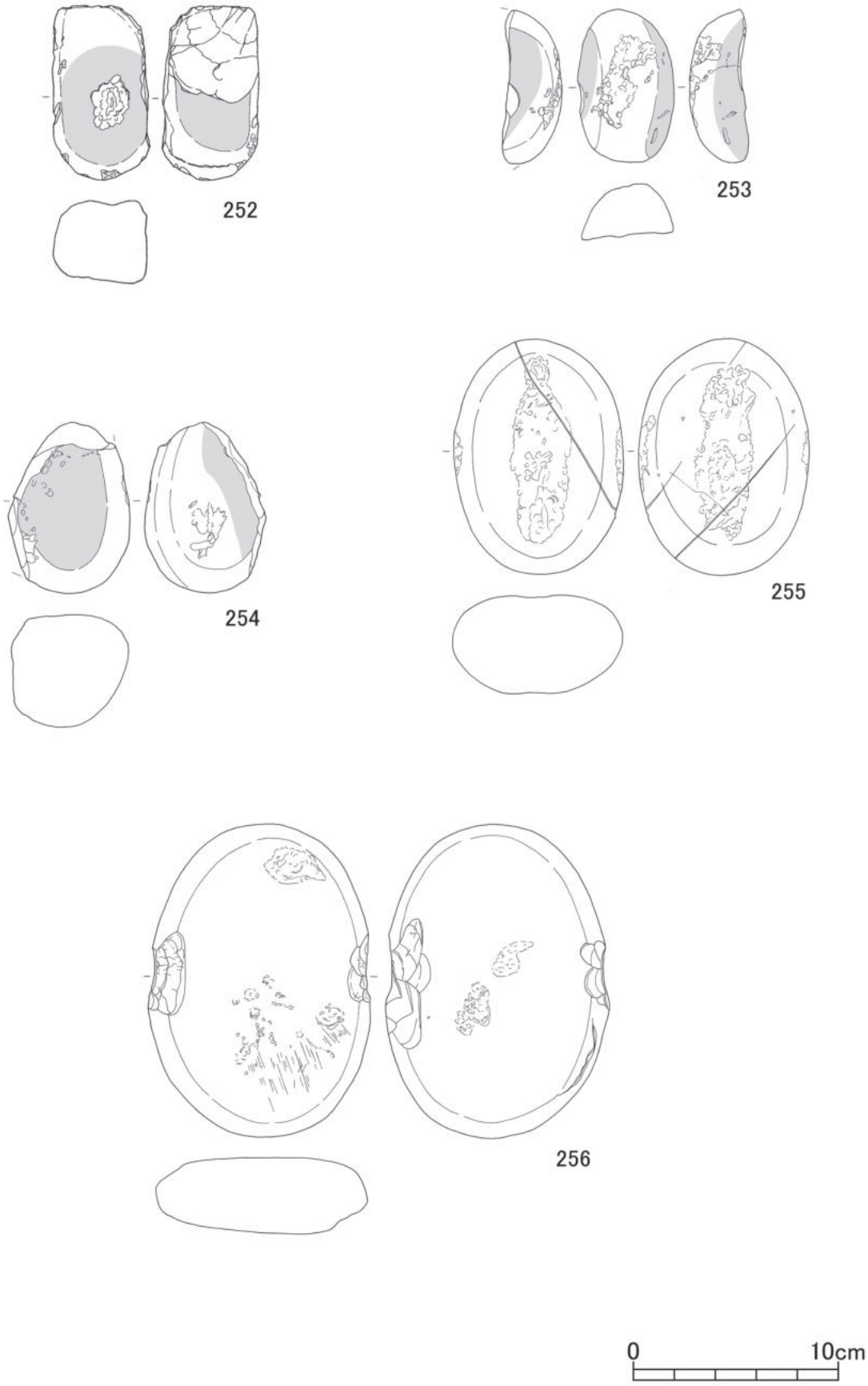
第34図　出土石器(3)



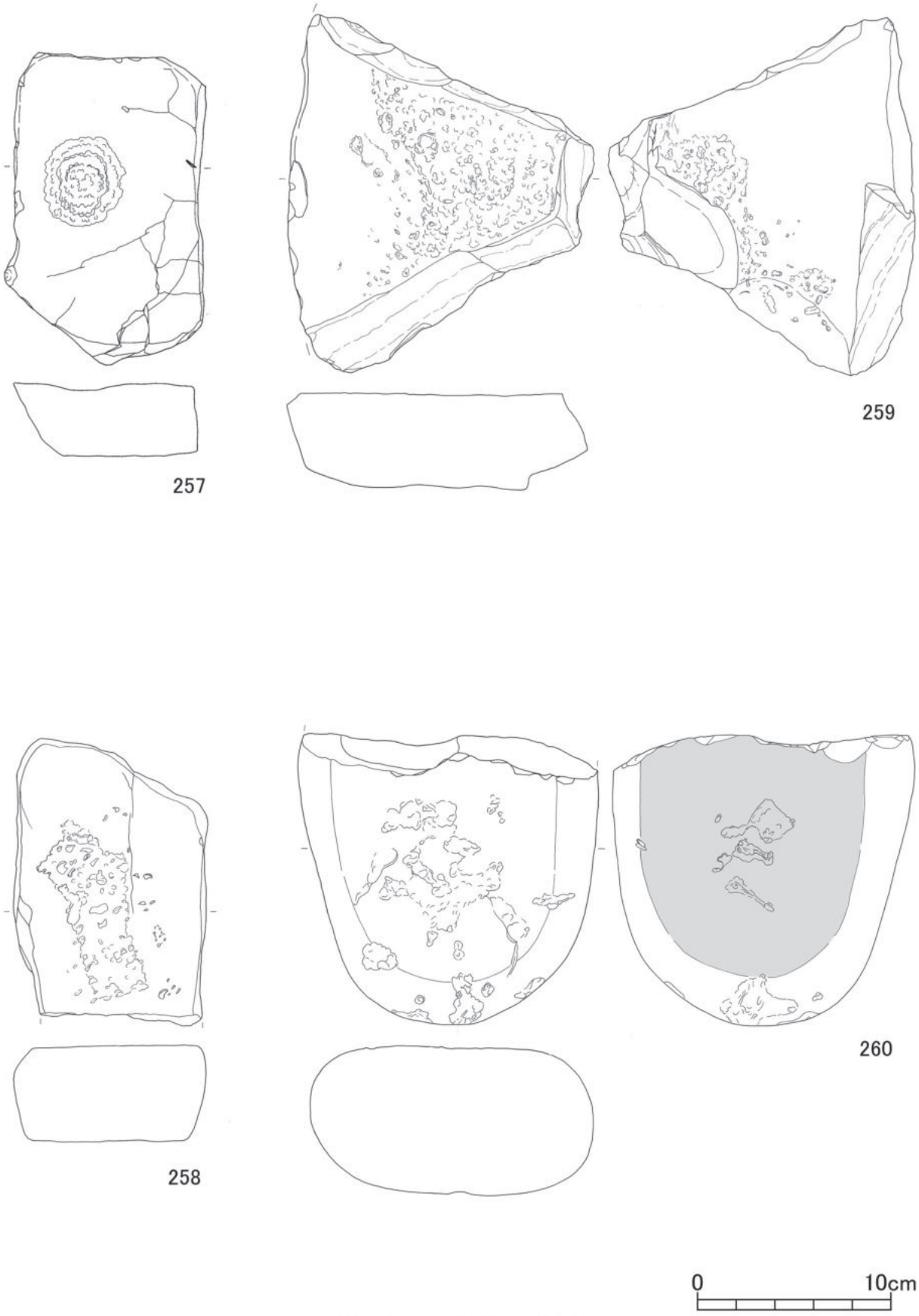
第35図　出土石器(4)



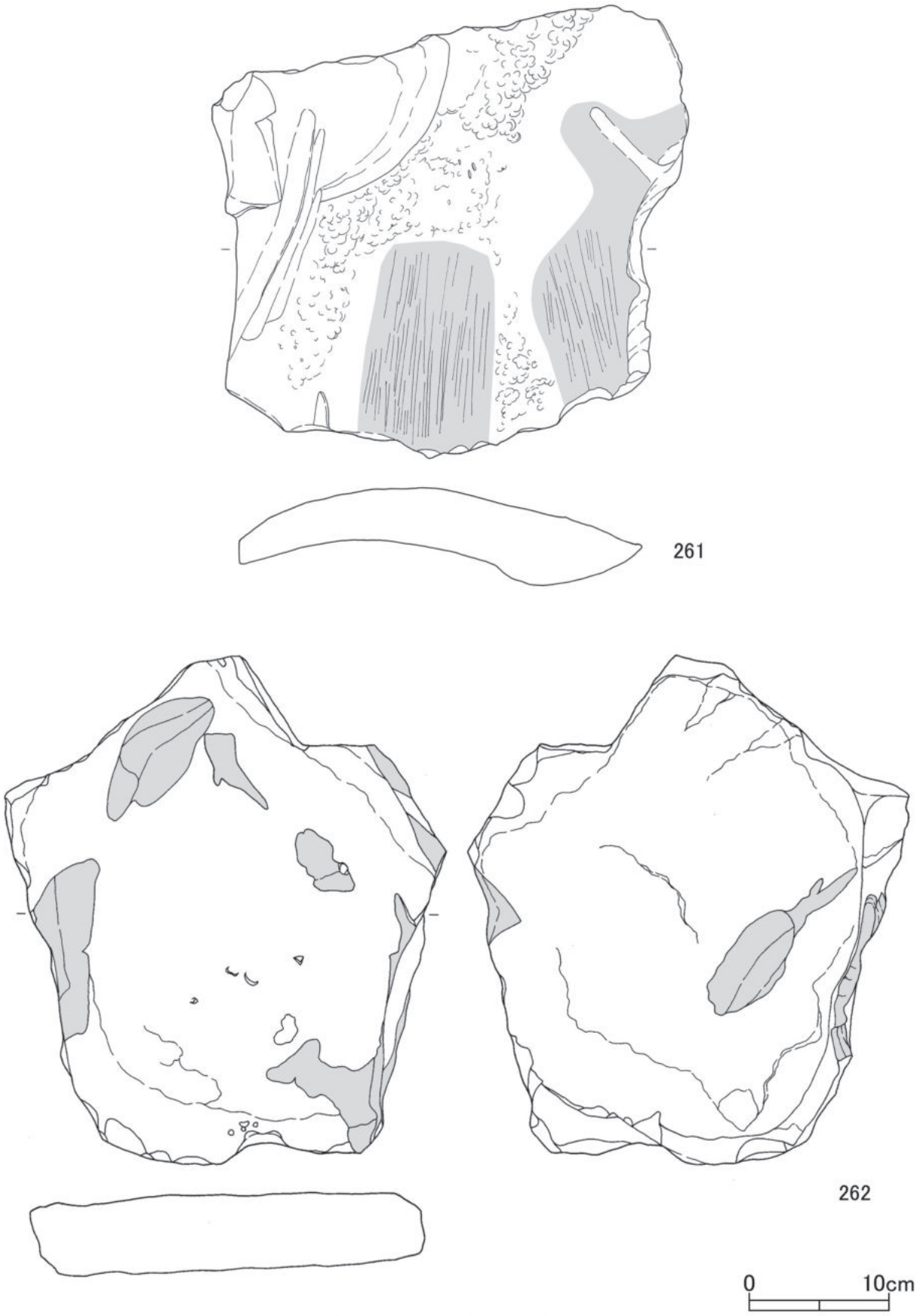
第36図　出土石器(5)



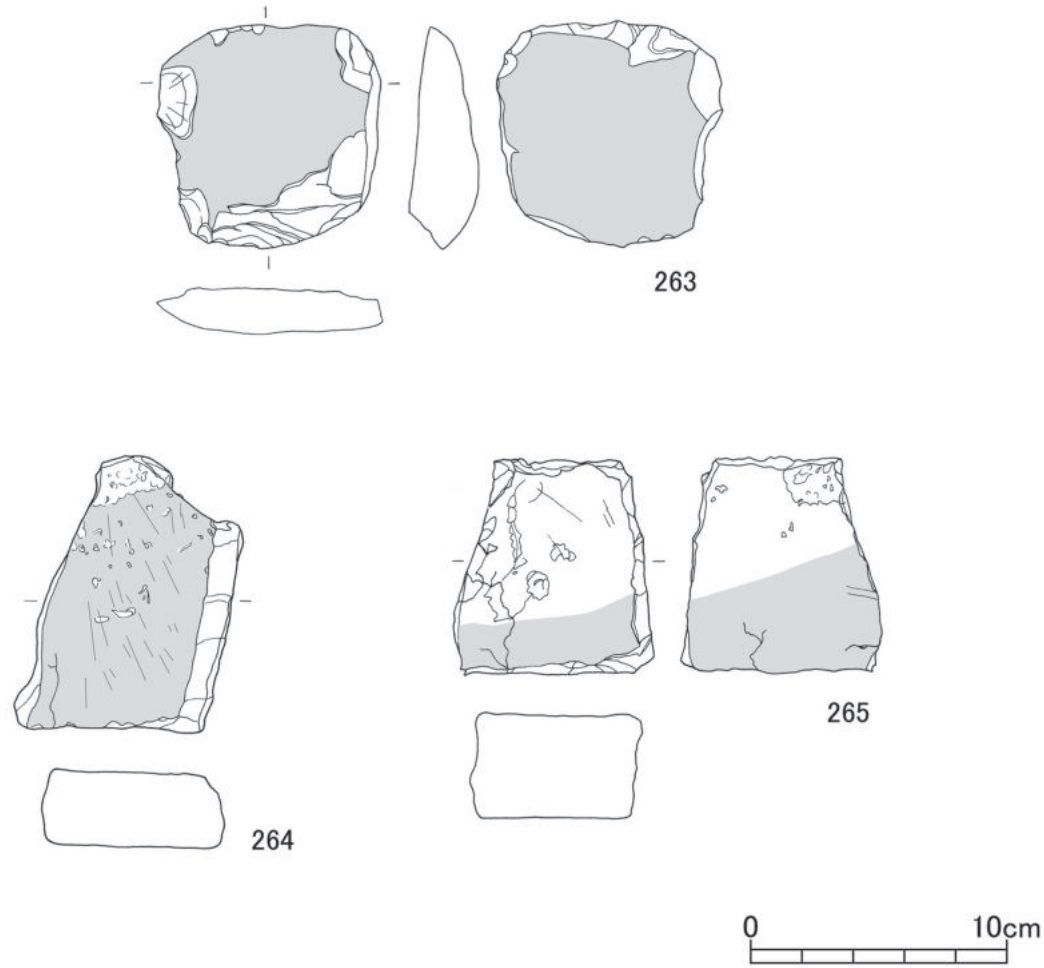
第37図　出土石器(6)

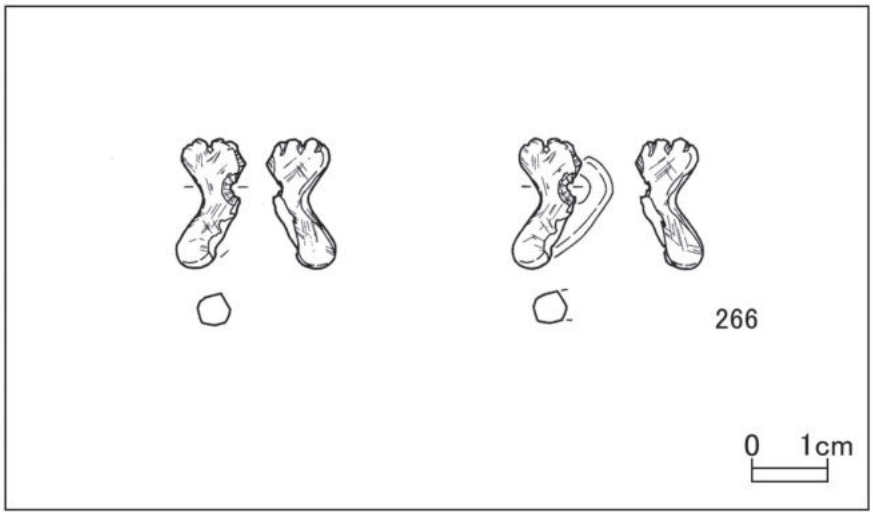


第38図　出土石器(7)



第39図　出土石器(8)





第40図　出土石器(9)

第1表　土器観察表(1)

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
18	1	785	Ⅳ	12	胴部	赤褐	赤褐
	2	671-1	Ⅳ	14	口縁部	明赤褐	橙
	3	536,539,541,一括149	Ⅳ	15	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	4	715-1,一括3	Ⅳ	13	口縁部	明赤褐	橙
	5	721743	Ⅳ	13	口縁部	橙	橙
	6	760763	Ⅳ	13	口縁部	橙	橙
	7	704-1,704-2	Ⅳ	13	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	8	500	Ⅳ	15	口縁部	にぶい赤褐	にぶい橙
	9	486	Ⅳ	15	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	10	731733	Ⅳ	13	口縁部	橙	橙
	11	714	Ⅳ	13	口縁部	橙	橙
	12	25	Ⅳ	16	口縁部	淡橙	浅黄橙
	13	609	Ⅳ	14	口縁部	赤褐	にぶい赤褐
19	14	607	Ⅳ	14	口縁部	赤褐	明赤褐
	15	534	Ⅳ	15	口縁部	明赤褐	明赤褐
	16	761-1,761-2	Ⅳ	13	口縁部	灰褐	にぶい赤褐
	17	617	Ⅳ	14	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	18	513	Ⅳ	15	口縁部	暗赤褐	暗赤褐
	19	549	Ⅳ	15	口縁部	赤褐	赤褐
	20	162	Ⅳ	9	口縁部	橙	橙
	21	479,一括77	Ⅳ	15	口縁部	明赤褐	明赤褐
	22	484	Ⅳ	15	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	23	677-1,677-2,677-3	Ⅳ	14	口縁部	明赤褐	にぶい赤褐
	24	507	Ⅳ	15	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	25	756	Ⅳ	13	口縁部	明赤褐	にぶい赤褐
	26	648	Ⅳ	14	口縁部	明赤褐	暗赤褐
	27	533	Ⅳ	15	口縁部	明赤褐	にぶい赤褐
	28	207	Ⅳ	10	口縁部	にぶい赤褐	明赤褐
	29	163	Ⅳ	9	口縁部	にぶい橙	橙
20	30	750	Ⅳ	13	口縁部	灰褐	褐灰
	31	一括57	Ⅳ	13	口縁部	明赤褐	明赤褐
	32	583-1,583-2	Ⅳ	15	口縁部	赤褐	赤褐
	33	817	Ⅳ	11	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	34	602	Ⅳ	14	口縁部	にぶい赤褐	赤褐
	35	829,830-1,830-2	Ⅳ	11	口縁部	にぶい橙	橙
	36	2,3,一括1,一括2,一括3,一括4,一括5	Ⅳ	12	口縁部	赤褐	赤褐
	37	401,404,407	Ⅳ	2	口縁部	明赤褐	明赤褐
	38	283-1,283-2,283-3,285	Ⅳ	6	口縁部	にぶい赤褐	明赤褐
	39	828-1,828-2,845	Ⅳ	11	口縁部	にぶい橙	橙
	40	526	Ⅳ	15	口縁部	赤褐	にぶい赤褐
	41	248	Ⅳ	7	口縁部	暗赤褐	にぶい橙
	42	251	Ⅳ	7	口縁部	赤褐	赤褐
	43	765,775,777	Ⅳ	13	口縁部	橙	橙
	44	524,一括168	Ⅳ	15	口縁部	明赤褐	明赤褐
21	45	75-40,75-51	Ⅳ	9	口縁部	橙	にぶい赤褐
	46	825集中	Ⅳ	11	口縁部	にぶい赤褐	にぶい橙
	47	820集中	Ⅳ	11	口縁部	にぶい橙	橙
	48	291,一括9	Ⅳ	6	口縁部	明赤褐	赤褐
	49	一括8	Ⅳ	6	口縁部	明赤褐	明赤褐

第2表　土器観察表(2)

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
21	50	518-1～53,518-55～61,518-63～72,518-74～91	Ⅳ	15	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	51	651,一括122	Ⅳ	14	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	52	664	Ⅳ	14	口縁部	明赤褐	橙
	53	78	Ⅳ	9	口縁部	赤褐	明赤褐
	54	57	Ⅳ	8	口縁部	橙	赤褐
	55	249	Ⅳ	7	口縁部	にぶい赤褐	橙
	56	61	Ⅳ	8	口縁部	明赤褐	にぶい赤褐
	57	718	Ⅳ	13	口縁部	明赤褐	にぶい橙
	58	696,697,一括74	Ⅳ	13	口縁部	にぶい赤褐	にぶい橙
	59	713	Ⅳ	13	口縁部	橙	橙
	60	497-1,497-2	Ⅳ	15	口縁部	赤褐	赤褐
	61	467	Ⅳ	16	口縁部	橙	橙
22	62	779	Ⅳ	13	口縁部	橙	明赤褐
	63	780	Ⅳ	13	口縁部	にぶい橙	橙
	64	573	Ⅳ	15	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	65	612	Ⅳ	14	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	66	182	Ⅳ	9	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	67	377	Ⅳ	1	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	68	一括70,一括122	Ⅳ	13	口縁部	にぶい赤褐	赤褐
	69	274	Ⅳ	6	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	70	101	Ⅳ	9	口縁部	にぶい橙	浅黄橙
	71	840-1,840-2	Ⅳ	11	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	72	2-1,2-2	Ⅳ	1	口縁部	にぶい赤褐	にぶい橙
	73	308	Ⅳ	7	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	74	813	Ⅳ	12	口縁部	橙	橙
	75	一括12	Ⅳ	15	胴部	明赤褐	暗赤褐
	76	808	Ⅳ	12	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	77	51	Ⅳ	8	胴部	橙	橙
23	78	768-2,768-3,768-4	Ⅳ	13	胴部	橙	橙
	79	698-1,698-2	Ⅳ	13	胴部	橙	赤褐
	80	641,642-1,642-2,一括128	Ⅳ	14	胴部	赤褐	暗赤褐
	81	824集中	Ⅳ	11	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	82	564	Ⅳ	15	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	83	485-1,485-2,485-3,485-4	Ⅳ	15	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	84	557-1,557-2,558-1,558-2	Ⅳ	15	胴部	赤褐	赤褐
	85	803	Ⅳ	12	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	86	473-1,473-2	Ⅳ	16	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	87	739,740,一括104	Ⅳ	13	胴部	にぶい赤褐	にぶい橙
	88	67	Ⅳ	9	胴部	にぶい赤褐	にぶい橙
	89	487	Ⅳ	15	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	90	512,514	Ⅳ	15	胴部	赤褐	明赤褐
24	91	75-7,75-8,75-11,75-12,75-47,一括23	Ⅳ	9	胴部	橙	にぶい赤褐
	92	778-1,778-2,778-3	Ⅳ	13	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	93	482,一括5	Ⅳ	15	胴部	明赤褐	明赤褐
	94	540-1,540-2	Ⅳ	15	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	95	489	Ⅳ	15	胴部	橙	にぶい赤褐
	96	643	Ⅳ	14	胴部	明赤褐	赤褐
	97	815	Ⅳ	12	胴部	赤褐	赤褐
	98	36-1,36-2	Ⅳ	16	胴部	にぶい橙	にぶい橙

第3表　土器観察表(3)

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
24	99	216	Ⅳ	10	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	100	75	Ⅳ	9	胴部	明赤褐	暗赤褐
	101	75	Ⅳ	9	胴部	橙	にぶい赤褐
	102	603	Ⅳ	14	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	103	211-1,211-2	Ⅳ	10	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	104	75	Ⅳ	9	胴部	橙	にぶい赤褐
	105	52-2	Ⅳ	8	胴部	橙	橙
	106	581	Ⅳ	15	胴部	暗赤褐	明赤褐
	107	75	Ⅳ	9	胴部	橙	にぶい赤褐
	108	450	Ⅳ	3	胴部	明赤褐	赤褐
25	109	585	Ⅳ	15	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	110	24	Ⅳ	16	胴部	橙	橙
	111	10,14	Ⅳ	17	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	112	752	Ⅳ	13	胴部	橙	橙
	113	530-1,530-2	Ⅳ	15	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	114	26	Ⅳ	16	胴部	にぶい橙	橙
	115	666-1,666-2,666-3	Ⅳ	14	胴部	明赤褐	赤褐
	116	8	Ⅳ	17	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	117	11,12	Ⅳ	17	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	118	610611	Ⅳ	14	胴部	赤褐	明赤褐
	119	6	Ⅳ	18	胴部	にぶい赤褐	にぶい橙
	120	110,一括12	Ⅳ	9	胴部	浅黄橙	にぶい橙
	121	545	Ⅳ	15	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	122	809	Ⅳ	12	胴部	明赤褐	明赤褐
26	123	542-1,542-2	Ⅳ	15	胴部	赤褐	にぶい赤褐
	124	729	Ⅳ	13	胴部	橙	明赤褐
	125	675	Ⅳ	14	胴部	明赤褐	赤褐
	126	437	Ⅳ	2	胴部	にぶい赤褐	明赤褐
	127	708	Ⅳ	13	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	128	805-2	Ⅳ	12	胴部	明赤褐	赤褐
	129	195	Ⅳ	9	胴部	橙	明赤褐
	130	75	Ⅳ	9	胴部	橙	にぶい赤褐
	131	75	Ⅳ	9	胴部	橙	にぶい赤褐
	132	259	Ⅳ	7	胴部	にぶい赤褐	にぶい橙
	133	751-1,751-2	Ⅳ	13	胴部	暗赤褐	灰褐
	134	272	Ⅳ	7	胴部	にぶい赤褐	暗赤褐
	135	75-20,75-55	Ⅳ	9	胴部	橙	にぶい赤褐
	136	284	Ⅳ	6	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	137	303-1. 303-2	Ⅳ	7	胴部	赤褐	赤褐
	138	75-6,75-16	Ⅳ	9	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	139	58	Ⅳ	8	胴部	明赤褐	明赤褐
	140	70	Ⅳ	9	胴部	明赤褐	明赤褐
	141	304	Ⅳ	7	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	142	一括14	Ⅳ	6	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	143	300	Ⅳ	7	胴部	赤褐	赤褐
	144	250	Ⅳ	7	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
27	145	849	Ⅳ	13	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	146	701	Ⅳ	13	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	147	392	Ⅳ	2	胴部	赤褐	赤褐
	148	一括143	Ⅳ	15	胴部	にぶい赤褐	明赤褐

第4表　土器観察表(4)

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
27	149	774-1,774-2,774-3	Ⅳ	13	胴部	橙	明赤褐
	150	529-1,529-2	Ⅳ	15	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	151	638	Ⅳ	14	胴部	明赤褐	明赤褐
	152	302	Ⅳ	7	胴部	にぶい赤褐	にぶい橙
	153	295	Ⅳ	6	胴部	明赤褐	明赤褐
	154	371-1,371-2	Ⅳ	1	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	155	811	Ⅳ	12	胴部	赤褐	にぶい赤褐
	156	447	Ⅳ	3	胴部	にぶい赤褐	暗赤褐
	157	30	Ⅳ	16	胴部	橙	橙
	158	381	Ⅳ	1	胴部	にぶい赤褐	暗赤褐
	159	376-1,376-2	Ⅳ	1	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	160	一括2	Ⅳ	5	胴部	橙	にぶい赤褐
	161	342	Ⅳ	0	胴部	明赤褐	赤褐
	162	839-1,839-2,839-3,839-4,839-5	Ⅳ	11	胴部	にぶい赤褐	にぶい橙
	163	187-1,187-2,192	Ⅳ	9	胴部	にぶい赤褐	暗赤褐
28	164	196-1,196-2,203	Ⅳ	10	胴部	にぶい赤褐	暗赤褐
	165	792,794	Ⅳ	12	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	166	329	Ⅳ	0	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	167	330-1,330-2	Ⅳ	0	胴部	にぶい赤褐	にぶい橙
	168	316	Ⅳ	0	胴部	にぶい赤褐	にぶい橙
	169	215	Ⅳ	10	胴部	明赤褐	明赤褐
	170	198	Ⅳ	10	胴部	明赤褐	暗赤褐
	171	190	Ⅳ	9	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	172	191	Ⅳ	9	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	173	180	Ⅳ	9	胴部	にぶい赤褐	暗赤褐
	174	一括18	Ⅳ	9	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	175	一括20	Ⅳ	9	胴部	にぶい橙	にぶい赤褐
	176	127	Ⅳ	9	胴部	橙	明赤褐
	177	297	Ⅳ	7	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	178	314	Ⅳ	7	胴部	赤褐	赤褐
	179	569	Ⅳ	15	胴部	明赤褐	にぶい赤褐
	180	421-1,421-2	Ⅳ	2	胴部	にぶい橙	にぶい橙
29	181	832	Ⅳ	11	底部	にぶい橙	橙
	182	599	Ⅳ	14	底部	明赤褐	にぶい赤褐
	183	623	Ⅳ	14	底部	にぶい橙	明赤褐
	184	286	Ⅳ	6	底部	にぶい橙	にぶい赤褐
	185	75-1,5,19,32,42,44,45,50,52,54,56,57,58,64,66	Ⅳ	9	底部	橙	橙
	186	625-1,625-2,626,627,684	Ⅳ	14	底部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	187	一括48,一括49,一括50	Ⅳ	14	底部	赤褐	赤褐
	188	548	Ⅳ	15	底部	明赤褐	にぶい赤褐
	189	474	Ⅳ	16	底部	明赤褐	橙
30	190	491-1,491-2,492	Ⅳ	15	底部	赤褐	赤褐
	191	703	Ⅳ	13	底部	橙	橙
	192	665,673,674	Ⅳ	14	底部	明赤褐	明赤褐
	193	669	Ⅳ	14	底部	明赤褐	明赤褐
	194	465	Ⅳ	5	底部	にぶい赤褐	明赤褐
	195	748,一括84	Ⅳ	13	底部	にぶい橙	にぶい橙
	196	31	Ⅳ	16	底部	にぶい橙	にぶい赤褐
	197	770-1,770-2	Ⅳ	13	底部	橙	橙

第5表　土器観察表(5)

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
30	198	723,738,741,744,747,一括72	Ⅳ	13	底部	橙	にぶい赤褐
31	199	621-1,621-2	Ⅳ	14	底部	赤褐	明赤褐
	200	60	Ⅳ	8	底部	橙	橙
	201	635	Ⅳ	14	底部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	202	716,一括86	Ⅳ	13	底部	橙	橙
	203	594	Ⅳ	14	底部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	204	680,一括110,一括126	Ⅳ	14	底部	赤褐	赤褐
	205	312	Ⅳ	7	底部	明赤褐	明赤褐
	206	787-1,787-2,787-3,787-4,787-5	Ⅳ	12	底部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	207	472	Ⅳ	16	底部	にぶい黄橙	にぶい褐
	208	711	Ⅳ	13	底部	にぶい橙	にぶい橙
	209	430	Ⅳ	2	底部	にぶい橙	にぶい橙

第6表　石器観察表(1)

挿図番号	遺物番号	器種	出土区	取上番号	出土層	最大長cm	最大幅cm	最大厚cm	重量g	石材
32	210	石鏃	9	89	Ⅳ	3.5	1.5	0.2	1.5	粘板岩
	211	石鏃	9	71	Ⅳ	2.25	1.6	0.4	1.0	頁岩
	212	石鏃	17	18	Ⅳ	2.2	1.9	0.4	1.0	頁岩
	213	石鏃	9	148	Ⅳ	2.2	1.6	0.4	1.0	頁岩
	214	石鏃	9	121	Ⅳ	1.5	1.7	0.4	1.0	チャート
	215	石鏃	9	103	Ⅳ	1.8	1.4	0.4	0.86	頁岩
	216	石鏃	8	47	Ⅳ	2.2	1.4	0.4	0.83	頁岩
	217	石鏃	9	193	Ⅳ	1.5	1.3	0.3	0.55	頁岩
	218	剥片石器	2	418	Ⅳ	5.2	2.7	1	20	頁岩
	219	石斧	1	369	Ⅳ	8.7	5.6	1.7	110	ホルンフェルス
	220	石斧	12	858	Ⅳ	12.5	5.4	2.8	250	ホルンフェルス
	221	石斧	1	375	Ⅳ	15.1	8	3.2	490	千枚岩
	222	石斧	6	246	Ⅳ	10.1	6	2.8	262	ホルンフェルス
33	223	磨石	9	123-1・2	Ⅳ	16.5	11.3	6	1655	砂岩
	224	磨石	13	719	Ⅳ	13.8	10.6	6.6	1342	アプライト
	225	磨石	9	79	Ⅳ	9.4	9.4	4.8	600	砂岩
	226	磨石	9	122	Ⅳ	12.2	10.5	4.9	868	砂岩
	227	磨石	集石1号(1区)	3	Ⅳ	10.5	8.9	7.2	875	砂岩
	228	磨石	11	827	Ⅳ	9	8.5	3.9	425	砂岩
34	229	磨石	3	442	Ⅳ	11	7.5	3	371	砂岩
	230	磨石	2	426	Ⅳ	7.4	3.8	3.2	125	砂岩
	231	磨石	9	161	Ⅳ	11	7.4	4.8	438	砂岩
	232	磨石	13	776	Ⅳ	9.4	6.5	2.8	239	砂岩
	233	磨石	集石2号(13区)	2	Ⅳ	10.2	10.4	6.6	966	砂岩
	234	磨石	5	225-1・2	Ⅳ	13	8.7	3.2	445	砂岩
	235	磨石	10	219	Ⅳ	7.6	7.1	3.6	214	砂岩
35	236	磨石敲石	13	693	Ⅳ	11.5	9	5.5	864	砂岩
	237	磨石敲石	16	466	Ⅳ	9	11.3	5.4	782	砂岩
	238	磨石敲石	1	374	Ⅳ	8.5	8	3.4	296	砂岩
	239	磨石敲石	14	604	Ⅳ	8.6	7.8	2.9	276	砂岩
	240	磨石敲石	2	435	Ⅳ	12.2	9.4	3.8	660	砂岩
	241	磨石敲石	9	140	Ⅳ	9.7	8.5	3.8	411	砂岩
	242	磨石敲石	1	370	Ⅳ	8.2	7.3	4.4	325	砂岩
	243	磨石敲石	0	357	Ⅳ	10.7	10.3	4	700	砂岩

第7表　石器観察表(2)

挿図番号	遺物番号	器種	出土区	取上番号	出土層	最大長cm	最大幅cm	最大厚cm	重量g	石材
36	244	磨石敲石	3	443	Ⅳ	8.5	7	3.8	322	砂岩
	245	磨石敲石	8	64	Ⅳ	8.9	7.1	4.3	370	砂岩
	246	磨石敲石	2	434	Ⅳ	7.9	7.2	5.7	418	砂岩
	247	磨石敲石	11	833	Ⅳ	6.7	6	4.3	237	砂岩
	248	磨石敲石	集石1号(1区)	4	Ⅳ	9.2	7.3	3	288	砂岩
	249	磨石敲石	集石1号(1区)	1	Ⅳ	13.7	7.5	4.2	565	砂岩
	250	磨石敲石	11	826	Ⅳ	8.4	7.4	2.1	168	砂岩
	251	磨石敲石	12	843	Ⅳ	6.6	8.7	4.7	365	砂岩
37	252	磨石敲石	0	335	Ⅳ	8.5	4.5	4	176	砂岩
	253	磨石敲石	9	94	Ⅳ	7.4	4.5	2.8	114	砂岩
	254	磨石敲石	9	68	Ⅳ	8.3	5.8	5.4	366	砂岩
	255	磨石敲石	6	276	Ⅳ	11.5	8.2	4.8	638	砂岩
	256	磨石敲石	13	707	Ⅳ	15.2	10.8	3.7	955	砂岩
38	257	台石石皿	集石2号(13区)	4-1～4	Ⅳ	15.8	10.2	4.2	1005	砂岩
	258	台石石皿	2	428	Ⅳ	14.9	9.8	5	1180	砂岩
	259	台石石皿	15	509	Ⅳ	18.5	15.8	5.2	1605	砂岩
	260	台石石皿	9	85	Ⅳ	14.9	15.4	7.9	2675	砂岩
39	261	台石石皿	集石3号(12区)	1	Ⅳ	30	33.8	4	7200	砂岩
	262	台石石皿	16	39	Ⅳ	35.2	30.5	7.1	8900	砂岩
40	263	砥石	4	420	Ⅳ	6.1	4	1.9	86	砂岩
	264	砥石	0	348	Ⅳ	7.3	4.9	2	119	砂岩
	265	砥石	9	135	Ⅳ	5.7	5.4	2.8	133	砂岩
	266	異形石器	8	45	Ⅳ	1.7	0.95	0.4	0.5	滑石

写真図版

写真図版1　発掘調査状況(上段8,9区・下段12区)

写真図版2　遺物出土状況(上段0，1区・下段9区)

1号集石

（炭化物付着状況）

2号集石

3号集石

写真図版3　集石遺構

（左0区・右0区）

（左10区・右13区）

（左15区・右15区）

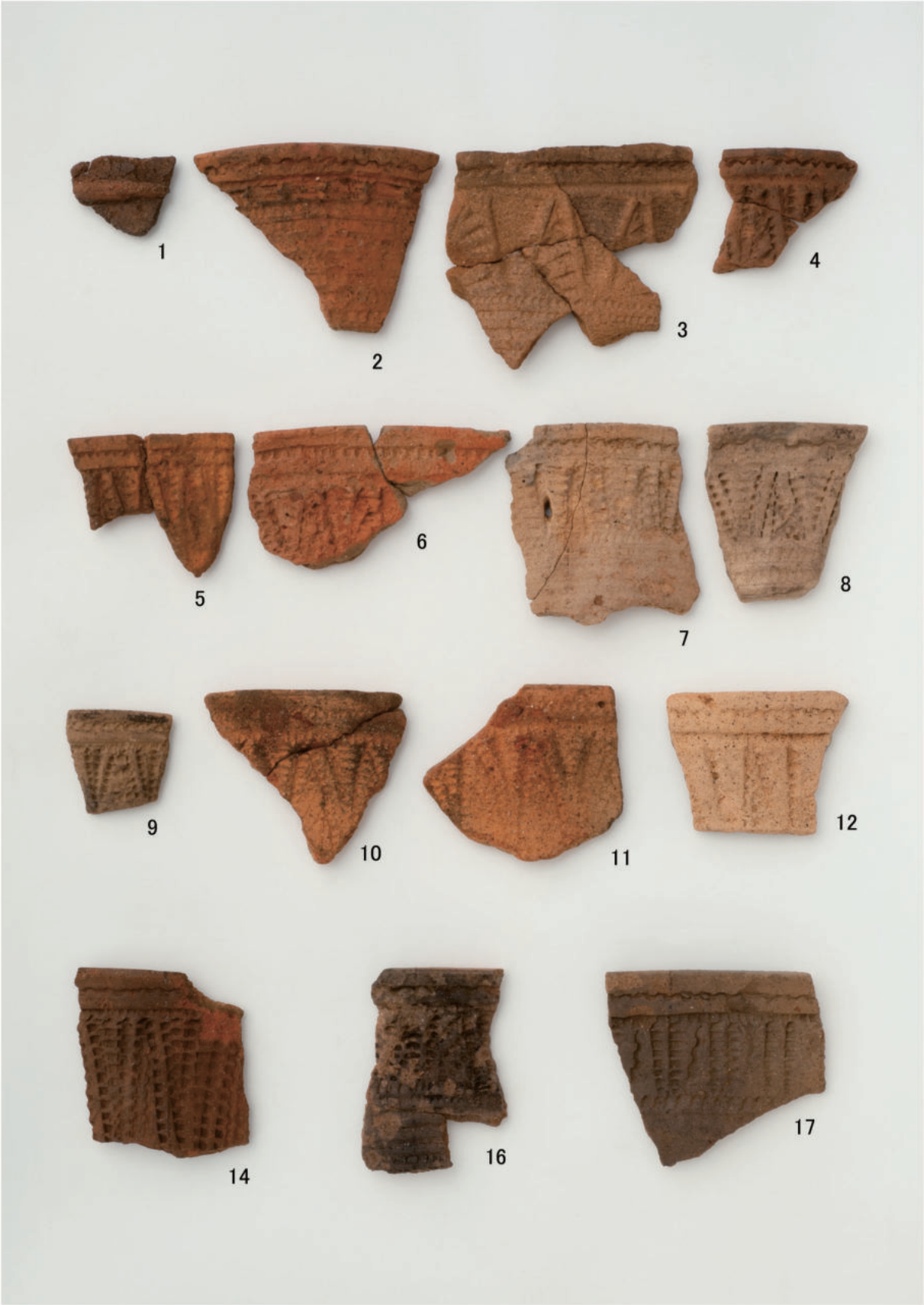
写真図版4　土器出土状況

（左6区・右9区）

（左17区・右0区）

（8区石製装飾品出土状況）

写真図版5　石器出土状況



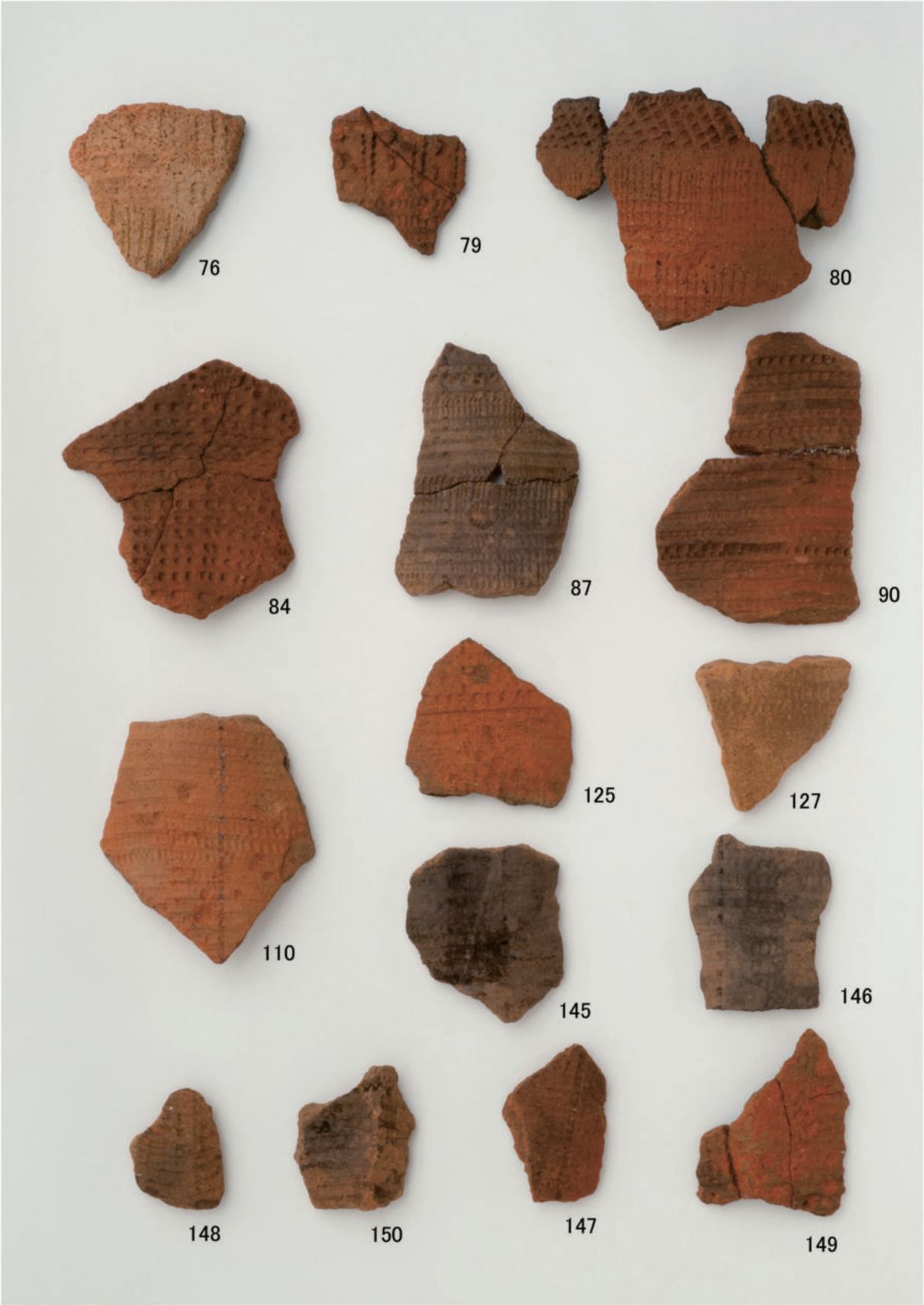
写真図版6　出土土器

写真図版7　出土土器

写真図版8　出土土器

写真図版9　出土土器

写真図版10　出土土器



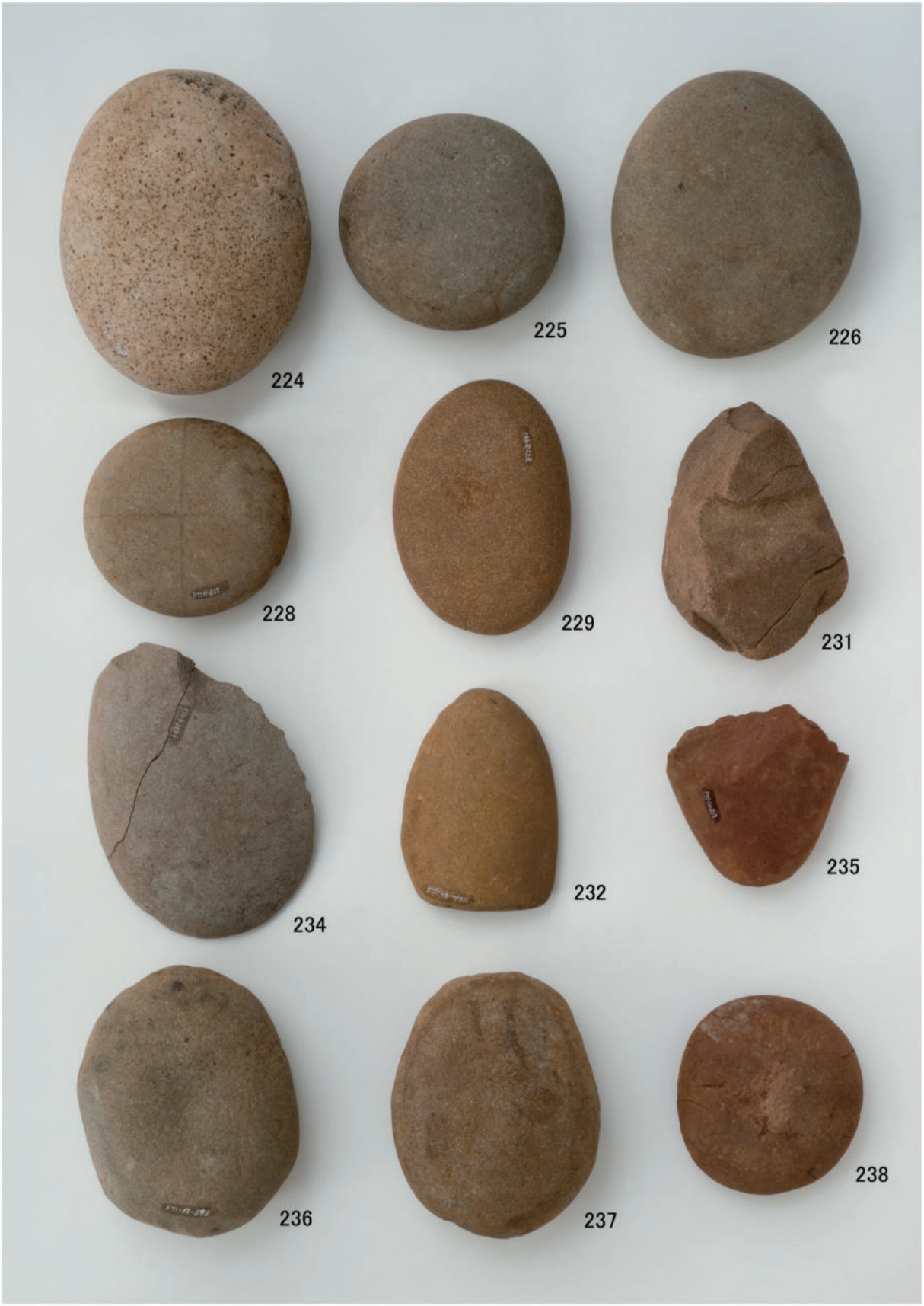
写真図版11　出土土器

152
153
154
155
156
162
163
161
167
168
164
165
169
171
170
166
179
180

写真図版12　出土土器

写真図版13　出土土器

写真図版14　出土石器



写真図版15　出土石器

写真図版16　出土石器

写真図版17　出土石器

写真図版18　出土石器

第Ⅴ章　科学分析

長迫遺跡・二石遺跡の発掘調査で採取した試料の科学分析については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。以下について，各報告書を掲載する。

●西之表市　長迫遺跡出土試料の植物珪酸体分析　　パリノ・サーヴェイ株式会社

●西之表市　二石遺跡出土炭化材の年代と樹種　　パリノ・サーヴェイ株式会社

西之表市 長迫遺跡出土試料の植物珪酸体分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

長迫遺跡では、焼土が検出された。今回の分析調査では、焼土が形成された際の燃料材(特にイネ科草本類)の検証および周辺の古植生に関する資料を得るために、植物珪酸体(プラント・オパール)分析を実施する。

1. 試料

試料は、4B 区で検出された焼土(対照試料)試料 2 点である。

2. 分析方法

植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、珪化細胞列などの組織構造を呈している。植物体が土壌中に取り込まれた後は、ほとんどが土壌化や撹乱などの影響によって分離し単体となる。しかし、植物が燃えた後の灰には、組織構造が珪化組織片などの形で残されている場合が多い(例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社, 1993)。そのため、珪化組織片の産状により当時の燃料材などに利用された植物が明らかになると考えられる。今回の土壌試料を観察したところ、いずれも植物の灰と思われるものは認められなかった。そこで、以下の方法により、珪化組織片の濃集と分離を試みた。

湿重 5g 前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム, 比重 2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)、これらを含む珪化組織片を近藤(2010)の分類に基づいて同定し、計数する。

結果は、検出された種類(分類群)とその個数の一覧表で示す。また、各分類群の出現率を基にした植物珪酸体群集を図化した。その際、出現率は短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求めた。

3. 結果

結果を表 1、図 1 に示す。

2 点の焼土試料からは、珪化組織片が全く認められない。両試料からは、イネ科を起源とする単体の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が認められ、機動細胞珪酸体の検出個数が多い。また、いずれの植物珪酸体も保存状態が悪い。

検出される分類群は両試料で同様であり、タケ亜科やススキ属などである。なお 2 つの試料を比較して、試料 2 の方でススキ属の短細胞珪酸体の検出個数が多く、機動細胞珪酸体も割合が高い。また、イネ科起源と共に樹木起源も多く検出され、クスノキ科やイスノキ属の葉部に形成される植物珪酸体である。

4. 考察

4B 区で確認された焼土では、2 点の試料から珪化組織片が全く認められなかった。この結果から、焼土の燃料材(特にイネ科草本類)の種類を特定することは難しい。また、今回検出された植物珪酸体は、基本的に周辺植生に由来すると考えられる。

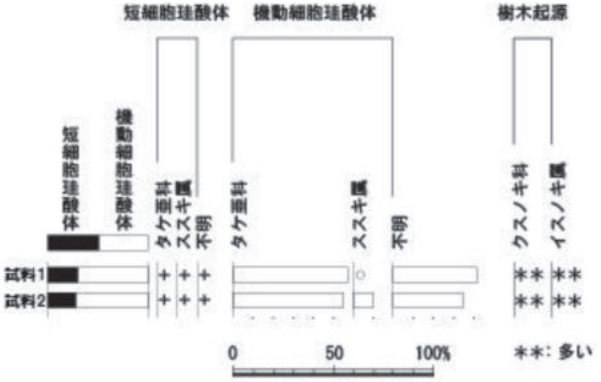
なお、試料 2 では試料 1 よりもススキ属の産出率が高い点が指摘される。ススキ属は、集落周辺などの開けて乾いた場所に草地を作る種類が多い。また、葉部や稈(茎)の植物体は火が着きやすく、薪炭材の着火材として利用されることもある。これらの点を考慮すれば、ススキ属の産状は、ススキ属が着火材として利用されたことを反映するのかもしれない。

なお、2 点の試料からイネ科起源と共に、樹木起源の植物珪酸体が多く検出された。現植生を考慮すれば、本遺構の周辺には当時クスノキ科やイスノキ属などの樹木が生育していたことが示唆される。

表1. 植物珪酸体分析結果

種　類	4B区焼土 試料1	試料2
イネ科葉部短細胞珪酸体		
タケ亜科	30	16
ススキ属	2	11
不明	27	28
イネ科葉身機動細胞珪酸体		
タケ亜科	81	82
ススキ属	1	15
不明	59	52
合　計		
イネ科葉部短細胞珪酸体	59	55
イネ科葉身機動細胞珪酸体	141	149
合　計	200	204
樹木等由来珪酸体		
クスノキ科	＊＊	＊＊
イスノキ属	＊＊	＊＊

＊＊: 多い



出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体それぞれの総数を基数として百分率で算出した。なお、○は 1 %未満、＋は100個未満の試料で検出された分類群を示す。また樹木起源の産状を＊で示す。

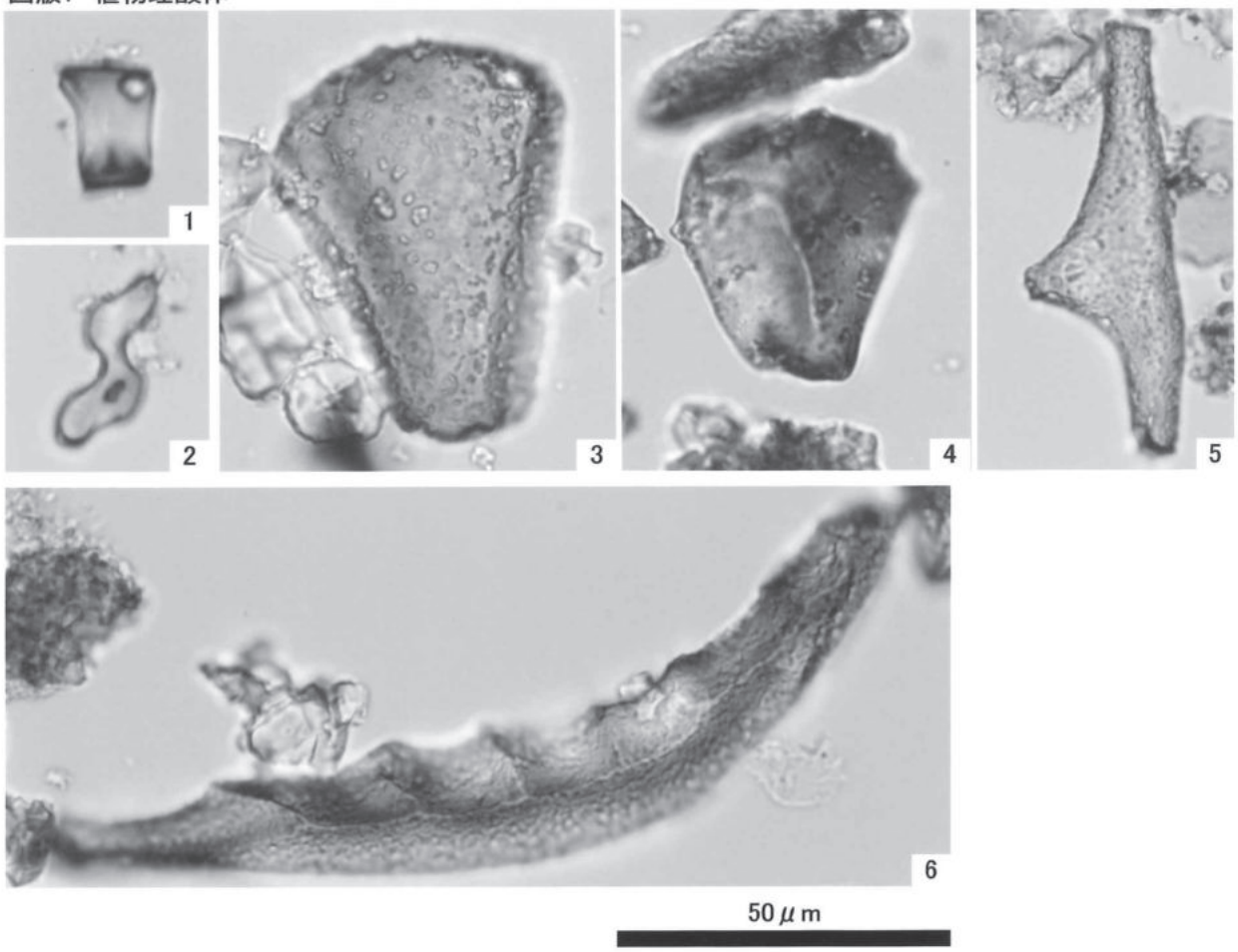
図1. 植物珪酸体群集

引用文献

近藤錬三, 2010, プラント・オパール図譜. 北海道大学出版会, 387p.

パリノ・サーヴェイ株式会社, 1993, 自然科学分析からみた人々の生活(1). 慶應義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室編「湘南藤沢キャンパス内遺跡 第 1 巻 総論」, 慶應義塾, 347-370.

図版1　植物珪酸体



1．タケ亜科短細胞珪酸体(4B区北側壁面付近;ファイヤーピット覆土)
2．ススキ属短細胞珪酸体(4B区北側壁面付近;ファイヤーピット覆土)
3．タケ亜科機動細胞珪酸体(4B区北側壁面付近;ファイヤーピット焼土)
4．ススキ属機動細胞珪酸体(4B区北側壁面付近;ファイヤーピット焼土)
5．樹木起源(イスノキ属)(4B区北側壁面付近;ファイヤーピット覆土)
6．樹木起源(クスノキ科)(4B区北側壁面付近;ファイヤーピット覆土)

西之表市　二石遺跡出土炭化材の年代と樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

鹿児島県西之表市二石遺跡の縄文時代早期（塞ノ神式期）と考えられる集石遺構より出土した炭化材について、年代確認のための放射性炭素年代測定と、木材利用を検討するための樹種同定を実施した。

以下、結果について報告する。

1.試料

試料は、13区の集石2号から出土した炭化材1点である。試料とした炭化材は、0.5～1cm角の破片が10片ほど確認できる。実体顕微鏡による観察で、全て同一種と判断できた。年代測定には最大の破片1片(樹皮無し、5年分)を用い、樹種同定には2番目に大きい破片を用いる。

2.分析方法

(1)放射性炭素年代測定

メス・ピンセットなどにより、根や土壌など後代の付着物を物理的に除去する。塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA: Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に最大1mol/Lである。試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化(鉄を触媒とし水素で還元する)はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC社製)を用いて、14Cの計数、13C濃度(13C/12C)、14C濃度(14C/12C)を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料(HOX-Ⅱ)、国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6 等)、バックグラウンド試料(IAEA-C1等)の測定も行う。δ13Cは試料炭素の13C濃度(13C/12C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver & Polach 1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。

暦年較正に用いるソフトウエアは、OxCAL4.3（Bronk, 2009）を用いる。較正曲線はIntcal13(Reimer et al.,2013)を用いる。

暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い（14Cの半減期5730±40年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正のもとになる直線は暦時代がわかっている遺物や年輪(年輪は細胞壁のみなので、形成当時の14C年代を反映している)等

を用いて作られており、最新のものは2013年に発表されたIntcal13(Reimer et ai.,2013)である。なお、年代測定値に関しては、国際的な取り決めにより、測定誤差の大きさによって値を丸めるが(Stuiver & Polach 1977)、本報告では将来的な較正曲線ならびにソフトウエアの更新に伴う比較、再計算ができるように、丸めない値(1年単位)も併記する。

(2)樹種同定

木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本と比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やRichter他(2006)を参考にする。

3.結果

(1)放射性炭素年代測定

年代測定および暦年較正結果を表1、図1に示す。炭化材の補正年代(同位体効果の補正を実施した年代測定結果)は、8,740±25yrBPである。また、暦年較正結果(calBP)は、1σが9766-9629 calBP(68.2%)、2σが9887-9846 calBP(5.5%)、9831-9585 calBP(89.0%)、9572-9564 calBP(0.9%)を示す。

(2)樹種同定

炭化材は、針葉樹のマキ属に同定された(表1)。解剖学的特徴等を記す。

・マキ属(*Podocarpus*)　　マキ科

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。樹脂細胞は早材部および晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみ構成される。分野壁孔は破損しており、窓状ではないことは確認できるが、形態の詳細は不明である。放射組織は単列、1-10細胞高。

表1. 放射性炭素年代測定および樹種同定結果

試料名	性状(種類)	分析方法	δ13C(‰)	補正年代 yrBP	暦年較正年代				Code No.
					誤差	cal BC	cal BP	確率	
集石2号	炭化材(マキ属)	AAA	-26.4±0.6	8,740±25 (8,740±27)	σ	cal B(7817 - cal B(7680	9766 - 9629 calBP	0.682	pal-10580 PLD-34208
					2σ	cal B(7938 - cal B(7897	9887 - 9846 calBP	0.055	
						cal B(7882 - cal B(7636	9831 - 9585 calBP	0.890	
						cal B(7623 - cal B(7615	9572 - 9564 calBP	0.009	

1)暦年の計算には、Oxcal4.3を使用。
2)yrBP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。
4)AAAは、酸、アルカリ、酸処理、AaAは、アルカリの濃度を薄くした処理を示す。
5)暦年の計算には、補正年代に()で示した、1の位を丸める前の値を使用している。
6)年代測定結果の表記は、1の位を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、丸めていない値も付記している。
7)統計的に真の値が入る確率はσは68.2%、2σは95.4%である

4.考察

集石 2 号の炭化材は、出土状況等から集石で使用された燃料材と考えられる。炭化材は、5～10 mm角の板状の破片が10片ほど確認できるが、実体顕微鏡での観察では全て同一種であった。

炭化材の年代測定結果は、補正年代が 8,740±25yrBP、暦年較正結果(2σ)は 9887-9846 calBP(5.5%)、9831-9585 calBP(89.0%)、9572-9564 calBP(0.9%)を示す。この値は、既存の結果から縄文時代早期の年代範囲に入っており、推定年代とも矛盾しない。なお、炭化材は樹皮の無い破片のため本来の炭化物の径や、年輪の詳細な位置関係が不明である。そのため、年輪の持つ古木効果により、実際の使用年代よりも古い年代を示している可能性もある。

また炭化材は全て同一種と考えられ、その樹種は針葉樹のマキ属に同定された。日本のマキ属には、イヌマキとナギの２種がある。いずれも暖温帯性常緑広葉樹林中に生育する常緑高木である。マキ属は生長が遅く、木材は針葉樹としては重硬・緻密で強度や耐水性が高い。現在の分布を考慮すれば、マキ属は島内に生育していたと考えられ、周辺で入手が可能な木材を燃料材として利用したことが推定される。なお、本試料は破片化が激しく接合関係等も検討できない状況であるため、本来同一の個体が破片化したのか、同一樹種の複数個体が含まれているのか判断できない。

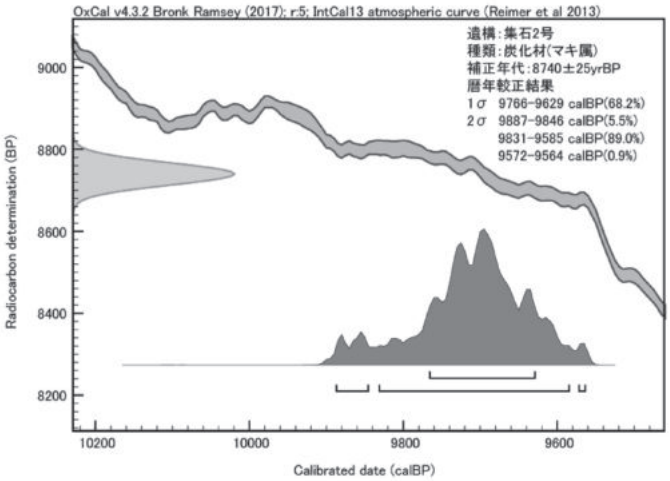


図 1. 暦年較正結果

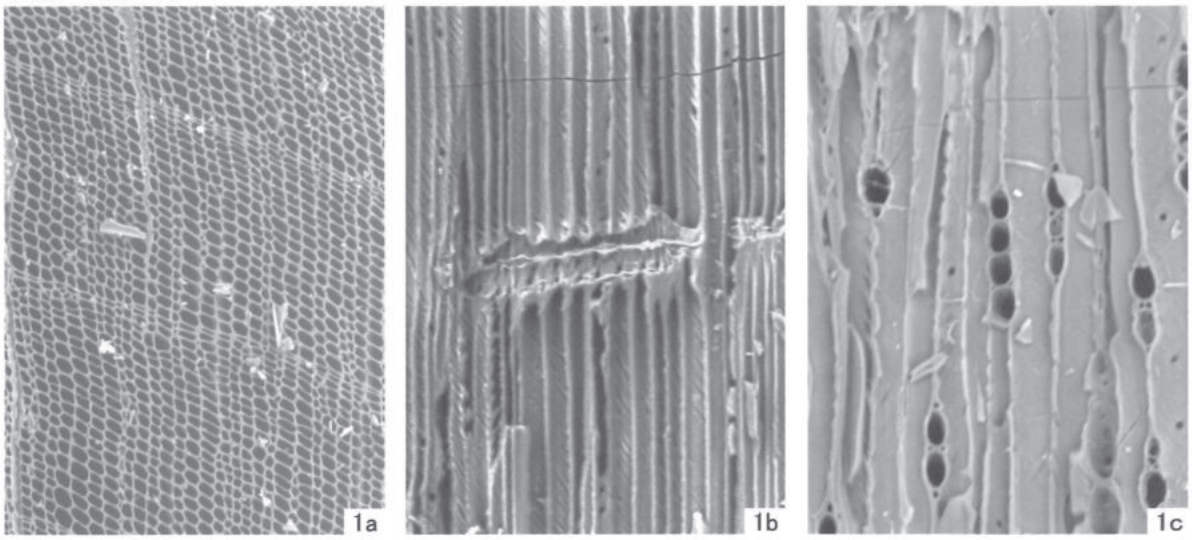
引用文献

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006,針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）,海青社,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)*IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*］.

島地　謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.

Bronk R C ,2009,. Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon ,51, 337-360.Reimer PJ, Bard E, Bayliss A, Beck JW, Blackwell PG, Bronk Ramsey C, Buck CE, Cheng H, Edwards RL, Friedrich M, Grootes PM, Guilderson TP, Haflidason H, Hajdas I, Hatté C, Heaton TJ, Hoffmann DL, Hogg AG, Hughen KA, Kaiser KF, Kromer B, Manning SW, Niu M, Reimer RW, Richards DA, Scott EM, Southon JR, Staff RA, Turney CSM, van der Plicht J. ,2013,IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon ,55, 1869-1887.Stuiver M & Polach A H ,1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon ,19, 355-363.

図版1　炭化材



1.マキ属（集石2号）
a:木口,b:柾目,c:板目

100 μm:a
100 μm:b,c

第Ⅵ章　長迫遺跡・二石遺跡調査のまとめ

第１節　調査結果

調査を実施した長迫遺跡・二石遺跡は，発掘調査面積はそれほど広くなかったのにもかかわらず，縄文時代早期前葉を中心とした遺跡として多くの成果を得ることができた。本市では近年，縄文時代草創期・早期前葉の遺跡の発掘調査が相次ぎ，良好な資料の報告例が相次いでいる。特に平成17年から20年にかけて行った本市の三本松遺跡から施文スタイルがバリエーションに富む吉田式土器が多量に出土し，種子島における吉田式土器の変遷が明らかとなってきたが，今回の長迫遺跡・二石遺跡でも同様のバリエーションに富んだ吉田式土器が数多く出土し，資料の補強をすることとなった。また，特にこれまで類例の少ない，異形石器類が長迫遺跡から２点・二石遺跡から１点出土した事は，種子島及び南九州・西日本の縄文時代早期文化の研究に貴重な情報を与えてくれたといえる。

第２節　遺　構

二石遺跡で集石が３基検出された。

１区，12区，13区の第Ⅳ層面から，それぞれ１基ずつである。構成される礫はほとんどが砂岩及び頁岩で構成されている。礫の中には，石器（磨石敲石類）などが含まれるものもあった。

１区の１号集石は，検出状態から礫がばらけている感があり，集石の機能を終え意図的に解体されたものか，なんらかの理由で解体を余儀なくされたものである可能性も考えられる。

12区の３号・13区の２号集石は礫が非常に密集した状態での検出であった。13区の２号集石では，礫に炭化物が付着しており，炭化物の年代測定で8,740という数字がでており，この年代から，２号集石は遺跡の中心である吉田式土器が主体の時期ではなく，出土している塞ノ神式土器が主体のころに形成された可能性が高い。１号・３号集石については，集石周辺から吉田式土器が出土していることから，吉田式土器が主体の頃に形成されたものと思われる。

よって，２号集石のみ本遺跡の主体である吉田式土器の時期より若干時間差があり，集石が形成された時期は１号・３号集石よりは，いくらか新しいと考えられる。なお，長迫遺跡では遺構は確認されなかった。

第３節　遺　物

（1）土　器

長迫遺跡・二石遺跡から出土した土器は，縄文時代草創期・縄文時代早期に位置づけられるものである。以下，遺跡ごとに土器を概観する。

長迫遺跡出土器は505点，二石遺跡出土土器は209点を掲載した。縄文時代草創期の隆帯文

土器が長迫遺跡・二石遺跡からそれぞれ１点の合計２点，他は両遺跡とも出土した土器は縄文時代早期に位置付けられるものである。なかでも，縄文時代早期前葉の吉田式土器がその主体占め，下剥峯式・塞ノ神式・押型文土器がわずかに含まれる。吉田式土器については，いくつかのバリエーションが見られるが，基本的に胴部に貝殻腹縁部を用いた押し引き文が施されるという共通項を持つ。また口縁部下にクサビ形の貼り付け文や，このクサビ形の貼り付け文が退化するが，あえてクサビを意識しているもの，さらにそのクサビのなごりと考えられる文様が展開されている。この口縁部下のクサビ形貼り付け文やなごりと思われる施文は貝殻腹縁部を縦位にして施文を行っているが，その後横位の施文へと変化がみられる。中には斜位の施文が見受けられるものもある。また，口縁部下位に貝殻腹縁部による横位の刺突文を１～３段めぐらし，その下位に大きな特徴である半載竹管状工具による「C」あるいは逆「C」字形の刺突文を２～５段程めぐらす。胴部は貝殻腹縁による横位の押し引き文や貝殻条痕文を施すものもある。「C」状の施文は基本的にクサビ形貼付文の流れを系譜するものであると考えられる。また一部「C」状が崩れ，「爪形」状に施文が施されているものもある。大きな特徴として，「C」状の施文は，「C」状のみのものと，「C」状＋斜位の貝殻腹縁刺突文が施されているものがある。内面には丁寧なナデ整形が見られる。さらに，口縁部下位に横位の貝殻刺突文を数条施すものは，本市「日守遺跡」出土土器のように，まとまって出土する例があることから，少なくとも前述した土器とは段階の相違があるものも含まれていると考えられる。これらの変化が施文パターンのバリエーションの変化のひとつであるのか，そして実際の時間的な変化にどう対応できるかは今回の調査では出土層から時間差を確認できなかったため，解明することができなかった。

（2）石　器

石器は長迫遺跡54点，二石遺跡57点を掲載した。出土層から，全て縄文時代早期に位置づけられるものである。石鏃・石鏃破損品・剥片石器・磨石敲石類・台石石皿類・砥石・異形石器・石製装飾品などである。両遺跡の石器の主体となるものが，磨石敲石類である。石材は全て砂岩である。磨石敲石類の多さから，遺跡を形成した人々が，植物性食料に相当依存していたと考えられる。また，特異な石器が長迫遺跡から２点（Ｊ字型磨製異形石器・石偶）・二石遺跡から石製装飾品が１点出土している。３点とも類例が極めて少ないものである。

第４節　まとめ

長迫遺跡・二石遺跡からは縄文時代早期前葉の吉田式土器が多量に出土した。この吉田式土器については，本市の三本松遺跡で大量に出土し，その施文パターンのバリエーションの多さが報告されているが，長迫・二石遺跡においても，施文方法や器形（円筒形・角筒形）などにおいて，バリエーションに富んだ，吉田式土器が出土し，今後の研究においてその資料を補強する形となった。石器類では磨石敲石類の量が特に目立つ。島内では本市，立山地区内にある奥ノ仁田遺跡からも，同様に大量の石器類の出土報告例がある。奥ノ仁田遺跡は，

長迫・二石遺跡よりも古い縄文時代草創期の遺跡であるが，当時は国内でもいち早く温暖化が進み，豊かな照葉樹林が島内に繁茂し，その植物資源を食料としたため、植物食料を加工する磨石敲石類，台石・石皿類が他地域よりいち早く大量に使用されたものと考えられている。本遺跡から出土した，磨石敲石類，台石石皿類についても同様に植物性食料を加工するために，製作されたものであり，その出土量の多さから，植物性食料にかなりの割合で依存していた生活を送っていたことが推測される。いずれにしても，これまでの種子島の縄文時代のはじまりから早期にかけての発掘調査結果からは，磨石敲石類の出土量が全体のかなりの割合を占めることから，照葉樹林の恩恵を受け，利用していたことを改めて認識させるものである。

今回の両遺跡の調査で，特筆されるのは，これまで類例の少ない希有な石器類が3点出土した事である。いずれも吉田式土器に伴っての出土であり，縄文時代早期前半のものである。

1. J字型を呈する磨製の石器は，穿孔痕跡と擦切り痕跡が見られるが，その用途は不明であり，国内でも類例は見られない。

2. 石偶としたものは，全体に敲打で調整が行われており，底面は敲打により面取りが行なわれ，「座る・置く」ということを意識しているのではと思われる。そのため，「像」を意識し製作されたものではと思われる。この2点は実用品等ではなく、祭祀的な用途をもつものと思われる。2点とも類例が増加することによって，今後の再検証が必要と考える。

3. 二石遺跡から出土した石製装飾品については滑石製で，種子島には産しない石材である。頭部に3筋の切込みがあり、穿孔されている欠損品である。縄文時代の石製装飾品の出土例は，古くても縄文時代早期後半で縄文時代後期～晩期に盛行する。現時点で国内最古級の石製装飾品と見られ，縄文時代の装飾品を考えるうえで，極めて貴重な資料となった。

両遺跡が位置する台地の周辺には，三本松遺跡・日守遺跡・鍬ノ刃遺跡など吉田式土器が主体の遺跡が確認されており，これら遺跡の立地・関係性についは，今後の課題である。

長迫遺跡 558

長迫遺跡 559

二石遺跡 266

写真図版19　出土石器

西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書(28)

長迫遺跡・二石遺跡

発　行　日　　令和２年３月
編集・発行　　西之表市教育委員会
　　〒８９１－３１９３
　　鹿児島県西之表市西之表７６１２番地
　　ＴＥＬ　０９９７－２２－１１１１
印　　刷　　株式会社　種子島新生社印刷
　　〒８９１－３１０１
　　西之表市西之表１６７３６－１
　　ＴＥＬ　０９９７－２２－０４７６